

# 酒々井町飯積原山遺跡 4

— 酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書5 —

平成27年11月

独立行政法人 都市再生機構

公益財団法人 千葉県教育振興財団

し す い い い づ み ほ ら や ま  
酒々井町飯積原山遺跡 4

— 酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書5 —







縄文時代石製装身具(原寸)



土 偶(原寸)

## 序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第742集として、独立行政法人都市再生機構の酒々井南部地区土地区画整理事業に伴って実施した酒々井町飯積原山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器群、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の集落跡に関連する遺構が検出され、また大量の土器・石器等の遺物が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、本書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願ってやみません。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成27年11月

公益財団法人 千葉県教育振興財団  
理 事 長 堀 田 弘 文

## 凡 例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構による酒々井南部地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県印旛郡酒々井町飯積字藤蕪562ほかにも所在する飯積原山遺跡（遺跡コード322-005）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、独立行政法人都市再生機構の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は調査研究部長 伊藤智樹、整理課長 今泉 潔の指導のもと、主任上席文化財主事 木原高弘、上席文化財主事 西川博孝・橋本勝雄、文化財主事 小林昂博が担当した。  
執筆分担は、木原が第1・4・5章、第6章第3節、西川・小林が第3章第1～4節、西川が第3章第5～7節、第6章第2節1・2・4、橋本が第2章、第3章第8節、第6章第1節・第2節3である。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏から御指導、御協力を得た。  
千葉県教育庁教育振興部文化財課、独立行政法人都市再生機構、酒々井町教育委員会、千葉大学教授柳澤清一氏、千葉大学大学院生 長山明弘氏
- 7 本書で使用した地形図は以下のとおりである。  
第2図ほか 都市再生機構 1/2,500現況図（平成6年作成）  
第4図 国土地理院 1/25,000地形図「酒々井」（N1-54-19-10-4）
- 8 調査地周辺の航空写真は、中島愼也氏が2013（平成25）年10月に撮影したものである。
- 9 本書で使用した座標はすべて日本測地系に基づく平面直角座標（国家標準直角座標第IX系）で、図面の方位はすべてその座標北を示す。
- 10 遺構実測図で使用した記号で特に用例が示されていないものは、●は土器、■は土製品、▲は石器、★は粘土の出土位置を示している。

# 本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
第2節 遺跡の位置と環境	4
第3節 調査成果の概要	6
第2章 旧石器時代	27
第1節 第29ブロック	27
第2節 単独出土資料	31
第3章 縄文時代	33
第1節 竪穴住居跡	33
第2節 炉跡	84
第3節 土坑等	84
第4節 遺物包含層	84
第5節 土器	131
第6節 土製品	184
第7節 石製装身具	186
第8節 石器	190
第4章 古墳時代	195
第1節 竪穴住居跡	195
第5章 奈良・平安時代以降	207
第1節 掘立柱建物跡	207
第2節 竪穴住居跡・土坑	214
第3節 溝状遺構	216
第6章 まとめ	218
第1節 旧石器時代	218
第2節 縄文時代	218
第3節 奈良・平安時代	229
報告書抄録	巻末

# 挿 図 目 次

第1図	グリッド名称例	2	第33図	縄文時代住居跡 (10)	51
第2図	調査対象範囲と地形	3	第34図	縄文時代住居跡 (11)	53
第3図	振替後の地区割り全体図	5	第35図	縄文時代住居跡 (12)	55
第4図	遺跡の位置と周辺の遺跡	7	第36図	縄文時代住居跡 (13)	57
第5図	(78)区周辺地形図	11	第37図	縄文時代住居跡 (14)	59
第6図	旧石器時代ブロックと確認グリッド 位置図	12	第38図	縄文時代住居跡 (15)	61
第7図	(78)区北側遺構分布図	13	第39図	縄文時代住居跡 (16)	63
第8図	(78)区南側遺構分布図	15	第40図	縄文時代住居跡 (17)	65
第9図	詳細遺構分布図 (1)	17	第41図	縄文時代住居跡 (18)	67
第10図	詳細遺構分布図 (2)	18	第42図	縄文時代住居跡 (19)	69
第11図	詳細遺構分布図 (3)	19	第43図	縄文時代住居跡 (20)	71
第12図	詳細遺構分布図 (4)	20	第44図	縄文時代住居跡 (21)	73
第13図	詳細遺構分布図 (5)	21	第45図	縄文時代住居跡 (22)	75
第14図	詳細遺構分布図 (6)	22	第46図	縄文時代住居跡 (23)	77
第15図	詳細遺構分布図 (7)	23	第47図	縄文時代住居跡 (24)	79
第16図	詳細遺構分布図 (8)	24	第48図	縄文時代住居跡 (25)	80
第17図	詳細遺構分布図 (9)	25	第49図	縄文時代住居跡 (26)	81
第18図	詳細遺構分布図 (10)	26	第50図	縄文時代住居跡 (27)	83
第19図	第29ブロック出土遺物分布図 —石器別分布図—	27	第51図	縄文時代炉跡 (1)	85
第20図	第29ブロック出土遺物分布図 —石材別分布図—	28	第52図	縄文時代炉跡 (2)	86
第21図	第29ブロック出土遺物実測図 (1)	29	第53図	縄文時代炉跡 (3)	87
第22図	第29ブロック出土遺物実測図 (2)	30	第54図	縄文時代炉跡 (4)	88
第23図	単独出土遺物実測図	31	第55図	縄文時代土坑 (1)	91
第24図	縄文時代住居跡 (1)	35	第56図	縄文時代土坑 (2)	92
第25図	縄文時代住居跡 (2)	37	第57図	縄文時代土坑 (3)	93
第26図	縄文時代住居跡 (3)	39	第58図	縄文時代土坑 (4)	94
第27図	縄文時代住居跡 (4)	41	第59図	縄文時代土坑 (5)	95
第28図	縄文時代住居跡 (5)	43	第60図	縄文時代土坑 (6)	96
第29図	縄文時代住居跡 (6)	45	第61図	グリッド別土器出土量	130
第30図	縄文時代住居跡 (7)	47	第62図	縄文時代住居跡出土土器 (1)	135
第31図	縄文時代住居跡 (8)	48	第63図	縄文時代住居跡出土土器 (2)	136
第32図	縄文時代住居跡 (9)	49	第64図	縄文時代住居跡出土土器 (3)	137
			第65図	縄文時代住居跡出土土器 (4)	138
			第66図	縄文時代住居跡出土土器 (5)	139
			第67図	縄文時代住居跡出土土器 (6)	140
			第68図	縄文時代住居跡出土土器 (7)	141
			第69図	縄文時代住居跡出土土器 (8)	142

第70図	縄文時代住居跡出土土器 (9) ……	143	第110図	古墳時代住居跡 (1) ……	197
第71図	縄文時代住居跡出土土器 (10) ……	144	第111図	古墳時代住居跡 (2) ……	198
第72図	縄文時代住居跡出土土器 (11) ……	145	第112図	古墳時代住居跡 (3) ……	199
第73図	縄文時代住居跡出土土器 (12) ……	146	第113図	古墳時代住居跡 (4) ……	200
第74図	縄文時代炉跡出土土器 (1) ……	147	第114図	古墳時代住居跡 (5) ……	201
第75図	縄文時代炉跡出土土器 (2) ……	148	第115図	古墳時代住居跡 (6) ……	202
第76図	縄文時代炉跡出土土器 (3) ……	149	第116図	古墳時代住居跡出土土器 (1) ……	203
第77図	縄文時代土坑出土土器 (1) ……	150	第117図	古墳時代住居跡出土土器 (2) ……	204
第78図	縄文時代土坑出土土器 (2) ……	151	第118図	古墳時代住居跡出土土器 (3) ・土製品 ……	205
第79図	縄文時代土坑出土土器 (3) ……	153	第119図	奈良・平安時代掘立柱建物跡 (1) ……………	210
第80図	縄文時代土坑出土土器 (4) ……	155	第120図	奈良・平安時代掘立柱建物跡 (2) ……………	211
第81図	縄文時代土坑出土土器 (5) ……	156	第121図	奈良・平安時代掘立柱建物跡 (3) ……………	212
第82図	縄文時代土坑出土土器 (6) ……	157	第122図	奈良・平安時代掘立柱建物跡 (4) ……………	213
第83図	縄文時代土坑出土土器 (7) ……	158	第123図	奈良・平安時代掘立柱建物跡出土土器 ……………	214
第84図	縄文時代土坑出土土器 (8) ……	159	第124図	奈良・平安時代住居跡・土坑 ……	215
第85図	縄文時代土坑出土土器 (9) ……	160	第125図	奈良・平安時代土坑・遺構外出土土器 ……………	216
第86図	縄文時代土坑出土土器 (10) ……	161	第126図	溝状遺構 ……	217
第87図	縄文時代土坑出土土器 (11) ……	162	第127図	縄文時代時期別遺構分布図前1期～ 1期 ……	222
第88図	縄文時代土坑出土土器 (12) ……	163	第128図	縄文時代時期別遺構分布図 2期 ……………	223
第89図	縄文時代土坑出土土器 (13) ……	164	第129図	縄文時代時期別遺構分布図 3期 ……………	224
第90図	縄文時代土坑出土土器 (14) ……	165	第130図	縄文時代時期別遺構分布図 4期 ……………	225
第91図	縄文時代土坑出土土器 (15) ……	166	第131図	縄文時代時期別遺構分布図 5期～ 6期 ……	226
第92図	縄文時代土坑出土土器 (16) ……	167	第132図	飯積原山遺跡及び周辺集落の消長 ……………	228
第93図	縄文時代土坑出土土器 (17) ……	169	第133図	奈良・平安時代第1建物群の変遷 ……………	234
第94図	縄文時代土坑出土土器 (18) ……	170	第134図	奈良・平安時代時期別遺構分布図 ……………	237
第95図	縄文時代土坑出土土器 (19) ……	171			
第96図	縄文時代土坑出土土器 (20) ……	172			
第97図	縄文時代土坑出土土器 (21) ……	173			
第98図	縄文時代土坑出土土器 (22) ……	174			
第99図	縄文時代土坑出土土器 (23) ……	175			
第100図	縄文時代土坑出土土器 (24) ……	176			
第101図	縄文時代土坑出土土器 (25) ……	177			
第102図	縄文時代土坑出土土器 (26) ……	179			
第103図	縄文時代土坑出土土器 (27) ……	181			
第104図	縄文時代土坑出土土器 (28) ……	182			
第105図	遺構外出土縄文土器 ……	183			
第106図	土偶・耳栓 ……	185			
第107図	土器片重量分布 ……	186			
第108図	ミニチュア土器・土製蓋 ……	187			
第109図	石製装身具 ……	189			

## 表 目 次

第1表	地区割り一覧……………	4	第10表	耳栓一覧……………	188
第2表	周辺遺跡一覧……………	9	第11表	ミニチュア土器一覧……………	188
第3表	第29ブロック石器組成表……………	30	第12表	土製蓋一覧……………	188
第4表	旧石器時代単独出土石器組成表……………	32	第13表	石製装身具等一覧……………	188
第5表	各種炉の時期別集計……………	84	第14表	縄文時代石器石材別組成表……………	194
第6表	炉跡一覧……………	89	第15表	旧石器時代石器組成表……………	218
第7表	土坑等一覧……………	97	第16表	石器の機能・用途別組成……………	220
第8表	グリッド別縄文土器出土量……………	130	第17表	遺構の時期別集計……………	221
第9表	土偶一覧……………	188	第18表	第1建物群の規模……………	230

### 添付CD

附表1	下層第29ブロック出土遺物一覧	附図1	出土土器集成図(1)
附表2	下層単独出土遺物一覧	附図2	出土土器集成図(2)
附表3	土器片鏢一覧	附図3	出土土器集成図(3)
附表4	土器片円板一覧	附図4	出土土器集成図(4)
附表5	その他の土製品一覧	附図5	出土土器集成図(5)
附表6	縄文時代石器一覧	附図6	出土土器集成図(6)
附表7	古墳時代土器・土製品一覧	附図7	出土土器集成図(7)
附表8	奈良・平安時代土器一覧	附図8	出土土器集成図(8)

## 図 版 目 次

巻頭図版	縄文時代石製装身具、土偶	図版10	縄文時代住居跡(7)
図版1	調査地周辺の航空写真	図版11	縄文時代住居跡(8)
図版2	(78)区遠景	図版12	縄文時代住居跡(9)
図版3	(78)遺構調査状況	図版13	縄文時代住居跡(10)・炉跡(1)
図版4	下層第29ブロック、縄文時代住居跡(1)	図版14	縄文時代炉跡(2)
図版5	縄文時代住居跡(2)	図版15	縄文時代炉跡(3)
図版6	縄文時代住居跡(3)	図版16	縄文時代炉跡(4)
図版7	縄文時代住居跡(4)	図版17	縄文時代炉跡(5)
図版8	縄文時代住居跡(5)	図版18	縄文時代土坑等(1)
図版9	縄文時代住居跡(6)	図版19	縄文時代土坑等(2)
		図版20	縄文時代土坑等(3)

- 図版21 縄文時代土坑等 (4)
- 図版22 縄文時代土坑等 (5)
- 図版23 縄文時代土坑等 (6)
- 図版24 縄文時代土坑等 (7)
- 図版25 縄文時代土坑等 (8)
- 図版26 縄文時代土坑等 (9)
- 図版27 縄文時代土坑等 (10)
- 図版28 縄文時代土坑等 (11)
- 図版29 縄文時代土坑等 (12)
- 図版30 縄文時代土坑等 (13)
- 図版31 縄文時代土坑等 (14)
- 図版32 縄文時代土坑等 (15)
- 図版33 縄文時代土坑等 (16)
- 図版34 縄文時代土坑等 (17)
- 図版35 縄文時代土坑等 (18)
- 図版36 縄文時代土坑等 (19)
- 図版37 縄文時代土坑等 (20)
- 図版38 縄文時代土坑等 (21)
- 図版39 縄文時代土坑等 (22)
- 図版40 縄文時代土坑等 (23)
- 図版41 縄文時代土坑等 (24)
- 図版42 縄文時代土坑等 (25)
- 図版43 縄文時代土坑等 (26)
- 図版44 縄文時代土坑等 (27)
- 図版45 縄文時代土坑等 (28)
- 図版46 縄文時代土坑等 (29)
- 図版47 縄文時代土坑等 (30)
- 図版48 縄文時代土坑等 (31)
- 図版49 縄文時代土坑等 (32)
- 図版50 縄文時代土坑等 (33)
- 図版51 縄文時代土坑等 (34)
- 図版52 縄文時代土坑等 (35)
- 図版53 古墳時代住居跡 (1)
- 図版54 古墳時代住居跡 (2)、奈良・平安時代住居跡・掘立柱建物跡 (1)
- 図版55 奈良・平安時代掘立柱建物跡 (2)・土坑、溝状遺構
- 図版56 旧石器時代石器 (1)
- 図版57 旧石器時代石器 (2)、縄文時代石器 (1)
- 図版58 縄文時代住居跡出土土器 (1)
- 図版59 縄文時代住居跡出土土器 (2)
- 図版60 縄文時代住居跡出土土器 (3)
- 図版61 縄文時代住居跡出土土器 (4)
- 図版62 縄文時代住居跡出土土器 (5)
- 図版63 縄文時代住居跡出土土器 (6)
- 図版64 縄文時代住居跡出土土器 (7)
- 図版65 縄文時代住居跡出土土器 (8)・炉跡出土土器 (1)
- 図版66 縄文時代炉跡出土土器 (2)
- 図版67 縄文時代炉跡出土土器 (3)
- 図版68 縄文時代炉跡出土土器 (4)・土坑等出土土器 (1)
- 図版69 縄文時代土坑等出土土器 (2)
- 図版70 縄文時代土坑等出土土器 (3)
- 図版71 縄文時代土坑等出土土器 (4)
- 図版72 縄文時代土坑等出土土器 (5)
- 図版73 縄文時代土坑等出土土器 (6)
- 図版74 縄文時代土坑等出土土器 (7)
- 図版75 縄文時代土坑等出土土器 (8)
- 図版76 縄文時代土坑等出土土器 (9)
- 図版77 縄文時代土坑等出土土器 (10)
- 図版78 縄文時代土坑等出土土器 (11)
- 図版79 縄文時代土坑等出土土器 (12)
- 図版80 縄文時代土坑等出土土器 (13)
- 図版81 縄文時代土坑等出土土器 (14)
- 図版82 縄文時代土坑等出土土器 (15)
- 図版83 縄文時代土坑等出土土器 (16)
- 図版84 縄文時代土坑等出土土器 (17)
- 図版85 縄文時代土坑等出土土器 (18)
- 図版86 縄文時代土坑等出土土器 (19)
- 図版87 縄文時代土坑等出土土器 (20)
- 図版88 縄文時代土坑等出土土器 (21)
- 図版89 縄文時代土坑等出土土器 (22)
- 図版90 縄文時代土坑等出土土器 (23)
- 図版91 縄文時代土坑等出土土器 (24)
- 図版92 縄文時代土坑等出土土器 (25)
- 図版93 縄文時代土坑等出土土器 (26)
- 図版94 縄文時代土坑等出土土器 (27)
- 図版95 縄文時代土坑等出土土器 (28)



- 図版96 縄文時代土坑等出土土器 (29)
- 図版97 縄文時代土坑等出土土器 (30)
- 図版98 縄文時代土坑等出土土器 (31)
- 図版99 縄文時代土坑等出土土器 (32)
- 図版100 縄文時代土坑等出土土器 (33)・  
遺構外出土土器 (1)
- 図版101 縄文時代遺構外出土土器 (2)
- 図版102 縄文時代住居跡出土土器 (9)
- 図版103 縄文時代住居跡出土土器 (10)
- 図版104 縄文時代住居跡出土土器 (11)
- 図版105 縄文時代住居跡出土土器 (12)
- 図版106 縄文時代住居跡出土土器 (13)
- 図版107 縄文時代住居跡出土土器 (14)
- 図版108 縄文時代住居跡出土土器 (15)
- 図版109 縄文時代住居跡出土土器 (16)
- 図版110 縄文時代住居跡出土土器 (17)
- 図版111 縄文時代住居跡出土土器 (18)
- 図版112 縄文時代住居跡出土土器 (19)
- 図版113 縄文時代住居跡出土土器 (20)
- 図版114 縄文時代住居跡出土土器 (21)
- 図版115 縄文時代住居跡出土土器 (22)
- 図版116 縄文時代住居跡出土土器 (23)
- 図版117 縄文時代住居跡出土土器 (24)
- 図版118 縄文時代住居跡出土土器 (25)
- 図版119 縄文時代住居跡出土土器 (26)
- 図版120 縄文時代住居跡出土土器 (27)・  
炉跡出土土器 (5)
- 図版121 縄文時代炉跡出土土器 (6)・  
土坑等出土土器 (34)
- 図版122 縄文時代土坑等出土土器 (35)
- 図版123 縄文時代土坑等出土土器 (36)
- 図版124 縄文時代土坑等出土土器 (37)・  
遺構外出土土器 (3)・土製品
- 図版125 土器片錘
- 図版126 土器片円板 (1)
- 図版127 土器片円板 (2)、  
縄文時代石製装身具
- 図版128 縄文時代石器 (2)
- 図版129 縄文時代石器 (3)
- 図版130 縄文時代石器 (4)
- 図版131 縄文時代石器 (5)
- 図版132 縄文時代石器 (6)
- 図版133 縄文時代石器 (7)
- 図版134 縄文時代石器 (8)
- 図版135 縄文時代石器 (9)
- 図版136 縄文時代石器 (10)
- 図版137 縄文時代石器 (11)
- 図版138 縄文時代石器 (12)
- 図版139 古墳時代土器 (1)
- 図版140 古墳時代土器 (2)
- 図版141 古墳時代土器 (3)・土製品、  
奈良・平安時代土器・墨書土器

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

独立行政法人都市再生機構（平成7年1月1日契約時は住宅・都市整備公団、平成11～16年まで都市基盤整備公団）は、千葉県印旛郡酒々井町において、酒々井南部地区土地区画整理事業を計画した。実施に当たり、千葉県教育委員会へ事業予定地内の埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した結果、予定地内には複数の遺跡が所在する旨、回答があった。千葉県教育委員会は独立行政法人都市再生機構とその取扱いについて協議した結果、記録保存の措置を講ずることとし、発掘調査を公益財団法人千葉県教育振興財団（平成17年8月以前は財団法人千葉県文化財センター、平成17年9月からは財団法人千葉県教育振興財団）に委託した。事業地内に所在する各遺跡の調査対象規模は、飯積上台遺跡は51,041㎡、飯積原山遺跡は482,389㎡、柳沢牧墨木戸境野馬土手は1,442㎡で、総面積は534,872㎡である。

本書は、平成25年度に確認・本調査が行われた飯積原山遺跡の北東端の地点（H2501）について報告するもので、本地点をもって事業地内における埋蔵文化財の発掘調査は完了した。

調査対象面積は24,663㎡である。そのうち南西側の区画2,178㎡については、平成9年度に確認調査が実施された。平成25年度は、残りの22,485㎡について上層1,870㎡、下層590㎡の確認調査を行い、上層22,933㎡、下層64㎡の本調査を実施した。

これまで事業地内において実施した調査成果は、平成6～22年度調査は『酒々井町飯積上台遺跡1』、『酒々井町飯積原山遺跡1・2』、平成23・24年度調査は『酒々井町飯積上台遺跡2・飯積原山遺跡3・柳沢牧墨木戸境野馬土手』において既に報告済みである。

発掘調査期間・担当者は以下のとおりである。

平成9年度 調査期間 平成9年12月1日～平成10年3月27日

調査部長 西山太郎

東部調査事務所長 石田廣美

調査担当者 石塚 浩・廣瀬和之

平成25年度 調査期間 平成25年4月8日～平成26年2月27日

調査研究部長 伊藤智樹

整理課長 今泉 潔

調査担当者 糸川道行・及川淳一・小林昂博

整理作業の概要は以下のとおりである。

平成25年度 整理期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

整理内容 水洗の一部、注記の一部、記録整理の一部

整理担当者 糸川道行・沼澤 豊・及川淳一・小林昂博

平成26年度	整理期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日
	整理内容	水洗の一部、注記の一部、記録整理の一部、分類、接合・復元、実測、拓本、写真撮影、トレース、挿図作成、図版作成、原稿執筆、編集
	整理担当者	木原高弘・西川博孝・橋本勝雄・小林昂博
平成27年度	整理期間	平成27年4月1日～平成27年7月31日
		文化財センター長 小久貫隆史
	整理課長	岸本雅人
	整理担当者	西川博孝
	整理内容	校正、印刷・刊行

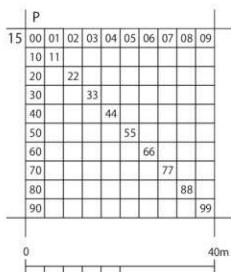
## 2 調査・整理の方法（第1～3図）

発掘調査は、酒々井南部地区の事業地の全域を公共座標（旧座標・国家標準直角座標第IX系）に基づく方眼網で覆って実施した。方眼は40m×40mの区画を大グリッドとし、起点から南へ1・2…、東へA・B…と振っている。その内部を100分割した4m×4mが小グリッドである。大グリッド内は北西隅の小グリッドを00とし、00を起点に東へ01・02…、南へ10・20…と振っており、南東隅が99である。小グリッド名は大グリッドと組み合わせて15P-55のように表記した。大グリッドの交点の一つである18L-00は、旧座標でX=-31,900.0000、Y=42,100.0000である。JGD2000系変換値ではX=-31,544.7849、Y=41,806.2120、北緯35°42′53″、東経140°17′43″である<sup>1)</sup>。

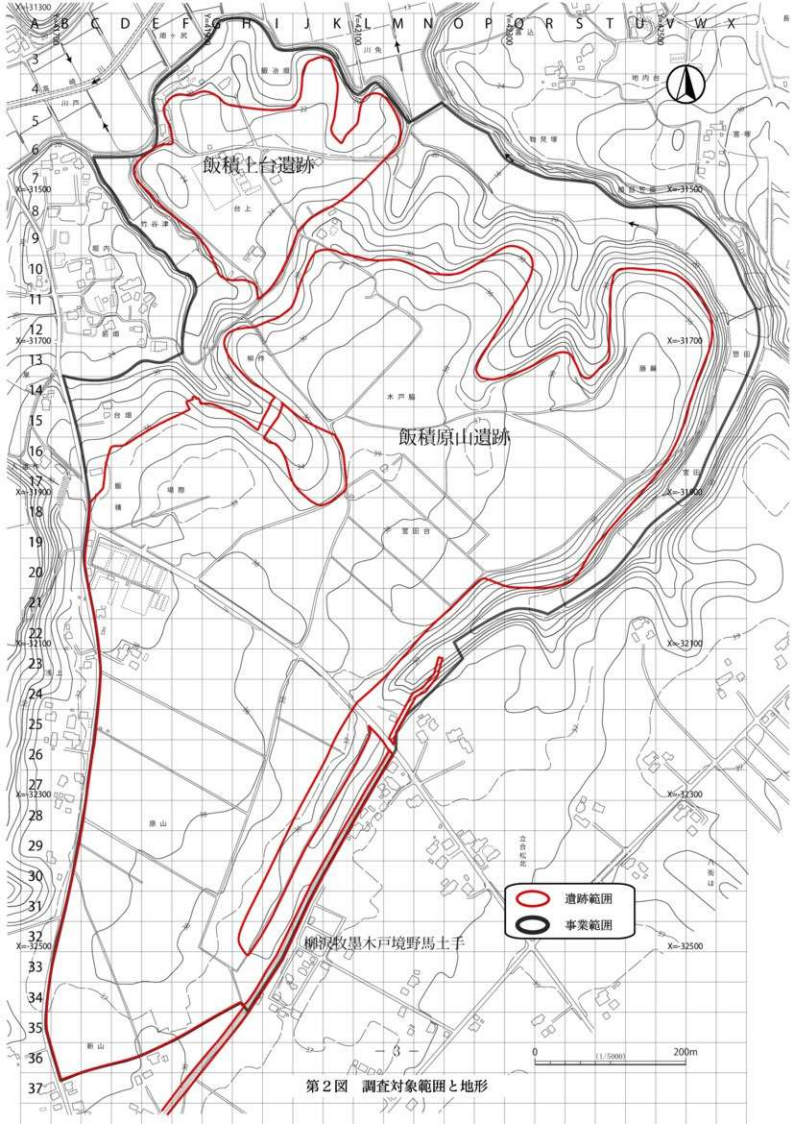
上層の確認調査は、対象面積の10%を原則としてトレンチを設定し、遺構及び遺物の分布状況を調べた上で、本調査範囲を決定して本調査を実施した。下層の確認調査は、対象面積の4%を原則にグリッドを設定して実施した。その結果、一定の石器の分布状況が認められたところについては、本調査範囲の確定後に本調査を実施した。確認調査及び本調査のための表土除去等については、重機を使用した。遺構・遺物集中地点の調査は、平面図、土層断面図、遺物出土分布図などの実測図の作成、写真撮影、遺物の取り上げを行った。

整理作業は、まず遺物の水洗、注記、記録類の整理を行った。注記は、遺跡コード、遺構番号、遺物台帳に記載された遺物番号を順に書き込んだ。遺構外出土遺物については、上記の遺構番号がグリッド名に替わる。注記後、遺物を遺構ごとに種別分類し、接合作業等を実施した。その後、遺物出土状況図・遺物台帳に記載された位置と高さをもとに、接合関係等の遺物出土状況図を平面と断面で作成した。土器・土製品・石器の実測は写真及び手計測による。遺物の拓本、遺構及び遺物実測図等のトレース、挿図作成、写真撮影、写真図版作成、原稿執筆、編集、校正を行い、本報告書の刊行となった。

今回報告する地点は、調査時はH2501と呼称されたが、これまでと同様に既報告の地区番号に連続して付与し、(78)



第1図 グリッド名称例



飯積上台遺跡

飯積原山遺跡

柳沢牧墨木戸境野馬土手

- 遺跡範囲
- 事業範囲

0 1:5000 200m

第2図 調査対象範囲と地形

第1表 地区割り一覧

地区	調査年度・調査区	地区	調査年度・調査区	地区	調査年度・調査区
1	H1904	27	H2006・H2101	53	H2204・H2301
2	H10確認調査	28	H2104A	54	H2304
3	H9確認調査G区	29	H13G区 (H8確認調査)	55	H2304
4	H1A地点	30	H2103	56	H2401
5	H10確認調査	31	H2001	57	H2401
6	H1906	32	H8 確認調査	58	H2401
7	H12仮2区 (H10確認調査)	33	H11B地点	59	H2401
8	H2002	34	H12仮1b区	60	H2404
9	H12仮1d区 (H9確認調査A・B・F・G区)	35	H2104B	61	H2312 (H9確認調査J区)
10	H12仮3区 (H9確認調査E・M・N区)	36	H10確認調査	62	H2407 (H9確認調査K区)
11	H13A区 (H9確認調査C・D区)	37	H11C地点 (H10確認調査)	63	H2403 (H9確認調査K区)
12	H1905 (H9確認調査C・D区)	38	H8確認調査	64	H2311 (H9確認調査C区)
13	H12仮4区 (H7確認調査)	39	H1902	65	H2305
14	H12仮1c区 (H8確認調査)	40	H7確認調査	66	H2303
15	H2004	41	H2105	67	H2307
16	H2003	42	H13D区確認調査	68	H2310 (H8確認調査)
17	H2005	43	H2202	69	H2306
18	H12仮1a区 (H8確認調査)	44	H8確認調査	70	H2308
19	H13C区	45	H10確認調査	71	H2302
20	H13B区 (H8確認調査)	46	H6確認調査	72	H2406
21	H13H区	47	H1901	73	H2408
22	H13B2区 (H8確認調査)	48	H1901	74	H2406
23	H13B3区 (H8確認調査)	49	H13F区確認調査	75	H2405
24	H2203	50	H10確認調査	76	H2409
25	H2201	51	H2411	77	H2402
26	H2101	52	H2301	78	H2501 (H9確認調査L区)

区とした。各調査年度・調査区と地区番号の関係は第1表、地区番号を振った区割図は第3図に示した。

調査段階での遺構番号は、上層では遺構種別を表すS1等の略号と3桁の数字を組み合わせてS1001のように呼称しているが、既報告と同様に本報告でも遺構番号を地区割り番号+略号+数字で(78)S1001のように表記することとした。

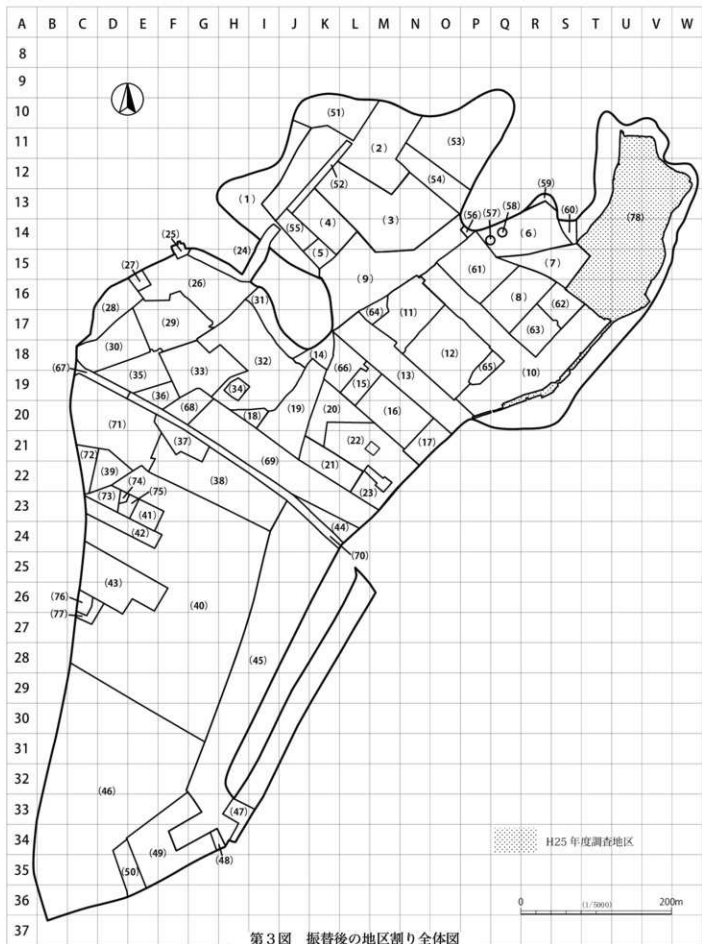
本書で報告する遺構の略号を記すと、堅穴住居跡はS1、掘立柱建物跡はSB、土坑・小堅穴・陥穴・単独埋壙はSK、炉跡はSX、ピット・柱穴と思われる小規模な土坑はP、溝はSDとしている。

注1 変換値はWeb版TKY2JGD Ver.1.3.79 パラメータ Ver.2.1.1による。

## 第2節 遺跡の位置と環境 (第4図)

飯積上台遺跡・飯積原山遺跡・柳沢牧墨木戸境野馬土手は千葉県の北部、下総台地の中央に位置する印旛沼の南東側に立地する。行政域では印旛郡酒々井町の南東端に所在し、北東は富里市、南東は八街市に近接する。

飯積原山遺跡は、北側を流れる高崎川によって開析された台地上に立地する。高崎川は約6km南西側の富里市・八街市付近を水源とし、西流した後、約6.5km西方の佐倉市寺崎付近で西印旛沼の南西部に注ぐ鹿島川に合流する。遺跡周辺の高崎川低地の標高は約12mである。高崎川の南岸は同様な比較的広い台地が南部川開を付け根に東西に連なり、高崎川を挟んで本遺跡の対岸台地は、北側に広大な印旛沼の低地が



第3図 振替後の地区割り全体図

接している。飯積原山遺跡の立地する台地は、標高36m～38mである。遺跡の北半は高崎川から入り込んだ谷に挟まれ、南端は南部川支谷の谷頭部に接する。飯積原山遺跡のほかにも事業地内に所在する遺跡は、北側の低地に面する標高15m～24mのテラス状の河岸段丘上に飯積上台遺跡、飯積原山遺跡の東側に柳沢牧墨木戸境野馬土手が位置する。周辺遺跡については第2表、第4図に主なものを示した。内容については刊行済みの報告書<sup>1-4)</sup>で概説しているのでそれらを参照していただきたい。

- 注1 (公財) 千葉県教育振興財団 2013『酒々井町飯積上台遺跡1-酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書1-』  
2 (公財) 千葉県教育振興財団 2014『酒々井町飯積原山遺跡1-酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書2-』  
3 (公財) 千葉県教育振興財団 2014『酒々井町飯積原山遺跡2-酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書3-』  
4 (公財) 千葉県教育振興財団 2015『酒々井町飯積上台遺跡2・飯積原山遺跡3・柳沢牧墨木戸境野馬土手-酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書4-』

### 第3節 調査成果の概要 (第3図)

平成6～24年度に発掘調査を実施した(1)～(77)区では、遺跡北西側を中心に旧石器時代の石器集中地点28か所、縄文時代の竪穴住居跡147軒、掘立柱建物跡2棟、土坑等889基、ピット(群)、奈良・平安時代の竪穴住居跡76軒、掘立柱建物跡43棟、土坑、溝状遺構、中・近世の野馬土手、野馬堀、土坑列、道路状遺構、塚などが検出された。概要は以下のとおりである。

旧石器時代は5枚の文化層の石器群からなり、第3、第5文化層が主体である。第3文化層はIXa層上部～VII層下部に生活面をもち、ナイフ形石器や台形様石器を主要器種としており、第5文化層は野辺山型細石刃石核を有する石器群であった。

縄文時代は中期中葉から後期初頭を中心とした時期で、袋状土坑、円形土坑を伴う住居跡群が展開する。加曽利E1式期からE2式期の集落は、大小それぞれの規模の集落が3か所あり、今回報告する(78)区に近接していた。加曽利E2-3式からE3式古段階期の遺構は区域内からはほとんど見られない。加曽利E3式中段階期になると集落が復活し、広範囲に住居跡、土坑が分散する。その範囲は大きく2か所に分かれるが、東側は加曽利E4式古段階期で終わるのに対して、西側は称名寺式期まで継続していることが分かった。

奈良・平安時代は、8世紀第4四半期から9世紀第3四半期の条里地割の区画溝を伴う集落跡で、計画的に配置された3か所の掘立柱建物群、竪穴住居跡群が検出され、「庄」「三倉」「寺」などの墨書土器が多量に出土し、初期荘園の性格を有する集落であった。3か所の掘立柱建物群は現地経営拠点である庄所、経営・管理を主導した在地有力者の居宅、村落寺院、周辺の竪穴住居跡群は荘園村落と捉えられた。

中・近世は、佐倉七牧の一つ柳沢牧の北西端に位置し、野馬土手、しし穴・犬落とし穴と考えられる土坑列が検出された。

今回報告する(78)区は、(7)、(10)、(60)、(62)区の北側に隣接する北東側の舌状台地部とその南側の(10)区の東側に沿った幅約2mの細長い範囲である。北側及び東側の遺跡範囲はさらに10m～50m続いているが、緑地保存区域であったため調査対象範囲から除外された。

検出された遺構は、旧石器時代の石器集中地点1か所、縄文時代の竪穴住居跡68軒・炉跡76基・土坑など1,505基・ピット233基、古墳時代中・後期の竪穴住居跡6軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒・土坑





1基・掘立柱建物跡8棟・柱穴8基・溝状遺構2条、中・近世の道路状遺構1条である。

主体となる縄文時代の遺構群は、中央に広場を取り囲む直径約200メートルの環状に分布し、きわめて密度の濃い状況で検出された。出土土器は、報告済みの北西側の地区と同様に中期中葉から後葉のいわゆる中峠式や加曾利E1式から加曾利E4式が中心である。

なお、今回の報告における縄文時代の遺構の時期区分と土器の分類は、これまで報告で行ったものを踏襲し、次のとおりとした。

このうち、中期阿玉台Ⅱ式以前及び後期堀之内Ⅰ式以降は時期区分を行わなかった。

前1期 草創期後半 撚糸文土器、阿玉台式Ⅰa式・Ⅰb式・Ⅱ式

1a期 阿玉台Ⅲ式～Ⅳ式・勝坂式末期・いわゆる中峠式及び諸類型・加曾利E1式古段階

1b期 加曾利E1式新段階

2a期 加曾利E2式古段階

2b期 加曾利E2式新段階

2c期 加曾利E2-3中間式

3a期 加曾利E3式古段階

3b期 加曾利E3式中段階

3c期 加曾利E3式新段階

4a期 加曾利E3-4中間式

4b期 加曾利E4式古段階

4c期 加曾利E4式中段階

4d期 加曾利E4式新段階

5期 称名寺式

6期 堀之内Ⅰ式・Ⅱ式・加曾利B式

1a期については各型式の同時期性について問題のあるところだが、ここでは議論せず、集落形成過程を理解する都合において同一時期として扱うこととした。中期土器の分類に当たっては、阿玉台式については西村正衛編年を基準とし、1a期の各土器の理解については下総考古学研究会による諸研究を参考とした。また、加曾利E式については前半を山形眞理子編年、後半を柳澤清一・長山明弘編年を基準とした。なお、柳澤・長山編年では各期がさらに小細別されているが、土器の出土量が少ない遺構ではその認定が困難となるため細別段階にとどめ、個別の土器で認定できたものについては可能な限り小細別まで記載した。各々、理解に誤りがあれば、報告者の責任である。

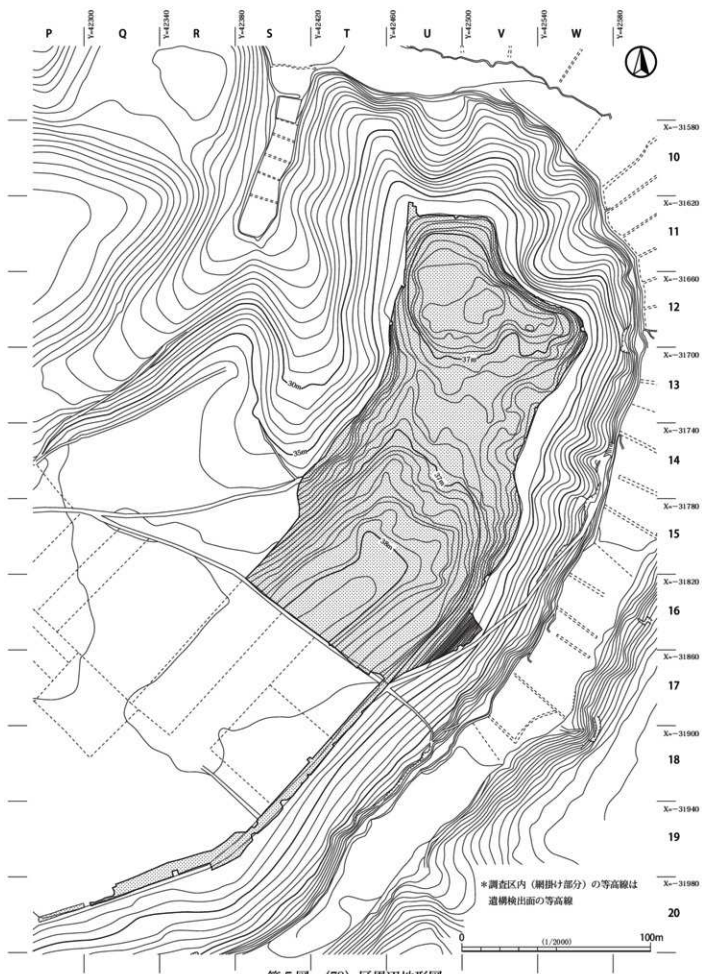
#### 参考文献

- 西村正衛 1984『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』早稲田大学出版部  
高橋良治他 1998『<特集>中峠式土器の再検討』『下総考古学』15 下総考古学研究会  
高橋良治他 2004『<特集>房総半島における勝坂式土器の研究』『下総考古学』18 下総考古学研究会  
大村 裕他 2014『中峠6次I住型深鉢の研究』『下総考古学』23 下総考古学研究会

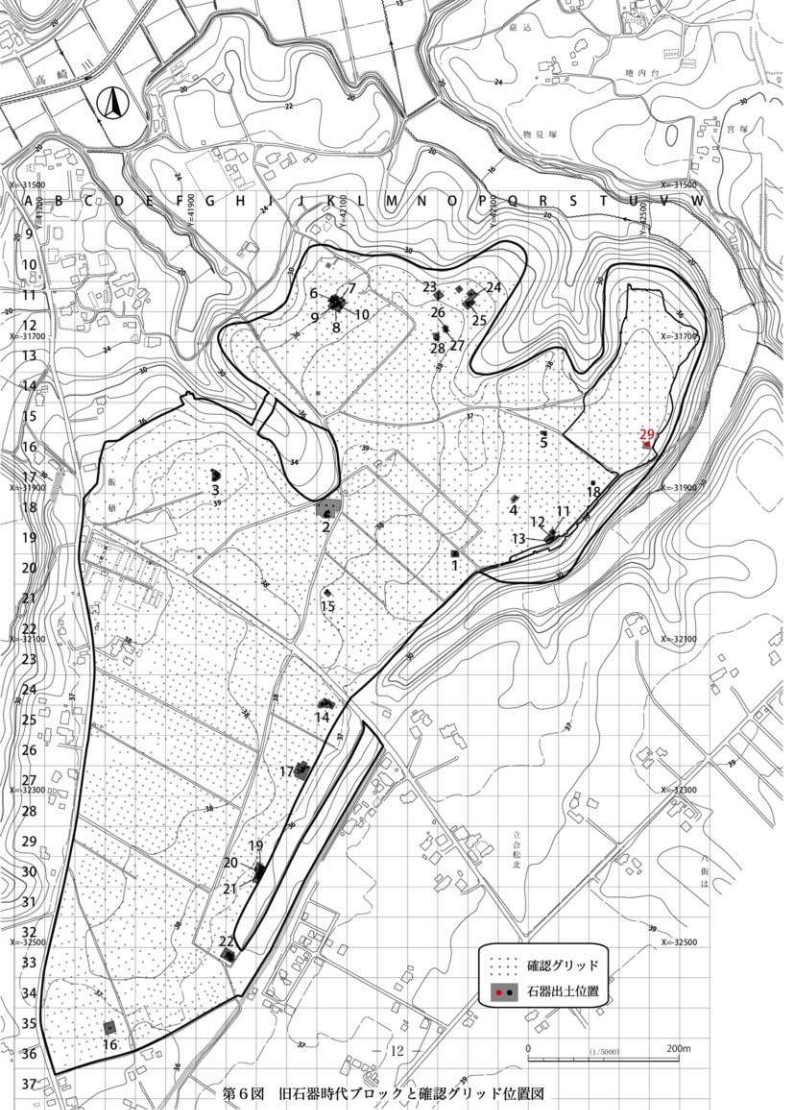
第2表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	主な時代(時期)
1	飯積原山遺跡	包蔵地・集落跡	旧石器、縄文(阿玉台Ib~IV、加曾利E1~4、称名寺、堀之内)、古墳、奈良・平安、近世
2	飯積上台遺跡	包蔵地・集落跡 古墳	旧石器、縄文(茅山、関山、粟島台、黒浜、加曾利E、称名寺)、古墳、奈良・平安
3	柳沢牧置木戸境野馬土手	牧跡	近世
4	伊福越徳遺跡	包蔵地	縄文(加曾利E3)、古墳、奈良・平安
5	伊福白幡遺跡	包蔵地	阿玉台直前~III、加曾利E1~3
6	上岩橋大鷲神社古墳	古墳	古墳
7	上岩橋岩崎遺跡	古墳・集落跡	縄文(阿玉台)、弥生、古墳、奈良・平安、中・近世
8	南大窟袋遺跡	包蔵地	旧石器、縄文
9	寺沢遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(田戸、子母口、茅山、阿玉台IV、加曾利E3)、奈良・平安、近世
10	新橋高松遺跡	集落跡	縄文、奈良・平安、近世
11	尾上木見津遺跡・駒詰遺跡	包蔵地・集落跡	旧石器、縄文、古墳、奈良・平安、近世
12	尾上平台南遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(黒浜、浮島2)、平安
13	尾上出戸遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(茅山下層、関山、黒浜、粟島台、加曾利E3)、古墳、奈良・平安
14	尾上藤木遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(加曾利E、称名寺)、古墳、奈良
15	尾上柳作遺跡	集落跡	縄文(茅山、興津、加曾利B2、五領ヶ台、加曾利E4)、古墳、平安、中・近世
16	尾上広畑遺跡	包蔵地	縄文(加曾利E、称名寺)、古墳、平安
17	墨小盛田古墳	古墳	古墳
18	下台遺跡	包蔵地	縄文(稲荷台、花輪台、三戸、子母口、鶴ヶ島台、黒浜、浮島、前期末、加曾利E2・3)、古墳、奈良・平安
19	孤塚古墳	古墳	古墳
20	本佐倉外宿遺跡	包蔵地	縄文、古墳、平安
21	北押出し遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(田戸、子母口、鶴ヶ島台、花積下層、黒浜、諸磯、浮島)、弥生、奈良・平安
22	新橋遺跡	集落跡	旧石器、縄文(阿玉台Ia~IV、加曾利E1・3)、古墳
23	墨古沢遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(阿玉台Ib~IV、加曾利E1~3・4、堀之内I、加曾利B1・2、安行)
24	墨古沢南II遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(加曾利E、称名寺)、平安
25	墨広畑遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(阿玉台I、加曾利E1~3、堀之内I、加曾利B1・2、安行)
26	墨大広台遺跡	包蔵地	縄文(加曾利E)、弥生、古墳、平安
27	馬橋鷺尾余II遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(茅山、鶴ヶ島台)、弥生、古墳、平安
28	馬橋鷺尾余I遺跡	包蔵地・集落跡	弥生、古墳、平安
29	馬橋鷺田遺跡	包蔵地	縄文(田戸下層、浮島1、阿玉台直前、加曾利E)
30	八木亀井台遺跡	包蔵地	縄文(子母口、茅山、関山、阿玉台、加曾利E)、弥生
31	墨古沢南I遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(浮島2、阿玉台Ib、加曾利E2~4、称名寺1、堀之内2、加曾利B1~3、安行1~3a、前浦、干瀬)
32	墨木戸遺跡	集落跡	縄文(井草、夏島、三戸、田戸下層、鶴ヶ島台、関山、黒浜、諸磯、浮島、前期末、五領ヶ台、阿玉台II、加曾利E1~4、加曾利B、安行)、奈良・平安
33	墨新山遺跡	包蔵地・集落跡	旧石器、縄文(夏島、稲荷台、花輪台、黒浜、浮島2・3、興津、十三善徳、前期末~中期初頭、五領ヶ台、阿玉台Ib、加曾利E1・3・4、称名寺、加曾利B、安行1・3a)
34	上勝田大谷台遺跡	包蔵地	縄文(茅山、関山、浮島)、古墳、平安
35	上勝田鎌田遺跡	包蔵地	縄文(阿玉台、加曾利E)、平安
36	上勝田龍向遺跡	包蔵地	縄文(中期後葉)
37	藤株IV遺跡	包蔵地	縄文
38	鉄砲作遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(加曾利E2・3)
39	一之瀬I遺跡	包蔵地・集落跡	旧石器、縄文(阿玉台、加曾利E1~3)
40	一之瀬II遺跡	集落跡	縄文(中期初)、奈良・平安
41	一之瀬III遺跡	包蔵地・集落跡	旧石器、縄文、奈良・平安
42	榎台第I遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(加曾利E2・3)
43	上勝田市ノ坪遺跡	包蔵地	縄文(茅山、加曾利E)
44	下勝田天神台遺跡	包蔵地	縄文(加曾利E)、弥生、古墳、平安
45	下勝田殿台東遺跡	包蔵地・集落跡	縄文(阿玉台Ib~IV、加曾利E1~3)
46	野馬土手	牧跡	近世
47	野馬土手	牧跡	近世
48	野馬土手	牧跡	近世

- 山形眞理子 1996・1997「曾利式土器の研究（上）・（下）」『東京大学考古学研究室研究紀要』14・15 東京大学文学部考古学研究室
- 柳澤清一 1997「千葉県における加曾利E（新）式編年の検討—下総 利根川下流域の遺跡変動にふれて—」『東邦考古』21 東邦考古学研究会
- 柳澤清一 2006「千葉県における縄紋中期末葉・後期初頭編年の再検討—『縄文セミナー』千葉県編年案の標本資料から（1）—」『東邦考古』30 東邦考古学研究会
- 柳澤清一 2006「縄紋時代中・後期の編年学研究—列島における小細別編年網の構築をめざして—」『千葉大学考古学研究叢書』3
- 長山明弘 2010「加曾利E（新）式における土器系列の研究（1）—「連弧文土器」から「Y字文土器」へ—」『古代』第124号 早稲田大学考古学会
- 長山明弘 2012「関東北に於ける土器系列の相関（1）—「懸華状連接区劃文土器」の分布と加曾利E3式土器の終末（上篇）」『千葉大学文学部考古学研究室30周年記念 考古学論叢Ⅰ—岡本東三先生退職とともに—』千葉大学文学部考古学研究室 考古学論叢編集委員会



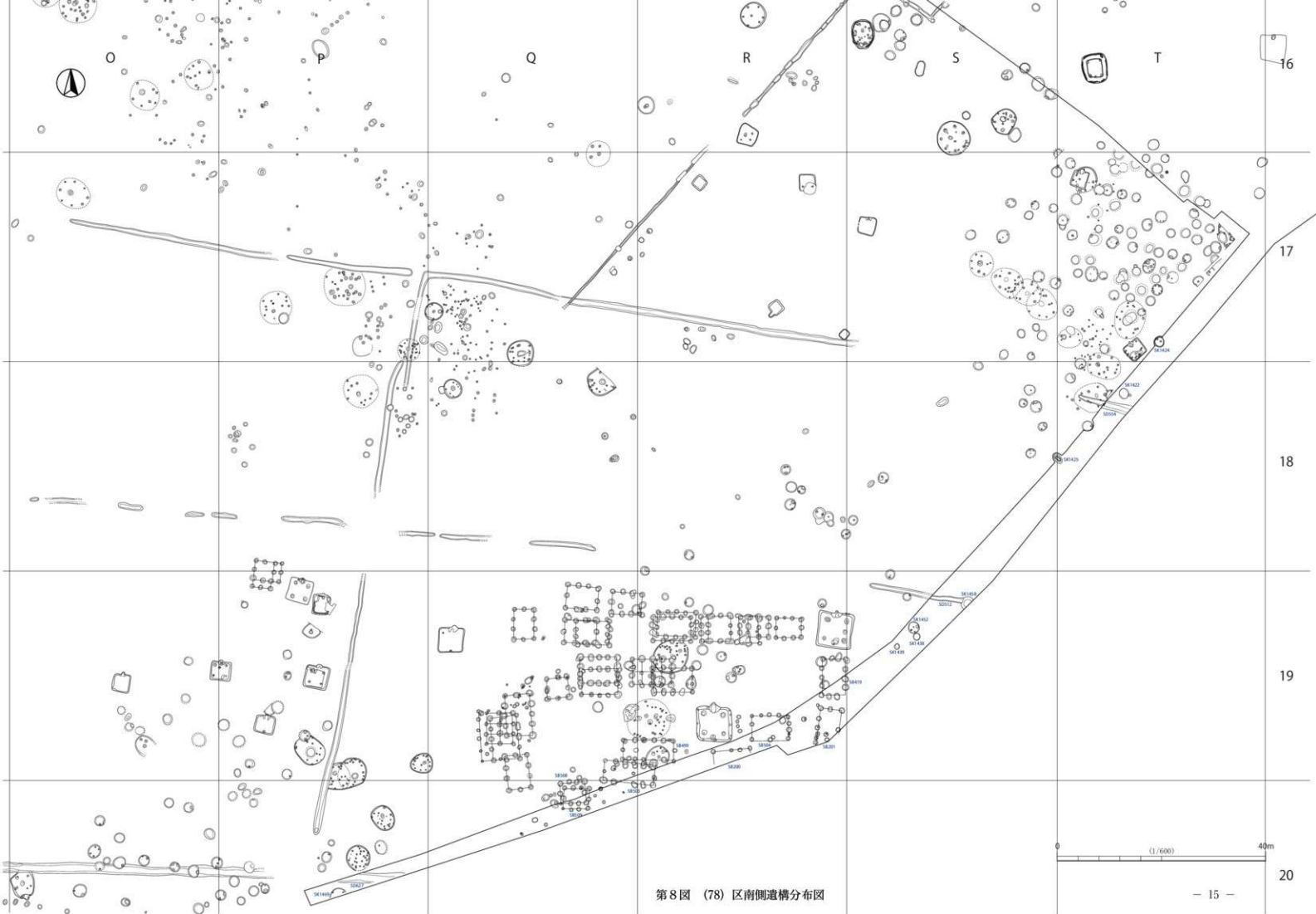
第5図 (78)区周辺地形図



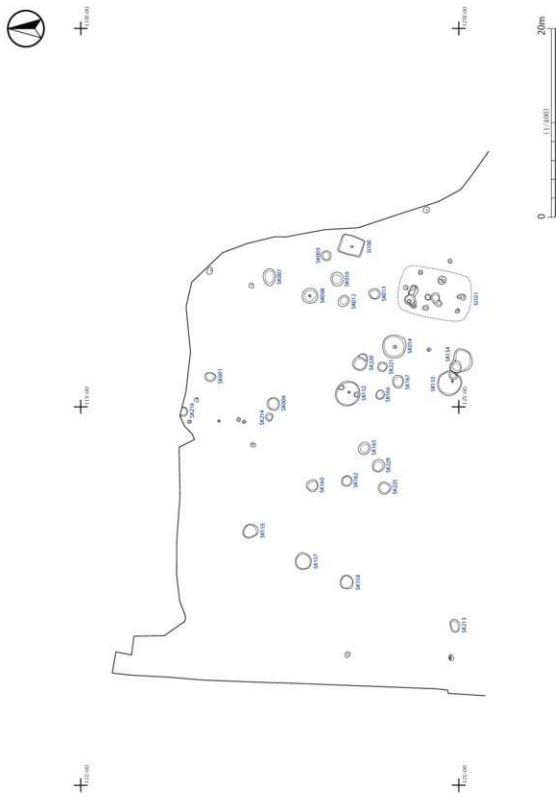
第6図 旧石器時代ブロックと確認グリッド位置図



第7图 (78) 区北加邊線分布图

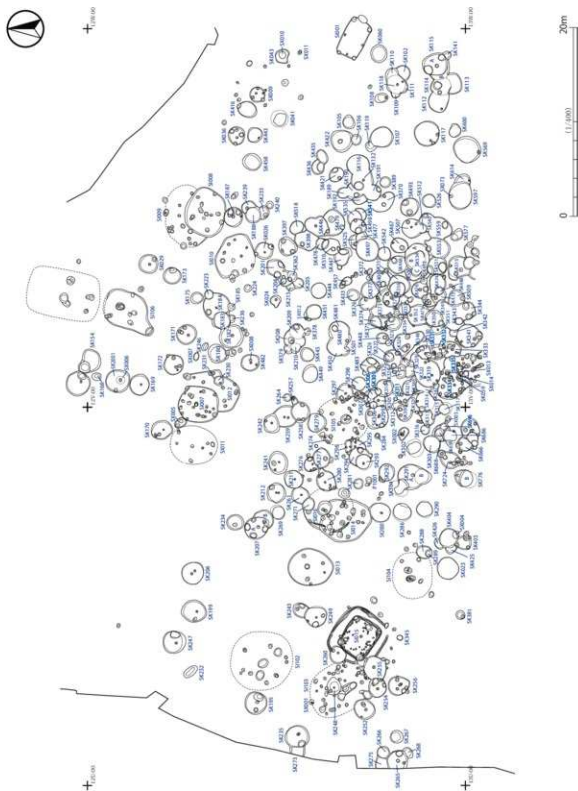


第8图 (78) 区南侧遗构分布图

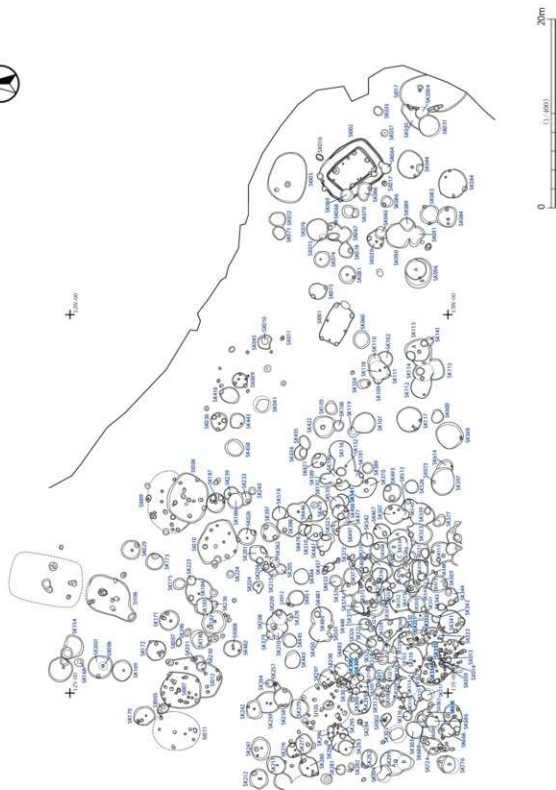


第9図 詳細遺構分布図(1)

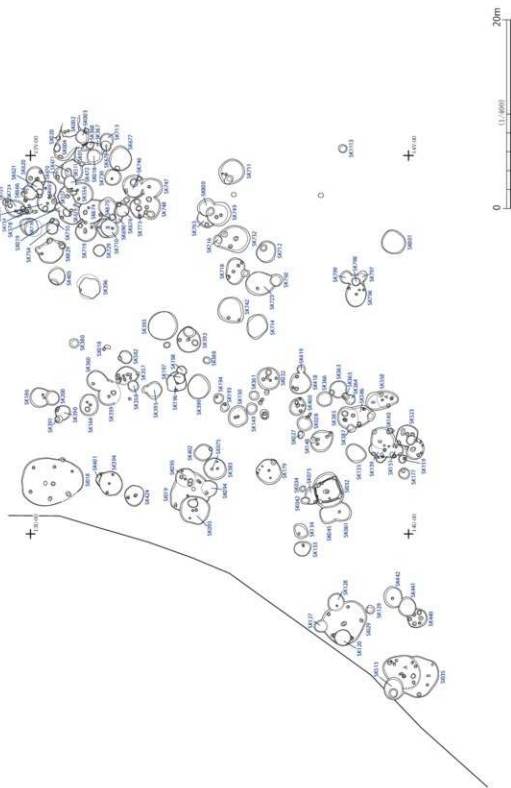




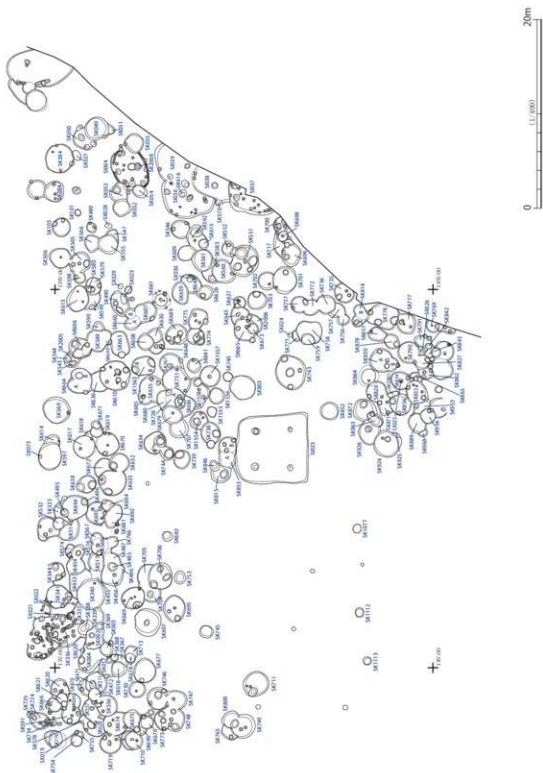
第10図 詳細遺構分布図(2)



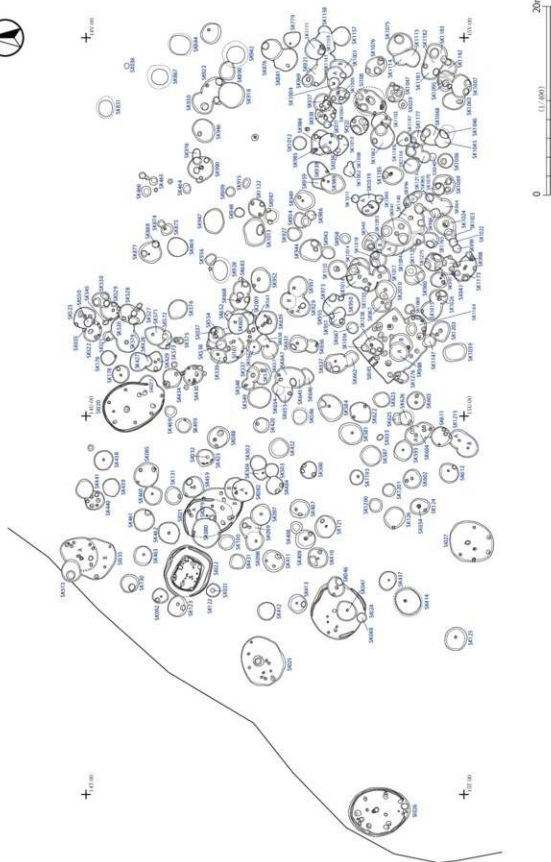
第11図 詳細遺構分布図 (3)



第12図 詳細遺構分布図 (4)

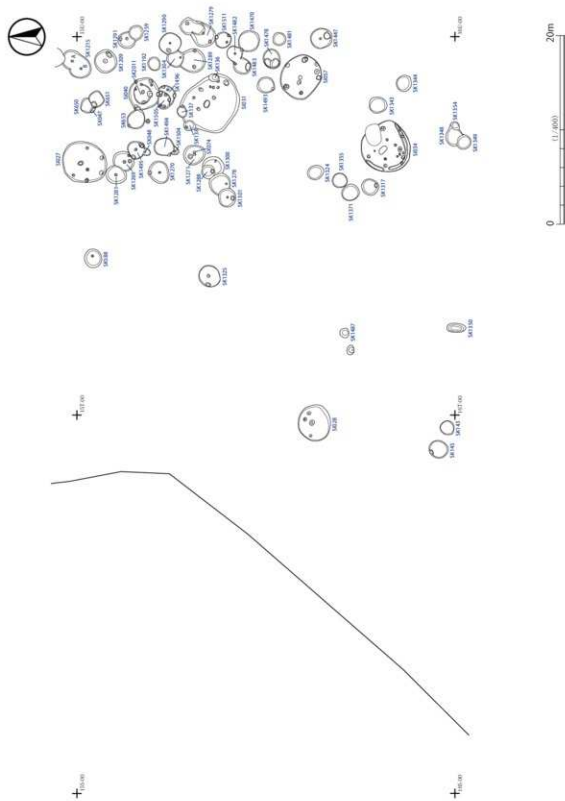


第13図 詳細遺構分布図 (5)



第14図 詳細遺構分布図 (6)

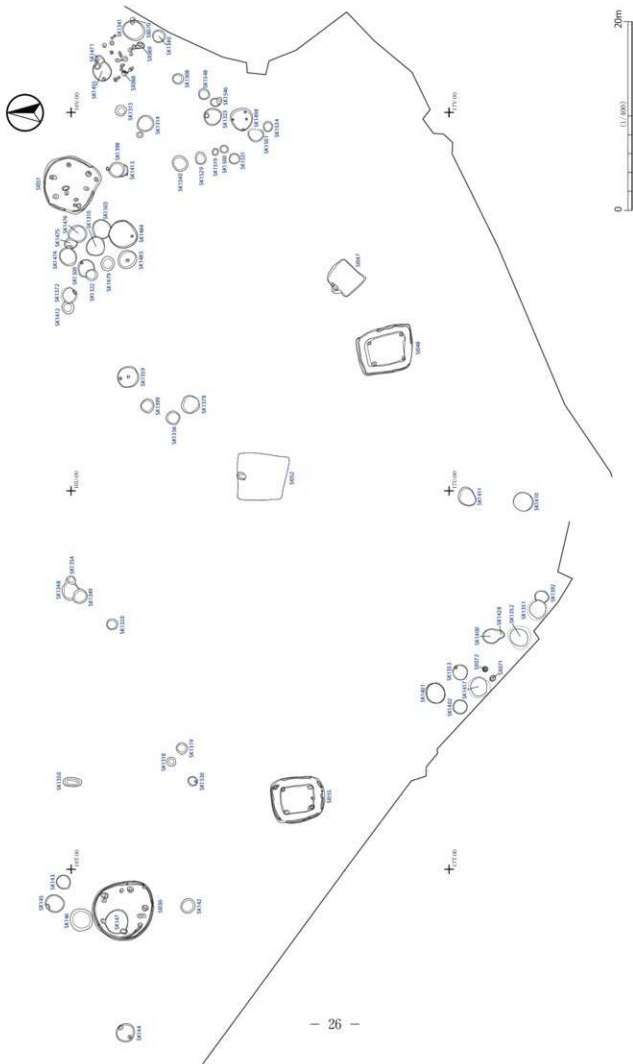




第16図 詳細遺構分布図 (8)







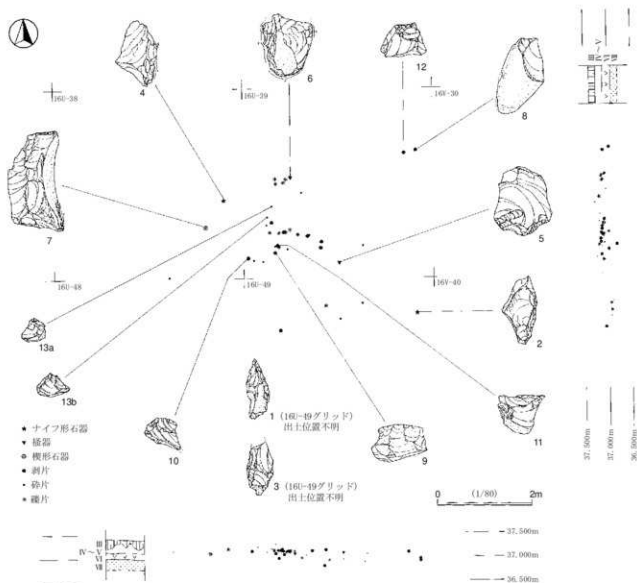
第18図 詳細遺構分布図 (10)

## 第2章 旧石器時代

旧石器時代の調査では遺物集中地点1か所が検出された。この付近は遺跡の北東端にあたり、東に谷津を臨む台地縁部に位置する。標高は約38mである。

### 第1節 第29ブロック (第19～22図、第3表、附表1、図版4・56)

**遺物分布** 平面分布は東西約5.2m、南北約3.6mの楕円形を呈する。密集部には剥片・碎片と被熱礫が多数分布しており、これらの接合資料もある。これに対して散漫な周縁部にはナイフ形石器、搔器及び楔形石器などの利器が比較的多い。

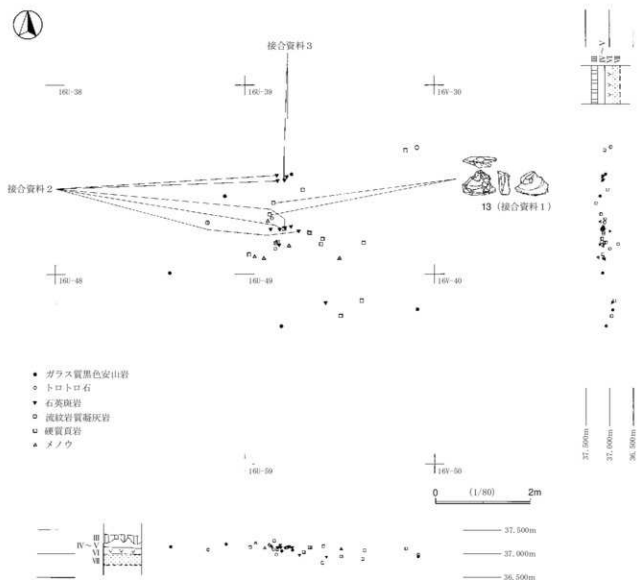


第19図 第29ブロック出土遺物分布図－石器別分布図－

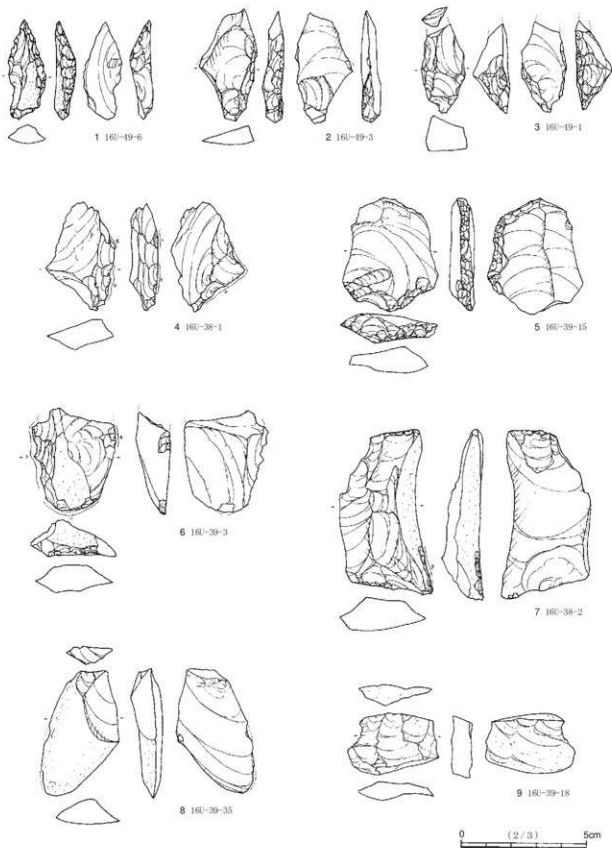
**出土層位** 立川ルームⅢ層からⅦ層にかけて出土した。特にⅣ～Ⅴ層付近に遺物が密集する。遺物の高低差は最大約0.4m、最も密集度高い層準で約0.2mとなっている。

**器種** 計45点の石器が出土した。内訳は、ナイフ形石器3点、角錐状石器1点、搔器2点、楔形石器1点、剥片12点、砕片15点、及び礫片11点となっている（第3表）。

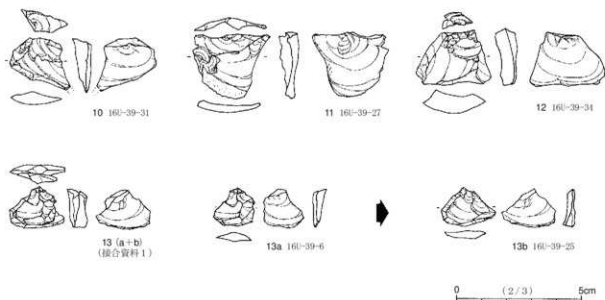
第21図1は角錐状石器である。背面に自然面を残した横長剥片を素材としており、二側縁加工である。2～4はナイフ形石器である。いずれもガラス質黒色安山岩製で横長剥片を素材としており切出形を呈する。刃潰し加工は急角度で90°に近い。2・3は二側縁加工であるのに対して、4は一側縁加工であり、未成品の可能性もある。5・6は搔器である。いずれも横長剥片を素材としている。5は刃部の欠損後、欠損部（背面）から主要剥離面に向かって連続的な打撃を加え刃部の更新を図っている。石材はメノウである。6は下端部に刃部を作出している。刃部にはガジリによる部分的な損傷がみられる。石材はガラス



第20図 第29ブロック出土遺物分布図—石材別分布図—



第21図 第29ブロック出土遺物実測図(1)



第22図 第29ブロック出土遺物実測図(2)

質黒色安山岩製である。7は楔形石器である。縦長剥片を素材としており、主要剥離面側の上下両端には二次加工による数枚の剥離面が、背面側の右下端部には連続的な小剥離痕がみられる。石材は流紋岩凝灰岩である。8・9、第22図10～12は横長剥片、13は碎片の接合資料である。剥片類の代表例として図化した。8は流紋岩質凝灰岩、9はトロトロ石、10～13は硬質頁岩(チョコ頁岩)である。

**石材** 石材組成は硬質頁岩17点、石英斑岩11点、ガラス質黒色安山岩7点、メノウ6点、トロトロ石・流紋岩質凝灰岩各2点となっている。この中で石英斑岩はすべて礫片である。

**母岩別資料と接合資料** ガラス質黒色安山岩とトロトロ石に関しては、特徴に乏しく、明確な母岩分類に堪えなかった。この他の石英斑岩・メノウは各2種、硬質頁岩・流紋岩質凝灰岩は各1種に分類できた。単独母岩は挿器1点(第21図4)にとどまる。

一方、接合資料は二次加工にかかわる資料と礫の熱破砕資料に二分され、前者は接合資料1(碎片2点)、接合資料2(礫片5点)と接合資料3(礫片2点)が該当する。

**時期** 出土層位と石器群の様相から本ブロックは立川ルームIV層下部・V層段階に対比される。

第3表 第29ブロック石器組成表

器種・石材	ナイフ形石器	角錐状石器	挿器	楔形石器	剥片	碎片	礫片	計
ガラス質黒色安山岩	3		1		2	1		7
メノウ			1			5		6
硬質頁岩		1			7	9		17
トロトロ石					2			2
流紋岩質凝灰岩				1	1			2
石英斑岩							11	11
合計	3	1	2	1	12	15	11	45

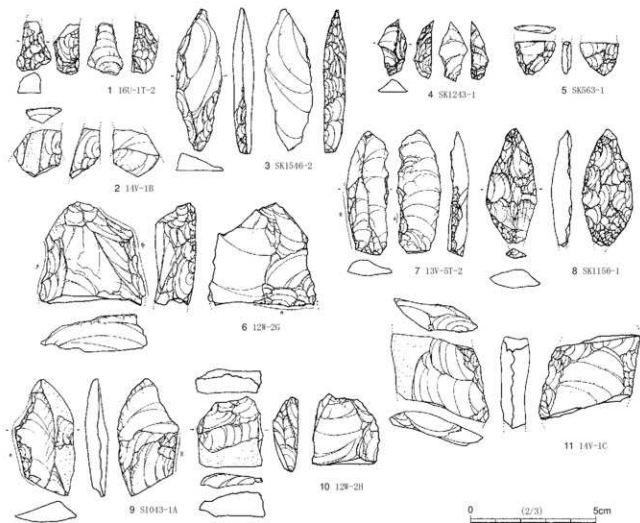
## 第2節 単独出土資料 (第23図、第4表、附表2、図版56・57)

遺物総数は、計36点である。これらは後世の遺構覆土等から出土したものであり、原位置をとどめていない。

内訳は、角錐状石器2点、ナイフ形石器3点、槍先形尖頭器3点、二次加工ある剥片2点、楔形石器1点のほか、石核3点・剥片22点となっている。石器石材はガラス質黒色安山岩を主体として、これに信州系の黒曜石等が加わる。ガラス質黒色安山岩の採取地は利根川と茨城県大洗海岸が想定される。

石器群の様相から、角錐状石器、ナイフ形石器、二次加工ある剥片、石核と剥片類の大半は第29ブツと同時期の立川ロームIV層下部・V層段階、槍先形尖頭器は立川ロームIV層上部に対比される。

第23図1・2は角錐状石器である。1は良質半透明な信州系黒曜石を用いている。先端部はガジリにより欠損している。2は断片であり表面には自然面が残存している。石材はガラス質黒色安山岩である。第23図3・4・7はナイフ形石器である。3は横長剥片を素材として二側縁加工で、技術形態学的には立川ロームVII層段階の可能性もあるが定かではない。石材はガラス質黒色安山岩である。4は信州系黒曜石を用いており寸詰まりな形態を呈する。形態から察すると、再加工の可能性が高い。7は縦長剥片の基部に



第23図 単独出土遺物実測図

第4表 旧石器時代単独出土石器組成表

器種・石材	ナイフ形石器	角錐状石器	槍先形尖頭器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	剥片	計
ガラス質黒色安山岩	2	1	2	1	2	3	21	32
黒曜石	1	1	1					3
メノウ								0
硬質頁岩								0
トトロ石								0
流紋岩質凝灰岩								0
白濁頁岩							1	1
石英斑岩								0
合計	3	2	3	1	2	3	22	36

鋭角の加工が施されている。石材はガラス質黒色安山岩である。第23図5・8・11は槍先形尖頭器である。5は小型尖頭器の基部破片である。両面加工で、石材はガラス質黒色安山岩である。8は漆黒色の信州系黒曜石を用いた両面加工の小型尖頭器である。ほぼ完形であるが、基部が一部欠損している点が惜しまれる。11は比較的大型な尖頭器の破片である。石材はガラス質黒色安山岩製である。第23図6・9は二次加工ある剥片である。ともにガラス質黒色安山岩製である。いずれも表裏に二次加工がみられる。何らかの未成品の可能性が高い。

第23図10は楔形石器である。ガラス質黒色安山岩製で、右側縁には両極打法により削片が剥離された痕跡をとどめる。

## 第3章 縄文時代

検出された縄文時代の遺構は竪穴住居跡68軒、炉跡76基、土坑1500基以上及びピット多数であった。以下、住居跡は箇条書きで要点を記し、炉跡・土坑は規模等を表にまとめた。これら表記の内、重複の項では当該遺構が重複した遺構より古い場合は、重複した遺構番号の左側に→を、当該遺構が重複した遺構より新しい場合は、重複した遺構番号の右側に→を付した。→がどちらにもない場合は新旧関係が不明であることを示している。また、出土した土器型式の太字表記はその遺構から主体的に出土したことを示す。いわゆる中峠式は、ここでは加曾利E1式古段階に含めている。

### 第1節 竪穴住居跡 (第24～50図、図版4～13)

(78) S1001 (第24図、図版4)

位置 12V-69・79、12W-60・70

平面形 (規模) 長方形 (4.10m×2.55m、深さ20cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (108cm)・P2 (42cm)・P3 (72cm)・P4 (73cm)・P5 (54cm)・P6 (92cm)・P7 (20cm)

炉 なし

重複 なし

時期 1a期

遺物 土器 1,870g 加曾利E1式古段階

石器 磨石1点、二次加工剥片1点、剥片1点、碎片1点

土製品 なし

備考 有段の住居跡であるが、掘り込みが浅いため中央部分のみを検出し、1段高い段部の範囲及び壁は検出できなかった。

(78) S1002 (第24図、図版4)

位置 12W-63・64・73・74・83・84

平面形 (規模) 隅丸長方形 (6.70m×5.20m、深さ15～45cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (66cm)・P2 (15cm)・P3 (49cm)・P4 (24cm)・P5 (70cm)・P6 (26cm)・P7 (17cm)・P8 (65cm)・P9 (18cm)・P10 (43cm)・P11 (70cm)・P12 (50cm)・P13 (45cm)・P14 (14cm)・P15 (17cm)・P16 (61cm)・P17 (59cm)

炉 なし

重複 →SK064・→SK066・→SK069

時期 1a期

遺物 土器 67,470g 阿玉台Ⅲ式・同Ⅳ式・勝坂式末期・中峠式・加曾利E1式古段階・同1式・同2式・同3式

石器 コハク玉1点、石鏃2点、打製石斧5点、局部磨製石斧1点、磨製石斧3点、磨石類2点、石皿2点、二次加工剥片3点、剥片32点、碎片12点、原石1点



土製品 土器片錘1点

備考 有段住居跡である。中央の低い床面及び段部の床面とも壁溝が巡る。

(78) S1004 (第25図、図版4)

位置 13W-12・13・22・23

平面形(規模) 楕円形(4.80m×3.64m、深さ17cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(79cm)・P2(36cm)・P3(52cm)・P4(54cm)・P5(83cm)・P6(29cm)・P7(-51cm)・P8(-46cm)・P9(-66cm)・P10(-46cm)・P11(-52cm)・P12(-24cm)・P13(-52cm)

炉(規模) 地床炉(80cm×70cm、深さ5cm)

重複 → SK053・→ SK054・SK055→

時期 1b期

遺物 土器 6,840g 加曾利E1式新段階

石器 石鏃1点、剥片4点、砕片3点、原石1点

土製品 なし

備考 壁溝が巡る。炉周辺の床面は硬化していた。

(78) S1005 (第25図、図版4)

位置 12W-52・53・54・63・64

平面形(規模) 楕円形(5.35m×4.08m、深さ35cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(68cm)

炉(規模) 地床炉(70cm×58cm、深さ26cm)

重複 なし

時期 2a期

遺物 土器 24,835g 勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2式古段階

石器 石鏃1点、磨製石斧1点、磨石類1点、剥片6点、砕片6点、石核1点、石皿1点、浮子1点、軽石1点、原石2点

土製品 土器片錘1点

備考 床面から石皿が出土した。

(78) S1007 (第26図、図版4)

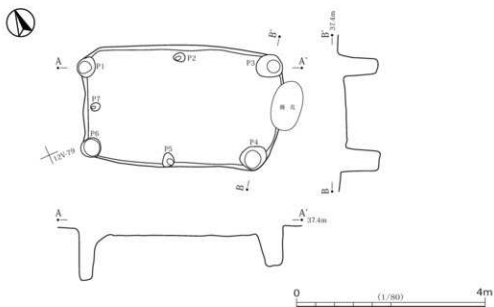
位置 12U-29・39、12V-20・30

平面形(規模) 楕円形(4.30m×3.85m、深さ15cm)

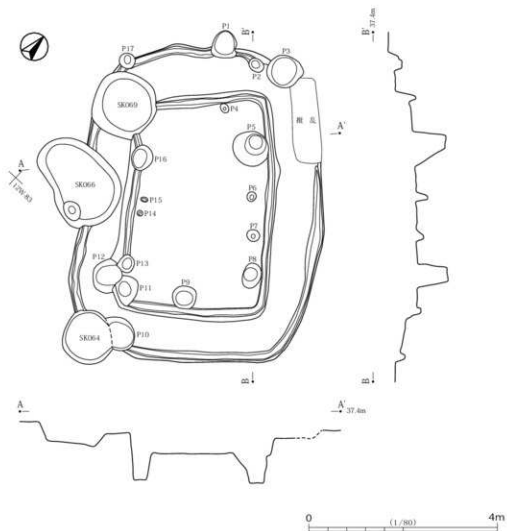
柱穴(床面からの深さ) P1(24cm)・P2(62cm)・P3(64cm)・P4(41cm)・P5(80cm)・P6(38cm)・P7(55cm)・P8(34cm)・P9(64cm)・P10(59cm)・P11(76cm)・P12(34cm)・P13(31cm)・P14(28cm)・P15(100cm)・P16(46cm)・P17(21cm)・P18(29cm)・P19(66cm)・P20(60cm)・P21(33cm)・P22(52cm)・P23(48cm)

炉(規模) 地床炉(45cm×35cm、深さ5cm)

(78)SI001



(78)SI002



第24図 縄文時代住居跡（1）

**重複** S1012→

**時期** 不明

**遺物** 土器 3,415 g 阿玉台IV式・加曾利E1式

石器 石鏃3点、楔形石器1点、石皿1点、二次加工剥片1点、剥片3点、砕片4点

土製品 円板1点

**備考** 炉は床面が焼けた程度のものであった。

(78) S1008 (第26図、図版4)

**位置** 12V-24・25・34・35

**平面形** (規模) 楕円形 (5.35m×4.55m、深さ20cm)

**柱穴** (床面からの深さ) P1 (61cm)・P2 (66cm)・P3 (27cm)・P4 (47cm)・P5 (42cm)・P6 (66cm)・P7 (70cm)・P8 (74cm)・P9 (82cm)・P10 (50cm)・P11 (53cm)

**炉** (規模) 地床炉 (32cm×25cm、深さ10cm)

**重複** S1009

**時期** 2c～3a期

**遺物** 土器 20,350 g 阿玉台IV式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2-3式・同3式古段階・曾利新1式

石器 石鏃5点、同未成品3点、楔形石器2点、磨石類2点、二次加工剥片2点、剥片12点、石核2点、砕片18点、原石2点

土製品 円板1点

**備考** S1009との切り合い関係は不明である。

(78) S1009 (第26図、図版5)

**位置** 12V-24・25・34

**平面形** (規模) 楕円形? (-m×-m、深さ-cm)

**柱穴** (床面からの深さ) P1 (26cm)・P2 (33cm)・P3 (32cm)・P4 (28cm)・P5 (45cm)・P6 (27cm)・P7 (16cm)・P8 (58cm)・P9 (46cm)・P10 (41cm)・P11 (21cm)・P12 (24cm)・P13 (25cm)・P14 (55cm)・P15 (24cm)

**炉** なし

**重複** S1008

**時期** 不明

**遺物** 土器 1,850 g 加曾利E3式

石器 石鏃3点、同未成品1点

土製品 なし

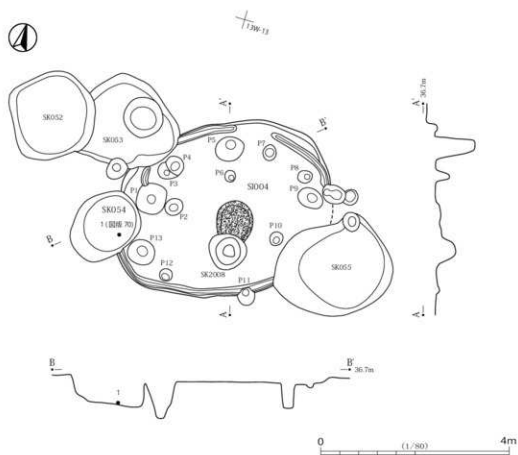
**備考** 掘り込みが浅いため、壁の検出は一部に留まる。S1008との切り合い関係は不明である。

(78) S1010 (第27図、図版5)

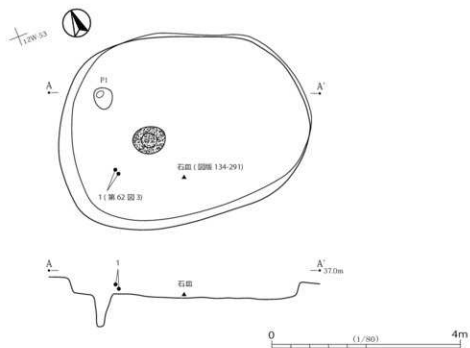
**位置** 12V-34・35・44・45

**平面形** (規模) 不整形円形 (4.90m×4.10m、深さ14cm)

(78)SI004・SK054



(78)SI005



第25図 縄文時代住居跡 (2)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (17cm)・P2 (59cm)・P3 (44cm)・P4 (64cm)・P5 (52cm)・P6 (12cm)・P7 (22cm)・P8 (29cm)・P9 (26cm)・P10 (62cm)・P11 (76cm)

炉 (規模) 地床炉 (43cm×35cm、深さ2cm)

重複 なし

時期 不明

遺物 土器 4,985 g 勝坂式末期・加曾利E1～2式・同3式古～中段階

石器 石鏃1点、同未成品1点、剥片1点、砕片1点、原石1点

土製品 なし

備考 掘り込みが浅く、壁の一部が検出できなかった。

(78) S1011 (第27図、図版5)

位置 12U-28・29・38・39

平面形 (規模) 楕円形 (5.00m×4.15m、深さ6cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (60cm)・P2 (19cm)・P3 (52cm)・P4 (64cm)・P5 (33cm)・P6 (49cm)・P7 (52cm)・P8 (52cm)・P9 (42cm)

炉 なし

重複 なし

時期 2期

遺物 土器 4,105 g 阿玉台IV式・加曾利E2～2-3式・同3式古段階

石器 楔形石器1点、打製石斧1点、剥片1点、軽石2点

土製品 なし

備考 掘り込みが浅く、壁はほとんど検出できなかった。P5から出土した大型土器片から2期と判断した。

(78) S1012 (第26図、図版4)

位置 12V-20・30

平面形 (規模) 楕円形 (4.80m×3.82m、深さ6cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (122cm)・P2 (62cm)・P3 (49cm)・P4 (70cm)・P5 (61cm)・P6 (52cm)・P7 (62cm)・P8 (22cm)・P9 (46cm)・P10 (32cm)・P11 (60cm)・P12 (54cm)

炉 なし

重複 → S1007・SK230・SK231

時期 不明

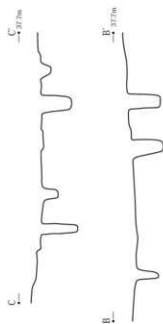
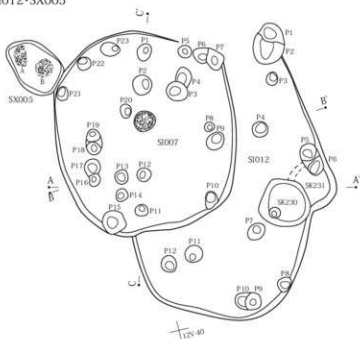
遺物 土器 2,785 g 勝坂式末期・加曾利E1～2式・同3式

石器 石鏃未成品1点、剥片8点、砕片1点、浮子1点

土製品 なし

備考

(78)SI007・SI012・SX005

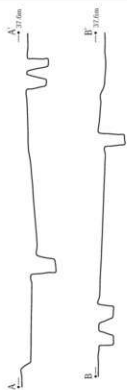
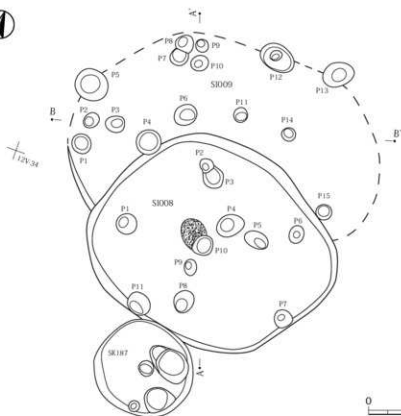


(78)SI007・SI012・SK230・SK231

1. 暗褐色土 ローム粒少
2. 暗褐色土 ローム粒少
3. 暗褐色土 ローム粒多 ロームブロック多
4. 暗褐色土 ローム粒少 ロームブロック多
5. 暗褐色土 ローム粒多 ロームブロック多

0 (1/80) 4m

(78)SI008・SI009



0 (1/80) 4m

第26図 縄文時代住居跡 (3)

(78) S1013 (第27図、図版5)

位置 12U-55・56・65・66

平面形 (規模) 楕円形 (4.85m×3.95m、深さ15cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (58cm)・P2 (52cm)・P3 (44cm)・P4 (32cm)・P5 (59cm)

炉 (規模) 地床炉 (62cm×60cm、深さ6cm)

重複 なし

時期 2a期

遺物 土器 8,435g 勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2式古段階

石器 磨石類3点、二次加工剥片1点、砕片1点、原石1点

土製品 なし

備考 炉周辺の床面は一部硬化していた。

(78) S1014 (第28図、図版5)

位置 12U-66・67・76・77

平面形 (規模) 楕円形 (5.55m×4.40m、深さ30cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (48cm)・P2 (55cm)・P3 (72cm)・P4 (44cm)・P5 (59cm)・P6 (40cm)・P7 (58cm)・P8 (70cm)・P9 (83cm)・P10 (58cm)・P11 (63cm)・P12 (37cm)・P13 (48cm)・P14 (75cm)・P15 (52cm)・P16 (61cm)・P17 (77cm)・P18 (43cm)・P19 (70cm)・P20 (29cm)・P21 (25cm)・P22 (49cm)・P23 (73cm)・P24 (49cm)

炉 (規模) 地床炉 (58cm×50cm、深さ15cm)

重複 → S1016

時期 1a期

遺物 土器 30,470g 加曾利E1式古段階・同2式古段階・同3式

石器 石鏃2点、同未成品8点、磨製石斧1点、二次加工剥片4点、剥片・砕片多、原石2点

土製品 なし

備考

(78) S1015 (第29図、図版5)

位置 12U-63・64・73・74

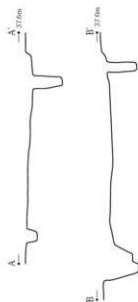
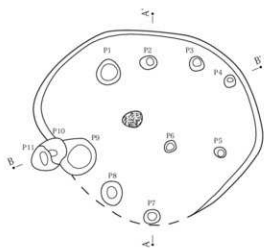
平面形 (規模) 隅丸方形 (5.75m×5.46m、深さ36cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (28cm)・P2 (34cm)・P3 (28cm)・P4 (54cm)・P5 (35cm)・P6 (38cm)・P7 (54cm)・P8 (28cm)・P9 (16cm)・P10 (21cm)・P11 (30cm)・P12 (24cm)・P13 (21cm)・P14 (24cm)・P15 (38cm)・P16 (36cm)・P17 (42cm)・P18 (55cm)・P19 (34cm)・P20 (16cm)・P21 (18cm)・P22 (30cm)・P23 (20cm)・P24 (19cm)・P25 (38cm)・P26 (26cm)・P27 (18cm)・P28 (24cm)・P29 (49cm)・P30 (17cm)・P31 (44cm)・P32 (33cm)・P33 (36cm)・P34 (21cm)・P35 (26cm)・P36 (33cm)・P37 (26cm)・P38 (26cm)・P39 (35cm)・P40 (34cm)・P41 (38cm)・P42 (26cm)・P43 (24cm)・P44 (20cm)・P45 (54cm)・P46 (29cm)・P47 (77cm)・P48 (14cm)・P49 (31cm)・P50 (28cm)・P51 (14cm)

(78)SI010



129.34

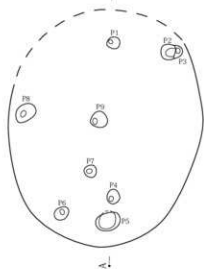


0 (1/80) 4m

(78)SI011



120.29

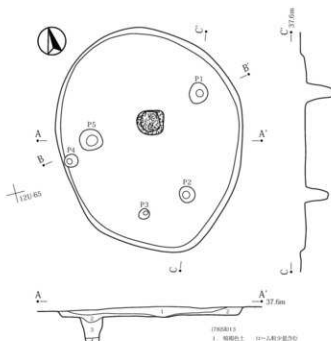


0 (1/80) 4m

(78)SI013



120.65



- (78)SI013
1. 埋藏層上 10→土層分層状況
  2. 埋藏層内 10→土層表、10→L700×500
  3. 埋藏層下 10→土層分、10→L700×500
  4. 埋藏層下 10→土層分層状況

0 (1/80) 4m

第27図 縄文時代住居跡(4)



炉 なし

重複 SK255・SK260

時期 1a期

遺物 土器 15,620g 阿玉台Ⅳ式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同新段階・同3式新段階  
石器 石鏃4点、磨石類1点、剥片5点、原石1点  
土製品 なし

備考 有段住居跡である。中央の低い床面及び段部の床面とも壁溝が巡る。中央床面は硬化しており、多数の小穴が検出された。覆土上部から土器片がややまとまって出土した。

(78) S1016 (第28図、図版5)

位置 12U-56・57・66・67

平面形 (規模) 楕円形 (5.20m×4.50m、深さ12cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (23cm)・P2 (72cm)

炉 (規模) 埋甕炉 (164cm×148cm、深さ26cm)

重複 S1014→・SK271

時期 2c期

遺物 土器 8,585g 加曾利E2式新段階・同2-3式・同3式古段階  
石器 石鏃1点、石鏃未成品1点、磨製石斧1点、二次加工剥片3点、剥片2点、砕片10点、軽石1点  
土製品 なし

備考 部分的に壁溝が巡る。

(78) S1017 (第30図、図版6)

位置 12W-84・85・96、13W-05・06

平面形 (規模) 長楕円形 (7.15m×4.00m、深さ18cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (42cm)・P2 (55cm)・P3 (22cm)

炉 (規模) 土器片囲・埋甕炉 (61cm×45cm、深さ15cm)

重複 SK030→・SK2004

時期 3b期

遺物 土器 3,400g 加曾利E3式中段階  
石器 石鏃未成品1点、二次加工剥片1点、剥片2点、砕片1点  
土製品 土器片鏃1点、円板2点

備考 一部に壁溝が巡る。

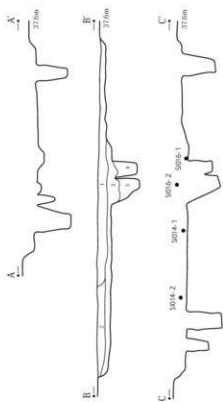
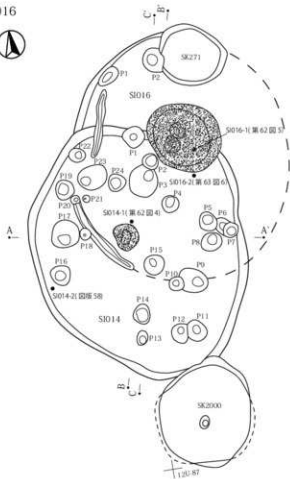
(78) S1018 (第28図、図版6)

位置 12U-90・91、13U-00・01・10・11

平面形 (規模) 卵円形 (6.53m×5.12m、深さ30cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (75cm)・P2 (75cm)・P3 (38cm)・P4 (69cm)・P5 (101cm)・P6 (85cm)・P7 (78

(78)SI014・SI016

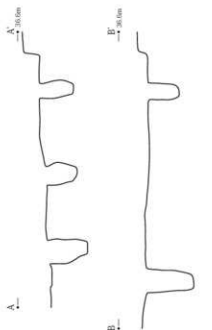
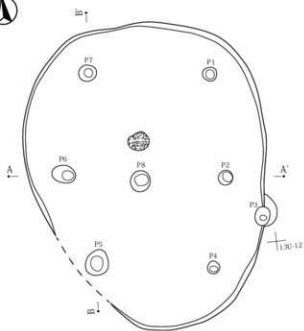


(78)SI014・SI016

1. 堀割の上: ①→A-A'断面方位
2. 堀割の上: ②→B-B'断面方位
3. 堀割の上: ③→C-C'断面方位
4. 堀割の上: ④→A-A'断面方位
5. 堀割の上: ⑤→A-A'断面方位

0 (1/80) 4m

(78)SI018



0 (1/80) 4m

第28図 縄文時代住居跡 (5)

cm)・P8 (70cm)

炉 (規模) 地床炉 (45cm×40cm、深さ—cm)

重複 なし

時期 2b期

遺物 土器 4,935g 阿玉台Ⅲ式・加曾利E1式古段階・同2式新段階・同3式  
石器 石鏃未成品1点、磨製石斧1点、磨石類1点、剥片1点、原石2点  
土製品 なし

備考 炉は床面が焼けた程度のものであった。

(78) S1019 (第29図、図版6)

位置 13U-30・31・40・41

平面形 (規模) 不整形円形 (4.30m×4.08m、深さ38cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (59cm)・P2 (43cm)・P3 (46cm)・P4 (40cm)・P5 (50cm)・P6 (14cm)・P7 (55cm)・P8 (42cm)

炉 (規模) 地床炉 (40cm×40cm、深さ—cm)

重複 SK093・SK094・→SK095

時期 2b期

遺物 土器 13,250g 加曾利E2式古段階・同新段階  
石器 石鏃未成品1点、磨石類1点  
土製品 なし

備考 炉は床面が焼けた程度のものであった。

(78) S1020 (第30図、図版6)

位置 14T-09・19、14U-00・10

平面形 (規模) 卵円形 (6.84m×5.00m、深さ20cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (55cm)・P2 (18cm)・P3 (57cm)・P4 (70cm)・P5 (17cm)・P6 (76cm)・P7 (64cm)・P8 (84cm)・P9 (60cm)・P10 (81cm)・P11 (66cm)・P12 (21cm)

炉 (規模) 埋壘炉 (58cm×60cm、深さ28cm)

重複 SK077

時期 1a期

遺物 土器 24,040g 勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同新段階・同2式古段階・同3式・曾利新1式  
石器 石鏃2点、磨製石斧2点、磨石類1点、剥片4点、砕片3点、二次加工ある礫1点、原石1点

土製品 なし

備考 壁溝が巡る。



(78) S1021A・B (第31図、図版6・7)

位置 14T-26・27・36・37・47

平面形 (規模) A 楕円形 (5.40m×3.90m、深さ14cm) B 楕円形 (6.70m×4.75m、深さ15cm)

柱穴 (床面からの深さ) A P1 (63cm)・P2 (55cm)・P3 (40cm)・P4 (48cm)・P5 (58cm)・P6 (68cm)・P7 (68cm)・P8 (58cm)・P9 (57cm)・P10 (43cm)  
B P1 (58cm)・P2 (53cm)・P3 (49cm)

炉 (規模) 土器片囲・埋甕炉 (65cm×57cm、深さ20cm)

重複 SK079→・SK080→・SK082A・B

時期 3a期

遺物 土器 17,640g 加曾利E1式・同2式・同3式古段階・曾利新1式

石器 石鉄未成品2点、磨製石斧2点、打製石斧1点、剥片6点

土製品 なし

備考 A・B軒が重複する。Aは南側を除き、壁溝が巡る。Bは南側のみに壁溝が巡る。炉はSK079の覆土中に構築されるが、A・Bのどちらに属するか決めかねる。遺物はA・Bのどちらに属するか不明。

(78) S1022 (第31図、図版7)

位置 14T-25・26・35・36

平面形 (規模) 楕円形 (5.39m×4.93m、深さ30cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (32cm)・P2 (21cm)・P3 (34cm)・P4 (42cm)・P5 (55cm)・P6 (29cm)・P7 (23cm)・P8 (22cm)・P9 (22cm)・P10 (53cm)・P11 (37cm)・P12 (31cm)・P13 (23cm)・P14 (23cm)・P15 (34cm)・P16 (34cm)・P17 (30cm)・P18 (34cm)・P19 (26cm)・P20 (38cm)・P21 (62cm)・P22 (43cm)・P23 (33cm)・P24 (48cm)・P25 (53cm)・P26 (20cm)・P27 (29cm)

炉 なし

重複 なし

時期 1a期

遺物 土器 65,810g 阿玉台IV式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階

石器 石鉄4点、同未成品2点、打製石斧1点、磨石類1点、石皿1点、二次加工剥片1点、剥片25点、砕片3点、原石1点

土製品 土器片鏢3点

備考 有段住居跡である。中央の低い床面及び段部の床面とも壁溝が巡る。P10周辺の覆土上部から大量の土器が一括廃棄の状態出土した。

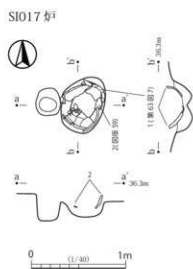
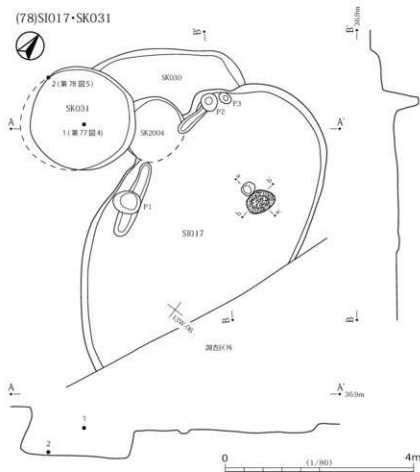
(78) S1024 (第32図、図版7)

位置 14T-64・65・74・75

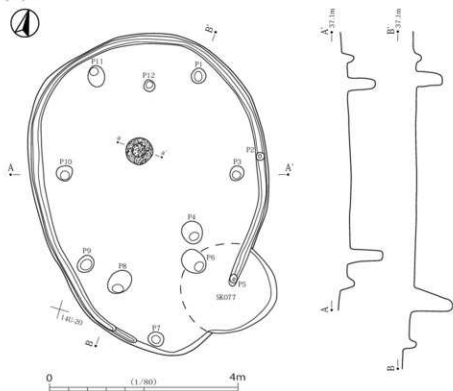
平面形 (規模) 不整形円形 (6.03m×5.75m、深さ21cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (34cm)・P2 (77cm)・P3 (17cm)・P4 (24cm)・P5 (33cm)

炉 (規模) 地床炉 (45cm×32cm、深さ1cm)

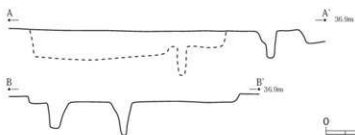
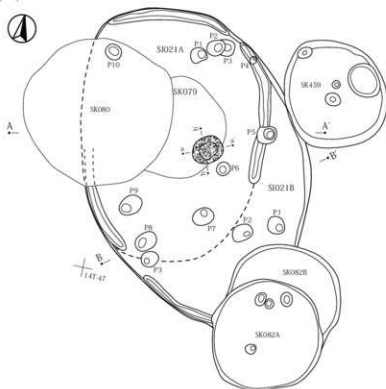


(78)SI020

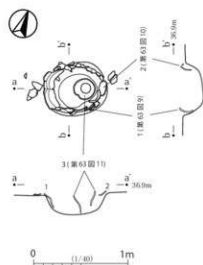


第30図 縄文時代住居跡(7)

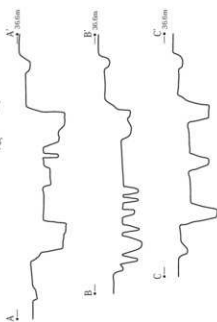
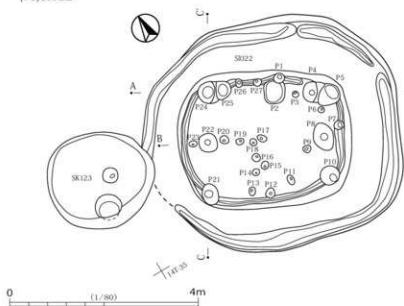
(78)SI021A-B



SI021 跡

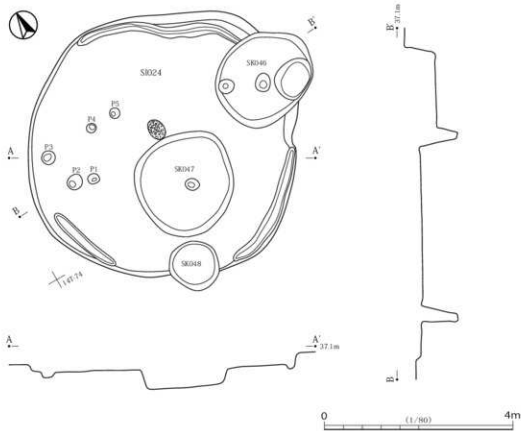


(78)SI022

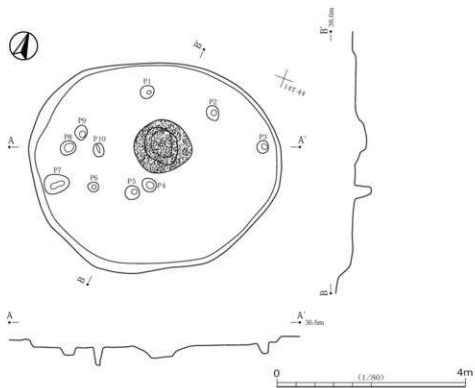


第31図縄文時代住居跡(8)

(78)SI024



(78)SI025



第32図 縄文時代住居跡 (9)



重複 SK046・SK047・SK048

時期 1a期

遺物 土器 9,450g 勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2式・同3式

石器 磨石類1点、剥片1点、砕片1点

土製品 なし

備考 壁溝は部分的に途切れながら巡る。炉は床面が焼けた程度のものであった。

(78) S1025 (第32図、図版7)

位置 14T-42・43・44・53

平面形(規模) 楕円形(5.30m×4.35m、深さ30cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(27cm)・P2(26cm)・P3(24cm)・P4(17cm)・P5(38cm)・P6(38cm)・P7(31cm)・P8(18cm)・P9(27cm)・P10(41cm)

炉(規模) 地床炉(125cm×113cm、深さ25cm)

重複 なし

時期 3b期

遺物 土器 44,510g 勝坂式末期・加曾利E1式・同3式中段階・同新段階

石器 石鏃2点、同未成品5点、楔形石器1点、打製石斧2点、磨製石斧2点、二次加工剥片3点、剥片11点、砕片11点、石皿1点、浮子1点、原石2点、軽石2点

土製品 円板4点

備考 炉は底面までよく焼けていた。第66図24の土器が炉の南側床面から出土した。

(78) S1026 (第33図、図版7)

位置 14S-79・89、14T-70

平面形(規模) 卵円形(6.55m×5.22m、深さ51cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(59cm)・P2(51cm)・P3(16cm)・P4(73cm)・P5(67cm)・P6(73cm)・P7(22cm)・P8(23cm)・P9(57cm)・P10(62cm)・P11(70cm)・P12(42cm)・P13(59cm)・P14(62cm)・P15(16cm)・P16(17cm)・P17(28cm)・P18(13cm)

炉(規模) 地床炉(77cm×50cm、深さ3cm)

重複 なし

時期 1b期

遺物 土器 8,065g 加曾利E1式新段階・同E2式

石器 磨製石斧1点

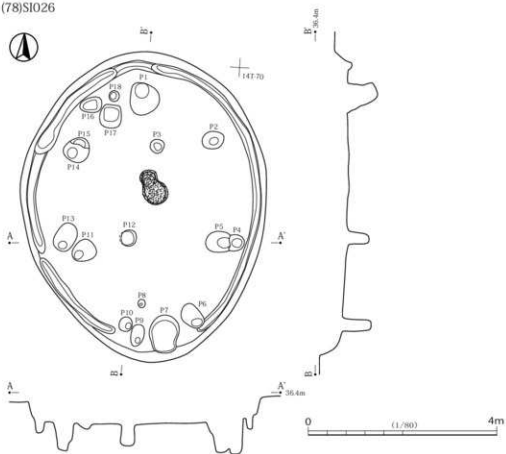
土製品 なし

備考 壁溝が巡るが、一部で途切れている。

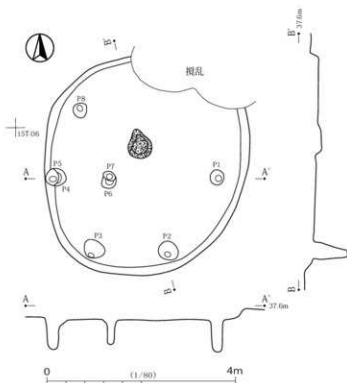
(78) S1027 (第33図、図版7)

位置 14T-96・97、15T-06・07

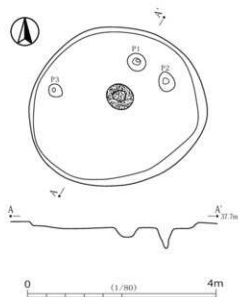
(78)SI026



(78)SI027



(78)SI028



第33図 縄文時代住居跡 (10)

平面形 (規模) 略円形 (4.55m×4.50m、深さ25cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (72cm)・P2 (76cm)・P3 (72cm)・P4 (19cm)・P5 (64cm)・P6 (12cm)・P7 (72cm)・P8 (63cm)

炉 (規模) 地床炉 ((63cm×50cm、深さ10cm)

重複 なし

時期 2c期

遺物 土器 15,620g 勝坂式末期・加曾利E2-3式

石器 石織未成品2点、磨製石斧1点、磨石類1点、使用痕ある剥片1点、剥片7点、砕片6点

土製品 土器片錘1点

備考

(78) S1028 (第33図、図版7)

位置 15S-59・69、15T-50・60

平面形 (規模) 略円形 (3.76m×3.35m、深さ13cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (47cm)・P2 (32cm)・P3 (31cm)

炉 (規模) 地床炉 (58cm×50cm、深さ20cm)

重複 なし

時期 3a期

遺物 土器 1,025g 加曾利E3式古段階

石器 石核1点

土製品 なし

備考 小規模な住居跡である。

(78) S1029 (第34図、図版8)

位置 13T-77・87・88

平面形 (規模) 不整形 (4.85m×4.30m、深さ37cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (52cm)・P2 (63cm)・P3 (47cm)・P4 (40cm)・P5 (67cm)・P6 (70cm)

炉 (規模) 地床炉 (62cm×41cm、深さ1cm)

重複 SK120・SK127・SK128

時期 2a期

遺物 土器 10,360g 加曾利E1式新段階・同E2式古段階・同3式・同3式中～新段階

石器 石皿1点、磨石類2点、敲石1点、剥片3点、砕片4点

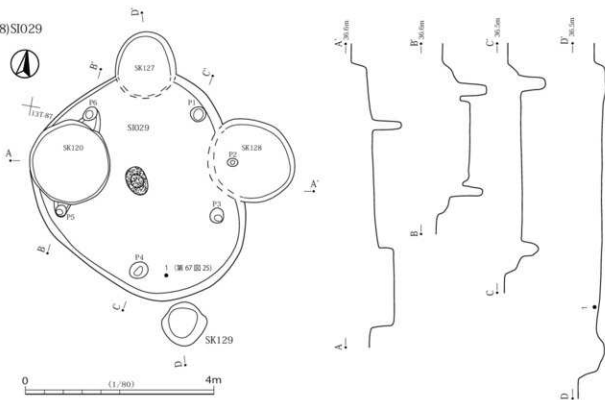
土製品 なし

備考 炉は床面が焼けた程度のものであった。

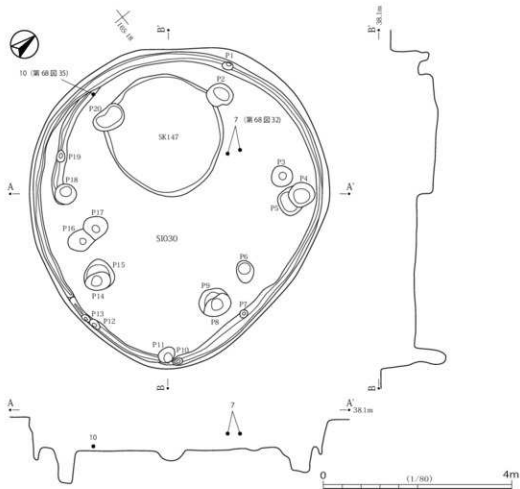
(78) S1030 (第34図、図版8)

位置 16S-08・09・18・19・28・29

(78)SI029



(78)SI030



第34図 縄文時代住居跡 (11)

平面形 (規模) 略円形 (6.92m×6.20m、深さ70cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (16cm)・P2 (75cm)・P3 (65cm)・P4 (53cm)・P5 (27cm)・P6 (73cm)・P7 (25cm)・P8 (80cm)・P9 (34cm)・P10 (21cm)・P11 (63cm)・P12 (22cm)・P13 (18cm)・P14 (76cm)・P15 (14cm)・P16 (68cm)・P17 (68cm)・P18 (68cm)・P19 (25cm)・P20 (54cm)

竪 なし

重複 SK147

時期 1a期

遺物 土器 45,470g 阿玉台Ⅱ式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2式古段階・同3式・曾利新1式  
石器 石鏃未成品1点、磨製石斧4点、楔形石器1点、磨石類1点、石核1点、剥片16点、石皿1点、砕片7点

土製品 耳栓1点、土器片鏟2点、円板1点、ミニチュア土器1点

備考 壁溝が巡る。一部が二重になっており、柱穴も重複することから、建て替えが行われたと考えられる。

(78) S1031 (第35図、図版8)

位置 15T-27・28・37・38・47・48

平面形 (規模) 楕円形 (6.56m×5.60m、深さ15cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (71cm)・P2 (66cm)・P3 (66cm)・P4 (47cm)・P5 (51cm)・P6 (64cm)・P7 (32cm)・P8 (26cm)・P9 (68cm)

竪 (規模) 地床竪 (86cm×62cm、深さ8cm)

重複 SK136・SK137→SK138

時期 不明

遺物 土器 8,106g 加曾利E1式・同2式・同3式

石器 二次加工剥片1点

土製品 なし

備考

(78) S1032 (第35図、図版8)

位置 13U-70・71・80・81

平面形 (規模) 楕円形 (3.68m×2.95m、深さ40cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (22cm)・P2 (63cm)・P3 (42cm)・P4 (41cm)・P5 (48cm)・P6 (65cm)・P7 (31cm)・P8 (62cm)・P9 (32cm)

竪 (規模) 地床竪 (60cm×40cm、深さ10cm)

重複 SK045・SK061→SK075

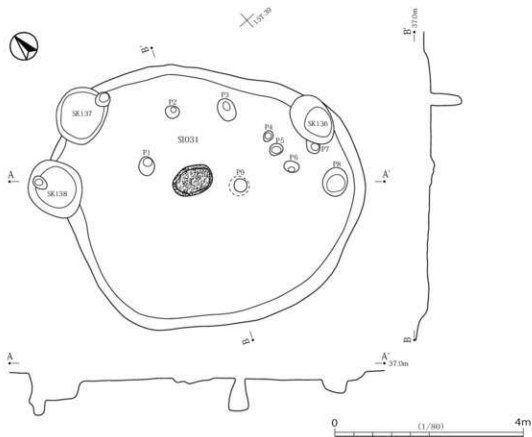
時期 1a期

遺物 土器 17,760g 阿玉台Ⅳ式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同3式、堀之内1式・同2式

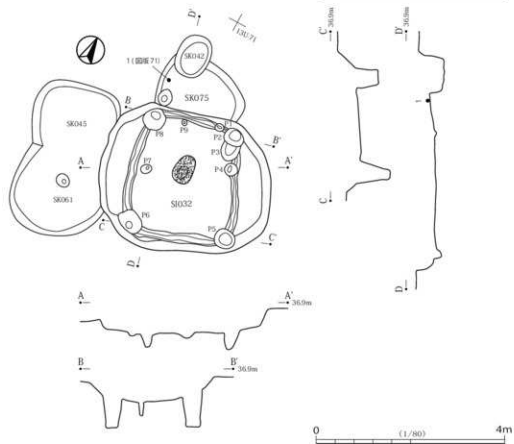
石器 打製石斧2点、磨製石斧1点、磨石類5点、剥片2点

土製品 土器片鏟1点

(78)SI031



(78)SI032-SK075



第35図 縄文時代住居跡 (12)

**備考** 小型の有段住居跡である。中央に地床炉を持つ。中央の低い床面に壁溝が巡る。

(78) S1034 (第36図、図版8)

**位置** 15T-76・77・86・87

**平面形** (規模) 略円形 (5.30m×5.20m、深さ15cm)

**柱穴** (床面からの深さ) P1 (62cm)・P2 (61cm)・P3 (51cm)・P4 (33cm)・P5 (12cm)・P6 (28cm)・P7 (17cm)・P8 (34cm)・P9 (13cm)・P10 (62cm)・P11 (44cm)・P12 (45cm)・P13 (35cm)・P14 (24cm)・P15 (66cm)・P16 (12cm)

**炉** (規模) 地床炉 (105cm×57cm、深さ5cm)

**重複** なし

**時期** 不明

**遺物** 土器 930g 加曾利E1～2式・同3式

石器 剥片1点

土製品 なし

**備考** 南側に壁溝が巡る。

(78) S1035A・B (第36図、図版8)

**位置** 13T-95・96、14T-05・06

**平面形** (規模) A 卵円形 (4.10m×3.50m、深さ45cm) B 円形? (4.25m×-m、深さ40cm)

**柱穴** (床面からの深さ) A P1 (66cm)・P2 (53cm)・P3 (65cm)・P4 (70cm)・P5 (61cm)・P6 (53cm)・P7 (64cm)・P8 (59cm)

B P1 (63cm)・P2 (48cm)・P3 (69cm)

**炉** (規模) A 地床炉 (30cm×30cm、深さ9cm) B 地床炉 (34cm×30cm、深さ12cm)

**重複** SK513

**時期** 不明

**遺物** 土器 8,710g 勝坂式末期・加曾利E1式・同2式・同3式古～新各段階・曾利新1式

石器 磨石類1点、剥片1点、原石1点

土製品 円板1点

**備考** A・B軒が重複するが、新旧関係は不明である。地床炉は2基検出され、北側がA住居跡、南側がB住居跡の炉と考えられる。土器量、石器、土製品はA・B分離不能。

(78) S1036 (第37図、図版9)

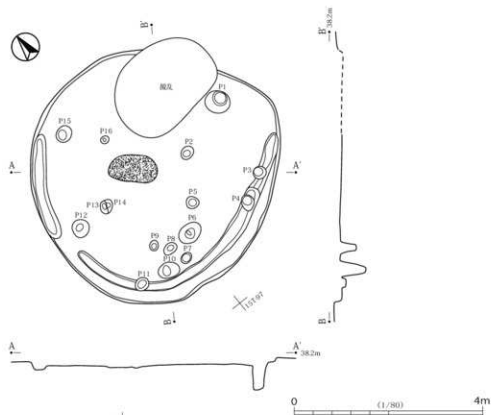
**位置** 13W-22・23・42

**平面形** (規模) 楕円形 (6.10m×-m、深さ37cm)

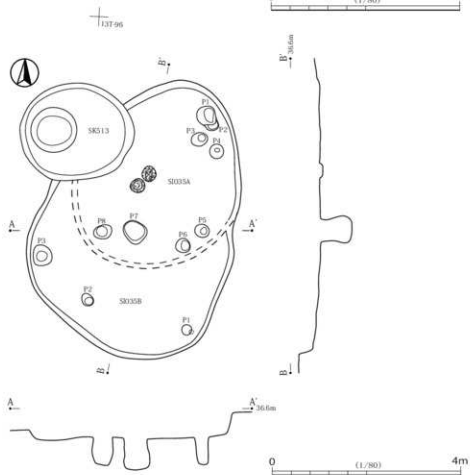
**柱穴** (床面からの深さ) P1 (62cm)・P2 (64cm)・P3 (88cm)・P4 (79cm)・P5 (82cm)・P6 (79cm)・P7 (63cm)・P8 (37cm)・P9 (36cm)・P10 (68cm)・P11 (31cm)・P12 (58cm)

**炉** (規模) 埋甕炉 (80cm×60cm、深さ37cm)

(78)SI034



(78)SI035A・SI035B



第36図 縄文時代住居跡 (13)



重複 S1038→・S1039

時期 3c期

遺物 土器 109, 220g 勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同3式古・中・新段階

石器 石鏃4点、同未成品1点、石匙1点、楔形石器2点、打製石斧2点、磨石類3点、剥片19点、石皿1点、砕片1点、軽石3点

土製品 土器片鏃1点、円板14点

備考

(78) S1037 (第37図、図版9)

位置 13W-42・52

平面形 (規模) 楕円形 (-m×-m、深さ13cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (38cm)・P2 (56cm)・P3 (63cm)・P4 (55cm)・P5 (13cm)・P6 (62cm)・P7 (58cm)・P8 (25cm)・P9 (35cm)・P10 (66cm)・P11 (69cm)・P12 (39cm)・P13 (40cm)・P14 (21cm)・P15 (9cm)・P16 (7cm)

埴 なし

重複 S1038→

時期 3b期

遺物 土器 15,780g 阿玉台IV式・勝坂式末期・加曾利E1式・同3式古段階・同中段階・同3-4式

石器 石鏃1点、打製石斧2点、磨石類2点、二次加工剥片1点、剥片3点、石皿1点、石鏃1点、浮子1点、原石1点

土製品 なし

備考

(78) S1038 (第37図、図版9)

位置 13W-42・43・52・53

平面形 (規模) 楕円形 (-m×-m、深さ50cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (72cm)・P2 (62cm)・P3 (42cm)

埴 なし

重複 →S1036・→S1037・S1039・SK570

時期 3a期

遺物 土器 15,820g 加曾利E3式古段階・同中段階・堀之内1式

石器 楔形石器2点、磨製石斧2点、敲石1点、石核1点、剥片3点、原石1点

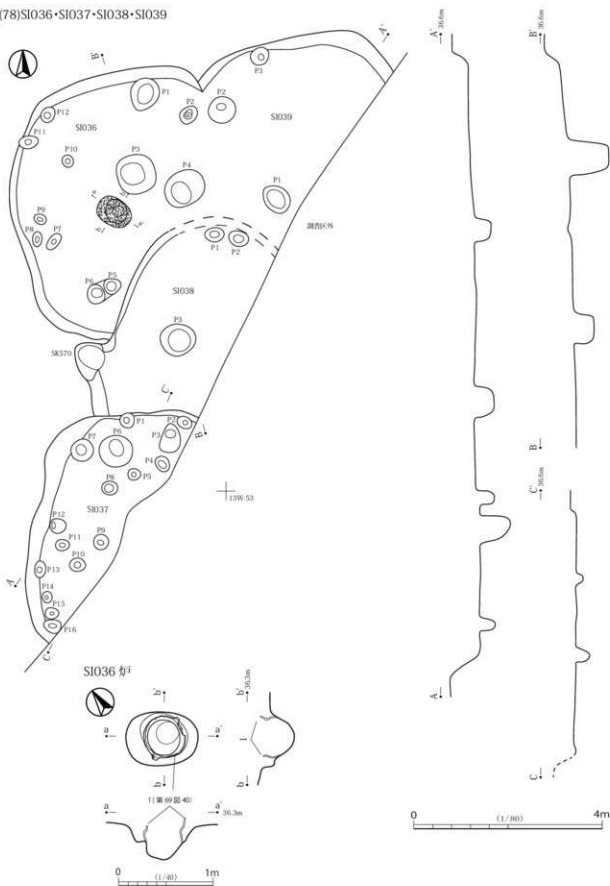
土製品 土器片鏃2点

備考

(78) S1039 (第37図、図版9)

位置 13W-23・33

(78)SI036・SI037・SI038・SI039



第37図 縄文時代住居跡 (14)

平面形 (規模) 楕円形 (—m×—m、深さ38cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (31cm)・P2 (72cm)・P3 (55cm)

炉 なし

重複 S1036・S1038

時期 3期

遺物 土器 2,650g 加曾利E1式・同3式・曾利新1式

石器 なし

土製品 なし

備考

(78) S1040 (第38図、図版9)

位置 15T-18・28

平面形 (規模) 略円形 (3.37m×3.30m、深さ25cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (42cm)・P2 (53cm)・P3 (21cm)・P4 (30cm)・P5 (29cm)・P6 (67cm)

炉 (規模) 埋甕炉 (—m×—m、深さ—cm)

重複 → SK1505・SK1496・SK2011→

時期 2c期

遺物 土器 17,180g 加曾利E1式古段階・同2-3式

石器 剥片1点

土製品 土器片鏃2点、ミニチュア土器1点

備考 炉をSK2001の覆土中に構築している。

(78) S1042 (第38図、図版9)

位置 15V-10・11・20・21

平面形 (規模) 隅丸方形 (4.17m×4.00m、深さ44cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (12cm)・P2 (46cm)・P3 (62cm)・P4 (50cm)・P5 (54cm)・P6 (54cm)

炉 (規模) 地床炉 (75cm×71cm、深さ28cm)

重複 S1044→・SK822B・SK1532

時期 3c期

遺物 土器 38,975g 阿玉台IV式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2式新段階・同3式新段階

石器 石鏃15点、回未成品7点、磨製石斧2点、磨石類1点、剥片42点、砕片95点、軽石製品3点、原石1点

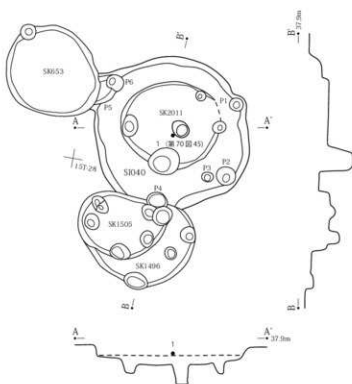
土製品 土器片鏃1点、円板6点

備考 炉はS1044のP3上に構築されていた。P2・P4・P5・P6が主柱穴であろう。

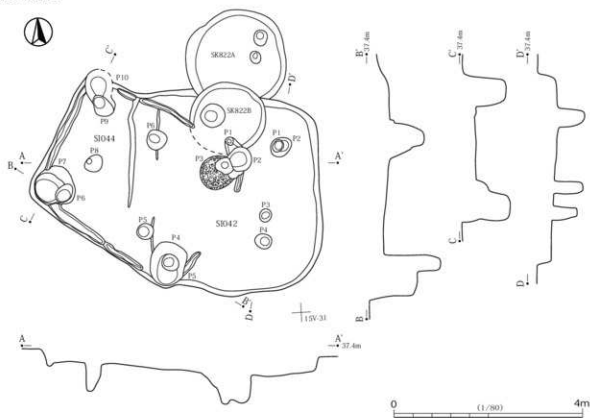
(78) S1044 (第38図、図版9)

位置 15U-19・21、15V-10・20

(78)SI040



(78)SI042・SI044



第38図 縄文時代住居跡 (15)

平面形(規模) 長方形(3.30m×3.85m、深さ27cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(44cm)・P2(56cm)・P3(32cm)・P4(61cm)・P5(24cm)・P6(117cm)・P7(70cm)・P8(59cm)・P9(70cm)・P10(63cm)

炉 なし

重複 → S1042・SK822B

時期 Ia期

遺物 土器 25,325g 阿玉台IV式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同3式新段階

石器 磨製石斧3点、磨石類3点、剥片8点、砕片5点

土製品 土器片鎌2点、円板2点

備考 有段の住居跡であるが、掘り込みが浅いため中央部分のみを検出し、1段高い段部の範囲及び壁は検出できなかった。中央の低い床面は硬化し、壁溝が巡る。四隅の主柱穴は重複しており、建て替えが行われたと考えられる。

(78) S1046 (第39図、図版9)

位置 15V-71・72・81・82・83

平面形(規模) 隅丸方形(5.27m×4.55m、深さ30cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(28cm)・P2(52cm)・P3(69cm)・P4(74cm)・P5(29cm)・P6(78cm)・P7(50cm)・P8(28cm)・P9(66cm)・P10(24cm)・P11(18cm)・P12(66cm)・P13(56cm)・P14(16cm)・P15(30cm)・P16(51cm)・P17(18cm)・P18(74cm)・P19(66cm)・P20(27cm)・P21(47cm)

炉 なし

重複 → SX065・→ SK1286・→ SK1305

時期 不明

遺物 土器 7,260g 阿玉台Ia式・同II式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2-3式・同3式古段階～中段階

石器 石鉄未成品3点、石皿1点、剥片5点、砕片1点

土製品 なし

備考 有段住居跡である。一部で途切れているが、壁溝が巡る。中央の低い床面は硬化している。

(78) S1048 (第39図、図版10)

位置 16U-73・83・84

平面形(規模) 隅丸方形(5.86m×4.73m、深さ40cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(81cm)・P2(50cm)・P3(43cm)・P4(46cm)

炉 なし

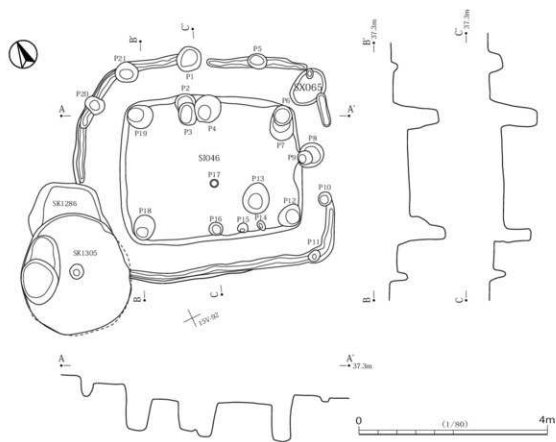
重複 なし

時期 Ia期

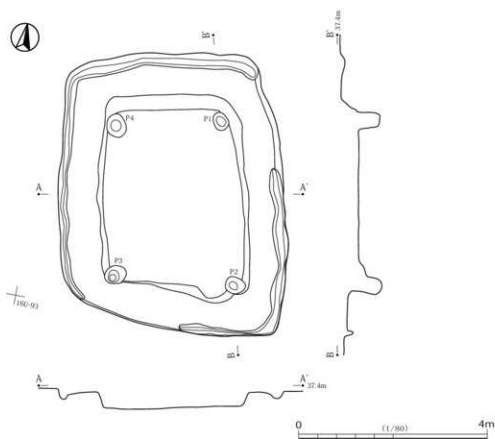
遺物 土器 3,465g 阿玉台I式・同III式・勝坂式末期・加曾利E2式・同3式古段階・同新段階

石器 なし

(78)SI046



(78)SI048



第39図 縄文時代住居跡 (16)

土製品 なし

備考 有段住居跡である。一部で途切れているが、壁溝が巡る。

(78) S1050 (第40図、図版10)

位置 15V-64・74・75・84

平面形 (規模) 卵円形 (4.70m×-m、深さ42cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (20cm)・P2 (23cm)・P3 (34cm)・P4 (39cm)・P5 (46cm)・P6 (45cm)・P7 (35cm)・  
P8 (37cm)・P9 (40cm)・P10 (35cm)・P11 (24cm)・P12 (21cm)・P13 (49cm)・P14 (38cm)・P15 (62cm)

炉 (規模) 埋甕炉 (70cm×65cm、深さ18cm)

重複 → S1056・S1054→

時期 1a期

遺物 土器 55,135g 勝板式末期・加曾利E1式古段階・同2式古段階・同新段階・同3式古段階・曾利  
新1式

石器 石織未成品2点、打製石斧1点、磨製石斧2点、磨石類2点、剥片24点、砕片28点

土製品 ミニチュア土器1点、土器片錘4点

備考 東側を除き、壁溝が巡る。

(78) S1051 (第40図、図版10)

位置 15U-97・98、16U-07・08

平面形 (規模) 不整形円形 (6.20m×6.10m、深さ50.5cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (96cm)・P2 (88cm)・P3 (74cm)・P4 (87cm)・P5 (43cm)・P6 (98cm)・P7 (44  
cm)・P8 (80cm)・P9 (61cm)・P10 (29cm)・P11 (94cm)

炉 (規模) 地床炉 (76cm×45cm、深さ5cm)

重複 なし

時期 不明

遺物 土器 8,430g 阿玉台1b式・同III式・同IV式・加曾利E1式古段階・同新段階・同2式・同3式古  
段階

石器 磨製石斧1点、剥片1点

土製品 土器片錘1点、円板1点

備考 壁溝が巡る。途切れた南側は入口か。

(78) S1053 (第41図、図版10)

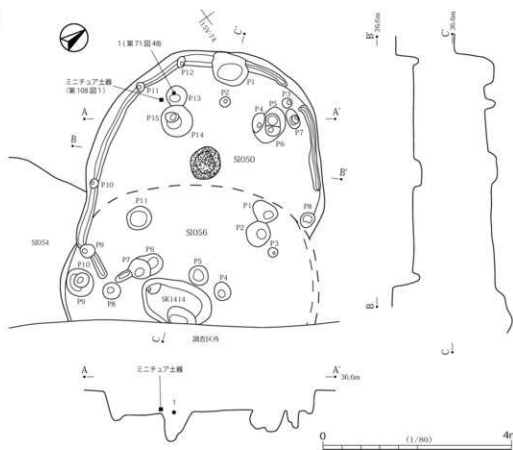
位置 15V-83・93

平面形 (規模) 楕円形 (6.12m×-m、深さ53cm)

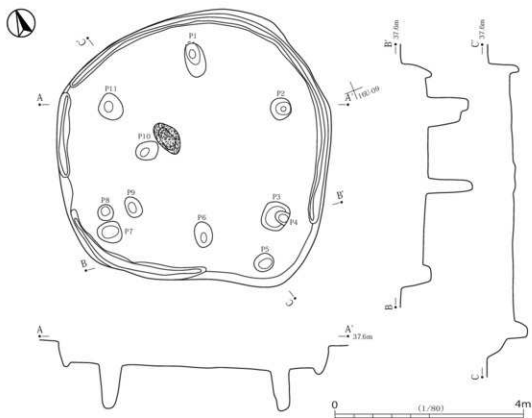
柱穴 (床面からの深さ) P1 (35cm)・P2 (62cm)・P3 (59cm)・P4 (82cm)・P5 (30cm)・P6 (40cm)・P7 (19  
cm)・P8 (38cm)・P9 (60cm)・P10 (61cm)・P11 (23cm)・P12 (23cm)・P13 (19cm)

炉 (規模) 地床炉 (70cm×60cm、深さ12cm)

(78)SI050・SI056



(78)SI051



第40図 縄文時代住居跡 (17)



重複 S1054A・B

時期 2期

遺物 土器 2,770g 加曾利E2式

石器 剥片2点

土製品 なし

備考 部分的に壁溝が巡る。

(78) S1054A・B (第41図、図版10)

位置 15V-83・84・93・94

平面形 (規模) 長楕円形 (一m×一m、深さ22cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (51cm)・P2 (74cm)・P3 (22cm)・P4 (42cm)・P5 (53cm)・P6 (16cm)・P7 (34cm)・P8 (48cm)・P9 (44cm)・P10 (59cm)・P11 (51cm)・P12 (54cm)・P13 (43cm)

炉 (規模) A地床炉 (13.5cm×12cm、深さ33.1cm) B地床炉 (157cm×一cm、深さ29.2cm)

重複 S1053・→S1056

時期 2b期

遺物 土器 17,760g 加曾利E2式新段階

石器 ヒスイ大珠1点、石鉄未成品1点、磨製石斧1点、石皿1点、剥片4点、石核1点

土製品 土器片鏝3点

備考 A・B2軒が重複するが、それぞれの平面形及び新旧関係は不明である。地床炉は2基検出され、北側をA炉、南をB炉とした。

(78) S1055 (第41図、図版10)

位置 16T-51・52・61・62

平面形 (規模) 隅丸方形 (5.67m×4.83m、深さ65cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (50cm)・P2 (73cm)・P3 (58cm)・P4 (22cm)・P5 (22cm)・P6 (7cm)・P7 (17cm)・P8 (30cm)・P9 (68cm)・P10 (25cm)・P11 (22cm)・P12 (69cm)・P13 (23cm)

炉 なし

重複 なし

時期 1a期

遺物 土器 32,065g 勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2式古段階

石器 コハク玉1点、石鉄1点、同未成品4点、打製石斧1点、磨石類4点、剥片4点、原石3点、

土製品 土器片鏝1点、円板1点

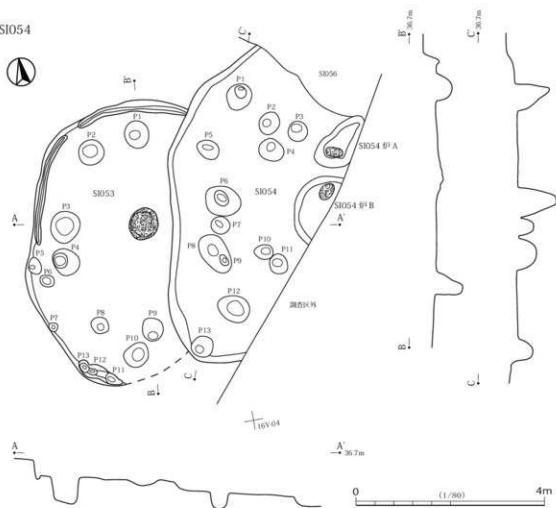
備考 有段住居である。一部途切れるが、壁溝が巡る。

(78) S1056 (第40図、図版10)

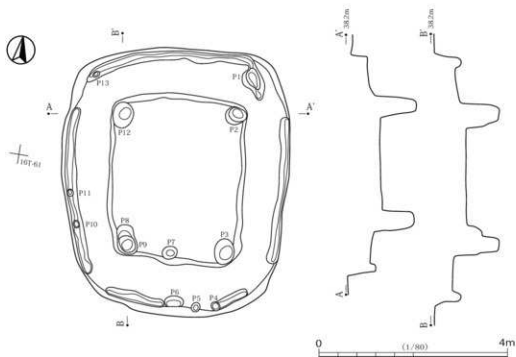
位置 15V-74・75・84・85

平面形 (規模) 楕円形 (5.35m×一m、深さ70cm)

(78)SI053・SI054



(78)SI055



第41図 縄文時代住居跡 (18)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (63cm)・P2 (62cm)・P3 (29cm)・P4 (51cm)・P5 (31cm)・P6 (29cm)・P7 (81cm)・P8 (41cm)・P9 (33cm)・P10 (53cm)・P11 (56cm)

竪 なし

重複 S1050→・S1054→・SK1414

時期 3a期

遺物 土器 1,230g 加曾利E1~2式・同3式古段階

石器 剥片3点、砕片1点

土製品 なし

備考

(78) S1057 (第42図、図版10)

位置 15T-58・59・68・69

平面形 (規模) 略円形 (4.60m×4.05m、深さ12cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (65cm)・P2 (18cm)・P3 (47cm)・P4 (29cm)・P5 (23cm)・P6 (75cm)・P7 (57cm)・P8 (35cm)・P9 (21cm)・P10 (36cm)

竪 (規模) 地床竪 (45cm×35cm、深さ3cm)

重複 なし

時期 不明

遺物 土器 2,565g 加曾利E1~2式・同3式

石器 剥片2点

土製品 なし

備考

(78) S1058 (第42図)

位置 15U-00・01・10・11

平面形 (規模) 卵円形 (5.50m×4.70m、深さ15cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (57cm)・P2 (70cm)・P3 (32cm)・P4 (30cm)・P5 (20cm)・P6 (60cm)・P7 (64cm)・P8 (30cm)・P9 (56cm)・P10 (66cm)・P11 (63cm)・P12 (22cm)・P13 (26cm)

竪 (規模) 地床竪 (49cm×22cm、深さ1cm)

重複 SK1486

時期 3a期

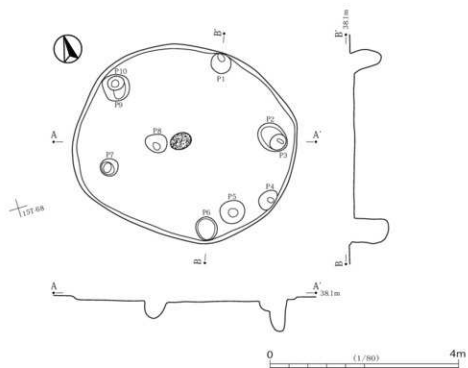
遺物 土器 7,515g 勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同新段階・同3式古段階

石器 剥片1点

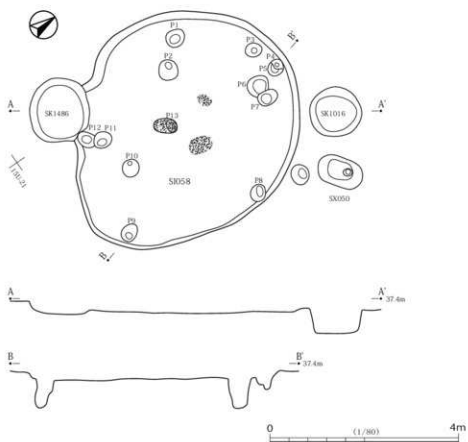
土製品 なし

備考 竪付近に2か所狭い範囲で焼けた面が輸出された。

(78)SI057



(78)SI058



第42図 縄文時代住居跡 (19)

(78) S1059A・B (第43図、図版11)

位置 15U-14・15・24・25

平面形 (規模) 楕円形 (6.84m×6.44m、深さ10cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (72cm)・P2 (39cm)・P3 (88cm)・P4 (107cm)・P5 (34cm)・P6 (23cm)・P7 (35cm)・P8 (71cm)・P9 (71cm)・P10 (65cm)・P11 (56cm)・P12 (61cm)・P13 (82cm)・P14 (78cm)・P15 (52cm)・P16 (74cm)・P17 (72cm)・P18 (46cm)・P19 (60cm)・P20 (47cm)・P21 (63cm)・P22 (46cm)・P23 (86cm)・P24 (36cm)・P25 (43cm)・P26 (52cm)・P27 (49cm)・P28 (75cm)・P29 (55cm)・P30 (72cm)・P31 (94cm)・P32 (18cm)・P33 (42cm)・P34 (47cm)・P35 (21cm)・P36 (68cm)・P37 (80cm)・P38 (41cm)・P39 (74cm)・P40 (25cm)・P41 (67cm)・P42 (46cm)・P43 (28cm)・P44 (58cm)・P45 (70cm)・P46 (72cm)・P47 (52cm)・P48 (56cm)・P49 (57cm)・P50 (49cm)・P51 (46cm)・P52 (47cm)・P53 (37cm)

炉 (規模) A埋壘炉 (11.2cm×9.1cm、深さ56cm) B埋壘炉 (14.3cm×10.0cm、深さ60cm)

重複 SK1149→・SK1150・SK2013→・SK1084→・SK1520→

時期 A 4b期 B 3b期

遺物 土器 26,075g 加曾利E1式・同2式・同3式古段階・同中段階・同4式古段階

石器 石鏃2点、楔形石器1点、両極剥片1点、局部磨製石斧1点、礫器2点、磨製石斧2点、剥片6点、軽石製品2点、原石1点

土製品 なし

備考 A・B2軒が重複する。西側の炉Aは加曾利E4式古段階の埋壘炉、西側の炉Bは加曾利E3式中段階の埋壘炉である。住居跡西側では部分的に壁溝が二重に検出され、その近辺の柱穴の配列もこれに沿っているように見える。内側の壁溝と柱穴が住居跡B、外側の壁溝と柱穴が住居跡Aに属し、加曾利E4式期に住居跡が拡張されたと考えられる。SK2013は加曾利E2-3式期の単独埋壘で、P14が掘られる際、一部が壊されている。

(78) S1060 (第44図、図版11)

位置 15U-65・66・75・76

平面形 (規模) 楕円形 (6.72m×4.26m、深さ10cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (53cm)・P2 (80cm)・P3 (27cm)・P4 (9cm)・P5 (74cm)・P6 (47cm)・P7 (20cm)・P8 (21cm)・P9 (59cm)・P10 (57cm)・P11 (17cm)・P12 (55cm)・P13 (14cm)・P14 (21cm)・P15 (24cm)・P16 (77cm)

炉 (規模) 地床炉 (60cm×47cm、深さ10cm)

重複 SK1194・SK1195・SK1210・SK1441

時期 2c期

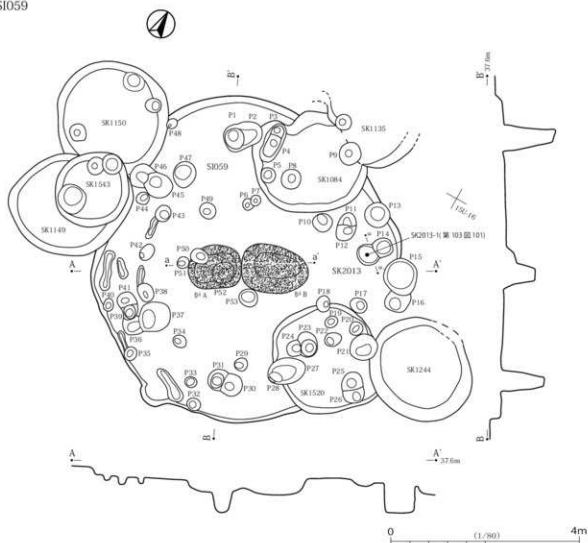
遺物 土器 5,770g 勝坂式末期・加曾利E2式古段階・同2-3式

石器 石核2点

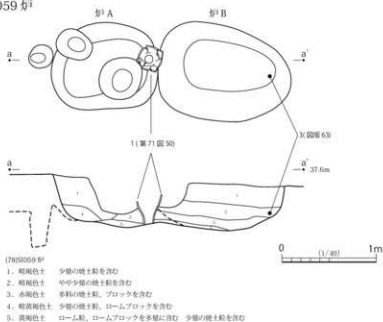
土製品 なし

備考 掘り込みが浅く、壁は一部で検出されたのみである。

(78)SI059



(78)SI059 跡



第43図 縄文時代住居跡 (20)

(78) S1061 (第44図、図版11)

位置 15U-84・85・94・95

平面形(規模) 楕円形? (-m×3.68m、深さ7cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(60cm)・P2(70cm)・P3(53cm)・P4(22cm)・P5(78cm)・P6(34cm)・P7(55cm)・P8(27cm)・P9(20cm)・P10(66cm)・P11(51cm)・P12(62cm)

炉(規模) 地床炉(88cm×85cm、深さ10cm)

重複 なし

時期 不明

遺物 土器 1,105g 加曾利E1式古段階

石器 石鏃未成品1点

土製品 なし

備考 掘り込みが浅く、壁は一部で検出されたのみである。

(78) S1100 (第44図、図版11)

位置 11V-64・74

平面形(規模) 長方形(2.50m×2.00m、深さ18cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(52cm)

炉 なし

重複 なし

時期 前1期

遺物 土器 11,690g 阿玉台Ⅱ式

石器 石鏃1点、石鏃未成品1点、磨石類2点、石核1点、剥片17点、砕片8点

土製品 なし

備考 阿玉台Ⅱ式期の唯一の住居跡である。小型で、炉はない。

(78) S1101 (第45図)

位置 11V-82・83・92・93、12V-02・03

平面形(規模) 隅丸方形? (-m×-m、深さ-cm)

柱穴(床面からの深さ) P1(66cm)・P2(64cm)・P3(44cm)・P4(58cm)・P5(75cm)・P6(38cm)・P7(75cm)・P8(17cm)・P9(53cm)・P10(66cm)・P11(14cm)・P12(12cm)・P13(53cm)・P14(69cm)・P15(47cm)

炉(規模) 地床炉(-cm×60cm、深さ27cm)

重複 なし

時期 不明

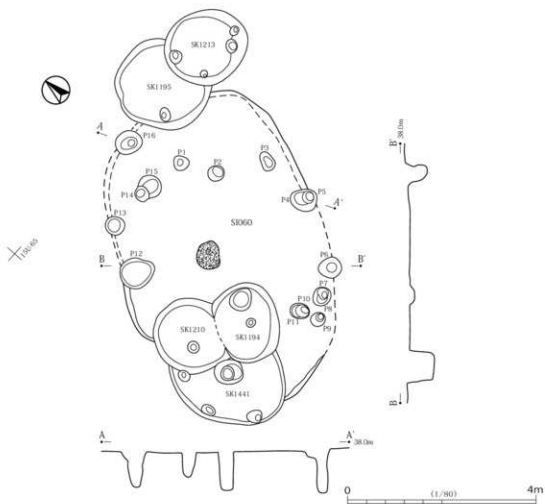
遺物 土器 8,820g 阿玉台Ⅳ・加曾利E2式・同2-3式・同3式古段階・中段階

石器 石皿1点、石核1点、剥片3点

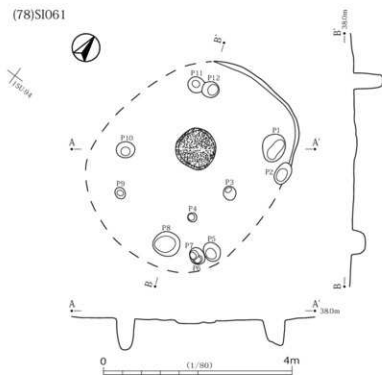
土製品 土器片鏃1点

備考 炉と柱穴のみ検出した。

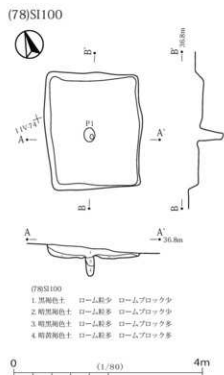
(78)SI060



(78)SI061



(78)SI100



第44図 縄文時代住居跡 (21)



(78) S1102 (第45図、図版11)

位置 12U-42・43・52・53

平面形(規模) 略円形? (-m×-m、深さ-cm)

柱穴(床面からの深さ) P1 (18cm)・P2 (37cm)・P3 (70cm)・P4 (30cm)・P5 (50cm)・P6 (65cm)・P7 (19cm)・P8 (33cm)・P9 (19cm)・P10 (64cm)・P11 (24cm)・P12 (28cm)

炉(規模) 2連埋甕炉(112cm×90cm、深さ20cm)

重複 なし

時期 3a期

土器 土器 3,140g 加曾利E3式古段階・曾利新1式

石器 石皿1点、剥片1点、碎片1点

土製品 なし

備考 炉と柱穴のみを検出した。

(78) S1103A・B (第46図、図版12)

位置 12U-61・62・63・72・73

平面形(規模) 楕円形? (-m×-m、深さ-cm)

柱穴(床面からの深さ) P1 (27cm)・P2 (51cm)・P3 (37cm)・P4 (46cm)・P5 (36cm)・P6 (18cm)・P7 (22cm)・P8 (43cm)・P9 (-54cm)・P10 (55cm)・P11 (48cm)・P12 (36cm)・P13 (44cm)・P14 (26cm)・P15 (40cm)・P16 (54cm)・P17 (38cm)・P18 (81cm)・P19 (8cm)・P20 (37cm)・P21 (33cm)・P22 (59cm)・P23 (75cm)・P24 (44cm)・P25 (76cm)・P26 (58cm)・P27 (46cm)・P28 (46cm)・P29 (42cm)・P30 (30cm)・P31 (28cm)・P32 (17cm)・P33 (60cm)・P34 (52cm)・P35 (38cm)・P36 (38cm)・P37 (39cm)

炉(規模) A地床炉(65cm×30cm、深さ25cm) B埋甕炉(75cm×55cm、深さ19cm)

重複 SX001→・SK248・SK252

時期 3a～3b期

遺物 土器 3,155g 加曾利E1～2式・同3式古段階・古段階～中段階

石器 剥片1点

土製品 なし

備考 炉2か所と柱穴のみを検出した。北側の炉Aは地床炉である。南側の炉Bは加曾利E3式古～中段階の埋甕炉であるが、遺存状態が悪く図示していない。

(78) S1104 (第46図、図版12)

位置 12U-85

平面形(規模) 不整形円形? (-m×-m、深さ-cm)

柱穴(床面からの深さ) P1 (46cm)・P2 (61cm)・P3 (105cm)・P4 (73cm)・P5 (54cm)・P6 (52cm)・P7 (72cm)・P8 (43cm)

炉(規模) 2連埋甕炉(100cm×60cm、深さ30cm)

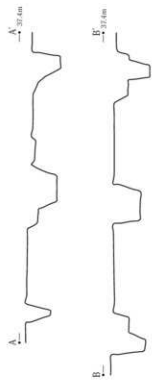
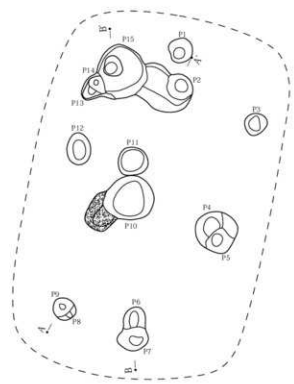
重複 なし

(78)SI101



11V92

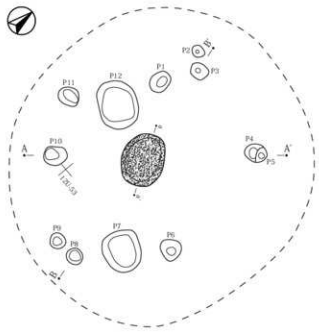
12V02



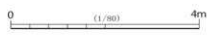
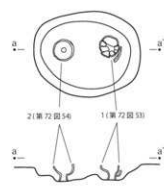
(78)SI102



13V53



(78)SI102 跡



第45図 縄文時代住居跡 (22)

**時期** 2c期

**遺物** 土器 5,870g 加曾利E2-3式

石器 なし

土製品 なし

**備考** 炉と柱穴のみ検出した。2連の炉体土器は類同土器である。

(78) S1105 (第47図、図版12)

**位置** 12U-69・79、12V-60・70

**平面形** (規模) 楕円形? (-m×-m、深さ-cm)

**柱穴** (床面からの深さ) P1 (54cm)・P2 (53cm)・P3 (47cm)・P4 (54cm)・P5 (34cm)・P6 (23cm)・P7 (28cm)・P8 (16cm)・P9 (42cm)・P10 (50cm)・P11 (36cm)・P12 (75cm)・P13 (46cm)・P14 (43cm)・P15 (46cm)・P16 (42cm)・P17 (44cm)・P18 (52cm)・P19 (68cm)・P20 (63cm)・P21 (35cm)・P22 (54cm)・P23 (15cm)・P24 (34cm)・P25 (25cm)・P26 (68cm)・P27 (98cm)・P28 (53cm)・P29 (28cm)・P30 (38cm)・P31 (36cm)・P32 (53cm)

**炉** (規模) 土器片囲・埋焼炉 (113cm×96cm、深さ35cm)

**重複** SK274・SK279→

**時期** 3a期

**遺物** 土器 1,090g 加曾利E1式・同3式古段階

石器 剥片1点

土製品 なし

**備考** 炉と柱穴のみ検出した。

(78) S1106 (第48図、図版12)

**位置** 12V-02・03・12

**平面形** (規模) 不整楕円形 (6.22m×4.15m、深さ10cm)

**柱穴** (床面からの深さ) P1 (67cm)・P2 (44cm)・P3 (48cm)・P4 (24cm)・P5 (72cm)・P6 (65cm)・P7 (40cm)・P8 (72cm)

**炉** (規模) 土器片囲・埋焼炉 (97cm×78cm、深さ25cm)

**重複** なし

**時期** 2c期

**遺物** 土器 6,355g 加曾利E2-3式

石器 剥片2点

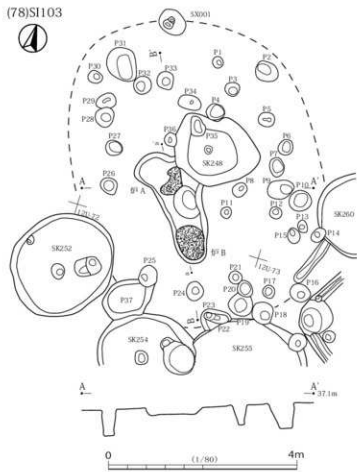
土製品 なし

**備考** 掘り込みが浅く、壁は一部が検出できなかった。

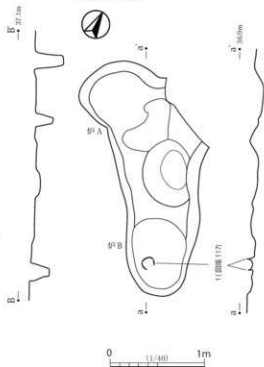
(78) S1107 (第48図、図版12)

**位置** 14U-31・32・41・42

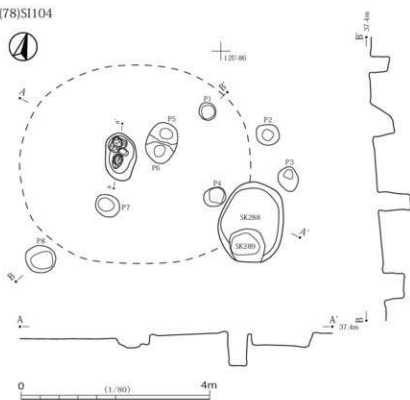
(78)SI103



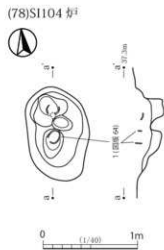
(78)SI103 跡<sup>1</sup>



(78)SI104



(78)SI104 跡<sup>1</sup>



第46図 縄文時代住居跡 (23)

平面形 (規模) 楕円形 (-m×-m、深さ-cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (56cm)・P2 (28cm)・P3 (47cm)・P4 (50cm)・P5 (46cm)・P6 (39cm)・P7 (24cm)・P8 (45cm)・P9 (29cm)・P10 (50cm)・P11 (12cm)

炉 (規模) 地床炉 (-cm×70cm、深さ21.6cm)

重複 SK538・SK539・SK554→・SK562・SK605→

時期 3c期

遺物 土器 8,650g 阿玉台IV式・加曾利E1式古段階・同2式・同3式古段階・同新段階・同4式

石器 楔形石器1点、二次加工ある剥片2点、剥片2点

土製品 土器片錘1点、円板1点

備考 一部の炉・壁が確認された。炉脇の床面が一部焼けていた。破線住居跡推定範囲内にあるピットの大部分は、本住居跡の柱穴と思われる。

(78) S1108 (第49図、図版12)

位置 14U-78

平面形 (規模) 不整楕円形? (-m×-m、深さ25cm)

柱穴 (床面からの深さ) P1 (55cm)・P2 (41cm)・P3 (27cm)・P4 (57cm)・P5 (42cm)・P6 (30cm)・P7 (56cm)・P8 (42cm)・P9 (25cm)・P10 (39cm)

炉 (規模) 土器片囲・埋甕炉 (105cm×70cm、深さ26cm)

重複 SK1103→

時期 6期

遺物 土器 22,840g 土器 阿玉台II式・勝坂式末期・加曾利E2式・同3式新段階・同4式・称名寺式・堀之内1式

石器 磨製石斧2点、砥石1点、剥片3点、砕片2点

土製品 なし

備考 炉体土器はすべて堀之内1式である。

(78) S1109 (第49図、図版12)

位置 14V-93・94、15V-03・04

平面形 (規模) 楕円形? (-m×-m、深さ-cm)

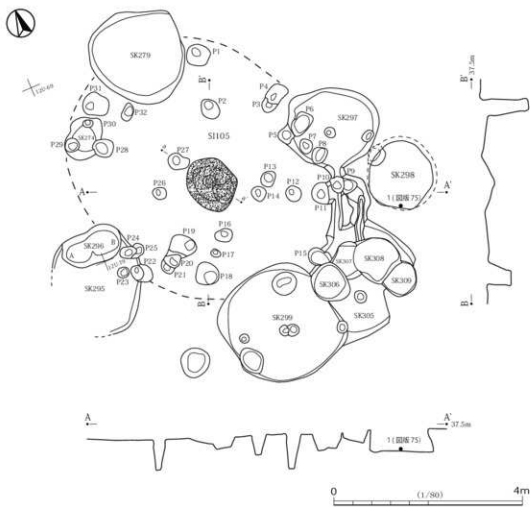
柱穴 (床面からの深さ) P1 (25cm)・P2 (35cm)・P3 (19cm)・P4 (29cm)・P5 (85cm)・P6 (37cm)・P7 (25cm)・P8 (45cm)・P9 (54cm)・P10 (20cm)・P11 (67cm)・P12 (51cm)・P13 (31cm)・P14 (82cm)・P15 (31cm)・P16 (32cm)・P17 (20cm)・P18 (18cm)・P19 (44cm)・P20 (38cm)・P21 (32cm)・P22 (34cm)・P23 (102cm)・P24 (19cm)・P25 (43cm)・P26 (57cm)・P27 (64cm)・P28 (44cm)・P29 (41cm)・P30 (47cm)・P31 (46cm)・P32 (49cm)・P33 (92cm)・P34 (54cm)・P35 (26cm)・P36 (51cm)

炉 (規模) 地床炉 (41cm×35cm、深さ31cm)

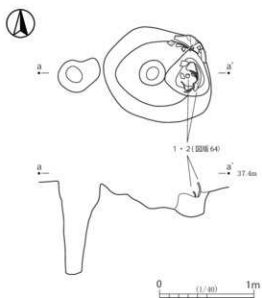
重複 SK640・SK641・SK720・SK721・SK786

時期 3b期

(78)SI105

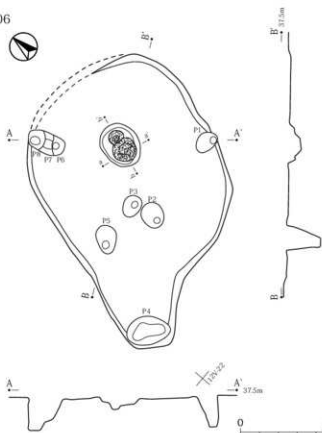


(78)SI105 炉

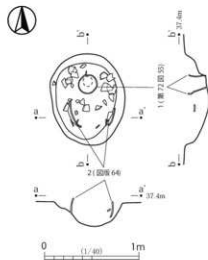


第47図 縄文時代住居跡 (24)

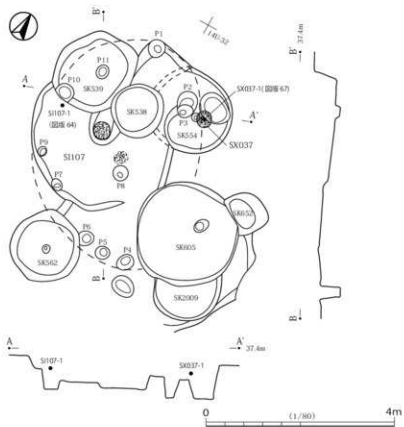
(78)SI106



(78)SI106 跡

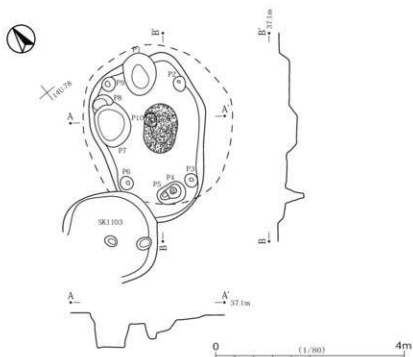


(78)SI107-SX037

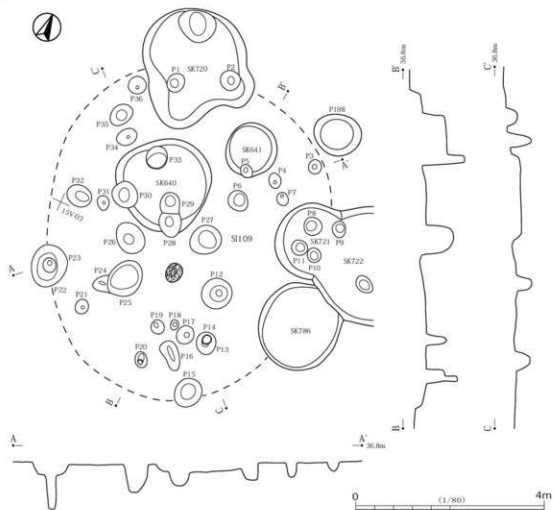


第48図 縄文時代住居跡 (25)

(78)SI108



(78)SI109



第49図 縄文時代住居跡 (26)



**遺物** 土器 2,670g 加曾利E2-3式・同3式古段階・同中段階

石器 なし

土製品 なし

**備考** 炉と柱穴のみが確認できた。

(78) S1110 (第50図、図版13)

**位置** 15V-34・35・44・45

**平面形** (規模) 隅丸方形 (5.85m×4.46m、深さ15~50cm)

**柱・穴** (床面からの深さ) P1 (34cm)・P2 (92cm)・P3 (46cm)・P4 (85cm)・P5 (74cm)・P6 (68cm)・P7 (47cm)・P8 (88cm)・P9 (47cm)・P10 (26cm)・P11 (91cm)・P12 (86cm)・P13 (87cm)・P14 (20cm)・P15 (28cm)・P16 (32cm)・P17 (98cm)

**炉** なし

**重複** S1111・SK811

**時期** 1a期

**遺物** 土器 42,650g 阿玉台Ⅲ式・同Ⅳ式・勝坂式末期・加曾利E1式古段階・同2式・同3式・同4式

石器 石鏃2点、同未成品2点、石錐2点、打製石斧1点、磨製石斧1点、礫器1点、剥片10点、砕片2点

土製品 土器片鏃1点、円板3点

**備考** 有段住居跡である。中央の低い床面及び段部の床面とも壁溝が巡るが、一部で途切れている。P13の底面から白色粘土塊が出土した。S1111とは同時期だが、新旧関係は不明である。

(78) S1111 (第50図、図版13)

**位置** 15V-33・34・43・44

**平面形** (規模) 楕円形 (5.50m×4.20m、深さ10cm)

**柱穴** (床面からの深さ) P1 (31cm)・P2 (57cm)・P3 (32cm)・P4 (26cm)・P5 (56cm)・P6 (19cm)・P7 (104cm)・P8 (73cm)・P9 (36cm)・P10 (18cm)・P11 (43cm)・P12 (5cm)・P13 (32cm)・P14 (49cm)・P15 (31cm)・P16 (60cm)・P17 (44cm)・P18 (26cm)

**炉** (規模) 地床炉 (67cm×62cm、深さ6cm)

**重複** S1110・→SK804・→SK816

**時期** 1a期

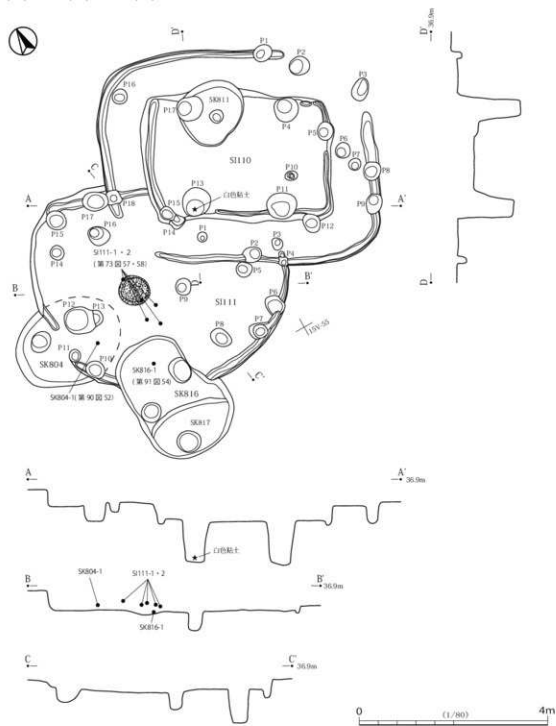
**遺物** 土器 27,480g 加曾利E1式古段階・同2式・同3式古段階

石器 打製石斧2点、磨石類1点、石皿1点、剥片4点、砕片1点、原石1点、軽石製品1点

土製品 土器片鏃3点、円板1点

**備考** 壁溝が一部巡る。

(78)SI110・(78)SI111・(78)SK804・(78)SK816



第50図 縄文時代住居跡 (27)

## 第2節 炉跡 (第51～54図、第5・6表、図版13～17)

遺構同士の激しい重複などによって住居跡の床面や柱穴が検出できずに、炉のみが確認されたものが76基あり、SXで表記した。内訳は地床炉が29基、埋壺炉が36基、土器片囲炉が5基、土器片囲・埋壺炉が6基で、うち2連の地床炉が1基、同じく2連の埋壺炉が2基であった。なお、埋壺炉、土器片囲炉は土坑覆土中に構築されたものが多かった。第5表は住居跡に伴う炉及び単独の炉跡のうち、時期がしぼり込めるものを形態別に集計したものである。1期から2b期では地床炉が主体であったが、2c期以降埋壺炉が多くなり、2連の埋壺炉や土器片囲炉、土器片囲・埋壺炉も登場してくることが分かる。

## 第3節 土坑等 (第55～60図、第7表、図版18～52)

土坑は約1500基検出された。大部分は平面円形で、断面がたらい状ないしは袋状をなす貯蔵穴と考えられるものであるが、断面が皿状の浅い土坑もある。そのほか、陥穴が3基、単独の埋壺が3基ある。陥穴はSK232・SK1350・SK1425で、いずれも検出面の平面形が楕円形で、底面が長方形をなす同一形態のものである。単独の埋壺はSK284・SK716・SK2013である。このうち、SK2013は住居跡S1059のP14と切り合っており、P14が掘られた際一部壊された状態が確認できた。なお、SK860からは焼成後に開けられた底部穿孔の土器が出土していて埋壺と考えられる。土坑廃棄後に覆土内に埋設されたものと思われる。

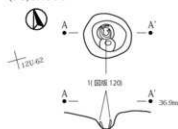
## 第4節 遺物包含層 (第61図、第8表)

グリッド出土の縄文土器総量は約1,400kgであった。第8表に大グリッドごとに出土総量と加曾利E式前半、同後半、後期別の出土量を集計した。第61図1から3で時期別の分布状況を見ると、加曾利E式前半と後半はおおむね遺構分布と重なるが、後期は13V、14U、15Vに多く、中期と大きく異なることが分かった。

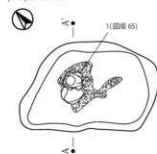
第5表 各種炉の時期別集計

時期区分	土器型式	地床炉	埋壺炉	土器片囲炉	土器片囲・埋壺炉
1a期	阿玉台Ⅲ式～ 加曾利E1式古	3	2		
1b期	加曾利E1式新	1			
1b～2a期		1	1		
2a期	加曾利E2式古	2			
2b期	加曾利E2式新	2			
2b～2c期			1		
2c期	加曾利E2-3式	2	5 (2連1)	1	
2期		4	4	2	2
2c～3a期		1	2		
3a期	加曾利E3式古	3	18 (2連2)	2	7
3a～3b期		1	4		
3b期	加曾利E3式中	2	3 (2連1)		1
3c期	加曾利E3式新	2	1		
3期		2			
4a期	加曾利E3-4式	0			
4b期	加曾利E4式古	0	1		
4c期	加曾利E4式中	0		1	
4d期	加曾利E4式新	0			
4期		1			
5期	称名寺式	0			
6期	堰之内1式	0			1
計		27	42 (2連4)	6	11

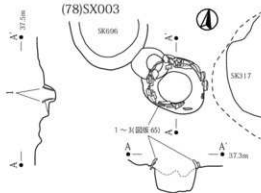
(78)SX001



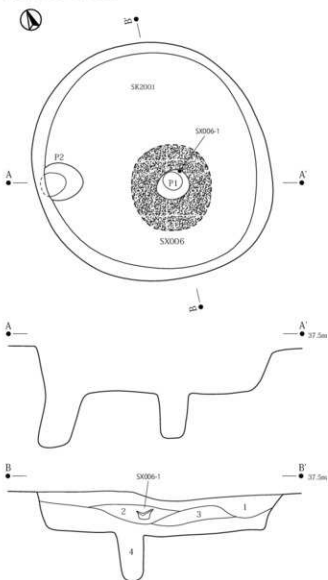
(78)SX002



(78)SX003



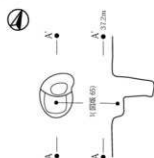
(78)SX006・SK2001



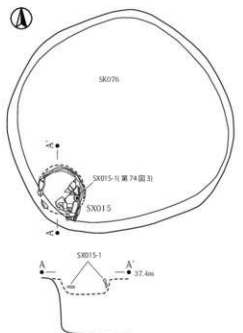
SX006-SK2001

1. 桔褐色土 ローム粒少 焼土粒多
2. 赤褐色土 ローム粒・ロームブロック多 焼土粒・ブロック多
3. 桔褐色土 ローム粒多 ロームブロック多
3. 桔褐色土 ローム粒・ロームブロック多

(78)SX011



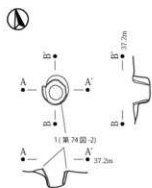
(78)SX015・SK076



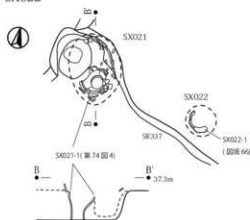
0 1/200 1m

第51図 縄文時代炉跡 (1)

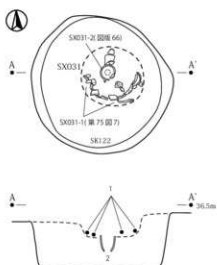
(78)SX017



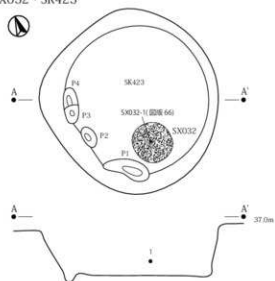
(78)SX021・SX022



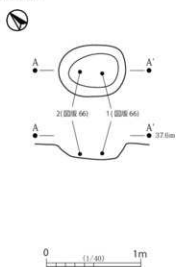
(78)SX031・SK122



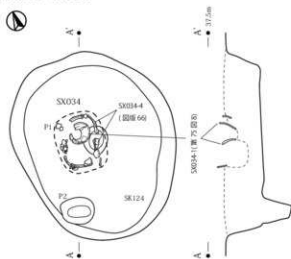
(78)SX032・SK423



(78)SX033

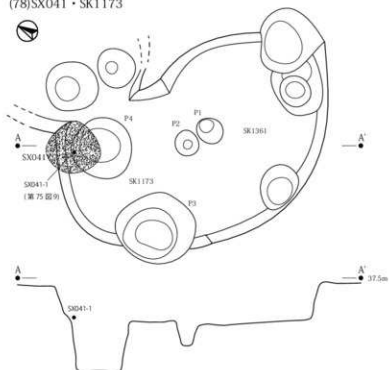


(78)SX034・SK124

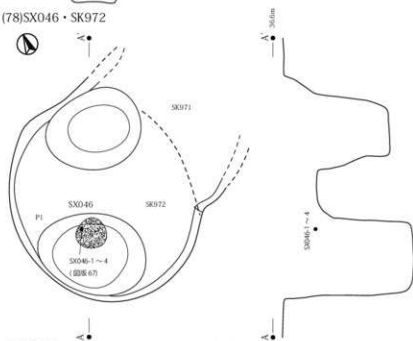


第52図 縄文時代炉跡 (2)

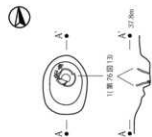
(78)SX041・SK1173



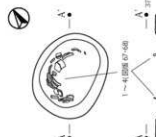
(78)SX046・SK972



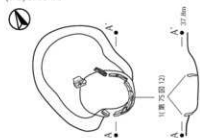
(78)SX053



(78)SX054



(78)SX049



(78)SX050

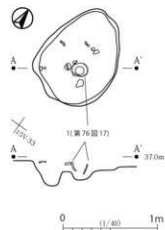


(78)SX051



1. 高脚土・ローム柱・ロームブロック多 焼土较多

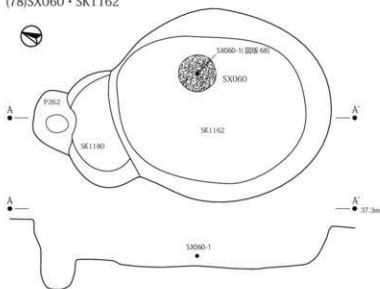
(78)SX058



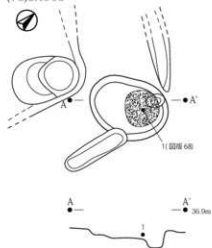
0 1/40 1m

第53図 縄文時代炉跡 (3)

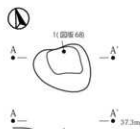
(78)SX060・SK1162



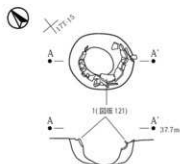
(78)SX065



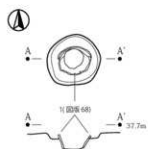
(78)SX066



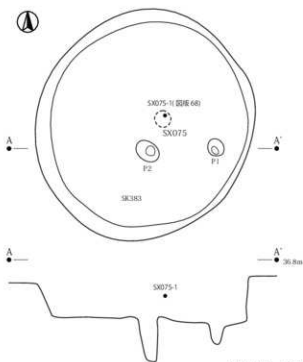
(78)SX071



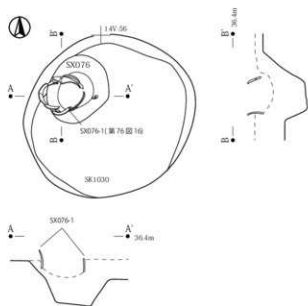
(78)SX072



(78)SX075・SK383



(78)SX076・SK1030



第54図 縄文時代炉跡 (4)

0 (1/40) 1m

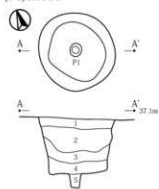
第6表 伊跡一覽

遺構番号	位置	種類	規模 (m) 長さ×幅	深さ (cm)	重複 図号	土器重量 (g)	土器型式	その他の主な遺物	所属 時期	備考
(78)SX001	12I-52	埋藏炉	0.60×0.48	15	-SI103	175 E2-3	175 E2~E2-3		2期	
(78)SX002	12I-89	埋藏炉	1.54×0.80	17		680 E3	680 E3	打斧1	3a期	
(78)SX003	12I-99	土器片周炉	0.59×-	29		4,820 E2-3	4,820 E2-3		2c期	
(78)SX004	12I-96	埋藏炉	0.74×-	20	SK404	800 E3	800 E3		3a期	
(78)SX005	12I-29	2連地床炉	1.30×0.95	15		50 E2-3	50 E2-3~E3古		2c~3b期	
(78)SX006	12V-00	埋藏炉	-		SK2001→	635 E3古	635 E3古		3a期	
(78)SX007	12V-21	埋藏炉	0.90×0.55	20		1,000 E3古	1,000 E3古	刺片1	3a期	
(78)SX008	12V-41	埋藏炉	-	52	SK482→	650 E3古	650 E3古		3a期	
(78)SX009	12V-48	埋藏炉	1.66×1.66	19		260 E2-3	260 E2-3~E3古		2~3a期	
(78)SX010	12V-59	埋藏炉	-	28	SK043→	2,860 E3古	2,860 E3古~E3中		3a~3b期	
(78)SX011	12V-59	埋藏炉	0.43×0.34	14		1,300 E1新	1,300 E1新~E2古		1b~2a期	
(78)SX012	12V-52	埋藏炉	0.40×0.40	19	SK451	700 E3古	700 E3古		3a期	
(78)SX013	12V-90	地床炉	-		SK334, SK335	-	-		不明	
(78)SX014	12V-90	地床炉	-		SK059, SK334, SK335	-	-		不明	
(78)SX015	12W-62	埋藏炉	2.36×2.34	16	SK076→	3,930 E3古	3,930 E3古		3a期	
(78)SX016	12W-64	地床炉	0.86×0.64	32		100 E3	100 E3		3期	
(78)SX017	12W-83	埋藏炉	0.40×0.24	18		1,350 E2~E2-3	1,350 E2~E2-3		2期	
(78)SX018	13I-14	地床炉	0.40×0.28	32		1,166	1,166		不明	
(78)SX019	13I-08	地床炉	0.56×0.38	37	SK755	200	200		不明	
(78)SX020	13V-00	地床炉	-		-SK004	-	-		不明	
(78)SX021	13V-02	土器片周・埋藏炉	-	30		4,260 E3古	4,260 E3古	磨斧1	3a期	
(78)SX022	13V-02	埋藏炉	-	22		550 E3古	550 E3古		3a期	
(78)SX023	13V-19	2連埋藏炉	(1.28)×(0.64)	50	SK490→	3,750 E3中1	3,750 E3中1	磨斧1	3b期	
(78)SX024	13V-68	地床炉	-	46		280	280		不明	
(78)SX025	13V-97	埋藏炉	-	38	SK834→	900 E3古	900 E3古		3a期	
(78)SX026	13V-98	埋藏炉	-	17		520 E3古	520 E3古	刺片3, 石核1	3a期	
(78)SX027	13W-03	地床炉	-	28	SK384	-	-		不明	
(78)SX028	13W-11	地床炉	0.78×0.54	75		-	-		不明	
(78)SX029	13V-19	地床炉	0.64×0.64	28	SK644→	-	-		不明	
(78)SX030	13W-30	地床炉	-	28	SK644→	-	-		不明	
(78)SX031	14T-35	土器片周・埋藏炉	-	57	SK122→	2,600 E3古1	2,600 E3古1		3a期	
(78)SX032	14T-38	埋藏炉	-	63	SK423→	1,200 E2~E2-3	1,200 E2~E2-3		2期	
(78)SX033	14T-79	2連埋藏炉	-	44	SK124→	1,572 E3古	1,572 E3古		3a期	
(78)SX034	14T-87	土器片周・埋藏炉	0.70×0.55	14		3,000 E2-3	3,000 E2-3		2c期	
(78)SX035	14U-01	地床炉	-	22	-SK522	0	0		不明	
(78)SX036	14I-19	地床炉	-			-	-		不明	
(78)SX037	14I-32	埋藏炉	-	42	SK654→	1,000 不明	1,000 不明		不明	



遺構番号	位置	種類	規模(m) 長さ×短径	深さ (cm)	重埋 層位	土器重量 (g)	土器型式	その他の主な遺物	所属 時期	備考
(78)SX038	14I-67	地床炉	0.52×0.46	28	→SK1010	-	-	-	不明	
(78)SX039	14I-88	地床炉	0.93×0.91	38	-	680 E3古	-	土鏝1	3a期	
(78)SX040	14I-96	地床炉	-	38	SK1217	-	-	-	不明	
(78)SX041	14I-93	埋藏炉	-	37	SK1173→	1,240 E3中1	-	-	3b期	
(78)SX042	14V-18	地床炉	-	-	SK809, P233	-	-	-	不明	
(78)SX043	14V-26	埋藏炉	-	58	SK839→	700 E3古	-	-	3a期	
(78)SX044	14V-73	地床炉	-	-	→SK1031	-	-	-	不明	
(78)SX045	14V-83	地床炉	-	-	-	-	-	-	不明	
(78)SX046	14V-85	土器片閉炉	0.32×0.30	38	SK972→	4,600 E3古2	-	-	3a期	
(78)SX047	15T-08	地床炉	0.68×0.45	31	→SK650	-	-	-	不明	
(78)SX048	15T-16	埋藏炉	0.76×-	21	SK1495	640 E2	-	-	2期	
(78)SX049	15I-00	土器片閉炉	0.93×-	13	-	1,850 曾利新1	-	土鏝1, 磨石1, 剥片2, 砂片1	2c~3a期	
(78)SX050	15I-01	土器片閉・埋藏炉	0.98×0.60	23	-	1,650 E3古	-	-	3a期	
(78)SX051	15I-10	土器片閉・埋藏炉	0.95×0.71	28	SK1079	4,160 E3古1, 曾利新1	-	-	3a期	
(78)SX052	15I-16	地床炉	1.22×-	30	-	60 E2~E2-3	-	-	2期	
(78)SX053	15I-22	埋藏炉	0.61×0.47	11	-	1,380 E3古	-	石鏝木1	3a期	
(78)SX054	15I-34	土器片閉炉	0.90×0.74	17	-	2,400 E3古	-	-	3a期	
(78)SX055	15I-55	土器片閉・埋藏炉	1.71×1.06	14	-	3,330 E2-3	-	-	2e期	
(78)SX056	15I-60	地床炉	-	-	→SK1216	-	-	-	不明	
(78)SX057	15I-56	埋藏炉	-	-	SK1213→	750 E3古	-	-	3a期	
(78)SX058	15V-23	埋藏炉	1.20×0.80	10	-	960 E3古	-	剥片2	3a期	
(78)SX059	15V-42	地床炉	0.60×0.45	-	-	-	-	-	不明	
(78)SX060	15V-42	埋藏炉	-	-	SK1162→	1,980 E3古	-	-	3a期	
(78)SX061	15V-50	埋藏炉	0.60×0.35	18	-	500 E3古~E3中	-	-	3a~3b期	
(78)SX062	15V-51	地床炉	-	-	-	-	-	-	不明	
(78)SX063	15V-61	埋藏炉	0.48×0.43	60	-	900 E2-3	-	-	2e期	
(78)SX064	15V-54	埋藏炉	-	-	SK817→	550 E2-3	-	-	2e期	
(78)SX065	15V-83	埋藏炉	0.84×0.64	11	SI046→	300 E3古~E3中	-	-	3a~3b期	
(78)SX066	15V-90	埋藏炉	0.59×0.46	20	-	720 E2新~E2-3	-	-	2b~2c期	
(78)SX067	15V-92	地床炉	-	-	-	-	-	-	不明	
(78)SX068	16V-11	地床炉	0.60×0.50	15	-	50 E3	-	-	3期	
(78)SX069	16V-11	地床炉	0.98×0.83	34	-	100 不明	-	-	不明	
(78)SX070	16V-12	地床炉	-	-	SK1341	-	-	-	不明	
(78)SX071	17T-15	土器片閉炉	0.68×0.59	27	-	1,694 E4中	-	-	4e期	
(78)SX072	17T-05	埋藏炉	0.56×0.52	18	-	1,900 不明	-	-	不明	
(78)SX073	12V-95	埋藏炉	-	18	SK597→	2,140 E3古	-	-	3a期	
(78)SX074	15T-36	埋藏炉	-	44	SK1271→	1,400 不明	-	-	不明	
(78)SX075	13I-41	埋藏炉	-	-	SK383→	1,000 E2-3~E3古	-	-	2c~3a期	
(78)SX076	14V-55	埋藏炉	0.75×0.72	50	SK1030→	4,910 E3中	-	-	3b期	

(78)SK008



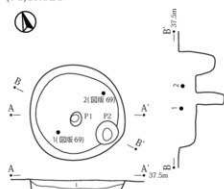
(78)SK008

1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多
2. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多
3. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多
4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多
5. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多

(78)SK023



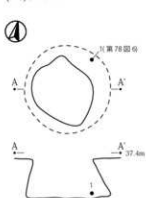
(78)SK029



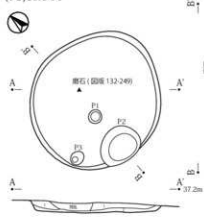
(78)SK029

1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多
2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多

(78)SK041



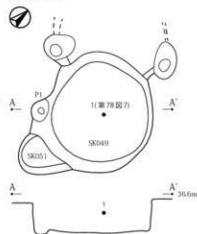
(78)SK044



(78)SK044

1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多
2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多

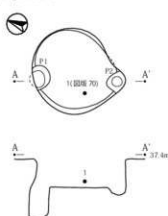
(78)SK049



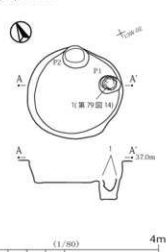
(78)SK055



(78)SK073



(78)SK103



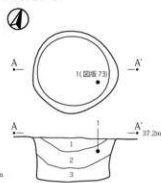
第55図 縄文時代土坑(1)

0 (1/80) 4m

(78)SK107

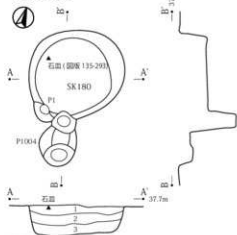


(78)SK157



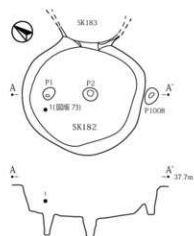
- 78SK157  
 1. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多  
 2. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多  
 3. 相模色土 ローム粒多 ロームブロック少

(78)SK180

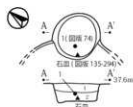


- 78SK180  
 1. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多 粘土粒少  
 2. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多  
 3. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多

(78)SK182

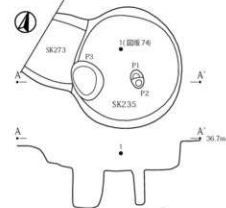


(78)SK223

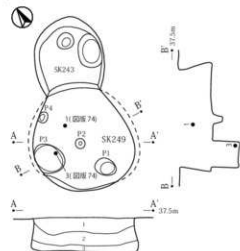


- 78SK223  
 1. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多  
 2. 黒黒色土 ローム粒・ロームブロック多

(78)SK235

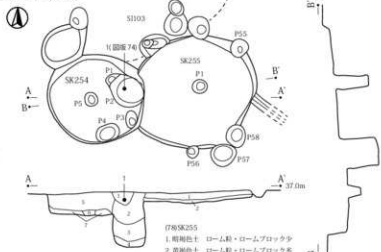


(78)SK249



- 78SK249  
 1. 黒黒色土 ローム粒・ロームブロック多  
 2. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多  
 3. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多

(78)SK254・SK255



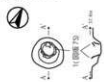
- 78SK254  
 1. 相模色土 ローム粒多 ロームブロック多  
 2. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多  
 3. 相模色土 ローム粒多 ロームブロック多  
 4. 黄褐色土 ローム粒多  
 5. 相模色土 ローム粒多 ロームブロック多  
 6. 相模色土 ローム粒多 ロームブロック多  
 7. 黄褐色土 ローム粒多 ロームブロック多

- 78SK255  
 1. 相模色土 ローム粒・ロームブロック多  
 2. 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多

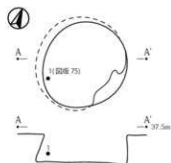
0 (1/80) 4m

第56図 縄文時代土坑(2)

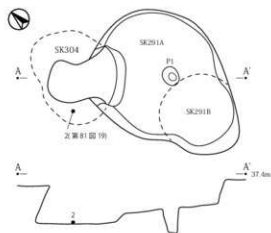
(78)SK284



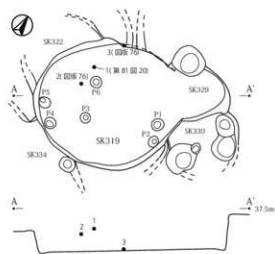
(78)SK286



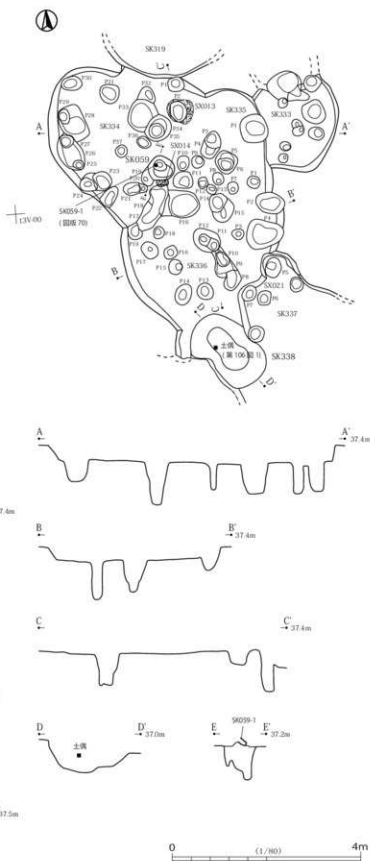
(78)SK304



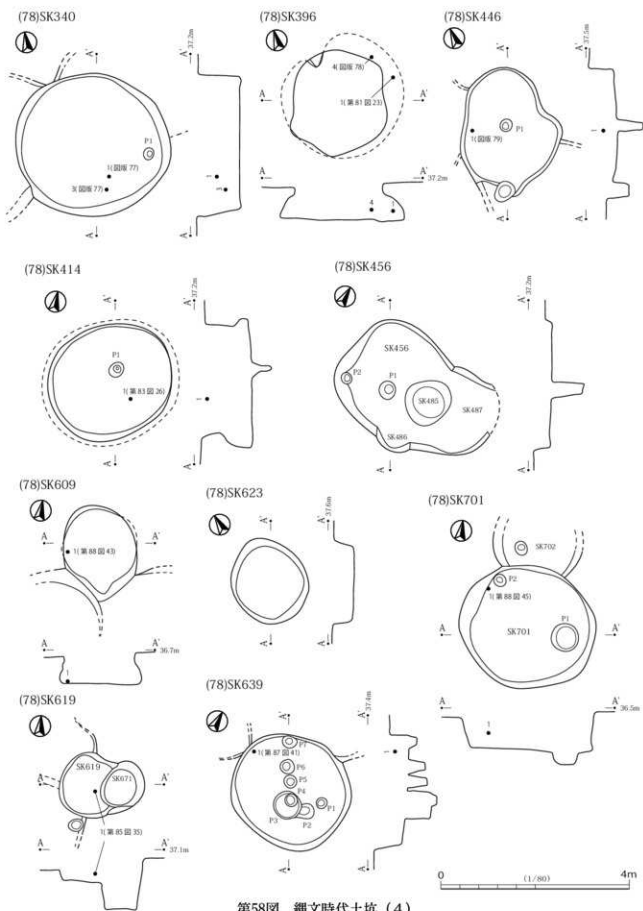
(78)SK319



(78)SK338・SK059

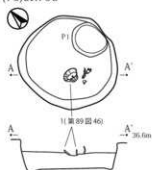


第57図 縄文時代土坑 (3)

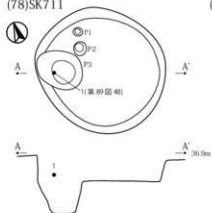


第58図 縄文時代土坑 (4)

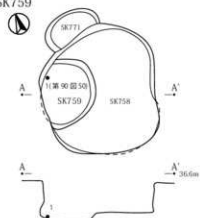
(78)SK703



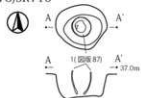
(78)SK711



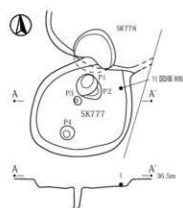
(78)SK759



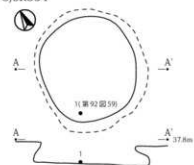
(78)SK716



(78)SK777



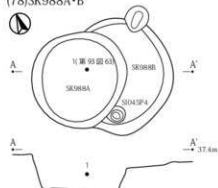
(78)SK884



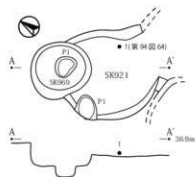
(78)SK835



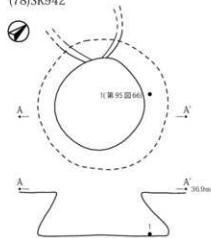
(78)SK988A-B



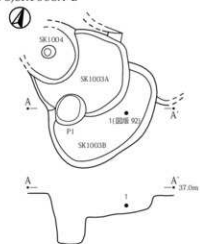
(78)SK921



(78)SK942



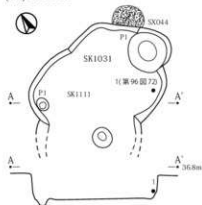
(78)SK1003A-B



0 (1/80) 4m

第59図 縄文時代土坑 (5)

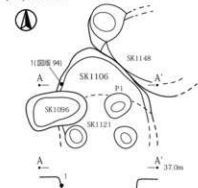
(78)SK1031



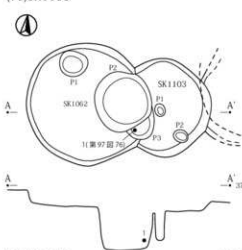
(78)SK1076



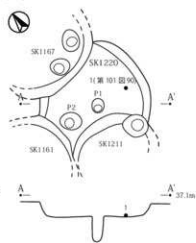
(78)SK1106



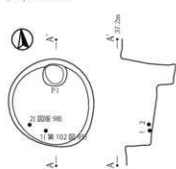
(78)SK1103



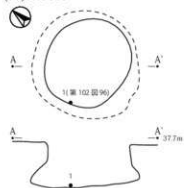
(78)SK1220



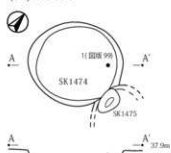
(78)SK1323



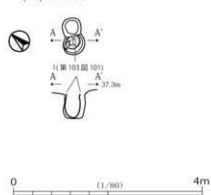
(78)SK1417



(78)SK1474



(78)SK2013



第60図 縄文時代土坑 (6)







遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重複	土層出土量 (g)	出土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK110	12V-88	円形	1.40×0.7	42	たらい状		SK102, SK118	2, 220	E2, E3, 壱利		3a期	
(78)SK111	12V-88	円形	1.23×0.9	39	たらい状		SK114	2, 310		磨石1	不明	
(78)SK112	12V-88	円形	2.11×0.9	39	たらい状	2	SK118	2, 340	E1古, E3	円板1	1a期	
(78)SK113	12V-98	円形	2.25×0.9	34	たらい状		SK114, SK118	2, 360	E1, E3中	石籠1	不明	
(78)SK114	12V-98	円形	-	34	たらい状	1	SK112, SK113, SK115B	2, 070	E3	石籠1	不明	
(78)SK115A	12V-99	円形	2.68×2.28	63	たらい状	3	SK116B, SK141	10, 740	E2, E3, E3中	土鏝1, 円板1, 石籠2, 石籠1	不明	
(78)SK115B	12V-98	円形	-	63	たらい状		SK113, SK114, SK115A	2, 060	E1古, E2古, E3, E4		不明	
(78)SK116	12V-76	円形	2.34×0.9	65	たらい状	3	SK132	2, 120	E1古, E2古, E3, E4	銅片3	不明	
(78)SK117	12V-87	円形	2.68×2.68	55	たらい状	3	SK102, SK109, SK110, SK111	60	壱利		不明	
(78)SK118	12V-88	円形	(2.10)×1.99	47	たらい状	2	SK107	400	E3新		不明	
(78)SK119	12V-76	円形	1.11×0.9	74	ピット状		SK107	0			不明	
(78)SK120	13T-87	円形	1.75×1.70	40	たらい状		S1029	0			不明	
(78)SK121	14T-67	円形	2.36×2.14	50	袋状	2		6, 440	E1, E2	土鏝1	不明	
(78)SK122	14T-55	円形	2.01×2.08	48	たらい状		→S0031	0			不明	
(78)SK123	14T-24	円形	2.27×(1.80)	53	たらい状	2	SK114	2, 000	E1古, E3	石籠1	不明	
(78)SK124	14T-87	円形	2.15×1.80	53	たらい状	2	→S0034	3, 290	E2, E3, E3	石籠1, 石籠1	2期	
(78)SK125	14T-94	円形	2.50×2.30	58	たらい状	1		4, 110	E1, E2, E3	打穿1	2期	
(78)SK126	14T-87	円形	2.28×2.15	36	たらい状	1		1, 780	E1古, E2古-E3	磨石1	不明	
(78)SK127	13T-77	円形	(1.40)×1.25	27	たらい状		S1029	0			不明	
(78)SK128	13T-78	円形	1.82×(1.82)	39	たらい状	4		0			不明	
(78)SK129	13T-87	円形	0.96×0.93	50	たらい状		S1029	0			不明	
(78)SK130	14T-15	円形	1.99×1.90	71	たらい状	1		0			不明	
(78)SK131	14T-27	円形	1.96×1.75	66	たらい状	2	SK116, SK190, SK191	780	IV, E1	土鏝1, 石籠1	1期	
(78)SK132	12V-76	円形	-	61	たらい状			4, 035	E2, E2-3, E3古, E3中		3b期	
(78)SK133	13T-79	円形	1.88×1.58	52	たらい状	2	SK140, SK151	1, 005	E1, E3, 壱利	磨石1	不明	
(78)SK134	13U-70	円形	1.73×1.49	51	たらい状	1		7, 130	E2, E3, E4, 壱利	銅片3	不明	
(78)SK135	13U-82	円形	2.30×1.88	35	たらい状			5, 170	IV, E1古, E2古, E3新-E3-4		1a期	
(78)SK136	15T-38	円形	1.15×0.80	90	たらい状		S1031	3, 900	壱利	土鏝1	1a期	
(78)SK137	15T-28	円形	1.30×1.00	43	たらい状	1	S1031	600			不明	
(78)SK138	15T-27	円形	1.20×1.15	58	たらい状	1	S1031→	1, 300	壱利, E1-E2		不明	
(78)SK139	13U-92	円形	(2.33)×0.9	25	たらい状	4	SK140, SK151	860	E1, E2, E3, E4		4期	
(78)SK140	13U-92	楕円形	0.84×0.9	36	たらい状	5	SK139, SK151	1, 000	IV, E3中	磨石1	不明	
(78)SK141	12V-90	楕円形	1.55×1.45	35	たらい状		SK115A	210	E3古	円板2, 石籠1	4期	
(78)SK142	16S-30	円形	2.01×1.48	40	たらい状	2		1, 900	E4		不明	
(78)SK143	15S-90	円形	2.01×1.94	92	たらい状			150	壱利, E1		不明	
(78)SK144	16S-15	円形	2.02×1.90	47	たらい状	1		550	E1古		不明	
(78)SK145	15S-90	楕円形	2.42×2.18	48	重状			3, 560	E1古, 壱利		1a期	
(78)SK146	16S-68	楕円形	2.42×2.18	48	重状			2, 770	E1, E2, 壱利		不明	
(78)SK147	16S-18	円形	2.40×2.47	38	たらい状		S1030	500			不明	
(78)SK148	13U-72	円形	2.68×2.23	38	たらい状	5		1, 180	壱利, E2古-E3古	磨石1, 石籠2	不明	
(78)SK149	13U-53	円形	1.95×1.14	42	たらい状	2		1, 600	壱利, E1, E2古, E3新		不明	
(78)SK150	13U-53	楕円形	1.73×0.9	16	たらい状	4	SK139, SK140	1, 260	E1-E2, E3古		不明	
(78)SK151	13U-92	楕円形	2.67×2.60	58	たらい状	3		4, 600	壱利, E1-E2, E3-3, E3古, E3中	磨石1, 石籠1	3期	
(78)SK152	11V-70	円形	2.65×2.58	62	たらい状	2		1, 690	E3古-E3中, E3新-E3-4	銅片2, 砂子3	3a~3b期	
(78)SK153	11V-90	円形	2.40×0.9	45	たらい状	1		1, 000	IV, E2, E3, E3新, E3-4		4期	
(78)SK155	11V-46	円形	1.60×1.42	73	たらい状							

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長さ×幅	積上 (高さ)	新築形	ピット 数	重要	出土土器の種類	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK157	111-55	円形	1.75×1.71	90	たふし穴				出櫃1, 石籠1, 磨石1	3a期	
(78)SK158	111-55	円形	1.59×1.45	84	たふし穴			749, 52, 53古		不明	
(78)SK159	131-41	円形	0.80×0.85	84	たふし穴	1		400, 52		不明	
(78)SK160	111-52	円形	1.27×1.13	40	たふし穴					2期	
(78)SK163	111-78	円形	1.15×1.13	32	たふし穴					不明	
(78)SK165	111-78	円形	1.30×1.25	56	たふし穴					不明	
(78)SK166	131-13	円形	2.34×2.04	28	たふし穴	3		150		2期	
(78)SK166	111-70	円形	1.10×0.90	50	たふし穴			5, 050, E1, E2, E3, E3新		不明	
(78)SK167	111-80	円形	1.37×1.20	50	たふし穴			350, E1, E2, E3		不明	
(78)SK168	121-00	楕円形	0.97×0.89	30	たふし穴			900, E1, E2, E3, E3中		3b期	
(78)SK169	121-00	円形	2.30×2.05	47	たふし穴	1		1, 990, E1, E2, E3, E3中		3a期	
(78)SK170	121-19	円形	2.37×2.00	44	たふし穴	4		3, 220, 阿Ⅱ, 鹿, E1, E2, E3		1a期	
(78)SK171	121-21	円形	2.17×2.12	32	たふし穴	3		4, 800, 阿Ⅱ, E1, E2, E3, 磨石		不明	
(78)SK172	121-23	円形	2.17×2.15	24	たふし穴	5		2, 890, 阿Ⅱ, E1, E2, E3		1a期	
(78)SK173	121-23	円形	1.95×1.80	24	たふし穴	3		1, 750, E1, E2		不明	
(78)SK175	121-22	円形	1.40×1.28	24	たふし穴			4, 160, 阿Ⅱ, E2, E3, 磨石		不明	
(78)SK176	141-01	円形	1.54×1.54	28	たふし穴	1		1, 700, 鹿		4期	
(78)SK177	131-91	円形	1.57×1.17	24	たふし穴			6, 757, E1, E2古		2a期	
(78)SK178	141-01	円形	1.80×1.80	33	たふし穴	2		650, 53古		不明	
(78)SK179	131-61	円形	2.77×2.73	42	たふし穴	6		440, 52, E3中		不明	
(78)SK180	121-31	円形	2.05×1.83	63	たふし穴	1		8, 650, E1, E2, E3古, 鹿1		不明	
(78)SK182	121-31	円形	2.70×2.40	70	たふし穴	2		5, 000, E1, E2, E3古, E3新		3c期	
(78)SK183	121-32	円形	(1.85)×(1.80)	75	たふし穴	2		11, 813, 阿Ⅱ, 鹿, E2, E3古, 磨石, E3新		不明	
(78)SK184	121-32	円形	2.90×1.27	27	たふし穴	3		3, 750, 阿Ⅱ, 鹿, E2		2期	
(78)SK186	131-03	円形	2.18×2.11	33	たふし穴	2		3, 835, E1古, E2古		不明	
(78)SK187	121-45	円形	2.12×2.05	36	たふし穴	4		3, 200, E1古, E2, 磨石		不明	
(78)SK188	121-45	円形	1.68×1.68	49	たふし穴			7, 400, 阿Ⅱ, E1, E2, E3		不明	
(78)SK189	121-65	円形	1.17×1.17	48	たふし穴			2, 200, E1		不明	
(78)SK190	121-75	円形	-	49	たふし穴			1, 200, E2, E3, E4		不明	
(78)SK191	121-75	円形	1.70×1.41	39	たふし穴	1		0		不明	
(78)SK192	121-75	円形	1.41×1.41	29	たふし穴	1		1, 850, E1新, E4		不明	
(78)SK193	131-53	円形	0.99×0.86	23	たふし穴	1		0		不明	
(78)SK194	131-43	円形	1.11×1.07	34	たふし穴	3		600, E1, E2, E4		不明	
(78)SK195	121-42	円形	2.40×2.39	43	たふし穴	3		3, 000, E2, E3古, 磨石		不明	
(78)SK196	131-33	円形	2.19×1.97	22	たふし穴	1		1, 100, 鹿, E3新, E3古		不明	
(78)SK197	131-34	円形	1.20×1.21	27	たふし穴	1		600, E2, E4		3a期	
(78)SK198	131-34	円形	1.13×1.13	27	たふし穴	1		石籠1		3c~4a期	
(78)SK199	131-24	円形	2.73×2.40	63	たふし穴	2		石籠1		4期	
(78)SK200	131-03	円形	1.90×1.45	49	たふし穴	2		1, 700, E3, 鹿1		不明	
(78)SK201	121-43	円形	1.88×1.40	36	たふし穴	2		5, 170, E1, E2, E3		不明	
(78)SK204	121-53	円形	1.70×1.70	49	たふし穴	1		3, 400, 磨石, E3新, E4, 鹿, E4, 鹿		不明	
(78)SK205	121-52	円形	(2.5)×(2.34)	75	段状	2		1, 500, E1古, 磨石, E3新, E3古		不明	
(78)SK206	121-25	円形	2.31×2.26	83	段状	2		2, 880, E1, E2, E3古, E3中, E4		不明	
(78)SK207A	121-46	円形	2.70×2.26	75	段状	6		6, 330, 阿Ⅱ, E3古		3a期	
(78)SK207B	121-46	円形	2.45×(2.26)	56	たふし穴			24, 010, E1, E2, E3古, 磨石, E3中~E3新		3a期	
(78)SK208	121-51	円形	2.33×1.97	56	たふし穴	1		14, 560, E1, E2, E3古, E3新, E3古~E4		不明	
(78)SK209	121-52	円形	2.33×1.97	54	たふし穴	1		2, 900, E1古, E3新, E4		不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長さ×幅	積込 (積)	新築形状	ピット 数	重複	土出土量 (t)	出土土層の時期	その他の主な遺物	所属時期
(78)SK210	137-53 円形	円形	2.06×1.99	53	たらし瓦	3	SK208, SK279	0			不明
(78)SK211	137-52 円形	円形	2.09×2.10	52	たらし瓦	3	SK261	3,050	阿Ⅱ, E1, E2	石籠1, 鉄釘瓦葺1	2期
(78)SK212	137-47 円形	円形	2.12×2.00	48	たらし瓦	2		3,280	E1, E2, E3, E4	打穿2, 石籠1	不明
(78)SK213	137-53 円形	円形	0.91×0.82	22	たらし瓦		SK204, SK205, SK262	0			不明
(78)SK214	111-40 楕円形	楕円形	1.38×1.04	28	たらし瓦			260	E3?		不明
(78)SK216	111-94 円形	円形	1.02×	35	たらし瓦			0			不明
(78)SK220	111-71 円形	円形	1.85×1.52	66	たらし瓦			1,000	E3, E3新	石籠1, 磨石1	不明
(78)SK221	111-71 円形	円形	1.05×0.95	23	たらし瓦		SK184	350	E3		不明
(78)SK223	121-32 円形	円形	1.02×0.96	41	たらし瓦			3,400	阿Ⅱ, E1~3, E4古	石籠1, 磨石1	4期
(78)SK224	121-43 円形	円形	0.75×0.75	36	たらし瓦			630	E3, E3新		不明
(78)SK225	111-87 円形	円形	1.30×1.27	59	たらし瓦			950	E1, E3	810	不明
(78)SK229	111-78 円形	円形	1.35×1.25	60	たらし瓦	1	S1012	870	阿Ⅱ, E1, E2, E3古		不明
(78)SK230	121-30 円形	円形	1.20×1.17	38	重状		S1012	870	E1, E2中~E3新		不明
(78)SK231	121-30 円形	円形	0.70×0.30	25	重状			50			不明
(78)SK232	121-22, 楕円形	楕円形	1.75×0.85	84	たらし瓦	1	SK188	30			不明
(78)SK233	121-45 円形	円形	1.41×	34	たらし瓦	1		50			不明
(78)SK234	121-36 円形	円形	1.84×1.66	36	たらし瓦	1		2,000	阿Ⅳ, E1古, E2		不明
(78)SK235	121-51 円形	円形	2.56×2.36	65	たらし瓦	3	SK273	11,136	阿Ⅱ, E2, E3古, 尊利	打穿2, 石籠1	3a期
(78)SK236	121-32 楕円形	楕円形	0.83×	20	たらし瓦		SK183	0			不明
(78)SK239	121-32 円形	円形	1.63×	27	たらし瓦	1	SK188	220	E1	石籠1	不明
(78)SK240	121-45 円形	円形	0.80×0.72	62	たらし瓦	3	SK259	2,800	E1古, E2古, 新	石籠1	不明
(78)SK242	121-49 円形	円形	1.99×1.60	31	たらし瓦	2	SK249	1,550	新片3	新片3	不明
(78)SK243	121-54 円形	円形	1.5×	68	たらし瓦	2	SK249	2,800	E1古, E2古, 新	新片3	不明
(78)SK246	121-31 楕円形	楕円形	0.96×0.64	32	たらし瓦		SK249	550	E2, E3		不明
(78)SK247	121-23 円形	円形	2.5×2.42	41	たらし瓦	2	S1103	6,100	阿Ⅱ, E1古, E2, E3古		不明
(78)SK248	121-62 円形	円形	1.82×1.49	56	たらし瓦	2	S1043	950	阿Ⅱ, 磨石, E1~E2, 尊利	磨石1	3b~3c期
(78)SK249	137-54 円形	円形	2.25×2.10 (2.49×(2.10))	76	鉄状	4	SK243	12,067	E1古, E2	磨石1, 石籠1	2期
(78)SK252	121-72 円形	円形	2.38×2.11	47	たらし瓦	3	S1103	2,390	阿Ⅳ, E1, E2, E3古	土籠1	不明
(78)SK254	121-72 円形	円形	2.08×1.92	51	たらし瓦	5	SK255	2,990	E2新~E2-3, E3古		3a期
(78)SK255	121-73 円形	円形	2.73×2.46	23	たらし瓦	1	S1015, SK254	860	阿Ⅳ, E2, E3	石籠1, 石籠1	不明
(78)SK256	121-82 楕円形	楕円形	2.28×1.99	27	たらし瓦	7		2,620	阿Ⅳ, E1~E2-3		不明
(78)SK257	121-59 楕円形	楕円形	0.67×	76	たらし瓦	1	SK258	1,290	E1		不明
(78)SK258	121-59 円形	円形	2.21×2.00	94	たらし瓦	3	SK257, SK259	8,110	磨石, E1古, E1新, E2, E3	磨石3	不明
(78)SK259	121-59 円形	円形	2.38×	33	たらし瓦	2	SK242, SK258	240			不明
(78)SK260	121-63 円形	円形	1.88×1.80	27	たらし瓦	2	S1015	700	磨		不明
(78)SK261	121-63 円形	円形	1.87×	36	たらし瓦	1	SK211, SK271	940	E1	新片3	不明
(78)SK264	121-50 楕円形	楕円形	0.90×0.82	30	重状			450	阿Ⅱ, E		不明
(78)SK265	121-80 円形	円形	2.18×	86	たらし瓦	3	SK268, SK275→	4,300	阿Ⅱ, 阿Ⅲ, 中鉄, E2, E3	土籠1, 円板1, 磨石1	不明
(78)SK266	121-70 円形	円形	1.35×1.35	65	たらし瓦		SK275→	11,240	阿Ⅱ, E1古, E3古, E3新	円板3, 石籠2, 新片4	3c期
(78)SK267	121-81 円形	円形	1.40×1.38	72	たらし瓦			2,550	阿Ⅳ, 磨石, E3		不明
(78)SK268	121-80 楕円形	楕円形	1.27×	51	たらし瓦		SK265	650	E1~E2		不明
(78)SK269	137-52 円形	円形	1.32×1.10 (1.59×(1.50))	94	鉄状			3,250	阿Ⅱ, E1古		1a期
(78)SK271	121-57 円形	円形	1.40×1.24	45	たらし瓦		S1016	900	磨石, E3古		不明
(78)SK273	121-50 楕円形	楕円形	-	50	たらし瓦		SK235	1,080	E2古, E3古		不明
(78)SK274	121-60 不整形	不整形	1.00×0.68	29	重状		S1105	0			不明

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長さ×幅	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重複	土層出土層 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK275	121-70	楕円形	-	33	たらい状		-SK265, -SK296	510阿Ⅱ-E2-3~E3古			前1期	
(78)SK276	121-38	円形	1.50×-	29	皿状	4	SK277	540E			不明	
(78)SK277	121-68	円形	2.15×1.85	40	たらい状	2	SK276	1,950E1新-E2新		銅片3, 香古1	不明	
(78)SK279	121-69	円形	2.40×1.94	62	鉢状		-S1105	4,150阿Ⅳ-E1,E2, E3古, E3古, 尊利		磨石1	1a期	
(78)SK280	121-68	円形	2.24×2.12	45	たらい状	3		850E1, E3		石鏝末1	不明	
(78)SK281	121-77	円形	1.16×1.07	22	たらい状			1,380E2, E2-3			2c期	
(78)SK284	121-79	円形	0.67×0.65	19	ピット状			2,704E2-3, E3古		土鏝2, 磨石2	不明	単地溝壑
(78)SK286	121-67	円形	1.91×1.78 (2.69×1.63)	64	鉢状		SK289	10,650阿Ⅱ, E1古, E1古, E3古, E3古		土鏝2, 磨石2	不明	
(78)SK288	121-96	円形	1.03×1.30	32	たらい状		SK288	1,730E3, E4		甲殻2	不明	
(78)SK289	121-66	円形	0.82×0.76	62	たらい状			1,100E2, E3古			不明	
(78)SK290	121-87	円形	1.71×1.45	76	鉢状			7,720E1新-E2古, E2新-E3, E4		甲殻1, 石鏝1, 磨石1	不明	
(78)SK291A	121-88	円形	2.66×(1.70)	72	たらい状	1	SK291A, SK304--	8,000清水石, 磨石1, E2, E3古, 尊利		土鏝2, 甲殻1, 磨石1, 磨石1	3a期	
(78)SK291B	121-88	円形	1.60×(1.70)	41	たらい状	2	SK291A	760E1古, E3			不明	
(78)SK292	121-78	円形	1.94×1.47	44	たらい状	2		600E			不明	
(78)SK293	121-78	円形	1.67×1.60	76	鉢状		SK294	2,443E1~E2, 尊利			不明	
(78)SK294	121-78	円形	2.20×-	53	たらい状		SK293, SK295	4,150阿Ⅱ, 磨石1, E1古, E3		土鏝1, 磨石2	不明	
(78)SK295	121-68	円形	1.96×-	20	たらい状	1	SK294, SK296	1,540E2, E3			不明	
(78)SK296A	121-78	円形	1.33×-	49	たらい状		SK296B, SK295	750E3古			不明	
(78)SK296B	121-78	円形	1.46×-	49	たらい状		SK296A, SK295				不明	
(78)SK297	121-60	円形	1.93×1.82	56	たらい状	2		4,650E2-3, E3古, 尊利			2c~3a期	
(78)SK298	121-70	円形	1.46×1.36 (1.56×(1.49))	56	鉢状			2,443E1~E2, 尊利			不明	
(78)SK299	121-79	円形	2.44×2.20	39	たらい状	5	SK305, SK306	8,050E2, E3古		磨石2, 磨石1	3a期	
(78)SK300	121-89	円形	1.80×1.68	37	たらい状	2	SK312, SK320	1,380E1, E3古, E3古~E3新		石鏝末1, 石鏝1	不明	
(78)SK302	不整形	不整形	1.38×1.11 1.88×1.60	71	鉢状			4,620阿Ⅱ, E1古, E3古, 磨石1		石鏝3, 磨石1	不明	
(78)SK303	121-98	円形	1.75×(1.68)	98	鉢状			5,110阿Ⅱ, 阿Ⅱ, 磨石1, E1古, E3古		石鏝1, 磨石1	不明	
(78)SK304	121-87	円形	1.70×(2.06)	86	鉢状		-SK291A	6,165阿Ⅱ, 阿Ⅱ, 阿Ⅱ, 磨石1, E3古		石鏝1, 石鏝1	1a期	
(78)SK305	121-70	円形	2.53×-	46	たらい状	1	SK299, SK306, SK307, SK308, SK309, SK310	450E1~E2			不明	
(78)SK306	121-70	円形	0.30×0.75	66	たらい状		SK299, SK305, SK307	30			不明	
(78)SK307	121-70	円形	0.80×-	48	たらい状		SK305, SK306, SK308	0			不明	
(78)SK308	121-70	円形	0.92×-	64	たらい状		SK305, SK307, SK309	20			不明	
(78)SK309	121-70	円形	0.73×-	54	たらい状		SK305, SK306, SK310	210E, 磨石1			不明	
(78)SK310	121-70	円形	1.88×1.80	64	たらい状	1	SK305, SK309, SK311	4,610阿Ⅱ, E1新-E2古			不明	
(78)SK311	121-80	円形	1.05×-	40	たらい状		SK310	650E3古, 磨石1			不明	
(78)SK312	121-80	円形	1.25×-	22	たらい状	1	SK300	250E2古, E3-4		磨石1	不明	
(78)SK313	121-99	不整形	1.41×-	26	たらい状		SK314, SK315, SK316	1,760E1~E2, 磨石1			不明	
(78)SK314	121-99	円形	2.65×-	34	たらい状	2	SK315, SK320, SK347	15,340阿Ⅳ, E3, E3新, 磨石1, 磨石1		磨石1	不明	
(78)SK315	121-99	不整形	1.05×-	46	たらい状		SK313, SK314, SK317	420E1, E3, 磨石1		磨石1	不明	
(78)SK316	121-89	円形	0.98×0.90	50	たらい状		SK313	1,500E3古, E4		石鏝2, 石鏝2	不明	
(78)SK317	121-90	円形	1.14×1.05 (1.45×(1.41))	92	鉢状		SK315	1,720E1, E3古, E3古			不明	
(78)SK319	121-90	円形	2.79×-	51	たらい状	6	SK322, SK329, SK330, SK334, SK347, SK348	16,660阿Ⅱ, 阿Ⅱ, 磨石1, E1古, E3古, 磨石1		甲殻1, 石鏝1, 磨石1	不明	
(78)SK320	121-90	円形	1.75×-	29	たらい状	1	SK300, SK314	10,350E2新-E3新, E3古, 磨石1, 磨石1		土鏝1, 磨石1	不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長×幅×高	深さ (cm)	断面形状	ピット数	重層	土層出土層 (p)	出土土層の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK21	12V-80	円形	1.56×-	39	たらい状	1	SK346	6, 180E1古, E1, 堀1	E1(大甕, 石籠2, 石籠2)		3a期	
(78)SK22	12V-80	円形	-	34	たらい状	1	SK319, SK323, SK324, SK325	4, 900E1, E2, E3, E4			不明	
(78)SK23	12V-81	円形	1.00×-	46	たらい状	1	SK322, SK325, SK326	0			不明	
(78)SK24	12V-80	円形	0.98×0.98	76	たらい状	1	SK322, SK325	0			不明	
(78)SK25	12V-81	円形	0.80×-	86	たらい状	1	SK322, SK323, SK324, SK326	0			不明	
(78)SK26	12V-81	円形	1.02×1.84	63	たらい状	2	SK323, SK325, SK327, SK328	350E1			不明	
(78)SK27	12V-71	円形	1.05×0.96	86	たらい状	1	SK326	0			不明	
(78)SK28	12V-81	円形	2.16×-	44	たらい状	3	SK336, SK348	2, 300E2-3~E1古			不明	
(78)SK29	12V-81	円形	1.20×-	78	たらい状	3	SK319, SK323	570E2-3~E1古, E4		打穿1	不明	
(78)SK30	12V-81	円形	1.60×-	72	たらい状	4	SK319, SK329, SK331	0			不明	
(78)SK31	12V-91	円形	1.38×-	52	たらい状	1	SK330, SK332	0			不明	
(78)SK32	12V-91	円形	1.65×-	56	たらい状	2	SK331, SK333	2, 240E2~E2-3, E3, 曾利, 堀1		浮子1	不明	
(78)SK33	12V-91	円形	2.04×-	40	たらい状	7	SK332, SK335	1, 240E2~E2-3, E3, 曾利, 堀1		石籠2, 石籠1	不明	
(78)SK34	12V-90	円形	3.25×-	28	たらい状	37	S1013, S1014, SK058, SK319, SK335, SK347	29, 47E1古, E4, 堀, 堀1		粘土塊1, 浮子1, 石籠1, 石籠2, 石籠2, 石籠1	6期	
(78)SK35	12V-91	円形	-	34	たらい状	1	S1013, S1014, SK333, SK334, SK336	12, 710E1古, E3-4, E4, 堀, 堀1		土籠1, 円板1, 浮子1, 石籠1, 石籠2, 石籠1	6期	
(78)SK36	13V-00	円形	3.32×-	44	たらい状	19	SK335, SK337, SK338	10, 820E1古, E4, 堀1		土籠2, 石籠1	不明	
(78)SK37	13V-01	円形	-	32	たらい状	2	SK336, SK338, SK339, SK340	7, 260E1, E3, 堀1, 堀2			不明	
(78)SK38	13V-00	楕円形	1.72×0.99	70	たらい状	2	SK002, SK336, SK337, SK339	25, 965E1~E2, E3, 堀, 堀1		土籠1, 円板1, 浮子1, 石籠2, 石籠1	6期	
(78)SK39	13V-11	円形	-	41	たらい状	1	SK002, SK337, SK338, SK340, SK369	31, 850E2, E3, E3, 堀, 堀1		石籠1, 掃帚1	3c期	
(78)SK40	13V-01	円形	3.20×3.07	105	段状	4	SK337, SK339, SK343, SK435	16, 560E1古, E2, E3		円板1, 掃帚2	1a期	
(78)SK41	13V-01	円形	2.72×2.44	54	たらい状	4	SK342, SK343	8, 030E1古, E1古, E3古, E3中		磨石1	不明	
(78)SK42	12V-91	円形	0.91×-	26	たらい状	0	SK341, SK343	0			不明	
(78)SK43	12V-92	円形	-	49	たらい状	1	SK341, SK342, SK344, SK349, SK359	8, 320E1古, E2, E2古, E3新		磨石1	不明	
(78)SK44	12V-82	円形	1.93×-	47	たらい状	3	SK343, SK359	4, 220E2, E2古		石籠1	不明	
(78)SK45	12V-80	円形	0.66×0.54	78	たらい状	1	SK319, SK321, SK347	0			不明	
(78)SK46	12V-80	円形	-	34	たらい状	0	SK314, SK319, SK346	0			不明	
(78)SK47	12V-80	円形	1.96×-	39	たらい状	1	SK328	0			不明	
(78)SK48	12V-82	円形	1.30×-	41	たらい状	1	SK343, SK350, SK473	0			不明	
(78)SK49	12V-92	円形	1.94×1.78	86	たらい状	2	SK349, SK351, SK352	4, 000E2~E3古			不明	
(78)SK50	12V-92	円形	1.50×-	54	たらい状	2	SK350	4, 480E1古, E1古, 新			1期	
(78)SK51	12V-92	円形	1.60×-	66	たらい状	2	SK350, SK353	5, 800E1古, E2, E2-3, E3古-4		円板1	不明	
(78)SK52	12V-82	円形	2.40×1.34	101	たらい状	2	SK352, SK354	0			不明	
(78)SK53	12V-82	円形	-	41	たらい状	1	SK353, SK356, SK371	0			不明	
(78)SK54	12V-85	円形	2.30×-	63	たらい状	1	SK356, SK406	9, 650E1古, E2, E3新, E3-4, E4		土籠1, 円板1, 磨石2, 石籠1	不明	
(78)SK55	12V-85	円形	1.70×1.64	47	たらい状	1	S150E1古, E3新~E3-4	150E1古, E3新~E3-4			不明	
(78)SK56	13E-24	楕円形	2.44×(1.88)	29	たらい状	7	SK358	920E1古, 堀1			不明	
(78)SK57	13E-24	楕円形	1.25×1.14	54	たらい状	2	SK357	1, 600E1古~E1中		土籠1, 磨石1	不明	
(78)SK58	13E-25	円形	-	24	たらい状	2	SK360	650E1古, E1古, 堀1			不明	
(78)SK59	13E-13	円形	-	32	たらい状	1	SK359	820		円板1, 石籠1	不明	
(78)SK60	13E-14	円形	2.04×-	32	たらい状	1	SK359	820			不明	
(78)SK61	13E-52	円形	1.09×0.94	31	たらい状	1	SK304, SK305, SK313	3, 300E3古, E3中		土籠1, 刷子2, 砂片3	3b期	
(78)SK62	13E-52	円形	1.16×1.09	78	たらい状	1	SK305, SK366	0			不明	
(78)SK63	13E-82	円形	1.88×1.80	22	たらい状	1	SK305	210E3古, 加			不明	
(78)SK64	13E-82	円形	1.09×-	28	たらい状	1	SK305	0			不明	
(78)SK65	13E-82	円形	0.74×-	41	たらい状	1	SK305, SK364	0			不明	
(78)SK66	13E-72	円形	1.44×1.56	36	たらい状	1	3, 750E1古, E1古, E3中, 曾利, E4, 加			円板1, 磨石1	不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長×幅×高	築き (m)	断面形状	ピット 数	重複	土留土量 (t)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(70)SK307	131-10	円形	0.67	たらし瓦	67	たらし瓦	S018, SK368, SK679	0			不明	
(70)SK308	131-10	円形	0.86×0.72	111	たらし瓦	111	S017, SK367	440			不明	
(70)SK309	131-11	円形	0.92×0.80	111	たらし瓦	111	S002, SK359	240	阿Ⅲ, E3古		不明	
(70)SK310	121-15	楕円形	2.85×-	23	たらし瓦	2	SK191	0			不明	
(70)SK311	121-72	円形	1.46×-	15	たらし瓦	3	SK354, SK356, SK372	0			不明	
(70)SK312	121-72	円形	-	44	たらし瓦	3	SK371, SK373, SK376	0			不明	
(70)SK313	121-72	円形	-	44	たらし瓦	3	SK372, SK374, SK375, SK376	11, 030	阿Ⅲ, E3古, E3中, E3新, E3-4, E4	阿Ⅲ1, 石籠1, 模形2	不明	
(70)SK314	121-72	楕円形	1.41×1.07	18	たらし瓦	2	SK373	0			不明	
(70)SK315	121-82	円形	1.72×1.64	59	たらし瓦	2	SK373	1, 690	E1, E3古	阿Ⅲ1, 磨石1, 打穿1	不明	
(70)SK316	121-72	円形	1.42×-	33	たらし瓦	1	SK372, SK373, SK377	1, 800	E2, E3, E4	阿Ⅲ1, 石籠1, 磨石1	不明	
(70)SK317	121-75	円形	2.08×1.82	43	たらし瓦	3	SK376, SK406	290	鉄, E1		不明	
(70)SK318	121-51	円形	0.76×-	43	たらし瓦	3	SK209	440	E1, E3, 壘1		不明	
(70)SK319	121-51	円形	1.04×-	56	たらし瓦	3	SK208, SK210	0		磨石1	不明	
(70)SK320	131-15	円形	0.99×1.03	30	たらし瓦	3		200			不明	
(70)SK321	121-94	円形	1.00×0.93	29	たらし瓦	1		200	200	E1～E2	不明	
(70)SK322	131-24	円形	1.45×1.28	31	たらし瓦	1	→S075	7, 050	E1, E2古	石籠1	不明	
(70)SK323	131-41	円形	2.50×2.33	59	たらし瓦	2	S027	22, 810	阿Ⅲ, E1古, E2古, E3古, E3中	阿Ⅲ1, 磨石2, 模形1	2a期	
(70)SK324	131-03	円形	3.17×3.00	66	たらし瓦	3	SK386, SK387	4, 240	阿Ⅲ, E1古, E2古, E3古～E3中, 壘1	阿Ⅲ1, 磨石1, 石籠1	不明	
(70)SK325	131-05	円形	2.32×-	43	たらし瓦	3	SK385	120	E1古, E3古		不明	
(70)SK326	131-83	楕円形	2.10×-	78	たらし瓦	3	SK385	230	E1～E2		不明	
(70)SK327	131-82	円形	0.88×0.87	70	たらし瓦	3	SK385	170	E1～2, E3新		不明	
(70)SK328	131-44	円形	0.84×0.75	59	たらし瓦	3		250	磨		不明	
(70)SK329	131-75	円形	1.24×1.19	26	たらし瓦	2	SK391	1, 720	E1古, E3		不明	
(70)SK330	131-03	円形	1.60×1.53	26	たらし瓦	2	SK390	680	E1古, E3	土壘1	不明	
(70)SK331	131-03	円形	0.80×0.78	126	ビツト状		SK390	680	E1古, E3, 道		不明	
(70)SK332	131-45	円形	2.72×2.52	49	たらし瓦	4	SK390	800	E1, E3, 道		不明	
(70)SK333	131-35	円形	3.14×2.96	52	たらし瓦	4	SK401	2, 000	E1古, E2古, E3古～E3中	石籠1	不明	
(70)SK334	131-21	円形	2.60×2.42	97	袋状	4	SK401	11, 790	阿Ⅲ, E1, E2, E3, 壘1	土壘1, 磨石2, 磨石2	不明	
(70)SK335	131-33	円形	2.42×2.32	48	たらし瓦	4	SK401	1, 540	E3古, E3-4, E4		不明	
(70)SK336	131-16	円形	2.13×1.96	84	袋状	4	SK401	17, 115	阿Ⅲ, 阿Ⅳ, 阿Ⅴ, 磨石1古, E3古～E3		不明	
(70)SK337	121-54	円形	(1.80)×(1.80)	40	たらし瓦	3	SK478, SK518	2, 450	E2古, E3古, E3中～E3新	阿Ⅲ1	不明	
(70)SK338	121-54	円形	2.45×2.33	30	たらし瓦	1	SK478, SK518	1, 650	E2古, E3古, E3中		不明	
(70)SK339	131-43	円形	2.62×2.33	71	たらし瓦	3	SK394	240	E2古, 壘1	阿Ⅲ1	不明	
(70)SK400	131-73	円形	2.00×1.69	30	たらし瓦	5	SK394	240	E2古, 壘1	阿Ⅲ1	不明	
(70)SK401	131-11	円形	2.00×1.76	56	たらし瓦	3	SK394	240	E2古, 壘1	阿Ⅲ1	不明	
(70)SK402	131-42	円形	1.47×-	29	たらし瓦	1	SK404	1, 730	E2古, E3, 道	石籠1	2a期	
(70)SK403	121-96	不明	2.01×1.96	73	たらし瓦	3	S004, SK403, SK425, SK426	2, 430	阿Ⅲ, E1, E4		不明	
(70)SK404	121-96	円形	1.70×1.64	81	袋状	3	SK355, SK377	880	E1, E3	磨石1	不明	
(70)SK405	121-73	円形	(1.71)×(1.67)	37	たらし瓦	2	SK355, SK377	2, 516	E2古, E2-3		2a期	
(70)SK407	141-57	円形	2.10×2.07	47	たらし瓦	2	SK478, SK518	2, 720	E1, E2		不明	
(70)SK408	141-57	円形	1.98×1.24	47	たらし瓦	2	SK478, SK518	1, 100	E1, E3		不明	
(70)SK409	141-56	円形	2.30×2.07	56	たらし瓦	2	SK478, SK518	12, 120	E1, E2-3		2a期	
(70)SK410	141-46	円形	2.30×2.20	56	たらし瓦	3	SK478, SK518	12, 120	E1, E2古, E2古-3	磨石1	2a期	
(70)SK411	141-46	円形	2.38×2.25	60	たらし瓦	3	SK478, SK518	4, 550	E2新～E2-3	土壘1	2b～2c期	
(70)SK412	141-44	円形	1.85×1.85	59	たらし瓦	3	SK478, SK518	100			不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重複	土層出土量 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK413	147-55	円形	2.02×1.92	46	竪状	2		3,220	E1, E2層~E2-3		2b~2c層	
(78)SK414	147-85	円形	2.71×2.35 (3.00×2.55, 仮測)	107	竪状	1		10,750	縄文時代, E2		2層	
(78)SK416	129-47	円形	2.20×1.96	28	たふし穴	1		1,050	E2~E3	靑石	不明	
(78)SK418	138-73	円形	2.40×2.25	31	たふし穴	3	SK419	3,600	E1, E2, E3		不明	
(78)SK419	138-74	円形	0.92×0.89	22	たふし穴		SK418	170			不明	
(78)SK420	147-40	円形	1.66×1.38	38	たふし穴	1		900	E1層		不明	
(78)SK421	129-66	楕円形	1.75×1.41	52	たふし穴	2		100	E2~E3	石皿	不明	
(78)SK422	129-67	円形	2.42×2.36	60	たふし穴	2	→SK032	7,940	縄文時代, E1, E2	石皿	不明	
(78)SK423	147-38	円形	1.92×1.87	63	たふし穴	4		4,700	縄文時代, E1	土皿, 土皿, 石皿1, 石皿1	不明	
(78)SK424	138-20	円形	2.18×2.03	51	たふし穴	2	SK404	490	E1, E2層	打穿1	不明	
(78)SK425	129-96	円形	1.21×1.01	51	たふし穴	1	SK404	90	E1~E2		不明	
(78)SK426	129-96	円形	1.20×1.01	51	たふし穴	1	SK404	2,670	E1, E2層	打穿1	不明	
(78)SK427	145-11	円形	1.95×1.88	59	たふし穴	1	SK428	2,670	E1, E2層	打穿1	不明	
(78)SK428	145-11	円形	1.95×1.88	59	たふし穴	1	SK427	1,180	E2, E2~E2-3	円板1	不明	
(78)SK429	145-11	円形	2.16×2.00	19	たふし穴	1	SK427	60			不明	
(78)SK430	145-21	円形	2.23×2.00	31	たふし穴	1		2,900	E2, E2~E2-3		不明	
(78)SK431	147-36	円形	1.68×1.56	33	たふし穴	11	SK427	850	E1~E2		不明	
(78)SK432	147-59	円形	2.10×2.08	75	たふし穴	1		410		土皿1	不明	
(78)SK433	129-72	円形	1.25×1.40	55	たふし穴	2		1,690	E1~E2, E3	円板1	不明	
(78)SK434	145-20	円形	2.02×1.97	28	たふし穴	2	SK436	1,620	E2層		不明	
(78)SK435	129-66	楕円形	1.57×1.12	44	たふし穴	1	SK435	2,060	縄文時代, E2, E3層	磨穿1	不明	
(78)SK436	129-66	円形	1.20×1.34	38	たふし穴	1	SK435	17,890	縄文時代, E1, E2-3	土皿1, 石皿2	不明	
(78)SK437	147-75	円形	2.11×1.76	70	たふし穴	1		1,720	縄文時代, E3層	円板1, 磨穿1	不明	
(78)SK438	147-08	円形	1.80×1.62	58	たふし穴	1		3,400	E1層		不明	
(78)SK439	147-08	円形	1.90×1.80 (1.75×1.60)	96	竪状	6	SK441	1,220	E2層		不明	
(78)SK440	147-07	円形	2.14×1.90	36	たふし穴	6	SK441	14,220	E2層	磨石1	不明	
(78)SK441	137-97	円形	2.01×1.82	64	たふし穴	1	SK440, SK442	3,600	縄文時代, E1, E2, E3層, 縄文時代, E1層	石皿1, 石皿2	不明	
(78)SK442	137-08	円形	2.31×1.91	43	たふし穴	1		780	E1, E2層		不明	
(78)SK443	129-47	円形	1.70×1.56	26	たふし穴	1		590	E3層, E3層		不明	
(78)SK444	129-63	円形	1.62×1.60	42	竪状	1		3,650	縄文時代, E2~E2-3	土皿1, 打穿1, 石皿1	不明	
(78)SK445	129-51	円形	1.54×1.40	55	たふし穴	1	SK479	3,650	縄文時代, E1, E2~E2-3		不明	
(78)SK446	129-64	円形	2.70×2.18	59	たふし穴	1	SK479	1,300	E1, E2層		不明	
(78)SK447	129-63	円形	1.53×1.40	27	たふし穴	1	SK510	300		石皿2, 石皿2	不明	
(78)SK448	129-71	円形	1.31×1.22	49	たふし穴	1		4,720	縄文時代, E3層		不明	
(78)SK449	129-50	円形	1.92×1.28	90	竪状	1	SK490, SK501	1,700	縄文時代, 縄文時代	磨石1, 磨石1	不明	
(78)SK450	129-63	円形	2.06×1.90	62	たふし穴	1	SK302	4,150	縄文時代, E2, E3層, 縄文時代, E3層, 縄文時代, E3層, 縄文時代, E3層	磨石4, 磨石5	不明	
(78)SK451	129-62	円形	1.68×1.64	44	たふし穴	1	SK300, SK454, SK455	3,120	縄文時代, E2, E3層, 縄文時代, E3層, 縄文時代, E3層	石皿2	不明	
(78)SK452	139-02	円形	-	44	たふし穴	2	SK453, SK516	4,550	縄文時代	石皿2	不明	
(78)SK454	139-02	円形	2.02×1.90	25	たふし穴	1	SK340, SK453, SK454, SK455	2,780	縄文時代, E3層, E4層	石皿2	不明	
(78)SK455	139-02	円形	-	25	たふし穴	2	SK340, SK453, SK454, SK455	3,962	縄文時代, E3層, E4層	石皿2	不明	
(78)SK456	139-12	円形	2.35×2.00	40	たふし穴	4	SK455, SK456, SK496, SK517	1,000	E1, E2~E4層	円板1	不明	
(78)SK457	139-12	楕円形	0.90×0.80	40	たふし穴	1		320			不明	
(78)SK458	139-46	円形	2.20×1.80	40	たふし穴	1		3,620	縄文時代, E2層, E3層	円板1	不明	
(78)SK459	147-28	円形	2.44×2.14	58	たふし穴	4		3,620	縄文時代, E2層, E3層	円板1	不明	
(78)SK460	147-11	円形	2.07×1.90	59	たふし穴	1		3,620	縄文時代, E2層, E3層	円板1	不明	



遺跡No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長径×短径	溝さ (深さ)	新断面 形状	ピット 数	重要	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期
(78)SK641	147-17	円形	2.92×2.25 2.90×2.25 (1.80×(1.72))	68	たらい状	1		1,396E1, E2, E3	土壘1	不明
(78)SK662	147-26	円形	2.10×2.02	97	段状	1		2,890E1, E2, E3	石甕1, 打斧1	不明
(78)SK663	147-16	円形	2.10×2.02	90	たらい状	1		650E1~E2		不明
(78)SK664	148-20	円形	1.12×0.81	68	ピット状			140E1~E2		不明
(78)SK665	148-16	円形	0.90×0.90	116	たらい状			900E3古		不明
(78)SK666	148-15	円形	1.12×1.05	138	たらい状			1,550E1, E2, E3古	ヒコガノ土壘1	不明
(78)SK667	127-84	円形	1.94×1.60	21	たらい状	2		700E1, E2古		不明
(78)SK668	127-85	円形	1.90××	49	たらい状	1		1,770E1~E2, E3古, E4	磨石1	不明
(78)SK669	147-20	円形	1.28×1.24	58	たらい状	1		1,500E3古		不明
(78)SK670	133-60	円形	0.97×0.67	44	たらい状	1		3,680E1, E2古, E3, E3新		不明
(78)SK671	133-19	楕円形	1.32×0.67	50	たらい状	1		260E1, E2古, E3古, E3新		不明
(78)SK672	133-19	円形	1.32×0.67	73	たらい状	1		1,680E1~E2, E3古, E3新~E3-4		不明
(78)SK673	133-92	円形	1.59××	33	たらい状	2		2,600E2, E3古		不明
(78)SK674	133-92	円形	1.70××	31	たらい状	2		2,500E1, E2, E3古, 壺1		不明
(78)SK675	133-82	円形	1.45××	32	たらい状	2		110E1~E2		不明
(78)SK676	133-82	円形	1.83×1.76	18	たらい状	2		620E1古, E2, E3		不明
(78)SK677	133-74	円形	1.30××	64	たらい状	2		760E1~E2, E3	田板2	不明
(78)SK678	123-44	円形	1.29××	32	たらい状	3		7,350E1, E2古, E3古, E3新, E4, 壺1	磨石3	不明
(78)SK679	123-44	円形	2.81××	32	たらい状	3		2,750E2-3-E2古		不明
(78)SK680	123-62	円形	2.30××	61	たらい状	1		910E1古, E2古, E3古, E3中		不明
(78)SK681	124-61	円形	2.00×1.80	52	たらい状	1		6,520E1, E2古, 甕1	ヒコガノ土壘1, 磨石2	不明
(78)SK682	124-61	円形	2.10×1.85	55	たらい状	2	→S068	5,240E1, E2古, E3古, E4, 壺	淳子1	不明
(78)SK683	124-71	円形	1.82×1.80	67	たらい状	2		2,580E2新~E2-3		不明
(78)SK684	147-48	円形	1.90×0.92	97	たらい状	2		740		不明
(78)SK685	133-12	円形	1.80××	36	たらい状	1		520E1古		不明
(78)SK686	133-12	円形	1.80××	31	たらい状	1		1,370E3古, E3-4		不明
(78)SK687	133-12	円形	1.62×0.91	30	たらい状	1		460E2, E3古		不明
(78)SK688	133-40	円形	1.22×1.04	40	たらい状	2		3,460E1古1~2, E3, E3新	土壘2, 磨石1, 石甕1	不明
(78)SK689	138-61	不整形	1.97×1.88	50	たらい状	2	→S023, S660B			不明
(78)SK690	133-19	円形	0.68×0.66	74	たらい状	2		1,750E3古		不明
(78)SK692	133-82	円形	2.04×1.90	30	たらい状	2		6,540E2古, E3古, E3新, E4	石甕1, 石甕1	不明
(78)SK694	133-04	円形	2.04×2.20	50	たらい状	2		270E1古, E2古		不明
(78)SK695	133-04	円形	0.75×0.74	41	たらい状	1		15,270E1古, E2古, E3古, 壺1		不明
(78)SK696	133-04	円形	2.12×2.41	105	たらい状	3		180E1, E2	土壘1, 打斧1	不明
(78)SK697	124-71	円形	1.74×1.58	60	たらい状	3		3,130E1, E2	磨石1	不明
(78)SK698	124-71	円形	1.64×1.36	48	たらい状	3		3,130E1, E2		不明
(78)SK699	147-20	円形	1.80×1.70	68	たらい状	3		340E4		不明
(78)SK500	147-38	円形	1.66××	64	たらい状	1		100E1		不明
(78)SK501	124-61	円形	1.06××	38	たらい状	1		1,150E1		不明
(78)SK502	147-48	円形	1.30×1.48	47	たらい状	1		1,120E1~E2		不明
(78)SK503	147-48	円形	1.98××	19	たらい状	1		4,390E1, E2, E3		不明
(78)SK504	147-48	円形	2.14××	54	たらい状	3		1,700E1古, E3		不明
(78)SK505	138-00	円形	2.29×2.14	44	たらい状	1		3,005		不明
(78)SK506	138-00	円形	2.29×2.14	44	たらい状	1		4,470E1古, E2古	淳子1, 石甕1	不明
(78)SK507	124-84	円形	1.64××	51	たらい状	3		3,800E1古, E3古, 壺1	磨石3	不明

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長径×短径	深さ	断面形状	ピット 数	重複	土器出土層 (G)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)SK509	127-92	不整形	1.77×-	26	たらい状	1	SK313, SK344	1, 040E1, E3古	1, 040E1, E3古		不明	
78)SK510	127-64	円形	1.81×-	58	板状	3	→SK447, SK478	17, 140E1, E2古, E3古	17, 140E1, E2古, E3古	打穿1, 磨穿1	1期	
78)SK511	130-19	円形	(2, 35×2.21)	65	たらい状		SK077, SK549	310E			不明	
78)SK512	127-85	円形	1.02×-	55	たらい状	1	SK054, SK058				不明	
78)SK513	137-65	円形	2.45×2.05	63	たらい状	2	SK494→, SK515, SK532, SK533	5, 310E2→E2-3, E3古, E3中, 磨利	5, 310E2→E2-3, E3古, E3中, 磨利	土層1	不明	
78)SK514	131-03	円形	2.10×-	41	たらい状	3	SK514, SK532	4, 220E2古	4, 220E2古	石籠2, 削片3	3期	
78)SK515	127-60	円形	2.25×-	39	たらい状	2	SK454, SK574			磨穿1	不明	
78)SK516	133-03	円形	1.37×-	41	たらい状	1	SK455, SK456, SK487, SK608	1, 050E1→E2, E4, 70B	1, 050E1→E2, E4, 70B	打穿1	不明	
78)SK517	133-12	円形	1.37×-	28	たらい状	1	SK398	4, 180E1→E2, E3古, E3中	4, 180E1→E2, E3古, E3中	削片3	不明	
78)SK518	127-54	円形	1.49×1.36	29	たらい状	1	SK520	0			不明	
78)SK519	127-54	円形	2.40×-	38	たらい状	1	SK519, SK521, SK528	0			不明	
78)SK520	141-02	円形	2.45×-	33	たらい状	1	SK520	330E, E3, E4			不明	
78)SK521	141-02	円形	1.02×-	26	たらい状	1	SK035→, SK523, SK529	0			不明	
78)SK522	141-02	円形	2.69×-	26	たらい状	4	SK522, SK550	1, 320E3古, E3新? 層1	1, 320E3古, E3新? 層1		不明	
78)SK523	133-92	円形	2.48×-	25	たらい状	6	SK477, SK497	8, 650E1, E2, E3, E4	8, 650E1, E2, E3, E4	削片3	不明	
78)SK525	129-74	円形	1.65×-	58	たらい状	1	SK528	1, 370E1, E2, E3, E4	1, 370E1, E2, E3, E4	磨石1	不明	
78)SK526	127-95	円形	1.52×1.44	84	たらい状	3	SK528	780E1, E3	780E1, E3		不明	
78)SK527	141-12	円形	1.77×-	54	たらい状	1	SK520, SK527, SK529	1, 850E2, E3	1, 850E2, E3		不明	
78)SK528	141-12	円形	1.91×-	40	たらい状	5	SK528, SK530				不明	
78)SK529	141-02	円形	1.92×-	29	たらい状	3	SK529				不明	
78)SK530	141-03	円形	1.95×1.67	45	たらい状	2	SK534, SK535	4, 590E1→E2, 磨利, E3→E4, E4	4, 590E1→E2, 磨利, E3→E4, E4	磨穿1	不明	
78)SK531	127-95	円形	2.22×2.04	37	たらい状	2	SK534, SK535	1, 840E1, E2→E3古	1, 840E1, E2→E3古		不明	
78)SK532	137-03	円形	1.36×1.20	40	たらい状	2	SK534, SK535	1, 070E1, E2, E3古	1, 070E1, E2, E3古		不明	
78)SK533	137-04	円形	-	27	たらい状		SK534, SK535	5, 660E1, E2, E3古, E3新	5, 660E1, E2, E3古, E3新	石籠1	不明	
78)SK534A	127-83	円形	-	52	たらい状		SK467, SK531, SK534B, SK534C, SK553	4, 620E1, E2, E3古, E3新	4, 620E1, E2, E3古, E3新	中板1, 打穿1, 石籠1	不明	
78)SK534B	127-83	円形	-	52	たらい状		SK468, SK534A, SK534B	6, 200E1, E2, E3, E4, 磨, 層1	6, 200E1, E2, E3, E4, 磨, 層1	中板1	不明	
78)SK535	127-75	円形	1.60×-	38	たらい状	1	SK498, SK541	SK537	SK537		不明	
78)SK536	141-41	円形	2.63×-	33	たらい状	1	SK537	SK536, SK548	SK536, SK548		不明	
78)SK537	141-31	円形	1.36×-	58	たらい状	1	SK539, SK644	1, 020E2, E3, E3→E4	1, 020E2, E3, E3→E4		不明	
78)SK538	141-31	円形	1.20×1.10	42	たらい状	1	SK538	2, 000E2, E3古, E3中, 層1	2, 000E2, E3古, E3中, 層1	磨穿1	不明	
78)SK539	141-31	円形	1.69×-	55	たらい状	1	SK538	390E1, E1, E3	390E1, E1, E3		不明	
78)SK540	129-94	円形	-	19	たらい状	1	SK512, SK559	50			不明	
78)SK541	129-75	円形	1.49×-	20	たらい状	1	SK535	540E3新	540E3新		不明	
78)SK542	129-74	円形	1.90×1.43	42	たらい状		SK497	6, 180E3中, 層1	6, 180E3中, 層1	石籠1	不明	
78)SK543	137-68	円形	0.75×0.83	28	たらい状		SK2005	900E1, E2, E3	900E1, E2, E3		不明	
78)SK544	137-68	円形	0.94×0.80	103	たらい状		SK2005				不明	
78)SK545	141-02	円形	0.44×0.49	46	ピット状		SK529	140E	140E		不明	
78)SK546	138-31	円形	2.05×2.05	21	たらい状	2	SK502	1, 250E1, E3	1, 250E1, E3		不明	
78)SK547	138-11	円形	-	73	たらい状		SK555→	11, 620E3古, E3新	11, 620E3古, E3新	中板1, 打穿1, 石籠表1	3期	
78)SK548	141-03	円形	1.37×-	56	たらい状	1	SK537	770E2→E2-3	770E2→E2-3		不明	
78)SK549	141-03	楕円形	2.51×2.34	43	たらい状		SK522, SK523	12, 520E1, E2, E3新, 層1	12, 520E1, E2, E3新, 層1	中板2, 削片4	不明	
78)SK550	141-02	円形	1.69×0.67	59	たらい状		SK552, SK553	0			不明	
78)SK551	138-40	円形	3.40×1.72	73	たらい状	5	SK552, SK560	19, 640E1, E2古, E3中→E3新	19, 640E1, E2古, E3中→E3新	土籠2, 浮子1, 石籠1, 磨石2	不明	
78)SK552	138-41	円形	1.81×1.29	71	たらい状	1	SK551	2, 040E1→E2, E3古	2, 040E1→E2, E3古		不明	
78)SK553	127-94	楕円形	2.40×2.10	56	たらい状	1	SK531, SK534A, SK539	9, 980E1, E2古, E3古, E3中	9, 980E1, E2古, E3古, E3中	土層1, 磨石1	不明	
78)SK554	141-52	円形	1.36×-	42	たらい状	2	→S107, →S037, SK538	1, 570E3古	1, 570E3古	打穿1	3期	
78)SK555	138-11	円形	2.18×2.06	91	たらい状		→SK477, SK546	10, 550E3中, E4	10, 550E3中, E4	土層1, 中板3, 石籠4	3期	

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長×幅(長さ)	積上 (高さ)	新築形状	ピット 数	重要	土壌出土層 (土)	出土土層の時期	その他の主な遺物	所属時期
(78)SK556	130-18	円形	2.30×2.20	68	たふしV状	3	SK472, SK557, SK671	2,760E1~E2, E3		打穿1, 石皿1	不明
(78)SK557	130-60	円形	1.87× -	30	たふしV状	4	SK472, SK556, SK575A, SK629	4,550E1, E2, E3, E4		打穿1, 石皿1	不明
(78)SK558A	130-60	円形	1.87× -	30	たふしV状	4	SK558	800E1, E3, E4			不明
(78)SK558B	130-60	円形	2.65× -	33	たふしV状	1	SK540, SK553	1,650E1		土皿1	不明
(78)SK560	130-40	円形	2.04×2.50	62	たふしV状	2	SK551, SK553	9,750HIV, E1古, E2		土皿2, 磨石1	2期
(78)SK561	130-30	円形	2.30×2.20	64	たふしV状	2	SK583, SK592, SK669	4,300E3古~E3H		石皿1	不明
(78)SK562	141-1	円形	1.36×1.45	79	たふしV状	1	SK107, SK638	1,800E1, E2, E3, 曹司			不明
(78)SK563	141-42	円形	-	34	たふしV状	1	SK605, SK2009	13,800HIV, E1古, E2, E3新			不明
(78)SK566	138-01	円形	1.81× -	36	たふしV状	1	SK555	1,100E2新~E3古		打穿1	不明
(78)SK567	131-13	円形	1.35× -	28	たふしV状	1	SK568	730E1, 曹			不明
(78)SK568	131-13	円形	1.35× -	30	たふしV状	2	SK517, SK597, SK746	250E2, E4			不明
(78)SK569	131-06	円形	2.90×2.80	51	たふしV状	1	SK138	7,480HIV, E1古		磨石1	1a期
(78)SK570	138-42	円形	2.31×2.00	76	たふしV状	1	SK572, SK573	500		磨石1	不明
(78)SK571	141-12	円形	1.05×0.91	93	たふしV状	1	SK571, SK572	6,400E1, E2古, E3古		中級1, 磨石1	不明
(78)SK572	141-22	円形	1.70× -	17	たふしV状	1	SK571, SK572	600E1~E2, 曹司		土皿1	不明
(78)SK573	141-21	円形	1.36× -	21	たふしV状	1	SK516	1,000E1, E3, E4			不明
(78)SK574	131-03	円形	1.12×0.75	54	たふしV状	1	SK557, SK629	180E3古			3期
(78)SK575	141-21	円形	2.32×1.94	30	たふしV状	1	SK580, SK599	2,720E1, E3			3c期
(78)SK576	141-22	円形	1.42×1.01	80	たふしV状	2	SK579	1,290E1, E4			不明
(78)SK577	121-94	楕円形	2.42×1.01	80	たふしV状	2	SK580, SK599	260E2~3~3古			不明
(78)SK578	131-08	円形	1.74× -	30	たふしV状	2	SK579	300E3古, E3新			不明
(78)SK579	138-10	円形	0.90×0.70	66	たふしV状	1	SK579	4,900E2古		石皿1, 磨石1	2a期
(78)SK580	138-00	円形	2.03×2.33	65	たふしV状	1	SK560, SK561	3,500E1古, E3古, E3新		中級2, 石皿2, 磨石2, 磨石1	不明
(78)SK581	141-69	円形	-	48	たふしV状	2	SK560, SK561	6,200E2古, E3古~E4			2a期
(78)SK583	138-40	円形	3.02×2.46	68	たふしV状	2	SK560, SK561	11,050E1古, E3		土皿1, 磨石1	1a期
(78)SK584	141-60	円形	2.15×1.92	81	段状	1	SK560, SK561	2,500HIV, E1, E2			不明
(78)SK586	141-59	円形	(1.59)×(1.59)	53	たふしV状	1	SK560, SK606, SK649	500E3古			不明
(78)SK587	141-78	円形	2.22×2.22	53	たふしV状	1	SK560, SK606, SK649	7,700E1古, E3		石皿1, 磨石1	不明
(78)SK588	157-04	円形	1.97×1.84	38	たふしV状	1	SK589, SK649	290E3古			不明
(78)SK589	131-18	円形	2.35× -	52	たふしV状	2	SK589, SK649	1,400E1~E2, E3古, 曹司		コノリ土器1, 石皿1	不明
(78)SK590	131-19	円形	0.98× -	49	たふしV状	5	SK601	2,400E3H, E3新, 曹司			不明
(78)SK591	131-08	円形	2.10× -	37	たふしV状	5	SK601	2,400E1~2古			不明
(78)SK592	138-31	円形	2.85×1.95	31	たふしV状	1	SK644	9,000E1古, E3		磨石1	1a期
(78)SK593	131-09	円形	2.28×1.92	73	たふしV状	1	SK644	1,600HIV, E1古, E3		磨石1	不明
(78)SK594	141-45	円形	1.96×1.65	85	段状	1	SK606	10,300HIV, 曹		石皿1, 石皿未1, 石皿1	1a期
(78)SK595	141-43	円形	1.25×1.15	67	たふしV状	1	SK733, SK741	磨石2, 石皿1		石皿1, 磨石1	不明
(78)SK596	141-33	円形	2.77×2.53	32	たふしV状	1	SK607B, SK715, SK733	4,650E2, E3		石皿1	不明
(78)SK597	121-65	円形	2.49×2.47	73	たふしV状	1	SK607A, SK614	260E2, 磨石			不明
(78)SK598	138-00	円形	1.21× -	62	たふしV状	1	SK605	2,900E2~E3			不明
(78)SK599	131-19	円形	-	25	たふしV状	2	SK579, SK613	260E2, 磨石			不明
(78)SK600	131-97	円形	1.48×1.13	63	段状	1	SK579, SK613	260E2, 磨石			不明
(78)SK601	131-09	円形	1.78× -	34	たふしV状	2	SK601	2,180E1, E2, E3			不明
(78)SK602	141-88	円形	(2.01)×1.92	47	たふしV状	2	SK601	5,600E1, E2古, E3古, E3古			不明
(78)SK603	141-80	円形	1.98×1.96	41	たふしV状	2	SK601	800E2~E3			不明
(78)SK604A	141-89	円形	2.10× -	37	たふしV状	2	SK603, SK604B	1,170E3古		磨石1, 石皿1	不明
(78)SK604B	141-89	円形	1.72× -	38	たふしV状	2	SK604A, SK611				不明

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長×幅×高	断面形状	ピット 数	重量	土出土量 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)S605	141-42	円形	2.31×2.30 (1.7)×(1.6)	80 たらん状	1	→S107, S652, SK2009	900g E1古, E2			不明	
(78)S606	137-68	円形	2.48×-	33 たらん状	2	SK589, SK2005	7.72g 磨石, E1古, E1新, E3古2		石鏝1	3期	
(78)S607	137-29	円形	2.01×-	40 たらん状	1	SK600, SK6608	3, 200g E1古, E4		石鏝1, 磨石1	4期	
(78)S608	137-28	円形	1.70×1.74	83 たらん状	1	SK630, SK618	3, 300g E3古, E3新			不明	
(78)S609	138-30	円形	1.70×(1.63)	70 段状	1	SK561, SK392	6, 750g E1, E2		土鏝1, 円板1, 原石1	不明	
(78)S610	137-17	円形	3.30×3.17	52 たらん状	9	SK626	8, 970g 磨石, E2, E2-3, 磨石1		石鏝1, 磨石1	2期	
(78)S611	147-99	円形	2.20×2.16	50 たらん状	4	SK604R, SK1215A	6, 670g E2-E3古		磨石3, 磨片1	不明	
(78)S612	147-98	円形	2.20×2.01	53 たらん状	2	SK599	3, 460g E2新-E3古			不明	
(78)S613	137-69	円形	2.74×(2.10)	46 たらん状	2	SK599	760			不明	
(78)S614	137-96	円形	1.70×-	33 たらん状	1	SK597	1, 640g E1-E2		石鏝1	不明	
(78)S615	138-31	円形	1.14×0.95	61 -	1	SK592	810g E3中			不明	
(78)S616	138-32	円形	0.94×0.85	68 たらん状	1	SK106	210			不明	
(78)S617	137-05	円形	2.28×2.21	56 段状	2	SK618	2, 150g E1, E3古			1期	
(78)S618	137-06	円形	(2.38)×(2.43)	26 たらん状	1	SK617, SK619, SK670	650g E1-E2, E3			不明	
(78)S619	137-16	円形	1.38×-	50 たらん状	1	SK618, SK670, SK671	6, 121g E1古, E3, E4, 磨石			5期	
(78)S620	137-09	円形	1.95×-	36 たらん状	4	SK621	3, 000g E1, E2, E3		石鏝1	不明	
(78)S621	137-09	円形	1.12×-	54 たらん状	2	SK620	960g E1, E2, E3		円板1	不明	
(78)S622	147-70	円形	(2.47)×2.13	73 たらん状	2	SK622	3, 200g E1新		磨石1	1期	
(78)S623	147-70	円形	1.84×1.62	45 たらん状	4	SK623	2, 269g E2, E3			不明	
(78)S624	147-44	円形	2.88×2.13	67 たらん状	1	SK624	400g E2, E3			不明	
(78)S625	147-80	円形	1.46×-	43 たらん状	1	SK626	6			不明	
(78)S626	147-80	円形	1.82×1.78 (1.44)×(1.32)	58 段状	1	SK625	3, 350g E2-3, E3古		円板1	不明	
(78)S627	137-09	円形	1.34×-	25 たらん状	2	SK643	440g E3古			不明	
(78)S628	137-30	円形	1.72×1.52	31 たらん状	1	SK664	700g E3		磨石1	不明	
(78)S629	137-18	円形	-	43 たらん状	3	SK57, SK578, SK674	6, 360g 磨石, E1, 円板			1期	
(78)S630	137-28	円形	1.70×1.58	48 たらん状	1	SK606, SK648	4, 050g E1, E3古		石鏝1, 打斧1	3期	
(78)S631	141-51	円形	1.88×1.79	53 たらん状	2	SK633, SK672	1, 850g E1古, E3古		石鏝1	不明	
(78)S632	137-15	円形	2.20×2.04	37 たらん状	2	SK632, SK672	28, 360g 磨石, E1古, E2-3, E3古, E3中		石鏝1, 石皿1	不明	
(78)S633	137-14	円形	3.00×2.64	37 たらん状	2	SK744	3, 100g E1, 磨石1		土鏝1, 磨片6	不明	
(78)S634	137-25	円形	2.52×-	39 たらん状	2	SK634	650g 磨石, E1-E2		打斧2, 磨石1	不明	
(78)S635	137-27	円形	2.51×-	32 たらん状	2	SK680, SK685, SK731	650g 磨石, E1-E2			不明	
(78)S636	137-17	円形	2.09×-	32 たらん状	3	SK662	6, 320g E2古, E3新, E4		円板1, 石鏝3, 磨石1	不明	
(78)S637	141-61	円形	(2.45)×2.10	56 たらん状	3	SK662	3, 220g 磨石, E3, 磨石1		磨石1, 磨片3, 磨片2	不明	
(78)S638	137-04	円形	2.16×1.83	23 たらん状	1	SK662	20, 820g E2古		磨石1, 石皿1	不明	
(78)S639	141-42	円形	2.56×2.37	77 たらん状	7	SK109	600g SK109			不明	
(78)S640	147-92	円形	2.10×1.98	30 たらん状	1	SK109	870g E4		磨石1, 磨石1	不明	
(78)S641	147-92	円形	2.10×1.10	75 たらん状	1	SK109	870g E4		磨石1, 磨石1	不明	
(78)S642	137-40	円形	1.20×1.40	40 たらん状	2	SK627, SK665, SK2006	1, 540g E1, E3			不明	
(78)S643	137-04	円形	2.34×-	28 たらん状	1	SK665	860g E1古			不明	
(78)S644	138-30	円形	2.00×-	32 たらん状	1	SK638, SK628, SK659	4, 600g E2古, E3新, E4			不明	
(78)S645	141-51	円形	1.73×-	24 たらん状	1	SK646, SK647	570g E1, E4			不明	
(78)S646	141-51	円形	-	48 たらん状	2	SK645, SK654, SK655	1, 600g E2古, E3古		打斧1	不明	
(78)S647	141-51	円形	1.85×-	49 たらん状	2	SK608, SK620	650g E2古, E3古			不明	
(78)S648	137-28	円形	-	29 たらん状	1	SK589, SK590, SK663	900g E1古, E3		磨石3	不明	
(78)S649	137-18	円形	-	49 たらん状	1	SK589, SK590, SK663	900g E1古, E3		土鏝1	不明	
(78)S650	157-06	円形	1.66×(1.41)	31 たらん状	1	S3017-1, S651	1, 750g E2古, E3古			不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	断面形状	ピット数	重量	土出土層 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SM651	137-08	円形	1.70×1.49	29	たらい状	1	SK650	4,150 阿IV-E1,E2,E3,E3新		硬質土,石籠石1	不明	
(78)SM652	141-32	円形	0.90×0.70	81	たらい状	1	SK655	950 E1-E2		硬質土	不明	
(78)SM653	137-17	円形	2.16×1.84	48	たらい状	1	SK647, SK655	6,740 阿IV-E1,E2,E3,E3古		黒土2	不明	
(78)SM654	141-50	円形	1.300×	48	たらい状	1	SK647, SK655	5,500 E1,E2,E3,E4, 堀1,堀2			不明	
(78)SM655	141-50	円形	1.67×	48	たらい状	1	SK647, SK655	1,450 E1,E3,E3新			不明	
(78)SM656	141-51	円形	1.40×	39	たらい状	2	SK651	4,500 E2-3→E3古			2c~3a期	
(78)SM657	141-41	円形	2.00×	56	たらい状	1	SK658	2,780 E1,E3,E3新		石籠土,打土磨石1	不明	
(78)SM658	141-41	円形	2.00×	26	たらい状	1	SK662, SK657	0			不明	
(78)SM659	133-39	円形	2.45×1.72	48	たらい状	1	SK664	6,100 阿IV-跡,E1古			1a期	
(78)SM660A	133-19	円形	1.70×1.40	46	たらい状	1	SK607, SK660B	3,260 阿IV-E1,E3		磨石1	不明	
(78)SM660B	133-19	円形	1.12×(1.12)	—	たらい状	1	SK490, SK660A				不明	
(78)SM661	133-29	円形	1.28×2.10 (1.44×(1.37))	86	袋状	8	SK637	2,130 堀2跡,E3		粘土層1	不明	
(78)SM662	141-61	円形	1.85×	66	たらい状	1	SK649	1,850 E1,E2,E3		磨石1,新片7	不明	
(78)SM663	133-18	楕円形	2.70×1.92	40	たらい状	1	SK649	1,850 E1,E2,E3			不明	
(78)SM664A	133-07	円形	2.82×	70	たらい状	1	SK664B	14,650 堀,阿IV-E1~E2,E3古,E4,林		石籠石2,磨石1	3a期	
(78)SM664B	133-07	円形	1.90×	—	たらい状	3	SK643, SK673, SK2066				不明	
(78)SM665	133-49	円形	2.44×	54	たらい状	1	SK650, SK621	3,740 E1,E2,E3,堀1		田板1,炭石1	不明	
(78)SM666	133-69	円形	1.58×	32	たらい状	1	SK683	170 E1,E2,E3			不明	
(78)SM667	141-72	円形	3.20×1.20	48	たらい状	1	SK683	1,750 E1,E2,E3		田板2,石籠土	不明	
(78)SM668	141-43	円形	2.10×	40	たらい状	4	SK683	1,550 E1,E2,E3		田板1,新片4	不明	
(78)SM669	133-21	円形	2.85×2.28	40	たらい状	5	SK704	4,900 E2-3→E3古,磨石,堀1		磨石1,石籠土	不明	
(78)SM670	133-15	円形	2.60×2.45	26	たらい状	4	SK619	1,980 E1,E2,E3			不明	
(78)SM671	133-16	円形	1.02×0.86	107	たらい状	1	SK619	1,380 E2-3,E3			不明	
(78)SM672	133-15	円形	2.23×	20	たらい状	1	SK682, SK633	830 阿IV-E2		土籠土,磨石1,石籠土1	不明	
(78)SM673	133-48	円形	1.21×1.14	34	たらい状	1	SK665, SK606	310 E3,E4		石籠土1,新片3	不明	
(78)SM674	131-18	円形	2.60×	42	たらい状	3	SK656, SK629, SK675, SK719	2,910 阿IV-E1,E3,林,堀1		磨石1	不明	
(78)SM675	131-28	円形	1.81×(1.83)	52	たらい状	1	SK674, SK676, SK690	6,730 E1古,E35~E39			不明	
(78)SM676	131-28	円形	1.40×1.45	42	たらい状	1	SK675, SK690	4,830 中跡,E2,E3古→E3中		田板1,磨石1,磨石1	不明	
(78)SM677	131-29	円形	2.81×2.42	54	たらい状	2	SK677, SK713→	2,980 E1,E3,堀1			1期	
(78)SM678	133-10	円形	0.88×0.94	123	たらい状	1	SK680, SK684, SK707, SK728A	2,450 E4,堀1		打磨土,磨石1,石籠土,磨石1	6期	
(78)SM679	133-36	円形	2.55×1.83	74	たらい状	1	SK685, SK679, SK728A	19,620 阿IV-E1,E2,E3,E4		打磨土,磨石1,石籠土,磨石1	1a期	
(78)SM680	133-37	円形	2.15×	63	たらい状	1	SK692, SK693	4,400 阿IV-E1,E2,E3,堀1,堀2		新片5	不明	
(78)SM681	133-17	円形	1.46×	66	たらい状	1	SK692, SK693	2,950 E1,E2,E3古,E4,林			不明	
(78)SM682	133-22	円形	1.19×1.10	56	たらい状	1	SK668	1,100 E3-4,E4,堀1		田板1	不明	
(78)SM683	141-43	円形	1.83×	45	たらい状	1	SK668	1,520 E1,E2,E3		磨石1	不明	
(78)SM684	133-26	円形	2.32×	40	たらい状	1	SK679, SK728B, SK1558	11,900 阿IV-E1,E2,E3,E4,堀2,加部		石籠土1,打土磨石1	6期	
(78)SM685	133-27	円形	2.71×	39	たらい状	1	SK635	2,150 E1,E2,E3		土籠土1,石籠土1	不明	
(78)SM686	133-27	円形	2.71×	77	袋状	1	SK658	2,950 堀			1a期	
(78)SM687A	143-52	円形	2.24×	30	たらい状	1	SK595, SK687B			石籠土1	不明	
(78)SM687B	143-52	円形	2.05×	46	たらい状	2	SK595, SK687A, SK715	1,050 堀古			不明	
(78)SM688	133-99	不整形	1.80×	—	たらい状	1	SK696→, SK691, SK696	12,940 E2~E2-3,E3古,E4,堀1		石籠土1,石籠土2	6期	
(78)SM689	133-38	円形	(2.32×(1.96))	42	たらい状	4	SK675, SK676, SK710B	9,440 阿IV-阿III-E1古,E2,E3,E4,堀1		石籠土1,磨石1	不明	
(78)SM690	133-29	円形	1.02×0.78	109	たらい状	1	SK688, SK696	650 E1,E3			不明	
(78)SM691	133-49	円形	1.02×0.78	24	たらい状	1	SK688, SK696	2,470 E2,E3,堀1		こぼり土籠土1	不明	
(78)SM692	133-14	円形	1.62×	64	たらい状	1	SK681, SK693, SK694	170 E1			不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長×幅×階	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重複	土出土層 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	西暦時期	備考
78)SK693	13V-14	円形	2.63×-	34	たらし瓦葺	6	SK49, SK681, SK692, SK694 SK692, SK693	2, 700鉄, E1, E2, 壺1 120E1	120E1	瓦葺1, 磨石1	不明	
78)SK694	13V-14	円形	1.22×-	54	たらし瓦葺	6	SK692, SK693	4, 900鉄, E2, 瓶, 壺1	710E1~E2	石籠1	不明	
78)SK695	13V-31	円形	2.84×2.27	37	たらし瓦葺	3	SK691	5, 410阿II, E1古, E3古, E3鉄, 壺1		円形1	不明	
78)SK696	12V-99	円形	0.82×0.81	64	たらし瓦葺	1		3, 410E3中, E3鉄, E3-4		円形2	不明	
78)SK697	13V-21	円形	2.84×(2.69) 2.42×2.44	65	段状	1		6, 550E3中, 草利, E3鉄		磨石2, 磨石1	不明	
78)SK698	13B-61	円形	1.20×1.15	51	たらし瓦葺	1	SK700, SK717	2, 470E2, E2~E3古, E3鉄		土籠1, 磨石1, 石籠1	不明	
78)SK699	13B-60	円形	2.39×2.00	48	たらし瓦葺	2	SK717	4, 300E3古, 壺1		打穿1, 磨石1	不明	
78)SK700	13B-51	円形	1.60×-	47	たらし瓦葺	5	SK698	1, 500E3古, 壺1			不明	
78)SK701	13B-40	円形	2.94×2.89	88	たらし瓦葺	2	SK702	13, 000E1古, E2古, 草利			不明	
78)SK702	13B-00	円形	1.93×-	58	たらし瓦葺	1	SK701	500E2~E2-3			不明	
78)SK703	13V-59	円形	2.10×1.93	71	たらし瓦葺	1	SK699, SK705, SK706	4, 690阿IV, E3, 壺1			不明	
78)SK704	13V-21	円形	2.10×1.93	36	たらし瓦葺	1	SK704, SK706	11, 970E1古, E3古, 瓶, 壺1			不明	
78)SK705	13V-22	円形	2.82×2.44	70	たらし瓦葺	3	SK704, SK705	1, 000E3古			不明	
78)SK706	13V-22	円形	2.82×2.44	70	たらし瓦葺	3	SK704, SK705	1, 000E3古			不明	
78)SK707	13V-36	円形	2.60×-	38	たらし瓦葺	2	SK706	11, 540鉄, E3古, E3鉄, E4, 壺1			不明	
78)SK708	15V-06	円形	1.08×1.08	65	たらし瓦葺	5	SK706	6, 160鉄, E3古~E3中, E3鉄			不明	
78)SK709A	15V-05	楕円形	2.66×2.00	35	たらし瓦葺	5	SK706	3, 550E1, E2, E3中~E3鉄			不明	
78)SK709B	15V-05	楕円形	(3.03)×(2.85)	35	たらし瓦葺	5	SK706	4, 000E1古, E2古, E3中~E3鉄, 壺2			不明	
78)SK710A	13V-28	円形	2.04×-	42	たらし瓦葺	1	SK708, SK709A	9, 900壺1			不明	
78)SK710B	13V-28	円形	2.04×-	42	たらし瓦葺	1	SK710	780E3古, 草利			不明	
78)SK711	13V-59	円形	1.91×1.85	60	たらし瓦葺	3	SK699, SK710A	3, 400E1, E3古			不明	
78)SK712	13V-59	円形	2.81×2.57	55	たらし瓦葺	3	SK699, SK710A	16, 410阿III, 阿IV, 動, 中鉄, E1, E3古2, 草利			不明	
78)SK713	13V-67	円形	2.31×2.02	61	たらし瓦葺	1	--SK678	3, 550E1, E2, E3中~E3鉄			不明	
78)SK714	13V-10	円形	1.97×1.40	53	たらし瓦葺	1	--SK678	3, 550E2古, E3鉄, 壺1, 壺2			不明	
78)SK715	13V-05	円形	2.70×2.21	37	たらし瓦葺	1	SK695, SK687B	4, 000E1古, E2古, E3中, E3鉄~E3古, 壺1, 加部			不明	
78)SK716	13V-44	円形	1.46×-	37	たらし瓦葺	1	SK695, SK687B	0			不明	
78)SK717	13V-51	円形	0.92×1.18	51	たらし瓦葺	1	SK732~	9, 900壺1			不明	
78)SK718	13V-51	楕円形	2.10×-	40	たらし瓦葺	3	SK698, SK699	780E3古, 草利			不明	
78)SK719	13V-00	楕円形	2.85×1.08	35	たらし瓦葺	4	SK698, SK699	3, 400E1, E3古			不明	
78)SK720	14V-90	不整形	2.68×2.42	47	たらし瓦葺	1	SK674	3, 170E2~E3古			不明	
78)SK721	14V-94	円形	1.76×-	42	たらし瓦葺	1	SK732~	3, 810E2~E2-3			不明	
78)SK722	13V-66	円形	2.60×-	44	たらし瓦葺	2	SK721, SK796, SK787	2, 620E1, E2古, E4			不明	
78)SK723	14V-96	楕円形	1.75×-	58	たらし瓦葺	4	SK750	5, 450E1古, E2古, E3鉄, 壺1			不明	
78)SK724	14V-34	楕円形	2.46×-	31	たらし瓦葺	1	SK750	5, 700阿IV, E1古			不明	
78)SK725	14V-34	楕円形	2.00×1.94	23	たらし瓦葺	1	SK750	1, 380E1古, E3古			不明	
78)SK726	14V-34	楕円形	2.00×1.41	23	たらし瓦葺	1	SK750	500鉄, E3			不明	
78)SK727	14V-15	円形	1.05×1.41	23	たらし瓦葺	1	SK679, SK680, SK728A, SK728B, SK721	550阿III, E3古			不明	
78)SK728	13V-37	円形	(2.00)×-	71	たらし瓦葺	1	SK694, SK728A	100			不明	
78)SK729	13V-17	円形	1.30×1.25	36	たらし瓦葺	1	SK694, SK728A	2, 480E2, 壺1			不明	
78)SK730	13V-29	円形	1.79×1.62	48	たらし瓦葺	1	SK694, SK728A	2, 750E1古, E3古			不明	
78)SK731	13V-37	円形	3.01×-	44	たらし瓦葺	3	SK635, SK728A, SK767, SK1559	5, 900阿IV, E3古, E3鉄			不明	
78)SK732	13V-57	楕円形	2.92×-	44	たらし瓦葺	3	--SK716	2, 130E2古, E3古, 砵			不明	
78)SK733	14V-43	円形	1.99×-	39	たらし瓦葺	2	SK695, SK696	50			不明	
78)SK734	13V-29	円形	2.10×1.00	54	たらし瓦葺	3	SK752, SK772	2, 020E1古~E2古, E3古2, 磨石1			不明	
78)SK735	13V-29	円形	1.83×(1.70)	42	たらし瓦葺	2	SK772	900E1古, E3古			不明	
78)SK736	13V-46	円形	(2.80)×(2.23)	48	たらし瓦葺	2	SK1554	11, 250E1古, E3古, E4古, 壺1			不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長×幅×高	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重量	土器出土量 (g)	出土土器の種類	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK739	13V-35	円形	2.02×(1.71)	81	たらい状	1		5,990E2-3, 壺1		土器2	不明	
(78)SK740	13V-47	円形	1.05×1.00	103	たらい状	1		3,100E1,E2,E3, 壺1			不明	
(78)SK741	14V-33	円形	1.33××	30	たらい状	1	SK96	0			不明	
(78)SK742	13V-55	円形	3.01×2.27	58	たらい状	2			1,800IV,E1,E2		1a期	
(78)SK743	13V-67	円形	3.40×3.27	58	たらい状	4			10,250IV, 壺1, E1, E2, E3, E4, 壺1		4期	
(78)SK744	13V-25	円形	1.38××	69	たらい状	1	SK634		3,450E1,E2, 壺1		不明	
(78)SK745	13V-30	円形	(1.50×(1.44))	43	たらい状	3			5,510E1,E2,E3, 壺1	土器1	3a期	
(78)SK746	13V-29	円形	(2.27×2.33)	45	たらい状	3	SK747		2,820IV, 壺1		3b期	
(78)SK747	13V-39	円形	2.28×2.14	40	たらい状	1	SK746, SK748		2,860IV, 壺1, E1, E2		不明	
(78)SK748	13V-38	円形	2.27××	38	たらい状	4	SK747, SK773		6,650E1,E2,E3,E4, 壺1	磨石1	不明	
(78)SK749	13V-48	円形	2.09×2.50	103	たらい状	2	SK765, SK800		10,610E1,E2,E3,E4, 壺1	磨石1, 磨石1	不明	
(78)SK750	13V-66	円形	1.35×1.30	52	たらい状	1	SK723		1,300IV,E3	土器1	不明	
(78)SK751	14V-35	円形	1.97××	37	たらい状	1	SK694, SK848		450		不明	
(78)SK752	14V-68	円形	(1.04×)	39	たらい状	1	SK694, SK848		1300		不明	
(78)SK753	13V-32	円形	1.40×1.22	68	たらい状	1	SK765		800E3,E4		不明	
(78)SK754	13V-08	円形	1.34×1.20	54	たらい状	1	SK754		2,200E1,E2,E3, 壺1, 壺1	石籠土1	不明	
(78)SK755	13V-08	円形	1.12××	36	たらい状	1	SK754		1,250E3		不明	
(78)SK756	13V-79	円形	1.38××	45	たらい状	1	SK757		510E3		不明	
(78)SK757	13V-79	円形	1.70××	46	たらい状	1	SK756, SK756		900		不明	
(78)SK758	13V-68	円形	2.72×2.55	70	段状	1	SK759, SK771		16,370IV, 壺1, E1, E2, E3, E4	土器2, 皿板1, 打石1, 磨石1	1a期	
(78)SK759	13V-66	円形	1.45××	79	段状	1	SK758		6,570IV, 壺1, E3, E4	石籠土1	1a期	
(78)SK760	15V-32	円形	1.78×1.08	41	たらい状	1	SK762		3,220E3, E3, 壺1	石籠土1, 磨石2	3a~3b期	
(78)SK761	15V-32	円形	2.01×1.63	60	たらい状	3	SK762		1,230E1,E2,E3,E4	磨石1	不明	
(78)SK762	15V-32	楕円形	1.28×1.05	55	たらい状	3	SK761, SK763		1,495IV, E2,E3,E4		不明	
(78)SK763	15V-31	楕円形	1.95××	44	たらい状	1	SK762, SK764		140E3		不明	
(78)SK764	15V-31	楕円形	1.20××	34	たらい状	1	SK763, SK1526		165E3		不明	
(78)SK765	13V-48	円形	1.88××	75	たらい状	1	SK749, SK800		6,450IV, 壺1, E1, E2		不明	
(78)SK766	13V-13	円形	1.19××	30	たらい状	1	SK568		0		不明	
(78)SK767	13V-38	円形	2.25××	35	たらい状	2	SK731		7,440E3, 壺1	土器1, 石籠土1, 石籠土1	3a期	
(78)SK768	14V-48	円形	××××	69	たらい状	1	SK768, SK769		2,320E2-3-3, 打石	石籠土1, 磨石1	不明	
(78)SK769	14V-48	円形	××××	69	たらい状	1	SK768, SK768				不明	
(78)SK770	13V-99	円形	1.53××	44	たらい状	2	SK768		488E2~E2-3		不明	
(78)SK771	13V-69	円形	1.12××	46	たらい状	2	SK768		1,000E2~E3	磨石1	不明	
(78)SK772	13V-69	円形	1.67××	46	たらい状	3	SK768		900IV, E1		不明	
(78)SK773	13V-28	円形	2.38××	34	たらい状	3	SK736, SK737		740E2~E2-3	磨石1	不明	
(78)SK774	13V-28	円形	2.20×1.98	51	たらい状	4	SK748		8,100E1,E2,E3, 壺1, 壺1		不明	
(78)SK775	13V-30	円形	2.49×1.72	44	たらい状	3	SK775		4,210E1,E2,E3		不明	
(78)SK776	12V-96	円形	1.92×1.98	82	段状	1	SK768		3,680IV, 1b, 何皿, E3, E4	磨石1	不明	
(78)SK777	12V-98	円形	(1.64×(1.71))	82	段状	4	SK768		2,450E2		不明	
(78)SK778	13V-99	円形	2.38×2.00	32	たらい状	4	SK778		2,450E2		不明	
(78)SK779	14V-59	円形	3.05××	82	段状	3	SK777, SK814B		3,340E1,E3	石籠土1, 磨石1	1a期	
(78)SK780	14V-59	円形	1.93×1.70	33	たらい状	1	SK777, SK814B		900IV, E1, 壺1		不明	
(78)SK781	14V-59	円形	2.41×2.00	30	たらい状	2			1,980E1,E2,E3, 作	土器1, 皿板1, 石籠土1, 磨石1	不明	
(78)SK782	14V-95	円形	1.27×0.98	100	たらい状	1			2,710E1,E3, 壺1		不明	
(78)SK783	14V-85	円形	1.83×1.77	38	たらい状	2	SK784		1,100E1,E3, E3, 壺1		不明	
(78)SK784	14V-85	円形	1.96×1.54	24	たらい状	2	SK783		4,740E2,E3, 壺1		不明	
(78)SK785	14V-95	円形	1.82×1.63	43	たらい状	1	SK787		1,070E1,E3, 壺1		不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長径×短径	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重量	土層出土層 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	採掘時期	備考
(78)SK786	135-04	円形	1.79×1.70	49	たふし穴	1	SI109, SK722	2, 100E1, E3古	不明	磨石1	不明	
(78)SK787	141-05	円形	2.07×-	35	たふし穴	1	SK722, SK785	160	不明		不明	
(78)SK788	135-11	円形	0.83×0.66	36	たふし穴			1, 680E3古2	不明	円板1	不明	
(78)SK789	135-11	円形	1.18×1.02	56	たふし穴			1, 810E1古, E3新	不明	円板1	不明	
(78)SK790	133-08	楕円形	2.39×2.25	66	たふし穴	1	SK827	3, 700新, 阿V, E1古, E3古	不明	滑子1, 石籠2, 石籠3	不明	
(78)SK791	133-08	楕円形	1.85×1.23	27	たふし穴	1	SK842	1, 310E1古, E3古, 新	不明	打穿1, 新片3	不明	
(78)SK792	141-08	円形	2.11×-	50	たふし穴	2	SK818, SK845	2, 110E1古, E3古, 新	不明	打穿1, 石籠1	不明	
(78)SK793	135-00	円形	2.35×-	33	たふし穴	2	SK794, SK1237	7, 880新, E2-E3-4, E4, 加部	不明		不明	
(78)SK794	135-01	円形	1.82×-	36	たふし穴	2	SK793, SK1236	550E3古	不明		不明	
(78)SK795	135-10	円形	1.62×1.50	62	たふし穴	2	SK798	260E1古, E3古	不明		不明	
(78)SK796	130-06	円形	(2.41)×2.32	42	たふし穴	4	SK798	2, 810E1古, E3古-E3新	不明	石籠4	不明	
(78)SK797	130-06	円形	1.65×-	49	たふし穴			300E3古-E3古	不明		不明	
(78)SK798	130-06	円形	0.99×0.89	34	たふし穴		SK796, SK797, SK799	950E1, E3	不明		不明	
(78)SK799	130-06	円形	1.39×-	40	たふし穴		SK798	660E3	不明		不明	
(78)SK800	130-48	円形	1.82×(1.84)	106	たふし穴	1	SK749, SK765	3, 550E1, E2, E3古-E3新, 新	不明		不明	
(78)SK801	130-97	円形	2.41×2.51	24	たふし穴		SK1020	900新, E1-E2, 新, 新1	不明	石籠1, 磨石1	不明	
(78)SK802	143-37	円形	2.07×-	28	たふし穴			780新, 新1	不明	土籠1, 円板2, 滑子1, 石籠1, 磨石1	不明	
(78)SK803	135-47	円形	2.75×2.60	94	縦状			34, 600何V, 磨石, E1古, E3古, 新1	不明	磨石1	不明	
(78)SK804	135-43	円形	1.50×-	40	たふし穴	1	SI111-	3, 600E2, E3古	不明		不明	
(78)SK805	135-00	円形	2.00×1.74	57	たふし穴			2, 530E2-3, E3古, E3新	不明		不明	
(78)SK806	141-45	円形	1.67×-	28	たふし穴	2	SK394, SK824	4, 240E3古, E3新	不明		不明	
(78)SK807	141-18	円形	-	32	たふし穴	1	SK806	950E1古, E3古-E3古, E3新	不明		不明	
(78)SK808	141-08	円形	2.51×2.44	45	たふし穴	4	SK752, SK809, SK825	4, 750E2, 新1	不明	磨石1	不明	
(78)SK809	141-18	円形	1.60×-	39	たふし穴	2	SK142, SK808	3, 050E3, E4, 新, 新1	不明		不明	
(78)SK810	141-17	円形	3.00×2.82	59	たふし穴	8	SK806	阿V, 阿V, 白粉, E2, E3古, 磨石, E3	不明	土籠1, 打穿1, 石籠1	不明	
(78)SK811	135-35	円形	1.45×1.32	43	たふし穴	1	SI110	13, 280新, 新, 新1	不明		不明	
(78)SK812	141-17	円形	1.20×-	28	たふし穴	3	SK813, SK850	10	不明		不明	
(78)SK813	141-07	円形	2.00×-	20	たふし穴	3	SK812, SK851	600新, E3	不明		不明	
(78)SK814	133-89	円形	1.22×-	77	たふし穴	1	SK814	800E3, 新1	不明	石籠1	不明	
(78)SK815	133-89	楕円形	(1.72)×1.22	42	たふし穴	1	SK778, SK314A	3, 730E1, E3	不明	打穿2	不明	
(78)SK816	133-45	円形	2.26×2.07	65	たふし穴	1	SK846-	7, 050E3古-E3古, E4, 新1	不明		不明	
(78)SK817	135-44	円形	1.92×-	66	たふし穴	1	SI111-	9, 400E1, E2, E2-3	不明		不明	
(78)SK818	141-08	円形	1.11×1.03	37	たふし穴	2	SK816	2, 180E1-E2, E2-3	不明		不明	
(78)SK819	135-01	円形	1.71×1.56	39	たふし穴	2	SK792, SK343	820E1-E2, E3古	不明		不明	
(78)SK820	135-00	円形	0.81×0.83	42	たふし穴	2	SK821	490	不明		不明	
(78)SK821	135-01	円形	2.44×-	43	たふし穴	2	SK819, SK828	69	不明		不明	
(78)SK822A	135-10	円形	2.19×-	46	たふし穴	2	SK829	2, 410E1-E2, E2-3, E3-4	不明		不明	
(78)SK822B	135-10	円形	1.55×-	50	たふし穴	1	SI042, SK822A	2, 300E1古, E3新	不明	滑子1, 砥石1	不明	
(78)SK823	141-05	円形	1.20×0.98	50	たふし穴	1	SK014, SK1057	270E3古	不明	圓形1	不明	
(78)SK824	141-45	円形	1.40×1.08	48	たふし穴	2	SK806, SK855, SK914	0	不明		不明	
(78)SK825	141-06	円形	1.77×-	46	たふし穴	2	SK808	500E2, E3新-E3-4	不明		不明	
(78)SK826	137-87	円形	2.20×-	44	たふし穴	2	SK84, SK871, SK2007	2, 510新, E3古, 新	不明		不明	
(78)SK827	137-06	円形	1.80×1.54	67	たふし穴	2	SK790, SK843, SK862	2, 610新, E3古	不明		不明	
(78)SK828	135-11	楕円形	1.20×1.03	75	たふし穴	1	SK821	110E3古	不明		不明	
(78)SK829	130-07	楕円形	2.65×2.22	59	たふし穴	1	SK821	1, 400新, E1, E2, E3	不明		不明	
(78)SK830A	133-88	円形	2.46×-	49	たふし穴	3	SK830B	2, 780E1, E2, E3古, 新	不明		不明	
(78)SK830B	133-88	円形	1.52×-	49	たふし穴		SK830A		不明		不明	



調査No.	位置	平面形状	規模 (m) 長さ×幅	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重量	土層出土層 (層)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期
(78)S831	14F-08	円形	2.00×2.11	48	袋状			2,100	阿IV-E1古		1a期
(78)S832	14F-07	円形	0.40×0.74	85	たらい状				1,130	阿III~IV前期 埴	不明
(78)S833	13F-07	円形	2.13×2.41	85	たらい状	5	S8334, S8356, S8365, S8353	3,700	阿I新E3, 埴1		不明
(78)S834	13F-07	円形	2.68×2.68	50	たらい状	2	→S825, S833, S8365	1,400	阿IV		2a期
(78)S835	14F-07	円形	2.70×2.68	50	たらい状			10,720	阿I新E3, 埴2	磨赤1, 削片3	1a期
(78)S836	14F-06	円形	3.15×2.15	98	袋状			4,080	阿I新E3, 埴1		不明
(78)S837	14F-06	円形	1.90×2.00	46	たらい状	1	S8338	3,300	阿I-E2, E3古	石磨1, 削片3	2c期
(78)S838	14F-06	円形	1.14×(1.01)	52	たらい状		S8337	1,310	阿I b, 阿I古		不明
(78)S839	14F-06	円形	1.91×1.80	58	たらい状	5	→S843, S8359, S8363	5,470	E2-3, 埴4, 埴	→F7土器1	2c期
(78)S840	14F-07	楕円形	1.30×1.45	38	たらい状	3		3,300	E3古~E4中, 埴1	石磨1, 磨赤1	不明
(78)S841	13F-08	円形	0.73×0.67	63	たらい状	1	S8791, S8343	1,360	E1古, E3中		3a期
(78)S842	13F-08	円形	1.30×1.45	62	たらい状	1	S8791, S8343	1,360	E1古, E2	削片3	3a期
(78)S843	13F-08	円形	0.73×0.67	63	たらい状	1	S8791, S8343	1,360	E1古, E2		不明
(78)S844	13F-07	円形	2.82×2.25	46	たらい状	1	S8792, S8347, S8342, S8345	3,300	阿I新E3, 埴1		不明
(78)S845	14F-07	円形	1.18×0.90	127	たらい状		→S815	3,792	E3古, E2古, E3古	磨赤1	不明
(78)S846	13F-45	円形	1.40×1.00	127	たらい状		→S815	3,792	E3古, E2古, E3古	磨赤1	不明
(78)S847	15F-11	円形	2.35×2.00	44	たらい状	2	S8385, S8386, S8387, S8126	2,500	阿I新E3, 埴1		不明
(78)S848	14F-06	円形	2.39×2.27	53	たらい状	5	S8751, S81655	1,800	E1古, E2古, E3古	磨赤1, 石磨1	不明
(78)S849	14F-06	円形	2.39×2.27	53	たらい状	2	S8350	3,400	E1古, E2古, E3古	磨赤1, 石磨1	不明
(78)S850	14F-06	円形	2.40×2.12	70	たらい状	2	S8349, S81009	3,700	E1古, E2古	磨赤1, 石磨1	不明
(78)S851	13F-08	楕円形	2.40×1.50	45	たらい状	1	S8378	3,100	E1古, E3古, E4	石磨1, 磨赤1	不明
(78)S852	13F-06	円形	1.89×1.92	63	たらい状		→S815, S8338	2,090	E3, 埴1	磨赤1	6期
(78)S853	13F-45	円形	3.50×2.50	56	たらい状	3	S8353A	8,080	阿I新E1古, E2, E3, 埴1		不明
(78)S854	14F-05	円形	1.31×2.00	56	たらい状	1	S8353, S8124	500	E3古		不明
(78)S855	14F-04	円形	2.33×2.30	53	たらい状	4	S834, S834, S891E, S8124	7,360	E1古, E3古, E3中	石磨1	1a期
(78)S856	13F-06	円形	2.40×2.12	70	たらい状	2	S8353, S8371, S8207	6,310	E1古, E2古~E3古	石磨1, 削片7	不明
(78)S857	15F-25	円形	2.66×2.66	14	たらい状	3		2,710	E2~E3		不明
(78)S858	15F-02	円形	2.25×2.00	46	たらい状	2	S8386, S8387, S897A, S8123	2,770	E1E2, E3, 埴1	磨赤1	不明
(78)S859	14F-27	円形	2.15×2.00	40	たらい状	2	S8359, S8370	1,950	阿I新E2, E3		不明
(78)S860	14F-16	円形	2.11×2.06	54	たらい状	3	S8396	5,170	E3古		不明
(78)S861	14F-07	円形	2.30×2.85	67	袋状	1	S8313, S8380, S8365, S8369, S8064	8,690	阿I新E1古, E2-3	石磨1, 削片1	2c期
(78)S862	13F-07	円形	1.63×2.00	42	たらい状	4	S8257, S8345	2,300	E1古, E2古, 埴1	削片1, 磨赤1, 石磨1	1a期
(78)S863	13F-06	円形	1.79×1.08	125	たらい状	1	S872, S8326	14,750	阿I新E3, 埴1	阿I新E2, 磨赤1, 磨赤1	6期
(78)S864	13F-87	円形	2.46×2.35	62	袋状	1	S826	3,250	E3, E4, 埴	磨赤1	不明
(78)S865	14F-07	円形	1.07×2.00	20	たらい状	2	S8353, S8354, S8362	148	E3, E4		不明
(78)S866	14F-18	円形	1.05×2.00	20	たらい状	1	S8307, S8310	2,120	E1古, 埴		1a期
(78)S867	14F-18	円形	2.88×2.60	69	袋状			13,430	阿I新E1古, 阿I古		1a期
(78)S868	14F-20	円形	3.00×2.90	77	袋状			2,160	阿I新E1古		1a期
(78)S869	14F-24	円形	2.44×1.99	48	袋状			8,450	阿I新E1古	磨赤1	1a期
(78)S870	14F-26	円形	2.00×1.73	30	たらい状	1	S8359	3,130	E1, E2		不明
(78)S871	13F-06	円形	2.00×1.73	30	たらい状	2	S826, S8356, S8207	1,450	E1E2, E3古		不明
(78)S872	13F-06	円形	2.38×2.00	66	たらい状	2	S8363, S8326	9,320	E1古, E2古, E3古, 埴, 埴1	磨赤1, 削片3	6期
(78)S873	14F-24	円形	1.31×1.04	50	たらい状	1	S8374	7,000	E1, E3中~E3新, 埴1		不明
(78)S874	14F-15	円形	0.81×0.78	57	たらい状		S8373	1,600	E3古		不明

遺構No.	位置	平面形状	規模(長さ×幅) (m)	構造	断面形状	ピット 数	重複	土壁出土層 (位)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)S0875	141-30	円形	2.26×2.05	50	たらし瓦	1	S0881	2, 626E1, E2, E3, 称	1, 270E1, E2, E3, 称	打石1 瓦片, 磨石1, 磨石1	不明	
78)S0876	141-49	円形	2.26×2.24	36	たらし瓦	1	S0888	5, 180E1, E2, E3, 称	2, 900E1, E2, E3		1a期	
78)S0877	141-11	円形	2.47×2.20	36	たらし瓦	2	S0888	2, 900E1, E2, E3	1, 270E1, E2, E3, 称		不明	
78)S0878	131-88	円形	1.70×1.54	41	たらし瓦	1	S0851	2, 70E1, E2, E3, 称	1, 270E1, E2, E3, 称		不明	
78)S0879	141-75	円形	1.90××	41	たらし瓦	1	S0879, S0901, S0902	1, 610E1, E2, E3, 称	1, 270E1, E2, E3, 称		不明	
78)S0880	141-17	円形	2.70××	26	たらし瓦	1	S0812, S0861	920E1, E2, E3, 称	920E1, E2, E3, 称	石蔵床, 磨石1	1a期	
78)S0881	141-59	円形	2.70××	26	たらし瓦	1	S0876	8, 210E1, E2, E3, 称	8, 210E1, E2, E3, 称		不明	
78)S0882	131-46	円形	0.84×0.82	65	たらし瓦	1	S0817	420E1	2, 780E1, E2, E3		不明	
78)S0883	131-45	円形	1.99××	69	たらし瓦	1	S0817	420E1	2, 780E1, E2, E3		不明	
78)S0884	141-29	円形	2.25×2.10	46	板状			5, 100E1	阿Ⅳ, 阿Ⅴ, 古	台石1	1a期	
78)S0885	131-12	円形	1.32×1.13	68	たらし瓦		S0847, S0423	096	1, 270E1, E2, E3, 称	石蔵2	3a期	
78)S0886	131-12	円形	0.79×0.72	21	たらし瓦		S0858, -S0857	1, 270E1, E2, E3, 称	石蔵2	石蔵1	3a期	
78)S0887	131-11	円形	1.70×1.69	61	たらし瓦		S0877, S0356, S0666→	4, 150E1, E2, E3, E4, 称, E4	石蔵1	石蔵1	2c期	
78)S0888	141-11	円形	0.73×0.68	77	たらし瓦		S0853, S0366, S0668	440E1, E3	磨石1, 打石1	磨石1, 打石1	不明	
78)S0889	131-96	円形	2.12××	48	たらし瓦		S0842→	3, 860E1, E2, E3, 称	石蔵1, 磨石1	石蔵1, 磨石1	不明	
78)S0890	141-29	円形	1.92×1.78	50	たらし瓦		S0891B, S0900	2, 400E1, 古, 称	円灰1, 磯部1, 磨石1		不明	
78)S0891A	141-76	円形	1.25×1.12	62	たらし瓦		S0891A, S0900	8, 250E1, E2, E3, E3	磨石1		不明	
78)S0891B	141-76	円形	1.12××	55	たらし瓦	2	S0893, S0301A, S0301B	2, 900E1, E2, E3, E3			不明	
78)S0892	141-26	円形	2.26××	38	たらし瓦	2	S0859, S0392, S0894	2, 900E1, E2, E3, 称			不明	
78)S0898	141-06	円形	1.98××	32	たらし瓦	1	S0859, S0392, S0894	2, 900E1, E2, E3, 称			不明	
78)S0899	141-16	円形	1.92××	16	たらし瓦	2	S0859	1, 200E1, E2, E3, 称			不明	
78)S0894	141-16	円形	1.57×1.49	58	たらし瓦	2	S0861, S0398	1, 200E1, E2, E3, 称			不明	
78)S0895	141-16	円形	1.57×1.49	58	たらし瓦	2	S0860, S0396, S0897	610E1, E2			不明	
78)S0897	141-16	円形	2.25×2.10	52	たらし瓦		S0896, S0398	100			不明	
78)S0898	141-06	円形	2.70××	46	たらし瓦	2	S0895, S0396, S0897, S0905, S0906	4, 180E1, E2, E3, 称, E3, E3→E4, 称			不明	
78)S0899	141-06	円形	2.05××	51	たらし瓦	2	S0861, S0904, S0953, S0956	3, 860E1, E2, E3, 称, E4, 称			不明	
78)S0900	141-76	円形	1.57×1.49	58	たらし瓦	1	S0891A, S0891B, S0903	3, 860E1, E2, E3, 称, E4, 称, E4, 称	磨石1, 石蔵1		不明	
78)S0901	141-75	円形	1.25××	63	たらし瓦	2	S0879, S0903	1, 300E1, E2, E3, 古, E3, 古, E3, 古, 古, 古, 古, 古	磨石1		不明	
78)S0902	141-76	円形	0.92×0.77	62	たらし瓦		S0879, S0903	300E1, E3, 古, 古			不明	
78)S0903	141-76	円形	1.28××	24	たらし瓦		S0900, S0901, S0902	0			不明	
78)S0904	141-06	円形	1.28××	24	たらし瓦	1	S0901, S0899, S0906	100E1, E3			不明	
78)S0905	141-06	円形	0.78××	73	たらし瓦	1	S0901, S0899, S0906	1, 250E1, 称			不明	
78)S0906	141-06	円形	1.91××	49	たらし瓦	4	S0904	400E2→E3, 称			不明	
78)S0907	141-06	円形	1.12×1.07	44	たらし瓦		S0908→	1, 600E1, E2, E3, E3→新		石蔵床1	不明	
78)S0908	141-06	円形	0.66×0.62	47	たらし瓦		S0908→	800E1, E2, 称			2a期	
78)S0909	141-35	円形	1.90×1.08	44	たらし瓦		S0911, -S0917	4, 050E1, E4, 称, 堀1		土製蓋, 円灰1, 削片3	不明	
78)S0910	131-46	円形	1.58××	22	たらし瓦		S0910	3, 700E2-3			2c期	
78)S0911	131-46	円形	0.72×0.65	66	たらし瓦		S0910	280E2-3, E4			不明	
78)S0912	131-43	円形	2.34×2.05	54	たらし瓦	3	S0910	7, 070E1, E2, E3, 古		石蔵3, 削片3	3a期	
78)S0913	131-46	円形	2.34×2.05	54	たらし瓦	3	S0910	1, 900E1, E2, E3, 古, E4			不明	
78)S0914	141-10	円形	2.47×2.49	23	たらし瓦	1	S0823, S0824, S0825	3, 400E1, E2, E3, 古		砥石1, 打石1, 石蔵1	1a期	
78)S0915	141-55	楕円形	1.90×(0.73)	61	たらし瓦	1	S0823, S0824, S0825	5, 760E1, 称, 堀1		削片3	6期	
78)S0919	131-46	円形	1.71××	47	たらし瓦		S0883, S0910→	1, 080E1			不明	
78)S0918	141-38	円形	2.86×2.71	66	たらし瓦		S0923	7, 380E1, E2, E3, 称		子丁土器2, 土蔵1, 磨石1, 削片4	1a期	
78)S0919	141-47	円形	2.86×2.71	66	たらし瓦	1	S0920	3, 860E1, E2, E3, 称, 堀1		円灰1, 打石1, 石蔵床1	不明	
78)S0920	141-47	円形	2.86×2.71	66	たらし瓦	2	S0919	3, 860E1, E2, E3, 称			不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長さ×幅	深さ	断面形状	ピット 数	重複	土器出土層 (号)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)S0921	14f-6a	円形	2.00×-	31	たらい状	1	→S065, SK114	3, 900 阿IV, E1古, E3古, 尊利	1 a期	打穿1	不明	
(78)S0922	14f-7	円形	1.95×1.94	26	たらい状	4	SK018, SK030	3, 600 E1古, E3古, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0923	14f-38	円形	2.80×-	36	たらい状	2	SK018, SK030	5, 300 阿IV, 尊利, E3, 壺	不明		不明	
(78)S0924	13f-85	円形	3.04×2.95	58	たらい状	2	SK025, SK026	5, 300 阿IV, E1古, E3古, E3	不明		不明	
(78)S0925	13f-96	円形	-	58	たらい状	1	SK024	9, 000 E1古, E3古, 尊利, E3, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0926	13f-96	円形	2.45×2.34	54	たらい状	1	SK063, SK072, SK024	5, 410 阿IV, E1古, E1 阿IV, E4, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0927	14f-5	円形	1.5×1.5	72	たらい状	1	SK063, SK072, SK024	5, 210 E2古, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0928	14f-33	円形	2.80×2.46	94	段状	1	SK036	5, 350 阿IV, E1古, E1古, E2古, E3古→E3中	不明		不明	
(78)S0929	14f-3	円形	2.30×(1.75)	56	たらい状	3	SK026B	2, 500 E2古, E3古	不明		不明	
(78)S0929B	14f-3	円形	1.74×(1.60)	36	たらい状	1	SK029A, SK037	5, 020 E1古, E3古, 尊利, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0930	14f-28	円形	1.14×-	52	たらい状	1	SK023	910 E2→E3古	不明		不明	
(78)S0931A	14f-25	円形	2.81×2.37	58	たらい状	1	SK062, SK018, SK032	7, 680 阿IV, E1古, E3	不明		不明	
(78)S0931B	14f-25	円形	1.22×1.0	52	たらい状	3	SK01A, SK01B, SK062	8, 060 E3古, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0932	14f-25	円形	1.22×1.0	52	たらい状	3	SK01A, SK01B, SK062	2, 300 E2古, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0933	14f-05	楕円形	1.16×0.78	42	たらい状	1	SK094, SK095	8, 110 阿IV, E1古, E3古→E3中	不明		不明	
(78)S0934	14f-66	円形	(2.34)×(2.32)	108	段状	2	SK028	300 E3	不明		不明	
(78)S0935	14f-34	円形	1.26×-	70	たらい状	1	SK038	5, 100 E3古, 壺	不明		不明	
(78)S0937	14f-68	円形	1.99×1.91	36	たらい状	6	SK038	5, 100 E3古, 壺	不明		不明	
(78)S0938	14f-67	円形	2.23×-	17	たらい状	5	SK037, SK077	5, 600 E1古, E3古	不明		不明	
(78)S0939	14f-66	円形	1.99×-	32	たらい状	1	SK059, SK069	4, 200 E2古, E3	不明		不明	
(78)S0940	14f-74	円形	2.66×-	37	たらい状	1	SK1093B	6, 900 E2古, E3	不明		不明	
(78)S0941	14f-84	円形	2.63×-	77	たらい状	4	SK1093A, SK1093B, SK1094, SK110	9, 070 E1古, E2古, 壺	不明		不明	
(78)S0942	14f-39	円形	1.92×1.90	94	段状	1	→SK890	16, 010 阿IV, E1古, 尊, 壺	不明		不明	
(78)S0943	14f-64	円形	1.60×(1.31)	40	たらい状	1	SK028	420 E2	不明		不明	
(78)S0944	14f-54	円形	2.44×2.42	37	たらい状	2	SK1021	3, 650 E1古, E2古	不明		不明	
(78)S0945	14f-56	円形	1.97×1.82	43	たらい状	2	SK1021	1, 550 E2→E2-3	不明		不明	
(78)S0946	14f-37	円形	2.61×2.26	47	たらい状	1	SK1021	23, 970 阿IV, E1古, E3古, 尊	不明		不明	
(78)S0947	14f-35	円形	2.70×2.16	43	たらい状	1	SK1021	2, 100 E1, 壺	不明		不明	
(78)S0948	14f-45	円形	1.18×1.02	57	たらい状	1	SK055, SK073	2, 240 E1古, 尊	不明		不明	
(78)S0949	14f-55	円形	2.23×2.11	52	たらい状	2	SK055, SK073	6, 210 E1古, E2古, E2-3, E3古, 尊利, 壺	不明		不明	
(78)S0950	14f-72	円形	2.33×-	76	たらい状	1	SK055	4, 150 E2, 尊→E3古, E3中→E3中	不明		不明	
(78)S0951	14f-62	円形	2.33×-	76	たらい状	1	SK055	7, 150 E1古, E2古, 壺	不明		不明	
(78)S0952	14f-43	円形	2.62×2.14	63	たらい状	2	SK033, SK059, SK069, SK066	2, 150 E2古, E3古	不明		不明	
(78)S0953	13f-96	円形	1.61×-	38	たらい状	1	SK033, SK059, SK069, SK066	2, 150 E2古, E3古	不明		不明	
(78)S0954	14f-55	円形	1.38×-	34	たらい状	1	SK033, SK059, SK069, SK066	2, 150 E2古, E3古	不明		不明	
(78)S0955	14f-62	円形	1.38×-	34	たらい状	1	SK033, SK059, SK069, SK066	2, 150 E2古, E3古	不明		不明	
(78)S0956	13f-96	円形	1.59×1.54	50	たらい状	1	SK033, SK059, SK069, SK066	1, 060 E1古, E2古, 尊	不明		不明	
(78)S0957	14f-53	円形	2.10×-	50	たらい状	1	SK033, SK059, SK069, SK066	1, 060 E1古, E2古, 尊	不明		不明	
(78)S0958	14f-64	円形	1.15×1.10	100	たらい状	1	SK033, SK059, SK069, SK066	1, 620 E1古, 尊利	不明		不明	
(78)S0959	14f-66	円形	2.21×2.17	26	たらい状	1	SK033, SK059, SK069, SK066	1, 620 E1古, E3	不明		不明	
(78)S0960	14f-83	円形	2.13×-	42	たらい状	2	SK062, SK1036, SK1037	5, 350 E2古, E3古→E3中, 尊利	不明		不明	
(78)S0961	14f-56	円形	1.60×-	36	たらい状	2	SK061	12, 950 E1古, E3古, 尊利, E3中→E3中, 尊	不明		不明	
(78)S0962	14f-56	円形	1.39×1.36	36	たらい状	2	SK061	400 E3古, 壺	不明		不明	
(78)S0963	14f-75	円形	1.39×1.36	36	たらい状	2	SK061	400 E3古, 壺	不明		不明	
(78)S0964	14f-95	円形	1.48×-	31	たらい状	1	SK065	600 E1古	不明		不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 柱長×柱長	積さ (階)	新形状	ピット 数	重複	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK0965	141-65	円形	1.80×2.00	34	たふし瓦	1	SK064, SK066, SK096	3, 200E1, E2, E3, E4, E5	土甕1	不明	
(78)SK0966	141-66	円形	0.98×0.98	45	たふし瓦	1	SK065	200E6	土甕1	不明	
(78)SK0967	141-67	円形	2.02×2.00	30	たふし瓦	2	SK2010	1, 650E1, E2, E3, E4, E5	土甕2, 甌石1	不明	
(78)SK0968	133-66	円形	0.97×0.90	33	たふし瓦	1	SK0859	1, 650E5, 甕利, 甕	土甕1	不明	
(78)SK0969	141-68	円形	1.28×1.18	55	たふし瓦	3	SK0921→	1, 650E4	円筒1, 磨石1, 厚石1	不明	
(78)SK0971	141-65	円形	1.90×2.00	38	たふし瓦	3	SK063, SK072	4, 800E1~E2	円筒1	不明	
(78)SK0972	141-65	円形	2.22×(1.95)	38	たふし瓦	1	→SK046, SK071	1, 340E5, E3, E4, E5, 甕利, E4	円筒1	不明	
(78)SK0973	141-62	円形	2.40×0.90	37	たふし瓦	2	SK050, SK055	3, 160E2, E3, 甕利, E4	磨石1	不明	
(78)SK0974	131-61	円形	3.27×0.90	40	たふし瓦	2	SK058, SK075	3, 050E3, E3, E4, E5	磨石1	不明	
(78)SK0975	141-62	円形	3.27×0.90	40	たふし瓦	3	SK074, SK092	3, 050E3, E3, E4, E5	磨石1	不明	
(78)SK0976	141-20	円形	0.85×0.80	47	たふし瓦	1	SK090	1, 190E3, E3, 甕利	磨石1	不明	
(78)SK0977	141-67	円形	0.83×0.81	102	たふし瓦	2	SK038	500E2, E3, 甕利	磨石1	不明	
(78)SK0978	131-67	円形	1.85×1.83	46	たふし瓦	2	SK090	4, 000E3, E3, E4, E5, 甕利, 甕1	石甕1, 石甕1	不明	
(78)SK0979	131-66	円形	1.53×0.90	1	たふし瓦	1	SK079	6, 300E2~E2.3, E3, E4, E5, 甕1, 甕2	石甕1, 磨石1	不明	
(78)SK0980	141-66	円形	2.10×0.90	48	たふし瓦	1	SK079	2, 280E1, E2, E3	石甕1	不明	
(78)SK0981	131-67	円形	1.87×1.80	45	たふし瓦	1	SK052	2, 360E1, 甕利, E1	磨石1	不明	
(78)SK0982	141-15	円形	1.72×1.70	84	たふし瓦	2	SK1122	1, 650E2, E3, E4	磨石1	不明	
(78)SK0983	141-15	円形	(2.50)×(2.22)	69	竪状	2	SK093	5, 100E1, E3	磨石1, 石甕1	不明	
(78)SK0984	141-67	円形	2.15×1.91	42	たふし瓦	4	SK085	4, 860E1, E2, E3	円筒2, 石甕1	不明	
(78)SK0985	141-67	円形	2.18×2.03	50	たふし瓦	3	SK084, SK1010	2, 650E1, E2, E3	円筒2, 石甕1	不明	
(78)SK0986	141-55	円形	1.40×0.90	78	たふし瓦	1	SK1122	2, 680E2, E3, E4, E5, 甕	石甕1	不明	
(78)SK0987	141-65	円形	(1.30)×(1.30)	57	竪状	2	SK1122	1, 650E2, E3, E4	甕片18	不明	
(78)SK0988	141-81	円形	2.20×2.10	78	たふし瓦	2	SK088A	18, 180E1, E2, E3, E4, 甕利, E4, 甕利	土甕1, 石甕1, 打拵2	不明	
(78)SK0989	141-81	円形	2.35×0.90	-	たふし瓦	-	SK088A	18, 180E1, E2, E3, E4	土甕1, 打拵1	不明	
(78)SK0990	141-66	楕円形	2.62×2.06	38	たふし瓦	2	SK039, SK059	打拵1	石甕1, 甕片1, 甕片2	不明	
(78)SK0991	141-55	円形	(2.67)×(2.47)	44	たふし瓦	4	SK1021	12, 060E1, E2, E3, E4, 甕1	石甕1, 甕片1, 甕片2, 甕片4	不明	
(78)SK0992	141-62	円形	2.27×2.08	50	たふし瓦	3	SK1021	5, 200E1, E2, E3, 甕利, 甕	円筒1, 甕片12, 甕片4	不明	
(78)SK0993	141-15	円形	2.31×2.30	46	たふし瓦	3	SK075, SK1130, SK1492	8, 160E2, E3, E4, 甕利, 甕	石甕1, 石甕1	不明	
(78)SK0994	141-65	円形	1.73×0.90	46	たふし瓦	1	SK083, SK094	2, 650E1, E2, 甕1	土甕1, 甕片1	不明	
(78)SK0995	141-65	円形	2.89×2.40	63	たふし瓦	7	SK005, SK033, SK093, SK1041	7, 720E1, E2, E3, E4, 甕利, 甕1	土甕1, 甕片1, 石甕1, 磨石1	不明	
(78)SK0996	141-65	円形	1.95×0.90	46	たふし瓦	3	SK033, SK094	0	土甕1, 打拵1	不明	
(78)SK0997	141-62	円形	1.81×1.65	37	たふし瓦	4	SK065, SK1140	5, 060E1, E1, E2, E3→E3, E4	土甕1, 打拵1	不明	
(78)SK0998	141-62	円形	0.85×0.90	34	たふし瓦	3	SK1172, SK1275→	2, 120E2, E3, E4	土甕1, 石甕1	不明	
(78)SK0999	141-94	円形	0.89×0.90	58	たふし瓦	4	SK1022	2, 500E1, E2, E3, E4	磨石1, 石甕1	不明	
(78)SK1000	141-91	円形	2.11×1.80	52	たふし瓦	2	SK1001, SK1066	3, 250E1, E2, E3, E4, E5, E6, 甕利, E4	土甕2, 円筒1, 磨石1	不明	
(78)SK1001	141-91	円形	0.90×0.90	114	たふし瓦	2	SK1000	1, 650E1~E2, E4, 甕	石甕1, 石甕1	不明	
(78)SK1002	141-66	円形	1.28×0.90	98	たふし瓦	1	SK1008	2, 460E4, 甕1	石甕1, 石甕1, 二次甕片1	不明	
(78)SK1003	141-69	楕円形	2.06×0.90	53	たふし瓦	1	SK1008, SK1041, SK1141	4, 720E3, 甕利, 甕1	石甕1, 石甕2, 厚石3, 甕1	不明	
(78)SK1004	141-69	楕円形	2.35×0.90	50	たふし瓦	1	SK1003A, SK1141	1, 630E1~E2, E3, 甕1	土甕1	不明	
(78)SK1005	141-66	円形	1.40×1.30	68	たふし瓦	1	SK1003A, SK1061	1, 660E1, E2, E3, 甕	磨石1	不明	
(78)SK1006	141-66	円形	1.42×1.31	34	たふし瓦	3	SK1061	3, 960E1, E2, E3, 甕1	土甕1	不明	
(78)SK1007	141-66	円形	2.48×2.16	62	たふし瓦	2	SK1063, SK1095	140E1	磨石1	不明	
(78)SK1008	141-66	円形	2.85×2.85	82	重状	2	SK1062	140E1	磨石1	不明	
(78)SK1009	141-35	円形	2.85×2.85	58	たふし瓦	2	SK850	3, 110E1, E1, E2, E3	円筒1	不明	
(78)SK1010	141-67	円形	2.14×0.90	29	たふし瓦	1	SK038→, SK085	1, 780E1, E2, E3, 甕利	円筒1, 石甕1	不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長さ×幅	積込 断面形状	セト 畝	重複	土壁出土層 (a)	出土土層の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)SK1011	14F-5	円形	0.83×0.84	75	たらし	SK1019	410E1, E2			不明	
78)SK1012	14F-5	円形	1.48×1.47	75	たらし		1, 960E2, 堀			不明	
78)SK1013	14F-4	円形	3.40×2.31	52	たらし		10, 650E2, E3, 葺利, E4, 堀		打券2, 石蔵1	不明	
78)SK1014	14F-4	円形	2.53××	52	たらし	4	4, 800E1古, E3古, 葺利, E3中		打券1, 打券1	不明	
78)SK1015	14F-5	円形	2.30××	34	たらし	1	1, 020E1, E2, E3			不明	
78)SK1016	13F-01	円形	1.10×1.05	56	たらし	2	1, 900E2, E3古, 葺利		榎石1, 削片3	不明	
78)SK1017	14F-73	円形	2.04××	30	たらし	2	800E1, E2古		打券1, 打券1	不明	
78)SK1018	14F-74	円形	1.78×1.70	41	たらし	2	1, 140E2, E3古		削片7	不明	
78)SK1019A	14F-75	円形	2.41×2.36	30	たらし	2	9, 310E1古, E2古, E3古, E3中, E3新			不明	
78)SK1019B	14F-75	楕円形	1.86×1.89	41	たらし	3	SK1019A			不明	
78)SK1020	14F-37	円形	1.90×1.25	41	たらし	2	SK82			不明	
78)SK1021	14F-66	円形	1.47××	48	たらし	3	SK945, SK991			不明	
78)SK1022	14F-94	円形	0.93×0.87	68	たらし	SK999, SK1023	520E2-3~E3古			不明	
78)SK1023	14F-94	円形	1.25××	62	たらし	1	4, 160E1, E2古, E4, 井		石蔵1	不明	
78)SK1024	14F-95	円形	2.31×2.00	48	たらし	SK1022, SK1024	2, 500中層, E1, E2, E3		石蔵5	不明	
78)SK1025	13F-02	円形	2.43×2.42	53	たらし	SK1072	3, 210E1新, E2古, 葺利		榎石1	不明	
78)SK1026	14F-93	円形	1.92××	36	たらし	SK1015	970E1, E2, E3古			不明	
78)SK1027	13F-12	円形	2.33×2.19	71	たらし	SK1072	800E1~2			不明	
78)SK1028	13F-03	円形	2.12×2.08	33	たらし	SK1072	960E1, E2, E3, 葺利			不明	
78)SK1029	13F-13	円形	1.73×1.38	28	たらし	SK1072	520E1, 井		石蔵1	不明	
78)SK1030	14F-56	円形	1.75×1.72	24	たらし	--SK076	180E2-3			不明	
78)SK1033	14F-74	円形	2.13××	51	たらし	SK1044~SK1109~	25, 750榎, E3, E4, 井, 堀		土製皿, 片板2, 打券2, 打券2	不明	
78)SK1031	14F-83	円形	2.75××	40	たらし	SK1083	9, 070E1, E2古, 葺利, 葺		石蔵2, 石蔵4	3a期	
78)SK1034	14F-84	円形	2.23××	57	たらし	SK1044	11, 360E1, E2, E3古, 堀1, 加B		磨片1, 石蔵表1	3a期	
78)SK1035	14F-75	円形	2.32×2.10	29	たらし	SK1044	4, 630E3, 井, 堀1			不明	
78)SK1036	14F-66	円形	1.57×1.56	78	たらし	SK061, SK1037	1, 800E3古		石蔵表1, 鏡形1	不明	
78)SK1037	14F-56	円形	1.40××	34	たらし	SK1054	0			不明	
78)SK1039	14F-71	楕円形	2.05×1.85	56	たらし	SK1019A	1, 260E1~E2, E3		土器? 1	不明	
78)SK1040	14F-75	円形	0.87×0.87	50	たらし	SK1054	7, 600E2, E3古, E3新, E4		石蔵1, 削片3	不明	
78)SK1041	14F-15	円形	0.87×0.87	38	たらし	SK1094, SK1042, SK1043	4, 430E2, E3古, 堀1			不明	
78)SK1042	14F-04	円形	2.12××	38	たらし	SK1041, SK1043	860, 堀			不明	
78)SK1043	14F-15	円形	2.80××	56	たらし	SK1041, SK1042	3, 480E1, E2, E3, 葺利, E3中			不明	
78)SK1044	14F-84	円形	2.11×1.58	52	たらし	SK1034	1, 400E1, E2古, E3中~E3新			不明	
78)SK1045	14F-92	円形	1.10×0.95	32	たらし	SK1046~SK1068	9, 270E1古, E3古, E3中~E3新			不明	
78)SK1046	14F-88	円形	1.95×1.97	35	たらし	--SK1045, --SK1068	1, 700E1V, E3		二次片1, 削片5	3a期	
78)SK1047	14F-92	円形	1.60×1.57	35	たらし		3, 320E3古			1a期	
78)SK1048	15F-03	円形	1.40×2.10	41	たらし	SK1048	1, 700E1V, E2-3, E3, 葺利		鏡形1	不明	
78)SK1049	15F-03	円形	2.19×2.09	32	たらし	SK1048	600E2, E3古		榎石1	不明	
78)SK1050	15F-02	円形	2.44×2.31	36	たらし	SK1050	2, 900E2, E3古, E3新~E3-4, E4		出板1, 鏡形1	不明	
78)SK1051	15F-05	円形	1.96×1.85	56	たらし	SK1053, SK1055	2, 580E2, E3古, E3新~E3-4			不明	
78)SK1052	14F-26	円形	1.95×(1.92)	42	たらし	SK1052	2, 320E2古, E3古, E3中~E3-4, 井, 堀1		土器1, 削片3	不明	
78)SK1053	14F-76	円形	0.73××	42	たらし	SK1058	1, 450E1, E2, E3, 堀1			不明	
78)SK1054	14F-71	円形	0.65×0.79	39	たらし	SK848, SK1052	100			不明	
78)SK1055	14F-56	円形	0.75××	85	たらし	SK848, SK1052	3, 960E3古		削片3	3a期	
78)SK1056	14F-55	円形	1.65××	44	たらし	SK823	570E3		石蔵5, 榎石1	不明	
78)SK1057	14F-55	円形	2.10×1.91	41	たらし	SK823	14, 160E3古, 葺利, E3新			不明	
78)SK1060	14F-11	円形	1.37×1.30	59	たらし		1, 150E4, 井		土器1	5期	

遺構No.	位置	平面形状	規模(縦横)	基礎(形状)	積高(積)	新築形状	ピット	重複	土壌出土層(位)	出土土層の時期	その他の主な遺物	所属時期
(78)SK1061	141-68	円形	2.19×1.77	37	たふし状	1	SK1064, SK1065		13, 27, 31E1, E2, 中層	円板1, 模形1	不明	3a期
(78)SK1062	141-72	円形	2.61×1.97	40	たふし状	2	SK1103, →		13, 27, 31E1, E2, 中層, 磨石1	円板1, 模形1	不明	3a期
(78)SK1063	141-66	円形	2.28×1.85	33	たふし状	1	SK1097		2, 50, 51E1, E2, 中層	磨石1	不明	3a期
(78)SK1064	141-65	円形	1.83×1.43	46	たふし状	6	SK1051		200		不明	3a期
(78)SK1065	141-42	円形	2.83×2.31	58	たふし状	6	SK1060, SK1066		5, 13, 14, 17, 19, 22, E2, E3, 堀1	土層1, 石段2, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1066	141-91	円形	1.96××	58	たふし状	2	SK1068		11, 25, 堀1, E2, E3, 堀, 堀2	土層1, 石段2, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1067	141-65	円形	1.73××	28	たふし状	1	SK1068		60, 62, 59, 61→E3層	土層1, 石段1	不明	3a期
(78)SK1068	141-96	円形	2.17××	41	たふし状	1	SK1045, SK1046, →, SK1177		10, 89, 92, 93, E2, E3, 中層	土層1, 石段1	不明	3a期
(78)SK1069	141-96	円形	2.31×2.00	42	たふし状	1	SK1070		8, 21, 91E1, E2, E3, 堀1, 堀2	土層1, 石段1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1070	141-96	円形	1.32×1.32	57	たふし状	1	SK1069		65, 67, E2, E3	土層1, 石段1	不明	3a期
(78)SK1071	141-64	円形	2.00×1.96	44	たふし状	2	SK1169		6, 20, 中層, E2, E3, 中層, 磨石1	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1072	141-62	円形	1.20××	15	たふし状	4	SK1025, SK1028		1, 50, 51E1, E2, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1073	141-62	円形	1.38×1.23	48	たふし状	1	SK1014		1, 25, 堀, 堀1	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1074	141-74	円形	-	18	たふし状	1	SK1014		4, 100	土層1, 浮子, 打穿2, 石籠3, 磨石1	不明	2c期
(78)SK1075	141-89	円形	2.74×2.15	52	たふし状	1	SK1114, →SK1115		4, 40, E2, E3, 堀1	土層1, 浮子, 打穿2, 石籠3, 磨石1	不明	2c期
(78)SK1076	141-79	楕円形	2.45×1.83	48	たふし状	4	SK1114, →SK1115		14, 72, 92, E2, 中層, 堀, 堀1	土層1, 磨石1, 石籠1	不明	3a期
(78)SK1077	137-72	円形	0.42×0.90	81	たふし状	4	SK1052, SK1246		1, 76, 92, E2, E3, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1078	141-16	円形	1.63××	44	たふし状	2	SK1052, SK1246		1, 100, E1, E2, E3, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1080	141-22	円形	0.95××	59	たふし状	1	SK1081		2, 60, 91, 93, E3, E4, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1081	141-32	円形	0.97×0.78	107	たふし状	1	SK1080		2, 100, E2	土層1	不明	3a期
(78)SK1082	141-31	円形	1.83×1.48	99	たふし状	1	SK1033		2, 100, E1, E3, E4, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1083	141-64	円形	1.08××	46	たふし状	1	SK1033		60, 62, E3, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1084	141-15	円形	2.13××	34	たふし状	1	SK1033		5, 8, 9, 40, 堀, E1, E2, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1085	141-16	円形	1.74×1.70	32	たふし状	3	SK1033		60, 62, E3, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1086	141-66	円形	2.17×1.82	74	たふし状	2	SK1119		1, 150, E1, E3	土層1, 石籠1	不明	3a期
(78)SK1087	141-66	円形	2.07×1.82	26	たふし状	2	SK1119		7, 34, 堀, E1, E2, E2-3	土層1, 石籠1	不明	3a期
(78)SK1088	141-62	円形	1.05×1.02	47	たふし状	1	SK1119		2, 82, 91E1, E2, 中層	土層1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1089	141-31	円形	2.22×2.06	62	袋状	1	SK1033		1, 100, E3, 中層, E4	土層1	不明	3a期
(78)SK1090	141-15	円形	1.76×1.65	28	たふし状	1	SK1148, SK1188		37, 40, 堀, E3	土層1	不明	3a期
(78)SK1091	141-24	円形	1.75×1.56	28	たふし状	1	SK1148, SK1188		96, 97, 98, E3, 中層	土層1	不明	3a期
(78)SK1092	141-82	円形	0.80×0.74	54	たふし状	1	SK1148, SK1188		95, 97→E2, E3	土層1	不明	3a期
(78)SK1093	141-84	円形	-	54	たふし状	1	SK1148, SK1188		2, 400, E2, E3, 中層→E3層	土層1	不明	3a期
(78)SK1094	141-84	円形	-	40	たふし状	1	SK1148, SK1188		3, 300, E3, 中層, 磨石1	土層1	不明	3a期
(78)SK1095	141-98	円形	1.75×(1.45)	131	たふし状	3	SK046, SK041, SK1093A		1, 360, E1, E2, E3	土層1	不明	3a期
(78)SK1096	141-92	楕円形	1.30×0.72	108	たふし状	3	SK046, SK041, SK1093A		3, 300, E3, 中層, 磨石1	土層1	不明	3a期
(78)SK1097	141-54	円形	2.68××	44	たふし状	1	SK1067, SK1142		1, 360, E1, E2, E3	土層1	不明	3a期
(78)SK1098	141-65	円形	0.87××	28	たふし状	1	SK1066, SK1106, SK1121		160	土層1, 石籠2	不明	3a期
(78)SK1099	141-73	円形	1.13×1.11	49	たふし状	3	SK1067, SK1124		3, 68, 92, E2, 中層, 堀1	土層1, 石籠2	不明	3a期
(78)SK1100	141-25	円形	1.48×1.46	29	たふし状	3	SK1067, SK1124		55, 92, 中層	土層1	不明	3a期
(78)SK1101	141-24	円形	1.35××	44	たふし状	1	SK1102		1, 800, E1, 中層, 磨石1	土層1	不明	3a期
(78)SK1102	141-24	円形	1.19×1.06	62	たふし状	1	SK1101		1, 24, 堀, E3, 中層→E3層	土層1	不明	3a期
(78)SK1103	141-77	円形	2.10××	44	たふし状	3	SK1102		36, 93	土層1	不明	3a期
(78)SK1104	141-14	円形	1.99×1.86	78	たふし状	1	SK1132		5, 74, 堀, E2, E3, 中層, 堀1	土層1, 円板1, 石籠1, 蔵石1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1105	141-73	円形	1.92××	28	たふし状	2	SK1014, SK1017		1, 94, E2, E3, 中層	土層1	不明	3a期
(78)SK1106	141-92	円形	1.88××	51	たふし状	1	SK1096, SK1121, SK1148		3, 72, 91, 93, E1, E2, 中層	円板1, 石籠1, 磨石1	不明	3a期
(78)SK1107	141-54	円形	2.26××	52	たふし状	2	SK0874, SK1097		3, 32, 92	土層1, 磨石1, 石籠1	不明	1a期

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長×幅×高	深さ (cm)	断面形状	ピット 数	重複	土器出土層 (①)	出土土器の種類	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)SK1108	147-64	円形	1.20×0.90	45	たらい型	1		960E2, E3, 尊利	石蔵1		不明	
78)SK1109	147-63	円形	2.21×	56	たらい型	2	→SK1031, SK1111	3, 150E1, E2, E3	磨石1, 磨石1		不明	
78)SK1110	147-63	円形	2.34×	39	たらい型	4	SK1168, SK1174, SK1184	6, 350AIV, E2, E3, E3新	打斧1, 磨石1, 石蔵1		不明	
78)SK1111	147-63	円形	-	53	たらい型	1	SK1109, SK1031	1, 190E3, 壺1			不明	
78)SK1112	137-81	円形	1.00×0.89	39	たらい型	2		2, 320	磨石1		不明	
78)SK1113	137-80	円形	0.85×0.90	46	たらい型	1		20 鉢, 壺1			不明	
78)SK1114	147-89	円形	1.82×	54	たらい型	1	SK1075, →SK1115	1, 500 鉢, E2, E3			不明	
78)SK1115	147-89	円形	1.90×1.65	48	たらい型	1	SK1337	1, 600 壺1			不明	
78)SK1116	135-37	円形	2.12×1.92	56	たらい型	1	SK1075→, SK1114→	5, 690E1, E2, E3	内蔵1, 石蔵1, 刷片3		不明	
78)SK1117	135-48	円形	2.78×2.70	46	たらい型	4		1, 120E1, E2, E3	磨石1		不明	
78)SK1118	135-27	円形	2.78×2.70	46	たらい型	4		16, 440E2-3, E3	磨石2		不明	
78)SK1119	135-17	円形	2.38×	38	たらい型	1	SK1085, SK1086	630	土鏃1, 石蔵1, 磨片3		不明	
78)SK1120	147-84	円形	(1.42×(1.11))	38	たらい型	1	SK1094, SK1165	1, 260E1, E2, E3	土鏃1, 石蔵1, 磨片3		不明	
78)SK1121	147-92	円形	2.05×	38	たらい型	3	SK1096, SK1106, SK1130	1, 460E1, E2, E3	石蔵1		不明	
78)SK1122	147-45	円形	2.03×1.88	36	たらい型	3	SK987	1, 260E1, E2, E3			不明	
78)SK1123	137-35	円形	1.45×1.28	38	たらい型	1		155			不明	
78)SK1124	147-54	円形	3.85×2.89	64	たらい型	3	SK854, SK855, SK1097	55	打斧1, 石蔵1, 石蔵1, 石蔵2, 原石2		不明	
78)SK1125	147-43	円形	2.07×	42	たらい型	2	SK1262	14, 350E1, E2-3, E3, E3中, E3-4, 加部			不明	
78)SK1126	137-11	円形	2.07×	42	たらい型	3	SK847, SK1145	3, 310E1, E2, E3			不明	
78)SK1127	137-13	円形	1.49×1.28	50	たらい型	1	SK1128	1, 210E1, E2-3, E4			不明	
78)SK1128	137-14	円形	1.18×	44	たらい型	1	SK1127	300	磨石1		不明	
78)SK1129	137-16	円形	2.46×2.10	33	たらい型	2	SK992, SK1121	2, 260E3, 古1	磨石1		不明	
78)SK1130	147-92	円形	2.06×	40	たらい型	1	SK1104	3, 305E1, E3, 磨	石蔵1, 石蔵2, 石蔵1		不明	
78)SK1131	137-15	楕円形	1.10×	51	たらい型	1		1, 250, 不明	磨石1		不明	
78)SK1132	147-91	不明	-	35	たらい型	1	SK992, SK1121	960E3, 磨			不明	
78)SK1133	135-05	円形	-	36	たらい型	3	SK1084, SK1170	1, 160E2, 磨→磨古			不明	
78)SK1136	135-06	円形	2.97×1.91	44	たらい型	3	SK1294, SK1246	3, 650E2, E3	石蔵1		不明	
78)SK1137	135-17	円形	1.95×	36	たらい型	3	SK1179, SK1234	5, 605E1, E2, E3, 尊利	磨石1		不明	
78)SK1138	135-07	円形	1.80×	54	たらい型	1	SK1234	2, 620E1, E3, 古	磨石1		不明	
78)SK1140	147-85	円形	(2.90)×	32	たらい型	1	SK941, SK996, SK1094	3, 700E1, E3, 磨	打板1, 石蔵2, 磨片4		不明	
78)SK1141	147-69	円形	-	25	たらい型	1	SK921, SK1003A, SK1003B, SK1199, SK1171	700E1→E2, E, 壺1	土鏃1		不明	
78)SK1142	147-99	円形	(1.80)×	18	たらい型	1	SK1095, SK1182	420E1→E2, E3, 古			不明	
78)SK1143	147-64	円形	1.93×1.08	45	たらい型	2	SK1056	3, 600E1, E2, E3, 尊利, 壺1	土鏃1, 打斧1, 石蔵1, 磨片2		不明	
78)SK1144	135-38	円形	1.10×	60	たらい型	1	SK1166	1, 500E1, E3, 磨			不明	
78)SK1145	137-21	円形	1.12×1.10	74	たらい型	1	SK1126, SK1146	500 鉢, E3, E3-4, E4, 磨			不明	
78)SK1146	137-21	円形	2.08×	49	たらい型	1	SK1145	700			不明	
78)SK1147	147-92	円形	1.36×1.34	78	たらい型	1	SK1203	4, 730E1→E2, E3, E3中			不明	
78)SK1148	147-82	円形	2.06×1.86	45	たらい型	1	SK1092, SK1106, SK1188	2, 650 鉢, 阿IV, E3, 磨, E4	石蔵1, 磨石1		不明	
78)SK1149	135-24	円形	2.69×2.07	41	たらい型	2	→SK1059, SK1543	6, 740E2-3, E4	打板1, 磨片3		不明	
78)SK1150	135-14	円形	2.86×2.43	32	たらい型	4	SK1184	3, 000 鉢, E3, 磨			不明	
78)SK1151	147-64	円形	2.43×	46	たらい型	3	SK1154	2, 150E2, E3, 古	石蔵1, 磨石1, 石蔵1		不明	
78)SK1152	147-72	円形	2.35×	40	たらい型	1	SK1154, SK1168	3, 650 鉢, E3, E4	ニワトク土器1, 石蔵1, 磨片4		不明	
78)SK1153	147-72	円形	2.20×1.70	25	たらい型	3	SK1154	2, 700E1, E2, E3	石蔵1, 磨片3		不明	
78)SK1154	147-72	円形	1.16×1.06	38	たらい型	1	SK1152, SK1153	290E1, E3			不明	
78)SK1155	147-63	円形	2.08×2.05	19	たらい型	1	SK1014	750			不明	
78)SK1156	147-86	円形	1.78×1.59	40	たらい型	1		900E1→E2, E3			不明	
78)SK1157	147-60	円形	1.98×	29	たらい型	1	SK1159	350E1→E2, E3			不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(長さ×幅) 長径×短径	溝さ (深さ)	新断面 形状	ピット 数	重層	土質出土層 (地)	出土土層の時期	その他の主な遺物	片断時期
78)SK1158	14V-60	円形	-	23	たらい状		SK1159	760E1, E3		台石1	不明
78)SK1159	14V-60	円形	-	24	たらい状		SK1141, SK1157, SK1158, SK1171	1, 900E1, E3		石蔵柱1	不明
78)SK1160	14V-60	円形	3.19×2.68	68	たらい状	1	SK1187, SK1188, SK1218, SK128	6, 100E1, E3, E5, E6, 尊 打序1, 10, 副打1, 尊打2, E3, E5, E6 打序1, 10, 副打1, 尊打2, E3, E5		打序1, 副打1 副打1, 尊打1, 尊打2, 副打3	不明 不明 2C層
78)SK1161	13V-52	円形	3.00×2.72	58	たらい状	3	SK1220	6, 67E1, E2, E3, E5		副打1, 尊打1, 尊打2	不明
78)SK1162	13V-42	円形	2.34×2.03	46	たらい状	3	→S066, SK1180				
78)SK1163	13V-33	円形	2.25×2.38	79	たらい状	3	SK1544	4, 150E1, E2, E3		副打4	不明
78)SK1164	14E-82	円形	2.50×-	22	たらい状	5		2, 410E2~E3		円板1, 原石1, 副打6	不明
78)SK1165	14E-94	円形	1.59×-	22	たらい状	1	SK1120	500E1~E2, E3		榑石1	不明
78)SK1166	13V-30	円形	2.32×1.97	26	たらい状	1	1, 620E1~E2, E3				不明
78)SK1167	13V-53	円形	2.26×2.25	72	たらい状	2	SK1220, SK1521	2, 680E2~E3		円板1, 石蔵柱1, 副打3	3A層
78)SK1168	14V-72	円形	2.37×-	44	たらい状	2	SK1110, SK1152, SK1184	1, 410E1, E2, 尊打1		円板2, 石蔵柱2	不明
78)SK1169	13V-06	円形	1.35×-	29	たらい状	2	SK1071, SK1170	800E1, 尊打1			不明
78)SK1170	13V-05	円形	1.35×-	29	たらい状	2	SK1135, SK1169	740E1		石蔵1	不明
78)SK1171	14E-69	円形	2.08×2.02	52	たらい状	2	SK1141, SK1159	745E1, E2, E3		原打1	不明
78)SK1172	13V-51	円形	1.49×1.13	24	たらい状	2	→S041, S098, →SK1261	1, 120E1~E2, E3, E5, E6, E8, E9			不明
78)SK1173	14V-63	円形	1.83×-	37	たらい状	4	SK1099, SK1110, SK1176	6, 900E1, E2, E3		石蔵1	3A層
78)SK1174	14V-63	円形	1.77×-	26	たらい状	2	SK1175, SK1230	3, 325E1, E2, E3		石蔵1, 榑形1	不明
78)SK1175	14V-62	楕円形	1.51×1.13	120	たらい状	1	SK1175, SK1230	3, 555E1, E2, 尊打1~E3, 中 土層1, 副打6		土層1, 榑形1 土層1, 副打6	不明
78)SK1176	14V-62	楕円形	1.17×-	23	たらい状	1	SK1175, SK1230	6, 210E1, E2, E3, E5, 中 土層1, 副打6		榑形1	不明
78)SK1177	14V-57	円形	1.75×-	28	たらい状	1	SK1068, SK1189, SK1197	10, 945E1, E2, E3, E4, 尊 打序1		榑形1	不明
78)SK1178	14V-57	円形	2.52×2.50	34	たらい状	3	SK1252, SK1257, SK1258, SK1257	3, 300E1, E2, E3, E5, E6, 尊 打序1		榑形1	不明
78)SK1179	13E-17	円形	1.70×1.70	69	たらい状	3	SK1137	420E3		円板1, 蔵石1	不明
78)SK1180	13V-41	円形	1.21×-	40	たらい状	2	SK1182	2, 090E1, E2~E3, 尊 打序1			不明
78)SK1181	14E-99	円形	1.79×-	50	たらい状	2	SK1142, SK1181, SK1183	150E1		榑石1	不明
78)SK1182	14E-99	円形	2.09×-	44	たらい状	2	SK1182	550E3, E4		副打4	不明
78)SK1183	14E-99	円形	2.28×-	54	たらい状	2	SK1182	1, 900E2, E3			不明
78)SK1184	14V-64	円形	2.70×2.62	52	たらい状	2	SK1110, SK1151, SK1166	1, 910E1, E2, 尊打1~E2~3			2B~2C層
78)SK1185	14E-96	円形	2.31×1.91	26	たらい状	2	SK1110, SK1151, SK1166	5, 570E1, E2, E3, E5, E6, 尊 打序1		円板1	2C層
78)SK1186	13E-30	円形	2.03×2.00	58	たらい状	1	SK1196	1, 100E2~E3			不明
78)SK1187	14V-82	円形	0.99×0.97	118	たらい状	1	SK1160, SK1188	2, 150E1~E2, E3, E5, E6, 尊 打序1			不明
78)SK1188	14V-82	円形	-	30	たらい状		SK1092, SK1148, SK1160, SK1187, SK11	2, 150E1~E2, E3, E5, E6, 尊 打序1			不明
78)SK1189	14E-87	円形	1.88×1.41	13	たらい状	1	SK1177, SK1197	15			不明
78)SK1190	13E-22	円形	-	22	たらい状		SK1191, SK1208, SK1239	455E2~3~E5, 尊打1			不明
78)SK1191	13E-22	円形	1.99×0.98	29	たらい状		SK1191, SK1208, SK1239	50			不明
78)SK1192	13V-20	円形	1.45×1.34	52	たらい状	1	SK1190	1, 025E1, E2, E3		台石1	不明
78)SK1193	14V-28	円形	1.47×1.47	24	たらい状	1	SK1190	620E1, 尊打1, 榑1			不明
78)SK1194	13E-25	円形	1.69×-	48	たらい状	2	SK1060, SK1210, SK1141	5, 800E1, E2, E3			不明
78)SK1195	13E-26	円形	1.94×-	36	たらい状	2	SK1060, SK1210, SK1141	2, 110E1, E2, E3, E5, E6, 尊 打序1		台石1	不明
78)SK1196	13E-30	円形	1.70×-	36	たらい状	2	SK1144, SK1186	750E2, E3			不明
78)SK1197	14E-87	円形	1.70×-	34	たらい状	2	SK1177, SK1189, SK1217	1, 360E1, E3, E5, E6, 尊 打序1		榑石1	不明
78)SK1198	14V-82	円形	1.70×-	59	たらい状	2	SK1188	4, 310E1, E2, E3, E5, E6, 尊 打序1		石蔵柱2, 副打3 土層1	2C層
78)SK1199	14V-62	円形	1.36×-	43	たらい状	2	SK1188	3, 690E1, E2, 尊打1			不明
78)SK1200	14V-77	円形	1.47×1.35	58	たらい状		SK1147	560E1~E2			不明
78)SK1201	14E-81	円形	1.38×1.38	56	たらい状		SK1147	1, 950E1, E2, E3		打序1	不明
78)SK1202	13E-01	円形	1.35×1.30	56	たらい状		SK1147	5, 220E3~E5, 尊打1, 榑1		打序1	不明
78)SK1203	14E-92	円形	2.22×-	64	たらい状	2	SK1147	1, 100E1, E2, E3			不明
78)SK1204	13E-02	円形	1.90×1.62	42	たらい状	2	SK1147	1, 100E1, E2, E3			不明



遺構No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長さ×幅径	様式	断面形状	ピット 数	重複	土曜出土量 (kg)	出土土器の種類	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)SK1205	18-51	円形	1.89×-	58	たふし穴	2	SK1232, SK1252	4, 600gE-3, E3古, 尊利	円板1, 磨石1	不明	不明	
78)SK1206	141-52	円形	2.18×-	24	たふし穴	3	SK1225, SK1261, SK1262	E3, 110gE1-E1-E2-E3, E3新, 尊	石皿1, 原石1	不明	2c期	
78)SK1207	141-53	円形	2.18×-	24	たふし穴	3	SK1225, SK1261, SK1262	600gE2, 尊利	土壘1	不明	不明	
78)SK1208	18-22	円形	1.90×1.89	44	たふし穴	2	SK1190, SK1259, SK1297	2, 510gE1古, E2, E3	土壘1, 石皿1	不明	不明	
78)SK1209	18-49	円形	2.38×2.32	39	たふし穴	2	SK1220	1, 340gE1, E2, E3	原片4	不明	不明	
78)SK1210	18-75	円形	1.40×1.77	36	たふし穴	2	S1060, SK1194, SK1441	3, 180gE1, E2, E3	円板1, 浮子1, 石皿1	不明	不明	
78)SK1211	18-53	円形	2.25×2.17	58	たふし穴	2	SK1453	1, 460gE2, E3	不明	不明	不明	
78)SK1212	18-62	円形	2.25×2.17	58	たふし穴	2	SK1453	1, 460gE2, E3	不明	不明	不明	
78)SK1213	18-56	円形	1.72×1.58	69	たふし穴	4	SK057, SK1195	1, 250gH, E2	磨石1, 石皿1	不明	不明	
78)SK1214	18-56	円形	2.20×2.08	58	たふし穴	3	SK1263	6, 570gE1古, E2-E3, E4	不明	不明	不明	
78)SK1215a	141-90	円形	1.90×-	35	たふし穴	1	SK611, SK1212b	1, 600g中輪, E1-E2-E3	磨石1	不明	不明	
78)SK1216	18-50	円形	2.56×2.46	56	たふし穴	3	SK056→	2, 950gE2, E3, E4	土壘1	不明	2b期	
78)SK1217	141-86	円形	1.35×-	38	たふし穴	1	S1040, SK1197	869gE1-E2, E3, E4	不明	不明	不明	
78)SK1218	141-72	円形	0.88×-	20	たふし穴	1	SK1169	269gE1-E2, E3, E4	不明	不明	不明	
78)SK1219	18-28	円形	1.73×1.66	49	たふし穴	1	SK1266	3, 840gE2, 尊	磨石2	不明	2a期	
78)SK1220	18-53	円形	2.34×-	32	たふし穴	2	SK1161, SK1167, SK1211	8, 570gE2, E3, E4	不明	不明	3b期	
78)SK1221	18-51	円形	2.15×2.02	48	たふし穴	2	SK1223	760gE2-E3, 尊	不明	不明	不明	
78)SK1222	18-51	円形	2.17×-	22	たふし穴	4	SK1222	2, 320gE2-3-E3古	石皿3, 磨石1	不明	不明	
78)SK1224	18-15	円形	1.94×-	38	たふし穴	2	SK1136	1, 950gE1-E2-E3古	石皿3, 原片1	不明	不明	
78)SK1225	141-52	円形	2.20×-	34	たふし穴	2	SK1206, SK1207, SK1260, SK1261	3, 370gE1, E2古, 尊利	石皿3, 原片1	不明	不明	
78)SK1226	141-82	円形	2.44×-	32	たふし穴	1	SK1160	10, 302gE1古, E2新, E3古, E3中, 堀1	打穿1, 原片3	不明	不明	
78)SK1227	18-55	円形	2.67×2.01	52	たふし穴	1	SK1247	2, 760gE2-E3古, E3古, E4	磨石1	不明	不明	
78)SK1228	18-20	円形	1.68×-	28	たふし穴	2	SK1229, SK1427	9, 630gE1古, E2-3, E3古, E3中, 尊利, E4	石皿3, 石皿1, 磨石2	不明	不明	
78)SK1229	18-20	円形	2.12×2.10	38	たふし穴	2	SK1228, SK1427	9, 630gE1古, E2-3, E3古, E3中, 尊利, E4	石皿3, 石皿1, 磨石2	不明	不明	
78)SK1230	141-72	円形	1.92×-	51	たふし穴	3	SK1230b, SK1264	960gE1-E2, E2-3-E3古, E3古	円板2, 打穿1, 磨石1	不明	不明	
78)SK1231	18-43	円形	1.90×-	51	たふし穴	2	SK1176, SK1200a	2, 880gH, E1-E2, E3古	不明	不明	不明	
78)SK1232	18-51	円形	2.22×2.09	62	たふし穴	5	SK1251	600gE1-E2, E2-3-E3古, E3古	不明	不明	不明	
78)SK1233	18-51	円形	0.85×0.60	127	たふし穴	5	SK1205, SK1252	2, 880gH, E1-E2, E3古	不明	不明	不明	
78)SK1234	18-07	円形	2.28×1.88	46	たふし穴	5	SK1277	760gE1古, E3古	不明	不明	不明	
78)SK1235	18-17	円形	1.60×-	32	たふし穴	2	SK1137, SK1138	2, 100gE1-E2, E3古, 尊利	不明	不明	不明	
78)SK1236	141-91	円形	1.71×1.64	72	たふし穴	1	SK794, SK1178, SK1237	4, 050gE1-E2-E3古, E4, 尊	不明	不明	不明	
78)SK1237	141-90	円形	2.30×1.83	80	たふし穴	2	SK793, SK1178, SK1236, SK1257	920gE2, E3, E4	円板1	不明	不明	
78)SK1238	141-90	円形	-	74	たふし穴	2	SK1178, SK1237, SK1257	2, 100gE1-E2, E3古, 尊利, E3中-E3新, E4	不明	不明	不明	
78)SK1239	18-12	円形	1.65×-	20	たふし穴	1	SK1190, SK1208	2, 680gE2, E3新	石皿2	不明	不明	
78)SK1240	18-40	円形	2.47×2.25	54	たふし穴	1	SK1292	2, 660gE3	不明	不明	不明	
78)SK1241	18-21	円形	1.76×1.58	36	たふし穴	2	SK1236	2, 200gE1, E2, E3, E4	不明	不明	不明	
78)SK1242	18-21	円形	2.19×1.91	42	たふし穴	2	SK1520	5, 780gE1古, E2-3-E3古	石皿1	不明	不明	
78)SK1243	18-27	円形	2.20×2.12	56	たふし穴	1	SK1336	600gE2, E3	不明	不明	不明	
78)SK1244	18-16	円形	2.22×2.09	32	たふし穴	1	SK1079, SK1136	2, 320gE1古	原石1	不明	3a期	
78)SK1245	18-55	円形	0.61×-	36	たふし穴	2	SK1227, SK1302	1, 520gE1古	磨石1	不明	1a~2期	
78)SK1246	18-55	円形	1.80×1.65	36	たふし穴	2	SK1302	3, 600gE2-3	不明	不明	不明	
78)SK1249	18-53	円形	2.10×1.89	42	たふし穴	2	SK1302	4, 270gE2-3, E3古, E4	不明	不明	不明	
78)SK1250	18-52	円形	2.41×2.27	90	たふし穴	3	SK1167, SK1468	8, 010gE2-3, E3古, 尊利	土壘1	不明	2c期	
78)SK1251	18-43	円形	1.97×-	54	たふし穴	1	SK1231	0	不明	不明	不明	
78)SK1252	18-51	円形	1.97×-	49	たふし穴	1	SK1205, SK1232	1, 240gH, E1, E2, E3	不明	不明	不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長径×短径	深さ	断面形状	ピット 数	重複	土器出土層 (p)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)SK1253	130-67	円形	2.01×-	40	たらしV字	2	SK1254	1, 250/E1古, E2			不明	
78)SK1254	130-66	円形	2.25×2.01	34	たらしV字	2	SK1255	1, 300/E2-3, 尊利		土師1	不明	
78)SK1255	130-21	円形	1.79×1.64	48	たらしV字	2	SK1376A	1, 2, 120/E1, E2, E3		土師1, 磨赤2, 石磨1	不明	
78)SK1256	130-00	円形	2.41×2.06	40	たらしV字	1	SK1178, SK1238, SK1284	1, 610/E3古~E2中, E3新, E3-4, E4, 替		土師1, 磨赤1, 磨赤2	不明	
78)SK1257	143-90	円形	1.88×1.78	41	たらしV字	1	SK1291	4, 300/E2-3, E3		土師1, 凹版1, 打赤2, 磨赤1	不明	
78)SK1258	130-11	円形	1.88×1.78	41	たらしV字	1	SK1291	6, 870/E2, E3古, 尊利, E3新, E4			不明	
78)SK1259	130-10	円形	0.60×0.55	66	たらしV字	2	SK1225	460/E2, E3古, 尊利			不明	
78)SK1260	143-52	円形	0.89×0.76	134	たらしV字	2	SK1296, SK1225	860/IV, E2, E3古, 尊利, E3新, E4			不明	
78)SK1261	143-52	円形	0.89×0.76	134	たらしV字	2	SK1125, SK1206	1, 760/E1, E4, 皿		石磨1, 新片1	不明	
78)SK1262	143-42	円形	0.89×0.76	134	たらしV字	2	SK1125, SK1206	4, 600/E1, E2, E3, E4		石磨赤1, 原石1	不明	
78)SK1263	143-41	円形	2.35×2.15	56	たらしV字	2	SK1311	1, 300/E1古, E3古, E3中, 尊利			不明	
78)SK1264	143-61	円形	-	47	たらしV字	4	SK1204A, SK1265	5, 570/E2, E3古, E3新			不明	
78)SK1265	130-28	円形	2.76×2.46	42	たらしV字	4	SK1284	840/E1~E2, E3			不明	
78)SK1266	130-28	円形	1.91×1.84	34	たらしV字	1	SK1219	2, 320/替, E1, E3			不明	
78)SK1267	130-52	円形	1.69×1.67	66	たらしV字	1	SK1268	880		磨赤1	不明	
78)SK1268	130-52	円形	2.23×-	42	たらしV字	3	SK1287	1, 180/E2, E3古		磨赤1	不明	
78)SK1269	137-16	円形	2.47×2.13	37	たらしV字	2	SK1281	910/E1~E2			不明	
78)SK1270	137-26	円形	2.32×2.10	44	たらしV字	2	--S0074	1, 640/E2, E3古, E3新			不明	
78)SK1271	137-36	円形	1.95×1.55	59	たらしV字	4	--S0098	3, 090/E1, E2-3, E3古			不明	
78)SK1272	143-72	円形	1.60×1.85	41	たらしV字	3	SK1233	1, 110/替, E1, E2, E3			不明	
78)SK1273	143-94	円形	1.70×1.32	27	たらしV字	3	SK1288, SK1300, SK1301	2, 250/E2, E3古			不明	
78)SK1274	143-81	円形	3.07×2.52	69	たらしV字	4	SK1284	3, 150/E1, E2, E3新			不明	
78)SK1275	130-18	円形	2.23×-	38	たらしV字	2	SK1294	1, 970/IV, E1古, E4			不明	
78)SK1276	137-36	楕円形	2.37×-	50	たらしV字	2	SK1284	300/E2, E3			不明	
78)SK1277	130-30	円形	1.98×1.95	36	たらしV字	1	SK1269	2, 600/IV, E1古, E3古			不明	
78)SK1280	130-33	円形	2.28×1.86	52	たらしV字	3	SK1283, SK1284	1, 250/E1古, E1, E2, E3古			不明	
78)SK1281	137-16	円形	-	71	たらしV字	3	SK1282, SK1294, SK1295	1, 400/IV, E2			不明	
78)SK1282	143-90	円形	2.14×1.81	84	たらしV字	3	SK1257, SK1282, SK1283	5, 070/E1, E2			不明	
78)SK1283	143-90	円形	1.94×-	38	たらしV字	1	SK1366	1, 600/E2-3, E3古			不明	
78)SK1284	143-90	円形	2.40×2.15	66	たらしV字	1	S1046~	2, 620/E1, E2, E3古			不明	
78)SK1285	130-47	円形	1.30×-	60	たらしV字	1	SK1278, SK1300	10, 320/E1-3, E3古, 尊利			不明	
78)SK1286	130-81	円形	1.42×1.40	65	たらしV字	2	SK1304	530/E1~E2, E3			不明	
78)SK1288	137-36	円形	2.75×2.52	46	たらしV字	2	SK1294	360/E2~E3			不明	
78)SK1289	137-30	円形	2.30×2.16	67	たらしV字	2	SK1259	2, 550/E1, E2, E3			不明	
78)SK1290	137-30	円形	1.80×-	36	たらしV字	2	SK1240	0			不明	
78)SK1291	137-10	円形	1.60×-	48	たらしV字	1	SK1214	2, 550/E1, E2, E3古, E3新			不明	
78)SK1292	130-40	円形	1.69×-	31	皿状	1	SK1279, SK1315	2, 320/E3古, 尊利, E4			不明	
78)SK1293	130-56	円形	1.32×-	58	たらしV字	1	SK1280, SK1303, SK1321	930/E1			不明	
78)SK1294	130-30	円形	2.99×2.03	48	たらしV字	1	SK1208	0			不明	
78)SK1295	130-33	円形	1.55×-	33	たらしV字	1	SK1327	2, 720/E1, E4			不明	
78)SK1297	130-12	円形	2.30×1.92	46	たらしV字	1	SK1278, SK1288	1, 250/E1			不明	
78)SK1298	130-12	円形	1.12×0.99	38	たらしV字	1	SK1278, SK1288	1, 660/E1, E3-2			不明	
78)SK1299	130-32	円形	2.22×1.86	42	たらしV字	1	SK1278	2, 850/E1, E2, E3古			不明	
78)SK1300	137-36	円形	2.34×-	52	たらしV字	3	SK1247, SK1248	1, 160/E1~E2, E3古			不明	
78)SK1301	137-35	円形	1.99×1.80	78	たらしV字	2	SK1295, SK1321				不明	
78)SK1302	130-54	円形	1.79×-	46	たらしV字	2	SK1295, SK1321				不明	
78)SK1303	130-35	円形	1.79×-	36	たらしV字	2	SK1295, SK1321				不明	

調査No.	位置	平面形状	規模(㎡) 長さ×幅	積込 断面形状	ピット 数	重複	土曜出土量 (t)	出土土の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)SK1304	137-29	円形	1.82×1.75	52 たらふく	1	SK1289, SK1290	1, 960E2, 喜利			不明	
78)SK1305	137-81	円形	2.30×2.22	130 たらふく	2	S1046→, SK1296	13, 503E3古, 喜利, 加B 480E2古→E3古		土師1, 打奈1, 石磯末1	3a期	
78)SK1306	137-92	円形	1.95×1.66	30 たらふく			1, 725			不明	
78)SK1308	167-20	円形	1.19×1.14	71 たらふく			430E2			不明	
78)SK1309	167-06	円形	1.89×1.72	21 たらふく	1	SK1322			土師1	1～2期	
78)SK1310	167-06	円形	2.14×2.03	70 たらふく			1, 210E1E2			不明	
78)SK1311	147-41	円形	1.30×1.25	26 たらふく		SK1283	1, 160E1E2, E3, E4		円底1, 磨赤2	1a期	
78)SK1312	147-71	円形	2.05×2.40 (2.50×2.40)	81 袋状	2	→SK1326, →SK1339, SK1345	15, 230E1E2, E3古, E4, E5古→E3古, 称			不明	
78)SK1313	167-10	円形	1.70×1.63	82 たらふく			500E2, 加A			不明	
78)SK1314	167-19	円形	1.79×1.75	54 たらふく			800E1E2, E4			不明	
78)SK1315	157-20	円形	2.70×2.57	54 たらふく	1	SK1294, SK1378				不明	
78)SK1316	157-05	円形	2.40×2.15	60 たらふく	2	SK1286	1, 130E1E2, E3古		土師1, 磨赤1, 磨片3 磨子1	不明	
78)SK1317	157-26	円形	1.78×1.77	30 たらふく	1		1, 090E1E2, 新			不明	
78)SK1318	167-22	円形	1.60×0.97	46 たらふく			40			不明	
78)SK1319	167-23	円形	1.23×1.21	51 たらふく			60			不明	
78)SK1320	167-16	円形	1.22×1.14	41 たらふく			850E2E4中			不明	
78)SK1321	137-33	円形	1.25×1.20	46 たらふく		SK1295, SK1303	0			不明	
78)SK1322	167-05	円形	1.52×1.81	75 たらふく	1	SK1309	440E1E2, E3古			不明	
78)SK1323	167-30	円形	1.80×1.50	52 たらふく			7, 530E2古		土師1	不明	
78)SK1324	157-06	円形	1.80×1.50	52 たらふく			380E1E2, E3古		土師1, 磨赤1, 磨片3 磨子1	不明	
78)SK1325	157-33	円形	2.30×2.13	109 たらふく	2		8, 100E1E2, E2			不明	
78)SK1326	147-71	円形	0.92×0.90	84 たらふく		SK1312→	2, 250E2, E3古			不明	
78)SK1327	137-32	円形	2.38×2.40	60 たらふく	3	SK1299	2, 590E2, E3→E3古, 喜利			不明	
78)SK1328	137-63	円形	2.54×2.34	38 たらふく		SK1299	1, 920E1, E2		磨赤1	不明	
78)SK1329	137-63	円形	1.60×1.53	62 たらふく		SK1328	1, 300E1E2, E4		円底1	不明	
78)SK1330	137-87	円形	1.44×1.35	32 たらふく	1	SK1369	1, 050E2			不明	
78)SK1331	137-88	円形	1.44×1.35	32 たらふく		SK1367	520E2, E3→E3古			不明	
78)SK1334	157-08	円形	1.07×0.96	70 たらふく		SK1380	300E3, E4			不明	
78)SK1335	157-61	円形	0.80×0.79	48 たらふく		SK1243, SK1337	2, 125E1E2		磨石1	不明	
78)SK1336	137-37	円形	1.95×→	61 たらふく	1	SK1116, SK1336	0			不明	
78)SK1337	137-37	円形	→	20 たらふく			120E1E2			不明	
78)SK1338	147-71	楕円形	0.50×0.45	22		SK1312→, SK1345, SK1346	160E3古			不明	
78)SK1339	147-70	円形	2.61×→	42 たらふく			600E2, E4			不明	
78)SK1340	167-22	円形	1.38×1.37	134 たらふく	1		300E1E2, E3			不明	
78)SK1341	167-12	円形	2.48×2.07	48 たらふく		S13070	5, 380E1E2, E3→E3古, 加B		土師1, 円底1, 磨赤1, 磨石1	不明	
78)SK1342	157-81	円形	2.25×1.81	79 たらふく	2	SK1370	600E1E2			不明	
78)SK1343	157-78	円形	1.91×1.73	38 たらふく			840E1E2, E3		土師1, 石磯1, 磨片3	不明	
78)SK1344	157-88	円形	1.73×1.60	40 たらふく			2, 650E1E2, E3, 称			不明	
78)SK1345	147-70	円形	→	35 たらふく		SK1339, SK1309, SK1346, SK1347	1, 700E1E2→E3古			不明	
78)SK1346	147-70	円形	1.10×0.78	74 たらふく		SK1332, SK1345	960E1E2古, 称			不明	
78)SK1347	147-70	円形	1.69×1.59	44 たらふく		SK1345	190E1E2		磨赤1	不明	
78)SK1348	167-07	円形	1.87×→	28 たらふく		SK1349, SK1354	600E1E2古, E4			不明	
78)SK1349	167-02	円形	1.60×0.49	34 たらふく		SK1348	0			不明	
78)SK1350	167-02	楕円形	2.00×0.97	118			1, 200E1E2古			不明	脇穴
78)SK1351	177-26	円形	(1.74)×(1.71) (2.48)×(2.44)	90 袋状		SK1392	6, 650E1E2古		磨石1	不明	
78)SK1352	177-16	円形	1.88×1.78	128						不明	

遺構No.	位置	平面形状	規模(長さ×幅) 単位:cm	構造	断面形状	ピット 数	重複	土曜出土量 (kg)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
78)SK1353	177-65	円形	1.10×1.10	38	たらし瓦	1	SK1348	510E1			不明	
78)SK1354	167-66	円形	1.07×0.81	24	たらし瓦	1		10E1E2		石皿	不明	
78)SK1355	167-66	円形	1.09×1.36	34	たらし瓦	1		2,550E2			不明	
78)SK1356	161-21	円形	1.50×1.49	34	たらし瓦	1		40E		土師1,磨石1	不明	
78)SK1357	131-44	円形	2.33×2.32	76	敷状	1	SK1358	4,710	IV,VI,磨石,E1,E2,白古	土師1,磨石1	不明	
78)SK1358	131-44	円形	1.95×1.8	50	たらし瓦	2	SK1357,SK1473	7,860	磨石,E1,E2	石皿	不明	
78)SK1359	161-12	円形	2.33×2.29	60	たらし瓦	2		1,100			不明	
78)SK1360	131-32	円形	1.12×1.8	40	たらし瓦	1	SK1377	2,400	E2-3,EG古	土師1,磨石2	不明	
78)SK1361	131-03	円形	1.87×1.8	42	たらし瓦	3	SK1173→	5,720	IV,EG古,E3,黒1	石皿	不明	
78)SK1362	131-56	円形	2.66×1.8	70	たらし瓦	2	SK1363,SK1365,SK1390	1,790	E1,E2古	磨石2	不明	
78)SK1363	131-56	円形	1.41×1.8	46	たらし瓦	2	SK1362,SK1390	2,900	E1E2,EG	磨石1	不明	
78)SK1364	131-55	円形	1.65×1.8	56	たらし瓦	1	SK1365	2,160	E2,EG		不明	
78)SK1365	131-55	円形	1.70×1.8	49	たらし瓦	1	SK1362,SK1364	3,300	磨石,E1古,E2	打穿1	不明	
78)SK1366	131-47	円形	2.03×2.00	86	たらし瓦	1	SK1285,SK1399	3,300	磨石,E1古,E2		不明	
78)SK1367	131-57	円形	2.00×1.8	46	たらし瓦	3	SK1405,SK1409→,SK1419	800	E1,磨石	石皿	不明	
78)SK1368	141-60	円形	1.16×1.8	34	たらし瓦	1	SK1330	2,340	E2-3,磨石		不明	
78)SK1369	131-78	円形	2.16×2.04	66	たらし瓦	2	SK1330	2,340	E2-3,磨石		不明	
78)SK1370	131-71	円形	2.11×1.95	47	たらし瓦	1	SK1342,SK1389	1,380	磨石,E3,E4	打穿1	不明	
78)SK1371	157-75	円形	1.87×1.78	39	たらし瓦	1		480	E1E2		不明	
78)SK1372	151-95	円形	1.62×1.38 (1.75×(1.75))	74	敷状	1	SK1412	5,220	磨石,白古,EG古	出廻り,石皿2,磨石1	不明	
78)SK1373	131-54	円形	1.90×1.80	22	たらし瓦	1	SK1473	1,650	E2,EG		不明	
78)SK1374	131-61	円形	—	36	たらし瓦	1	SK1375,SK1380	1,720	E1,E2,EG古		不明	
78)SK1375	131-61	円形	2.04×1.8	27	たらし瓦	2	SK1374,SK1387	920	E2E2-3	磨石1	不明	
78)SK1376	131-20	円形	2.33×1.8	36	たらし瓦	2	SK1241,SK1255,SK1378	3,280	E1古,E1E2→EG古		不明	
78)SK1376B	131-20	円形	1.88×1.8	38	たらし瓦	4	SK1315,SK1376A	865	EG古		不明	
78)SK1377	131-31	円形	1.78×1.00	45	たらし瓦	1	SK1360,SK1480	200	E1古		不明	
78)SK1378	161-32	円形	1.95×1.87	50	たらし瓦	1		1,920	E1,E2,EG		不明	
78)SK1379	131-83	円形	1.70×1.69	23	たらし瓦	1	SK1335,SK1374	2,600	E1E2,EG		不明	
78)SK1380	131-61	円形	2.32×1.8	24	たらし瓦	1	SK1335,SK1374	2,600	E1E2,EG		不明	
78)SK1381	131-68	円形	1.95×1.75	51	たらし瓦	1	SK1418	1,530	E1,EG古	石皿	不明	
78)SK1386	131-54	円形	2.22×0.95	62	たらし瓦	3		2,770	E1古,E2	石皿1,磨石1	不明	
78)SK1387	131-61	円形	1.00×0.98	10	たらし瓦	2	SK1375	1,600	E1E2		不明	
78)SK1388	131-70	円形	2.09×1.98	56	たらし瓦	2	SK1389	680	E1E2		不明	
78)SK1389	131-71	円形	—	25	たらし瓦	2	SK1370,SK1388	1,600	E1,E2,白古	磨石1	不明	
78)SK1390	131-66	円形	2.32×1.8	46	たらし瓦	2	SK1382,SK1363,SK1366	2,000	磨石,E1E2		不明	
78)SK1391	131-65	円形	2.15×2.10	62	たらし瓦	2	SK1351	6		磨石1	不明	
78)SK1392	177-27	円形	1.54×1.8	51	たらし瓦	1		740	E2,EG古		不明	
78)SK1394	131-58	円形	1.37×1.22	40	たらし瓦	1	SK1283,SK1396,SK1463	1,160	IV,EG古		不明	
78)SK1395	141-80	円形	1.88×1.8	42	たらし瓦	1	SK1395,SK1444,SK1450,SK1451,SK1463	6,740	EG古,EG古,磨石,磨石,磨石	土師1,打穿1,石皿2	不明	
78)SK1396	141-81	円形	2.18×1.71	61	たらし瓦	1	SK1395,SK1444,SK1450,SK1451,SK1463	6,740	EG古,EG古,磨石,磨石,磨石	土師1,打穿1,石皿2	不明	
78)SK1398	161-18	円形	1.74×1.61	65	たらし瓦	1	SK1412	30		磨石1	不明	
78)SK1399	161-22	円形	1.41×1.36	50	たらし瓦	1	SK1428	5,650	E1E2→EG古,磨石		不明	
78)SK1400	177-16	円形	1.98×1.8	52	たらし瓦	1		30			不明	
78)SK1401	167-94	円形	2.22×1.95 (2.30×2.08)	78	敷状	1		5,550	E1E2→EG古,磨石		不明	
78)SK1402	177-64	円形	1.30×1.30	56	たらし瓦	1		720	E1古,EG古	石皿	不明	
78)SK1404	131-47	円形	2.00×1.98	23	たらし瓦	1		2,160	E1,E2		不明	
78)SK1404	131-47	円形	2.00×1.98	23	たらし瓦	1		4,740	E2E2→EG古	磨石1	不明	

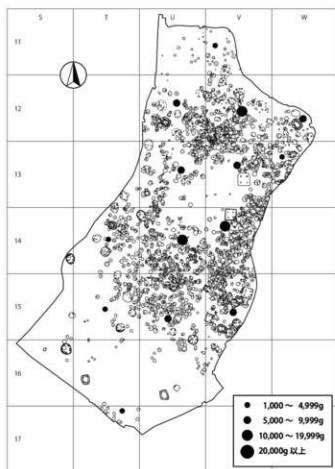


遺構No.	位置	平面形状	規模 (m) 長さ×幅	断面形状	シット 数	重複	土器出土量 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK1455	16V-01	円形	2.10×2.07	20 たらふく	2	SK1471	150g	150E		不明	
(78)SK1458	19S-15	円形	2.65×-	49 たらふく			0	0		不明	
(78)SK1461	13V-72	円形	1.52×1.36	32 たらふく	2		1,150	E1,E2,E3		不明	
(78)SK1462	14V-81	楕円形	1.30×1.35	42 たらふく		SK1442,SK1443	500	E1~E2,E3		不明	
(78)SK1463	14V-80	円形	(2.25)×-	44 たらふく		SK1395,SK1464	1,400	E1, E1~E2, E4		不明	
(78)SK1464	14V-80	円形	1.60×1.06	38 たらふく		SK1463	1,380	E1,E2~E3, 赤		不明	
(78)SK1465	15V-54	円形	(1.81)×1.78 1.78×(1.76)	45 段状	3	SK1454	1,000	E2,E3, E3中	打穿2	不明	
(78)SK1466	13V-31	円形	1.80×-	44 たらふく		SK1450	310	E3		不明	
(78)SK1467	13V-53	円形	1.30×1.30	58 たらふく		SK1250,SK1468	500	E1~E2,E3		不明	
(78)SK1468	13V-53	円形	1.70×-	24 たらふく	1	SK1250,SK1467	570	E2,E3		不明	
(78)SK1470	13V-49	円形	2.40×2.27	38 たらふく			650	E2,E3		不明	
(78)SK1471	16V-01	円形	1.00×-	38 たらふく	1	SK1455	0	1,420E2		不明	
(78)SK1472	13V-51	円形	1.18×1.10	29 たらふく			1,420E2			不明	
(78)SK1473	13V-44	円形	1.27×-	28 たらふく		SK1358,SK1373	0	3,053E1~2		不明	
(78)SK1474	13V-96	円形	2.06×1.78	32 たらふく		SK1475	50	E3		不明	
(78)SK1475	13V-96	円形	1.40×-	24 たらふく	1	SK1474,SK1476	50	阿1		不明	
(78)SK1476	16V-06	円形	1.98×1.80	20 たらふく		SK1475	2,080	E1,E2	香粉1	不明	
(78)SK1477	13V-41	円形	2.60×-	24 たらふく	1	SK1420,SK1448	1,000	E1~E2,E3	土師1	不明	
(78)SK1478	15V-09	円形	2.10×1.80	32 たらふく	2	SK1377,SK1449	1,070	E2,E3	石鏝未1	不明	
(78)SK1479	16V-05	円形	1.72×1.44	50 たらふく			1,170	E2,E3, 赤		不明	
(78)SK1480	13V-31	円形	1.61×-	26 たらふく	2	SK1483→	1,350	E1,E3, 赤		不明	
(78)SK1481	15V-59	円形	1.40×1.36	30 たらふく	2	SK1483→	160	E3		不明	
(78)SK1482	15V-49	円形	1.65×-	54 たらふく	2	SK1483→	3,010	赤, E2, 赤		不明	
(78)SK1483	15V-49	円形	1.70×-	54 たらふく	2	SK1482	450	阿IV, E1~E2, E3		不明	
(78)SK1484	16V-16	円形	3.12×3.00	112 段状	1	SK1503	40			不明	
(78)SK1485	16V-16	円形	2.04×1.82	36 たらふく		S1058	3,010	赤, E2, 赤		不明	
(78)SK1486	13V-10	円形	1.36×1.25	26 たらふく			450	阿IV, E1~E2, E3		不明	
(78)SK1487	15V-72	円形	1.08×0.96	48 たらふく			0			不明	
(78)SK1488	15V-13	円形	1.70×-	62 たらふく	2	SK1489,SK1512	2,820	赤, E1, E3中, E4		不明	
(78)SK1489	15V-13	円形	-	34 たらふく		SK1488	160	E3		不明	
(78)SK1490	15V-02	円形	-	31 たらふく	3	SK1491,SK1518	0			不明	
(78)SK1491	15V-02	円形	-	30 たらふく		SK1490,SK1518	3,400	E1, E3, E3, 赤	石鏝未1	不明	
(78)SK1492	15V-02	円形	2.32×1.80	78 たらふく	2	S0992	5,050	E1~E2,E3, E3中	土師1	不明	
(78)SK1493	15V-48	円形	1.84×1.70	32 たらふく	1		400	E1,E2		不明	
(78)SK1494	15V-27	円形	2.11×1.82	66 たらふく	1	SK1504	910	阿IV, E1,E2, E3		不明	
(78)SK1495	15V-17	円形	1.95×-	38 たらふく	3	S3048	120	E2		不明	
(78)SK1496	15V-28	円形	1.95×-	21 たらふく	6	S1040,SK1505	2,310	E1,E2, E3	磨石1	不明	
(78)SK1498	16V-49	円形	2.47×2.39	58 たらふく	4		0			不明	
(78)SK1500	16V-49	円形	0.91×0.88	50 たらふく			50	E3		不明	
(78)SK1501	16V-49	円形	1.67×-	32 たらふく			10			不明	
(78)SK1503	16V-06	円形	2.10×1.99	18 たらふく		SK1484	90	E1, E2		不明	
(78)SK1504	15V-26	円形	0.83×-	24 たらふく	1	SK1494	150	E3		不明	
(78)SK1505	15V-26	円形	1.73×1.32	51 たらふく	3	S1040→,SK1496	290	E3		不明	
(78)SK1506	15V-22	円形	0.85×-	37 たらふく			550	E3		不明	
(78)SK1507	13V-22	楕円形	0.92×0.62	21 重状		SK1533	5,330	阿IV, E1, E2, E3, 赤	出灰1, 磨石3	不明	
(78)SK1508	13V-22	円形	1.95×-	52 たらふく	1	SK1528	4,050	E1~E2,E3, E3, 赤	磨石1	不明	
(78)SK1510	13V-31	円形	1.08×1.06	34 たらふく			200	E3		不明	

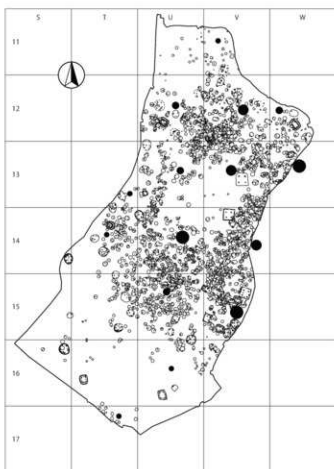


遺構No.	位置	平面形	規模 (m) 長径×短径	深さ (m)	断面形	ピント 数	重復	土器出土量 (g)	出土土器の時期	その他の主な遺物	所属時期	備考
(78)SK1557	13 <sup>号</sup> -47	円形	2.26×2.20	37	たらい状	1	SK1558	2,650	E1, E2, E3	石蔵米1, 織石1	不明	
(78)SK1558	13 <sup>号</sup> -47	円形	3.36×-	35	たらい状	3	SK684, SK731, SK1557	1,360	IV, E1~E2, E3新~E3-4	銅片3	不明	
(78)SK1560	14 <sup>号</sup> -24	円形	0.76×0.64	126	たらい状	-	SK1559, SK1561	56			不明	
(78)SK1561	14 <sup>号</sup> -24	円形	0.54×-	98	たらい状	-	SK1560	56			不明	
(78)SK1562	14 <sup>号</sup> -24	円形	0.80×-	55	たらい状	-	SK1561	20	層1		不明	
(78)SK1563A	13 <sup>号</sup> -27	円形	3.64×-	85	たらい状	1	SK1563B	2,760	E2-3, E3		2.c層	
(78)SK1563B	13 <sup>号</sup> -27	円形	3.68×-	-	たらい状	1	SK1563A					
(78)SK2000	12 <sup>号</sup> -77	円形	2.37×1.92	52	袋状	1	S1014	0			不明	
(78)SK2001	12 <sup>号</sup> -10	円形	2.07×(2.02)	50	たらい状	2	--SK006	1,360	E2-3, E3中	石蔵3, 石蔵12, 磨石2	2.b層	
(78)SK2004	12 <sup>号</sup> -65	円形	2.70×2.48	50	たらい状	2	S1017, SK030, SK031				不明	
(78)SK2005	13 <sup>号</sup> -68	円形	1.72×-	-	たらい状	-	SK543, SK544, SK606				不明	
(78)SK2006	13 <sup>号</sup> -69	円形	-	-	-	1	SK643, SK665, SK673				不明	
(78)SK2007	13 <sup>号</sup> -87	円形	-	-	-	-	SK826, SK856, SK871				不明	
(78)SK2008	13 <sup>号</sup> -25	円形	0.80×0.52	40	たらい状	-	S1004				不明	
(78)SK2009	14 <sup>号</sup> -42	円形	1.40×-	62	たらい状	2	SK605				不明	
(78)SK2010	14 <sup>号</sup> -73	円形	2.19×-	48	たらい状	2	SK067, SK1017				不明	
(78)SK2011	15 <sup>号</sup> -18	円形	2.00×1.82	40	たらい状	5	--S1040				不明	
(78)SK2012	15 <sup>号</sup> -22	円形	0.84×0.72	-	たらい状	-					不明	
(78)SK2013	15 <sup>号</sup> -15	円形	0.77×0.45	71	たらい状	-	--S1059	8,720	E2-3	磨石1	2.c層	用箋

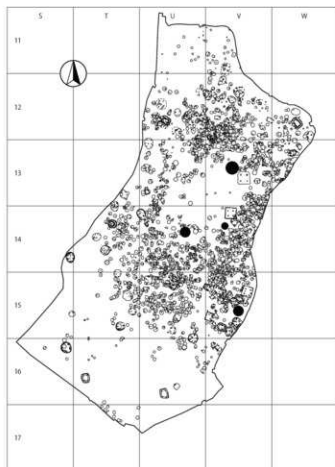




第61図1 グリッド別土器出土量 (加曾利E前半)



第61図2 グリッド別土器出土量 (加曾利E後半)



第61図3 グリッド別土器出土量 (後期)

第8表 グリッド別細文土器出土量

グリッド	重量 (g)	加E前半	加E後半	後期
11U	4,440	-	-	-
11V	11,900	4,750	3,550	50
12T	130	-	15	-
12U	48,100	5,350	6,600	200
12V	130,725	13,140	13,800	990
12W	55,500	7,500	7,450	160
13T	9,200	650	1,250	125
13U	94,150	7,630	8,330	3,860
13V	228,110	6,100	18,600	20,620
13W	69,300	2,500	22,400	850
14T	23,880	3,820	1,650	310
14U	209,385	16,500	20,850	18,920
14V	179,060	19,530	19,925	7,580
15T	12,650	1,250	730	40
15U	50,000	6,250	7,400	350
15V	191,035	7,900	25,920	10,560
16T	4,670	260	420	-
16U	12,185	950	1,500	350
16V	1,030	-	-	-
16R?	850	210	100	-
16S	540	150	20	-
17T	42,715	4,100	4,200	300
17U	1,200	940	10	-
18T	6,900	1,100	70	30
19R	400	70	-	-
19S	765	-	-	-
20P	420	50	125	-
20Q	40	-	-	-
	1,389,280	110,700	164,915	65,295

## 第5節 土器 (第62~105図、図版58~124、附図1~8)

出土土器の総重量は約7tとなった。内訳は住居跡1,041kg、炉跡88kg、土坑4,503kg、遺構外1,389kgである。第1章第3節2の時期区分にしたがって、時期別に概要を記す。

### 前1期

集落が構成されない草創期後半から阿玉台Ⅱ式までを一括して前1期とした。

撚糸文土器は各所から散発的に出土した(図版124)。非草1式が多く、同2式以降量が少なくなる傾向が認められ、遺構も認められない。以降は田戸下層式1点のみで、中期中葉の阿玉台式までの間の土器、遺構ともまったく検出されていない。

阿玉台式前半はⅠa式・Ⅰb式ともごくわずかである。阿玉台Ⅱ式はこの時期唯一の住居跡であるS1100からややまとまって出土している(図版117)。SK275は、量は少ないが阿玉台Ⅱ式のみが出土しており、当該期としてよいと思われる。第72図52はS1100から出土した完形の鉢形土器である。

### 1期

阿玉台Ⅲ式、Ⅳ式から加曽利E1式までを1期とした。1期の出土土器の大半はⅠa期に属する。

#### Ⅰa期

多量かつ多種類の土器が出土している。阿玉台Ⅲ式はSK759-1(第90図50)の1点のみが完形土器である。Ⅱ式よりも量的に増加しているが、一括土器として他に提示できるのはSK279-2(図版75)程度である。

阿玉台Ⅳ式は隆起線区画に沈線を添え、山形板状の大型突起を持つ典型例としてS1022-5(第65図17)、SK107-3・4(第79図11・12)、SK731-1(第89図49)、SK884-1(第92図59)のほか、S1044-3(図版63)、S1110-(2)・(4)(図版119)、SK449-2(図版79)、SK659-2(図版85)、SK918-1(図版90)がある。これらと同様な大型突起を持つものの縄文のみを施すSK304-1(第80図18)、SK1046-1(第97図73)や撚糸文のみを施すSK569-1(第85図36)がある。SK758-1(第90図51)は平縁系の同種の土器で、口縁に大木式系統の蛇形貼付文が付く。S1022-6(第65図18)も平縁で直線のな区画文を持つ。SK597-1(第86図37)は口縁突起の形状や器形は勝版式、口縁部の縄文がゆがった隆帯区画は阿玉台式に近く、胴部文様は大木式系という多様な要素を持っていると考えられる。

勝版式は大部分が末期に位置付けられるが、典型的ないしはこれに近似する土器としてはS1022-4(第65図16)、SK396-1(第81図23)、SK869-1(第92図58)、SK1550-1(第104図104)があげられよう。在地化したものとしてはSK107-2(第79図10)がある。SK594-1(第84図33)、SK942-1(第95図66)、SK1417-2(第102図97)は最末期と思われ、いわゆる中峠式や加曽利E1式古段階にきわめて近い。SK135-1(第80図16)は「中峠6次1住型深鉢に近似する勝版式」であろう。

中峠O地点型深鉢としてはSK1107-4(第99図81)、SK1352-1(第101図92)、SK1417-1(第102図96)があげられるが、地域差によるものか、やや異なる。第99図81は口縁突起が勝版式的で、下部区画隆帯は大木式系統のたが状隆帯となり、第102図96は口縁直下の交互刺突文が一部に施されるのみとなる。SK1107-5(第99図82)は口縁下の交互刺突による杵状文の下に背割れ隆線による蕨状文の先端が胴部に垂下している。SK031-1(第77図4)も器形は異なるが同様の垂下する背割れ隆帯が付く。S1022-7・8(第65図19・20)、S1030-2(第67図27)は中峠O地点型深鉢近似の土器である。どちらも口縁突起は在地勝版

式的である。SI030-3（第67図28）は台耕地34号住型深鉢である。

加曾利E1式古段階のうち、口縁部文様帯に集合沈線を充填しない後代の加曾利E式の直系に当たる類型としてはSI002-2（第62図2）、SI014-1（第62図4）、SI022-11（第66図23）、SK023-1（第77図1）、SK096-1（第78図8）があげられよう。第62図2は口縁が大木8a式的である。第62図4は口縁直下に刻みが巡っている。第66図23は本類型の典型例で、第77図1は地文が燃糸文で西関東的であるが、口縁突起やクランク文は在地のものである。SI022-10（第66図22）、SI030-5（第67図30）、SK031-2（第78図5）はこれらとは異なり簡素な文様構成を取るが、1a期の他の類型の土器とともに出土している。

口縁部文様帯に集合沈線を充填する中峠6次1住型深鉢及び近縁の土器は多く出土していて、かつ様々な要素が絡んでいる。「中峠6次1住型深鉢」そのものに相当する例はSI022-9（第66図21）とSK1107-2（第98図79）と思われるが、第66図21は同型にはないとされているクランク文を施し、第98図79は横S字文に小波状貼付文が付く。「中峠6次1住型深鉢類似」にはSI002-1（第62図1）、SK855-1（第90図53）、SK835-1（第92図57）、SK1107-1（第98図78）、14U-1（第105図1）が相当しよう。第90図53は大型で特異な口縁突起を持ち、主文様はクランク文に近い。第92図57は主文様である蕨状文に刻みが付き、口縁部文様帯の地文に縄文を施す。また、口縁部文様帯の下半には胴部と同様の3条1単位の懸垂文が付く。第98図78は勝坂式的な大型の口縁突起が付き、胴部は4条1単位の大木式系の文様を施す。第105図1はクランク文に刻みが付き、胴部文様は3条1単位の懸垂文となる。「中峠6次1住型深鉢の影響を受けた加曾利E1式」としてはSI022-3（第64図15）、SK454-1（第83図27）、SK586-1（第85図34）、SK921-1（第94図64）があげられよう。第64図15はクランク文に刻みが付き、口縁部文様帯の地文に縄文を施す。第85図34は大型の口縁突起を持ち、主文様は大木式系のたが状隆帯を用いている。第94図64も同様の隆帯によるクランク文を施すが、口縁部文様帯の上下を隆帯で画していないため、加曾利E式らしく見えない。

大木8a式に近い土器にはSI111-2（第73図58）、SK049-1（第78図7）がある。どちらも口縁部にたが状隆帯による大振りな文様を施す。これらに似て、たが状隆帯を施すSI022-1・2（第64図13・14）は「高根木戸43号住型深鉢」であろう。13・14とも口縁突起は在地の勝坂式である。SI030-1（第67図26）は小型土器で、窓枠状の立体的な区画の内外に押引文を施す。他にSK881-1（第91図56）は多重連弧文土器、SK304-2（第81図19）は北関東系の甕型出器で、頸部と胴部中段に押引文を施す。SI030-6（第68図31）、SI030-11・13（同図36・38）、SI050-1（第71図48）、SI055-1（第71図49）、SK023-3（第77図3）、SK679-1（第88図44）、SK701-1（第88図45）は1a期の半粗製土器であろう。

## 1b期

量的には少ない。SI026-1（図版61）が典型例である。SI004-1（図版58）、SK629-1（第88図42）は青割れ隆帯のクランク文の起点に加曾利E2式古段階の特徴である小型の渦巻文が付くが、全体の文様構成はいまだ複雑化していないことから加曾利E1式新段階と見た。

## 2期

加曾利E2式古段階を2a期、新段階を2b期、2-3中間式を2c期とした。

### 2a期

住居跡の例としては、SI005がよくまとまっている。SI005-1（第62図3）は波状突起頂部につく渦巻文が大木8b式と共通する。図版103の破片も半数は当該期のものである。SI029-2（図版61）、SI030-7（第

68図32)は口縁部文様帯に2本隆線による横に流れる文様に渦巻文や剣先文が絡む当該期の特徴を持つが、西関東ほど頸部無文帯を持つものが必ずしも優勢ではない。土坑出土例では、SK093(図版121)、SK116-1(図版73)、SK134-3(図版73)、SK176-1(第80図17)、SK383-2(図版77)、SK441-1(第83図29)、SK507-1・2(図版80)、SK1219-1(第100図85)、SK1323-1(第102図95)があげられよう。中でも第80図17、第83図29、第102図95は在地製作とは思えない秀麗な作りで、東南北部の大木8b式にきわめて近い。

SK423-1(図版78)は曾利古2式である。伴出する土器がないため、加曾利E1式新段階併行かE2式古段階併行かわからないが、本遺跡唯一の古い曾利式である。千葉県では東京湾岸では見かけが、古鬼怒湾側では出土量はごく少ない。

## 2b期

2c段階との見分けが難しいが、明らかに連弧文を伴っていない。住居跡の例では好例がない。SI019・SI054の破片資料(図版105・115)が該当すると思われる。土坑出土例も、大部分は断片的なものである。SK1119-1・2(図版95)、SK1226-1(第100図86)、SK1362-1(図版98)、SK1485-1(図版99)が大型破片である。遺構外では14V-1(第105図2)が該当しよう。これらは口縁部文様帯に明瞭な隆線で単位文化した渦巻文と杵状区画文を施すが、SK1119-2を除きみな口縁直下に隆線が一周し、かつ口縁との間に沈線が巡る。これは前代の波状突起頂部に付く小型渦巻を伴う沈線の名残であろう。SK1119-2はこれが見られないが、口縁部渦巻文様は不完全な古い様相を示す。

## 2c期

磨消手法のない、あるいは磨消手法の不十分な連弧文土器を伴う段階である。西関東では連弧文土器が主体となり、前代からの伝統的な加曾利E式の文様構成を持つ土器が一時的にほとんど見られなくなるが、東関東では加曾利E式系の土器が相変わらず主体となる。東関東の当該期の伝統的な加曾利E式はこれまで明確に提示されているものが少ないが、上記連弧文土器と共存する事例を探せば自ずと明らかになるはずである。

まず、どうみても磨消手法を取っていない連弧文土器と共存が明らかな、またはきわめて近い例を列挙する。SI016-1(第62図5)の連弧文土器は炉体土器で、明らかに連弧文間を磨消していない。SI016-2(第63図6)はそのすぐ脇の覆土下層から出土した加曾利E式で、口縁部文様帯は簡素な単位文様で、隆線による杵状区画と渦巻文が展開する。以下のものもそうだが、2b期の特徴であった口縁を巡る隆線と口縁直下の沈線はなくなり、単口縁となっている。胴部の懸垂文は磨消されていない。SK494-1の連弧文土器(第83図30)は口縁下の円形刺突列と口縁の間に縄文が残る。伴出した加曾利E式はSK494-2(図版80)で、胴部懸垂文が不完全な磨消となる大型破片である。炉体土器SI106-2(図版64)は3本沈線の連弧文で、沈線間の磨消は不十分である。同じ炉体土器であるSI106-1(第72図55)は加曾利E式で、単位文化した低平な隆線による口縁部文様帯と非磨消の胴部懸垂文を持つ。SX003は3個体の炉体土器からなる。連弧文土器SX003-1(図版65)は3本沈線の連弧文で、連弧文間の磨消は不十分である。共存した加曾利E式土器は2個体あり、SX003-3(図版65)は明らかに非磨消の懸垂文、SX003-2(図版65)は口縁部文様帯が簡素な単位文で、隆線はのっぺりしており、胴部の懸垂文は磨消が不十分である。

これらに近い例を挙げるとSK029-2(図版69)、SK816-1(第91図54)、SK910-1(第93図60)、SK1086-2(図版94)、SK1149-1(図版95)、SK1162-1(第97図74)、SK1254-1(第101図91)、SK1275-1(第100図88)、SK1437-1(図版99)が該当しよう。SK1162の覆土中に構築されたSX060-1(図版68)は、胴部に磨消懸垂

文を施す加曾利E3式古段階で、SK1162-1・2（図版95）との層位による時期差が確認できる。

磨消手法を取っていない連弧文土器は他にSK861-1（図版90）、SK1198-1（第99図84）、SK1290-1（第100図89）がある。SK1076-1（第97図77）は当該期か3a期か判断が難しい。なお、当該期の口縁部文様帯を持たない類としてSK1162-2（第97図75）や、連弧文土器の口縁部交互刺突文を取り入れたSK406-1（第81図24）がある。SK560-1・2（図版82）は大木式系の土器であるが、8b式から8-9中間式であろう。

### 3期

加曾利E3式古段階を3a期、中段階を3b期、新段階を3c期とした。3a期は遺構、遺物とも最も量が多く、以降は急速に減少していく。

#### 3a期

加曾利E式直系の土器では、口縁部文様帯に低い隆線による渦巻文と杵状区画を持ち、胴部文様帯に幅の狭い磨消懸垂文を施す段階である。西関東では見られない明らかに磨消手法を持った連弧文土器及び曾利古式の系統を引く重弧文や斜行沈線文土器を伴う。SI021の炉体土器1〜4（第63・64図9〜12）、SI102の炉体土器1・2（第72図53・54）はこうした千葉県内3a期の状況を示す好例である。

この段階の土器が最も出土量が多く、ここでは1点ずつ提示しないが、SI038-1（第70図44）、SX031-1（第75図7）、SK633-1（第86図38）、SK711-1（第89図48）、SK1103-1（第97図76）は古1段階に属しよう。対して、SI021-2・4（第63図10・第64図12）、SX054-1（第76図15）は古2段階と思われる。SK103-1（第79図14）はこの時期の広口壺型の土器である。第63図10・第64図12の2例、第70図44、第86図38、第89図48、第97図76をはじめ、SI1105-1（図版64）、SX012-1（第74図1）などは、数単位ある渦巻文のうちの一部ないし全部が円文となるかまたは完全に欠く例が多い。千葉県内あるいは本遺跡の特徴か留意しておく必要がある。

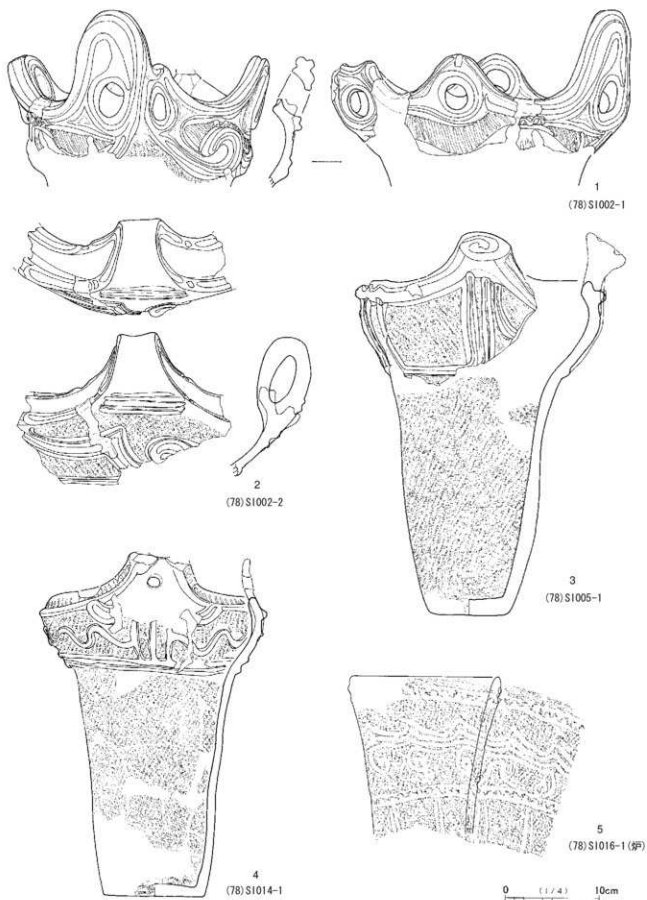
明らかに磨消手法を持った連弧文土器は、前掲以外にSX021-1（第74図4）、SX050-1（第75図11）、SK1034-1（図版93）、SK1055-1（第96図70）がある。なお、この時期の口縁部文様帯を欠く土器として、第96図70に伴って逆U字状ボジ文の土器同図71があり、SK1068ではY字状文を施す土器SK1068-1（図版94）がある。

曾利式系の土器はSI021-1（第63図9）が炉体土器として同図10・11と共伴していた。SK703-2（第89図47）はSK703-1（同図46）と同一土坑から出土しているが、時期は異なるであろう。他にSX049-1（第75図12）、SK207-1（図版74）、SK1432-1（図版98）がある。SK1231-1（図版96）は籠目文、SX053-1（第76図13）は曾利式由来の条線地文を持った西関東系の土器であろう。

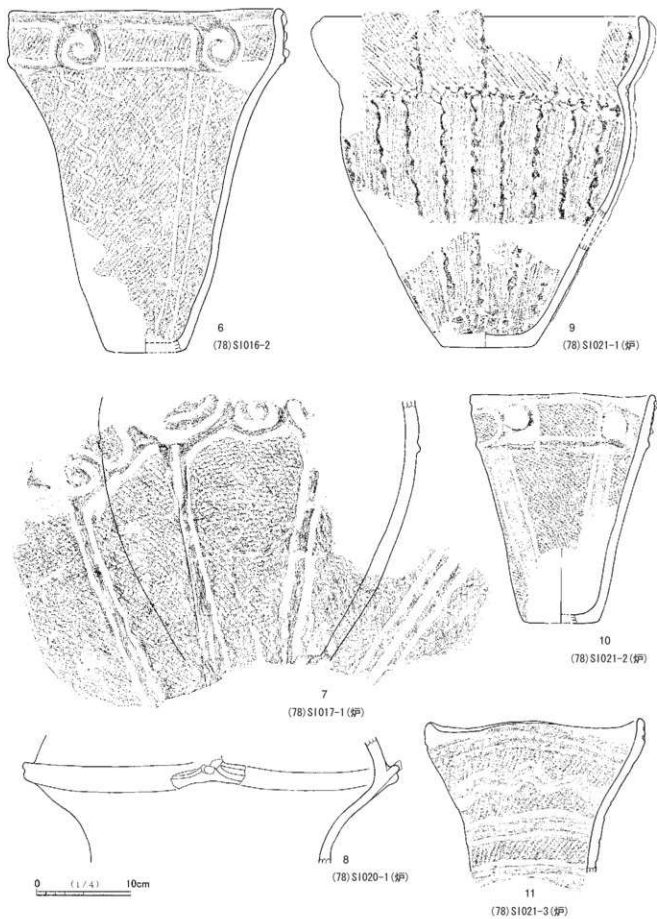
#### 3b期

加曾利E式直系の土器では、口縁部の渦巻文の巻きがゆるくなり、胴部磨消懸垂文の磨消部の幅も広くなる。連弧文、曾利式系の土器はほとんど姿を消し、替わって吉井城山類や口縁部文様帯を持たない沈線文系の土器が伴うが、西関東ほど多くないのは地域差と考えられる。

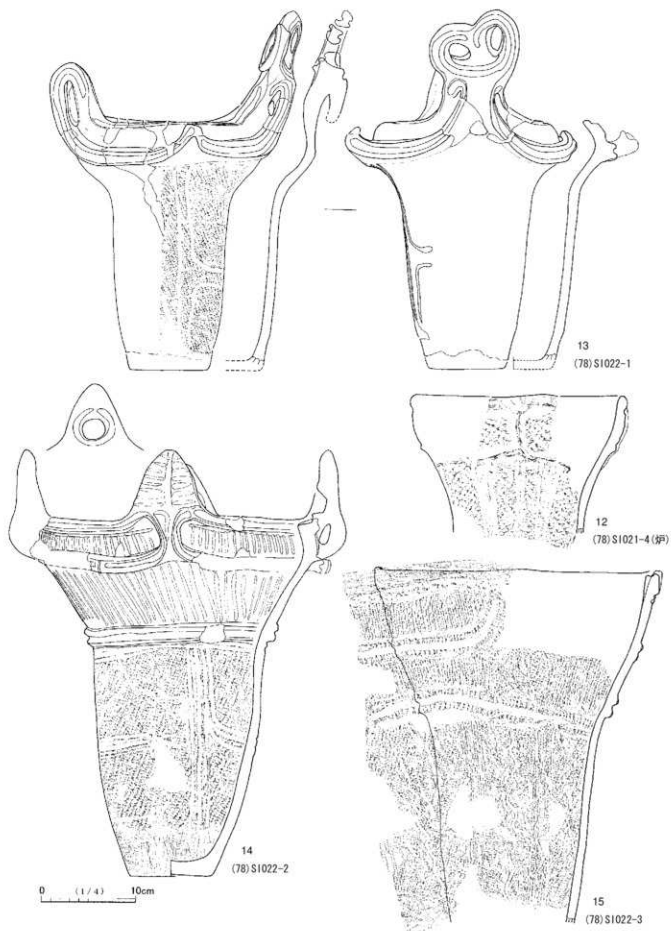
SI025-1（第66図24）、SX041-1（第75図9）、SX076-1（第76図16）、SK703-1（第89図46）、SK1220-1（第101図90）が加曾利E式直系の土器である。SI037-2（第70図43）は磨消懸垂文同士が連結し、H字状ネガ文となる。口縁部文様帯では渦巻文はなく、隆線による円文とノ字文に退化している。SI059-2（第71図51）は広口壺形の土器で、3a期としたSK1055-2（第96図71）と同じ刺突文列と逆U字ボジ文を施すが、



第62図 縄文時代住居跡出土土器 (1)

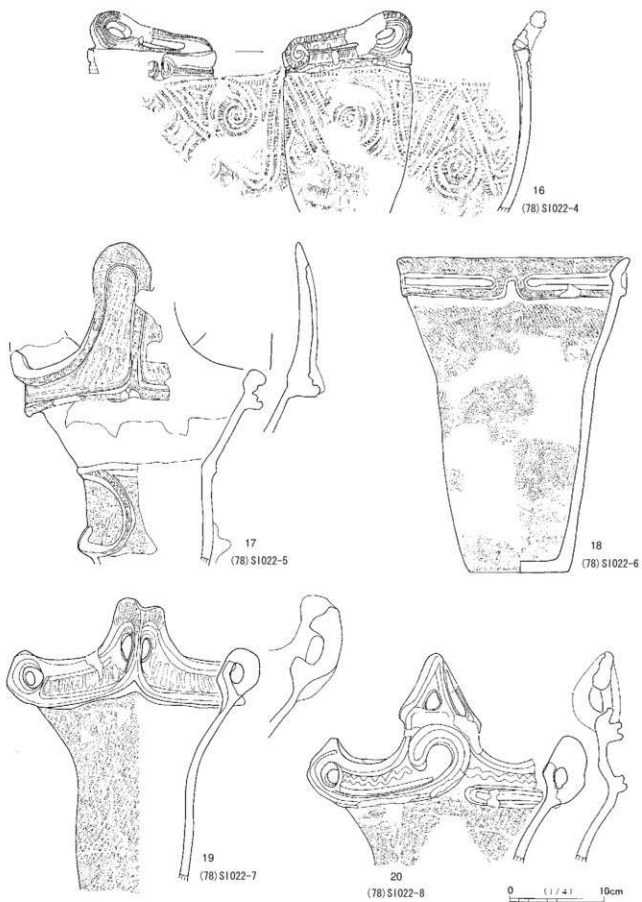


第63図 縄文時代住居跡出土土器 (2)

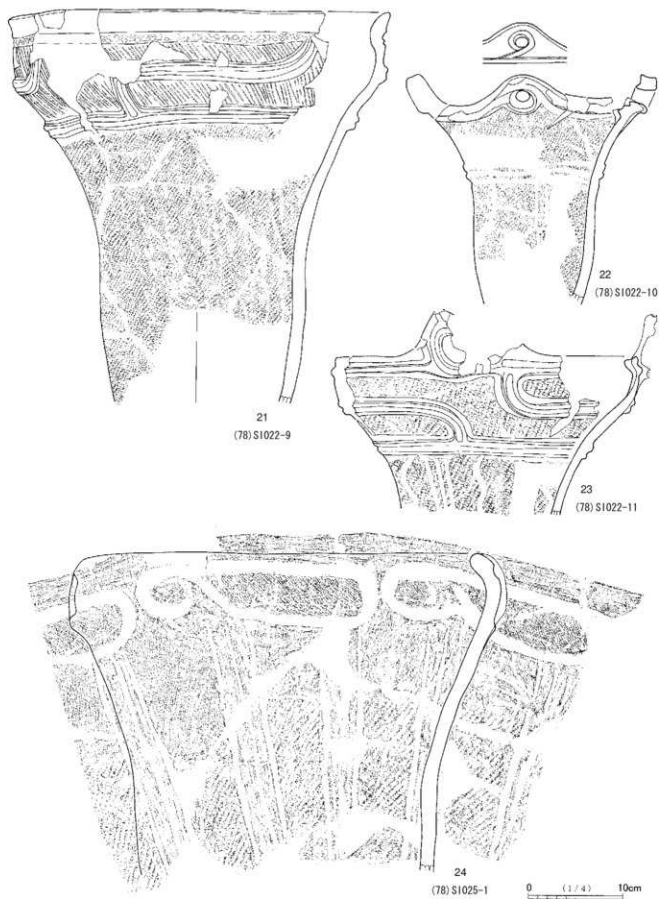


第64図 縄文時代住居跡出土土器 (3)

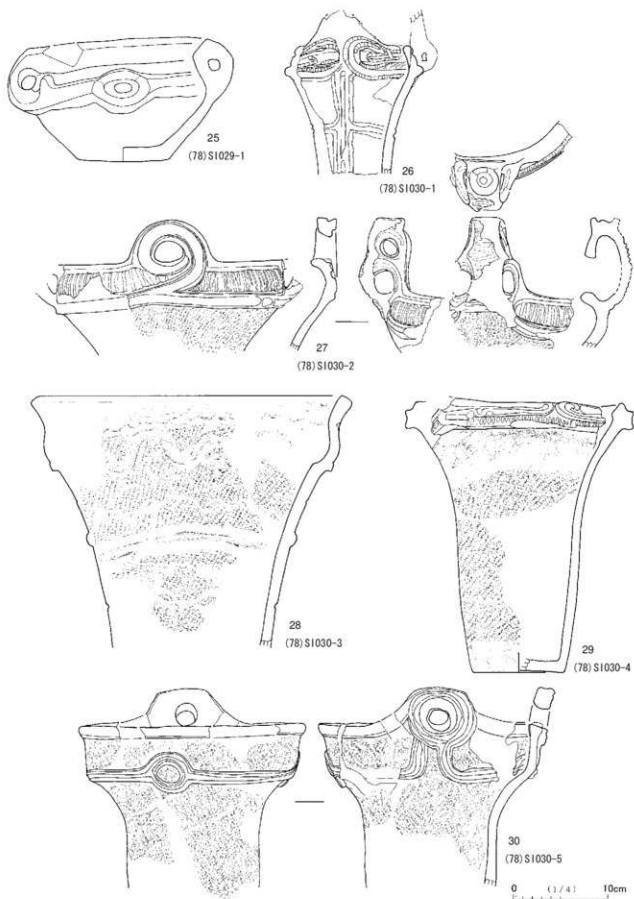




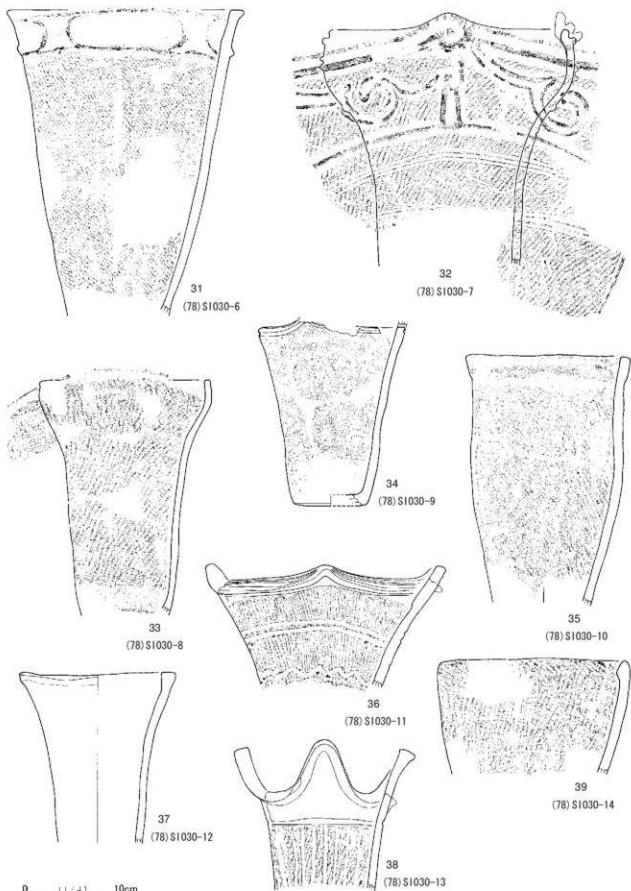
第65図 縄文時代住居跡出土土器（4）



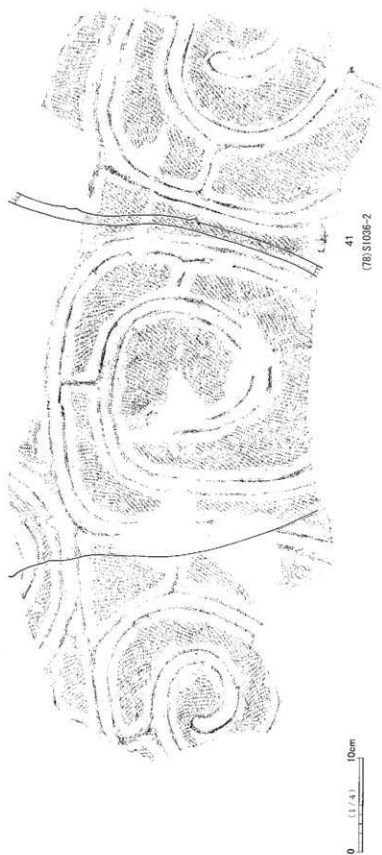
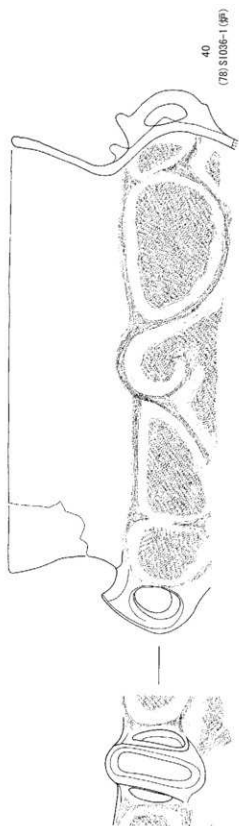
第66図 縄文時代住居跡出土土器 (5)



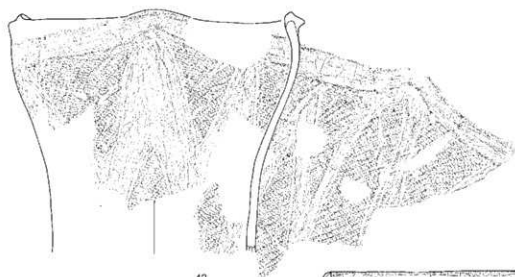
第67図 縄文時代住居跡出土土器 (6)



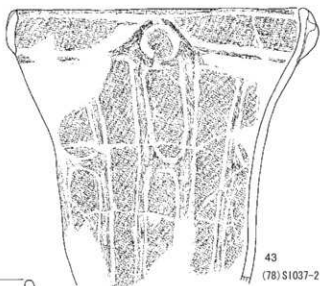
第68図 縄文時代住居跡出土土器 (7)



第69図 縄文時代住居跡出土土器 (8)



42  
(78) S1037-1



43  
(78) S1037-2



44  
(78) S1038-1



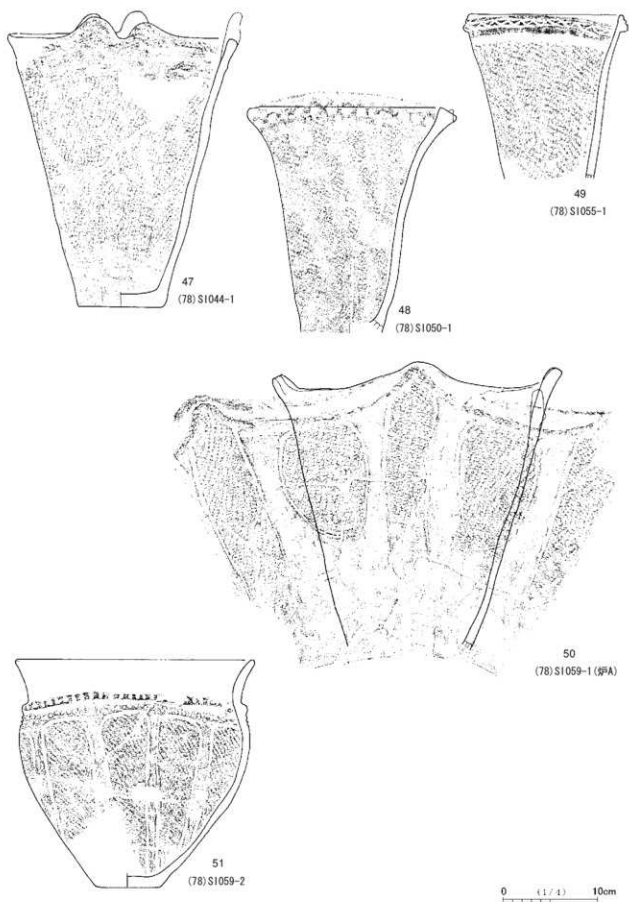
45  
(78) S1040-1 (B)



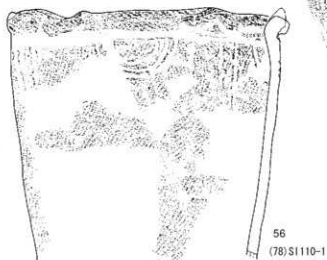
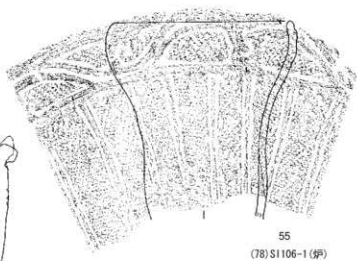
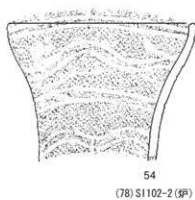
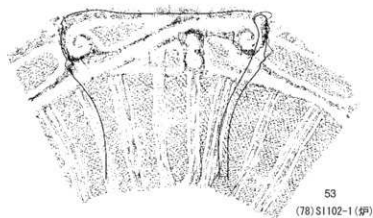
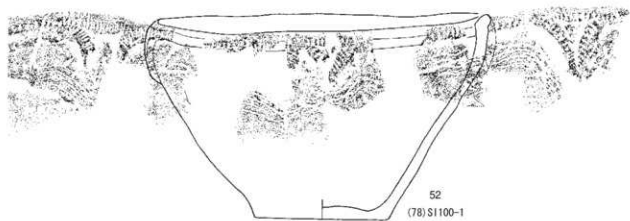
46  
(78) S1040-2

0 (1/4) 10cm

第70図 縄文時代住居跡出土土器 (9)



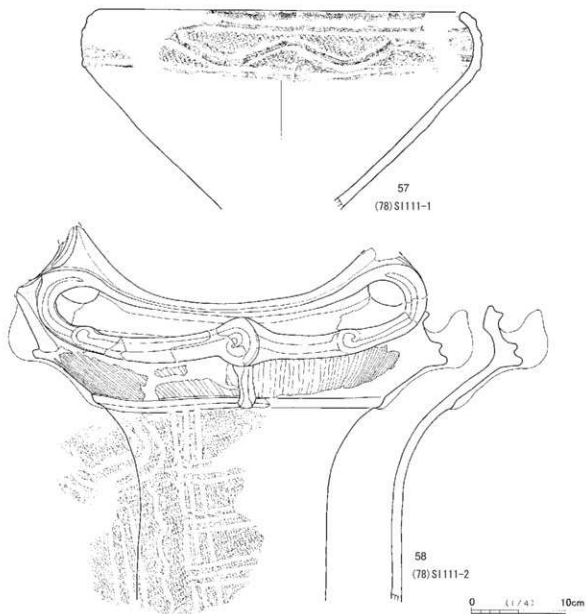
第71図 縄文時代住居跡出土土器 (10)



0 1/4 10cm

第72図 縄文時代住居跡出土土器 (11)



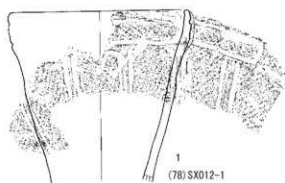


第73図 縄文時代住居跡出土土器 (12)

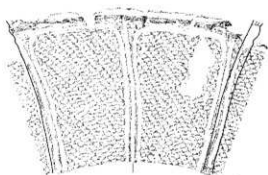
伴出する土器は3b期に相当するものが多い。SX023A-1 (第74図6) の逆U字ボジ文、SK633-2 (第86図39) の逆U字ないしはH字状ネガ文は一応この時期とした。

S1017-1 (第63図7)、SK960-1 (第94図65) は胴部に断面蒲鉾状の太い隆線による渦巻文を主体とした複雑な文様を持つ。これらの隆線文様は次代の柅山類とも呼ばれる大振りな隆線渦巻とは異なる古い様相を示し、この段階と考える。

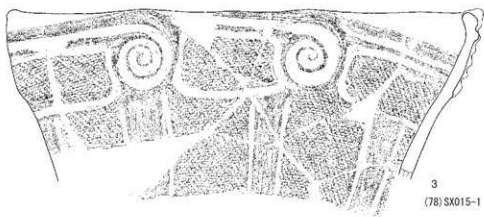
SK449-1 (第83図28) は小型の瓢箪型土器である。吊り下げ用の横向き橋状突起が上下2段1対付く。胴部の狭い磨消懸垂文内には蕨手文を施す。SK1062からは同じ吊り下げ用の突起が上下2段1対付く土器1・2 (第96図68・69) が出土した。68は上半が直口、下半が球状の器形をなし、69は内弯する深鉢である。68の器体屈曲部に付く横向き1対の橋状突起の間にはつまみ状の盛り上がりがあるが、69では同じ中間部



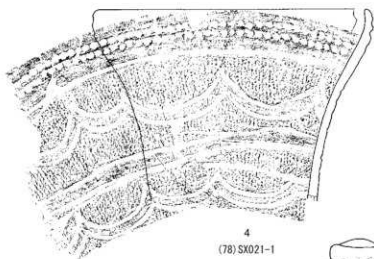
1  
(78) SX012-1



2  
(78) SX017-1



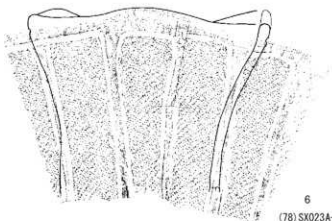
3  
(78) SX015-1



4  
(78) SX021-1



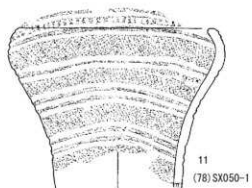
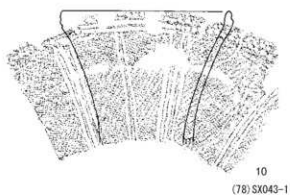
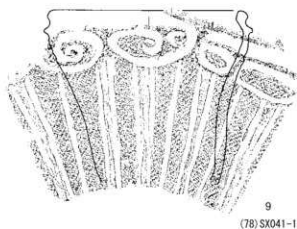
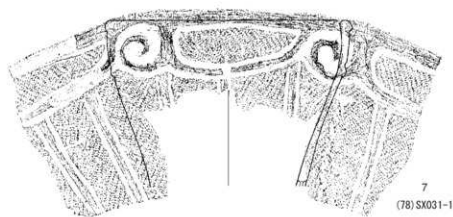
5  
(78) SX026-1



6  
(78) SX023A-1

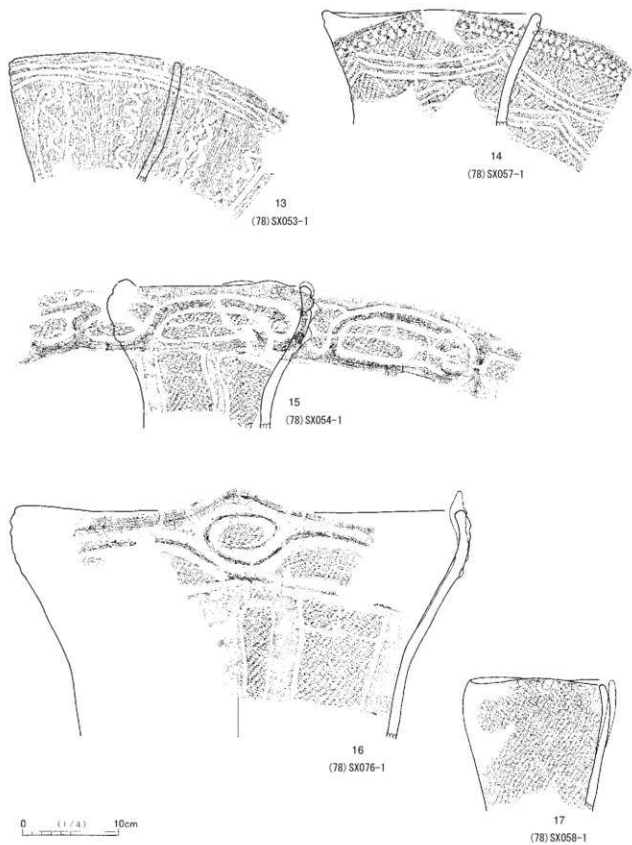
0 (1/4) 10cm

第74図 縄文時代埴跡出土土器 (1)

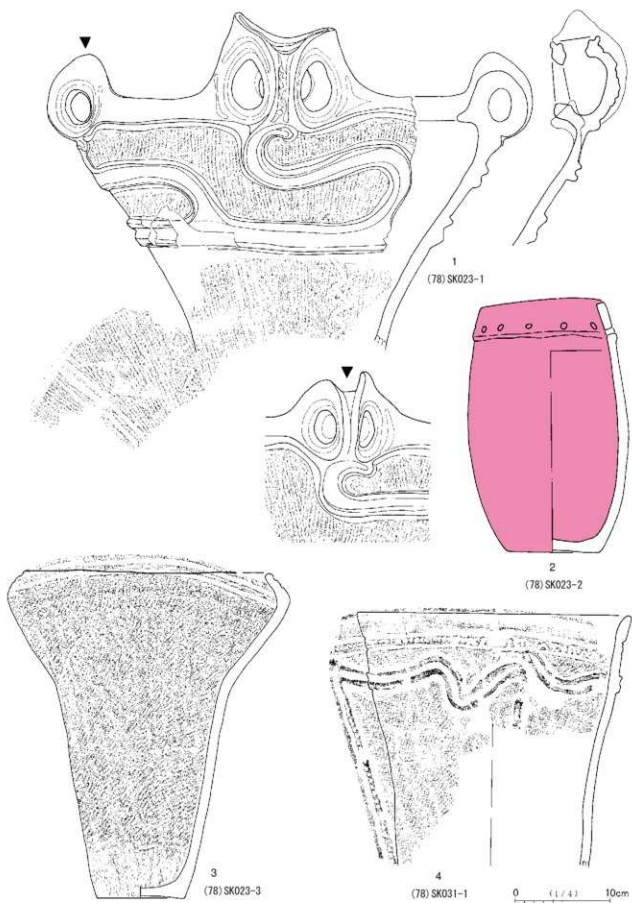


0 (1/4) 10cm

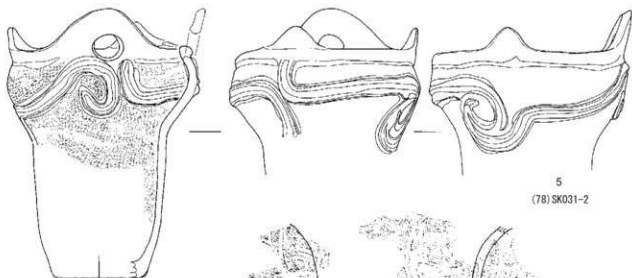
第75図 縄文時代埴跡出土土器 (2)



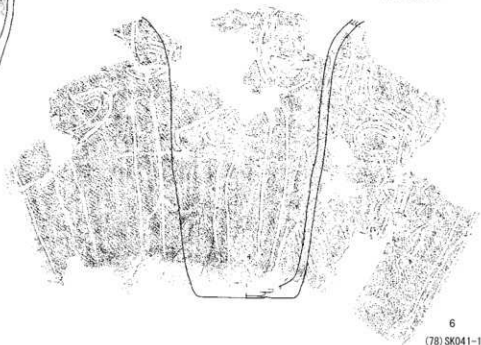
第76図 縄文時代埴跡出土土器 (3)



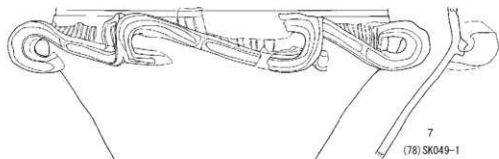
第77図 縄文時代土坑出土土器 (1)



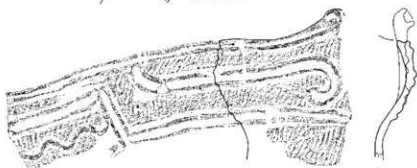
5  
(78) SK031-2



6  
(78) SK041-1



7  
(78) SK049-1



8  
(78) SK096-1

0 (1/4) 10cm

第78図 縄文時代土坑出土土器 (2)

のやや下方に瘤状の突起が認められる。磨消懸垂文は第83図28と同様狭く、69では上端が連結している。3a期の新しい段階（加曾利E3式古2段階）の可能性もあるが、ここでは3b期の古い段階（加曾利E3式中1段階）としておきたい。

### 3c期

加曾利E式直系では口縁部文様の渦巻文が消失してしまうものや、懸華状連接区劃文土器と呼ばれる円文と柶状文のみのもの、太い沈線のみで口縁部文様を描出するものがある。SK339-1（第82図25）、SK1508-1（図版99）、SI025-（1）（図版107）が各々該当する。SK974-1（第95図67）は前代にも見られた逆U字ボジ文であるが、器形がキャリパー型をなす。SK1528-1（第104図103）は指頭による太い沈線で蕨手文と円文の組み合わせだった文様が展開する。いわゆる吉井城山型の系統を継ぐもので、やはり器形は顕著なキャリパー型である。懸華状連接区劃文土器 SK1528-4（図版100）や口縁直下の無文帯を凹線で画する粗製土器 SK1528-3（図版99）が共存している。

隆線による大振りな渦巻文が展開するいわゆる梶山類もこの時期である。SI036では2（第69図41）をはじめ多数の梶山類（図版111）とともに懸華状連接区劃文土器（図版110）が出土している。他にSK497-1（第84図31）、SK639-1（第87図41）が好例である。

SK091-1（図版71）・SK547-2（図版81）はいずれも口縁下の鏝部に孔が貫通し、鏝下に微隆起線による渦巻文を施す。鉢型の有孔鏝付土器であろう。後者は3b期から3c期の土器が伴っており、この時期前後に属すると思われる。

### 4期

時期区分では加曾利E3-4中間式の4a期、加曾利E4式古段階の4b期、同中間段階の4c期、同新段階の4d期に区分したが、遺構、遺物ともわずかとなる。

SI037-1（第70図42）は口縁下の無文帯を不完全な微隆起線で画する。文様は浅い沈線でV字ボジ文下に逆V字ボジ文を入れ子状に施すが、突起下でV字ボジ文が途切れている。SK155-1（第80図15）はこれとよく似ている。細めの沈線によるネガ波状文とその下にネガ逆U字状文を施す。4a期と判断される。SI059戸Aの埴土器I（第71図50）は口縁直下に微隆起線が巡り、その下に沈線区画によるボジ逆U字状文と柶円文を施す。4b期と思われる。SK223-1（図版74）は口縁直下で微隆起線帯が下方から立ち上がって接近し、盛り上がり小突起を形成するが、微隆起帯の末端は弧状に収束して背中合わせになる、4c期の特徴を持つ。SK1452-1（第103図102）は口縁突起の一つに小輪が付く。4d期であろう。

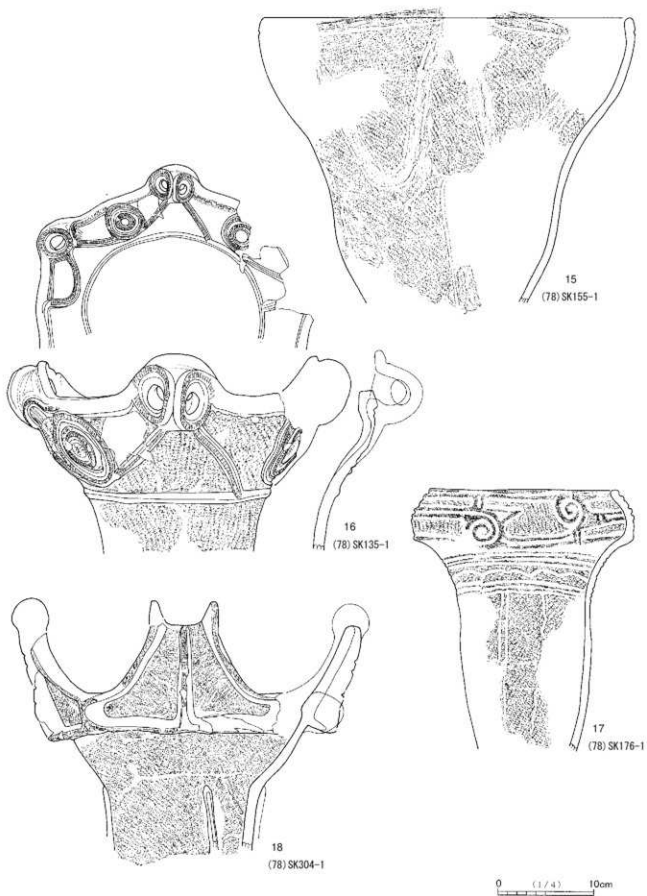
SK106-2（図版122）は4期の西日本系の土器である。称名寺式のパネル状文がまだ完成していない。SK743-2（図版87）は太い沈線で胴部を二分し、上下に連続する逆U字状文を施す。西日本系土器とはおよそ文様構成が異なっており在地で模倣した類と思われる。

SK457-1（図版80）は瓢箪型土器であろう。微隆起帯内を赤彩しており、底部は高台付きとなる。横向き橋状突起は残っていない。

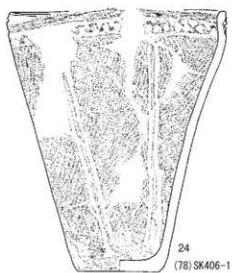
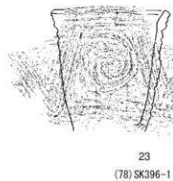
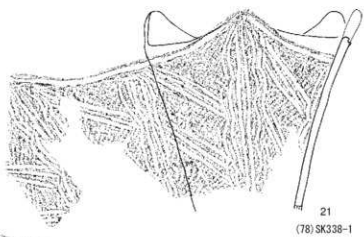
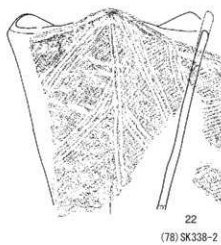
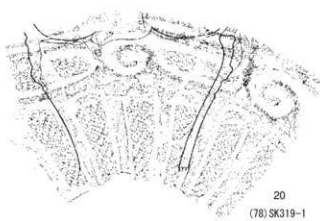
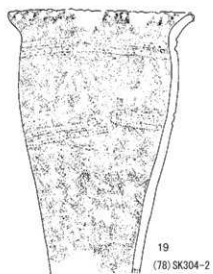


第79図 縄文時代土坑出土土器（3）





第80図 縄文時代土坑出土土器 (4)



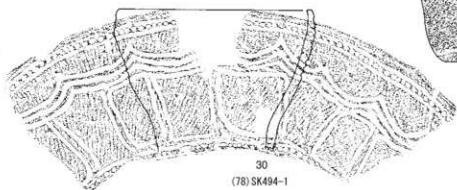
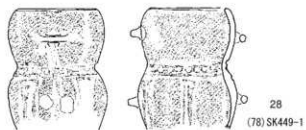
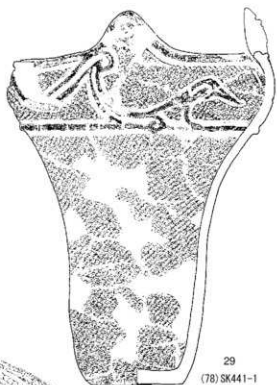
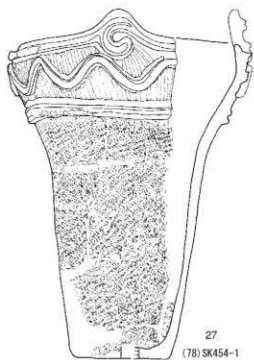
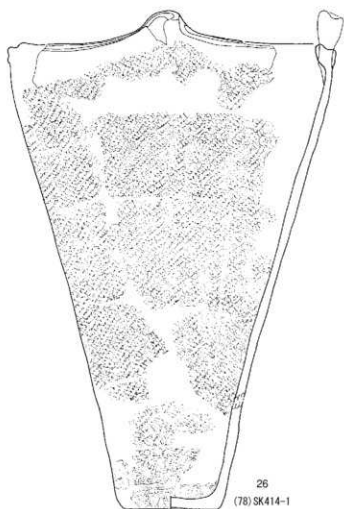
0 (1/4) 10cm

第81図 縄文時代土坑出土土器 (5)



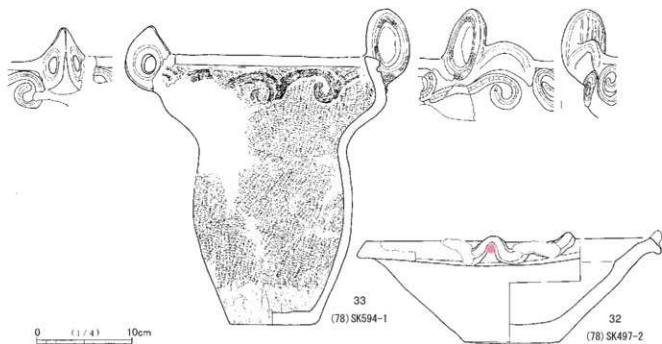
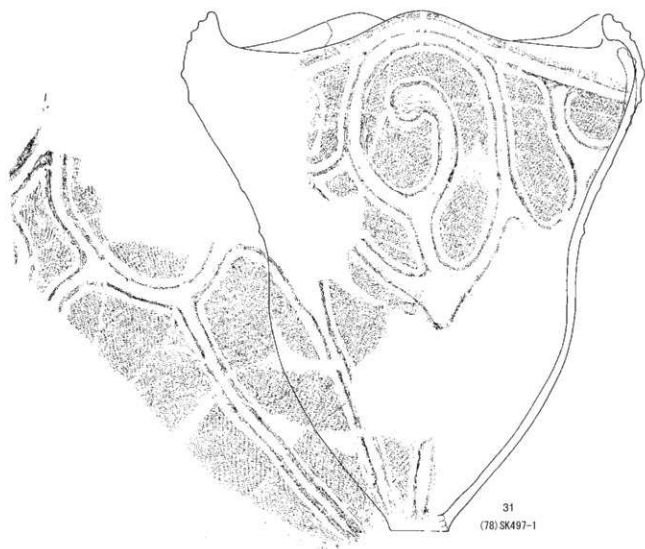
0 (1/4) 10cm

第82図 縄文時代土坑出土土器(6)

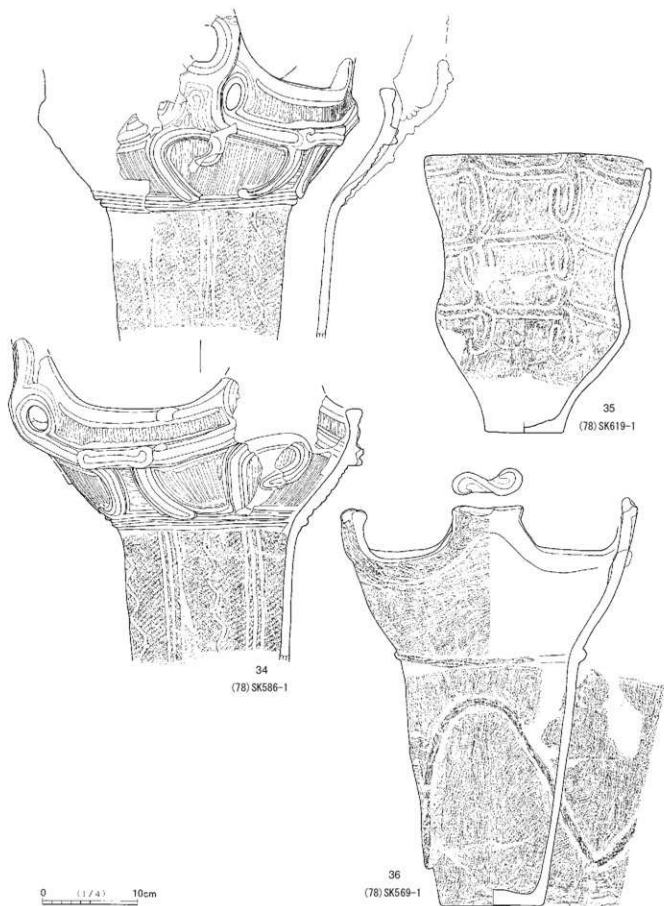


0 (1/4) 10cm

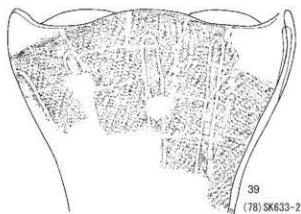
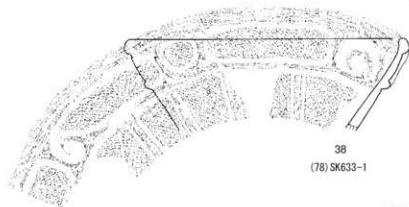
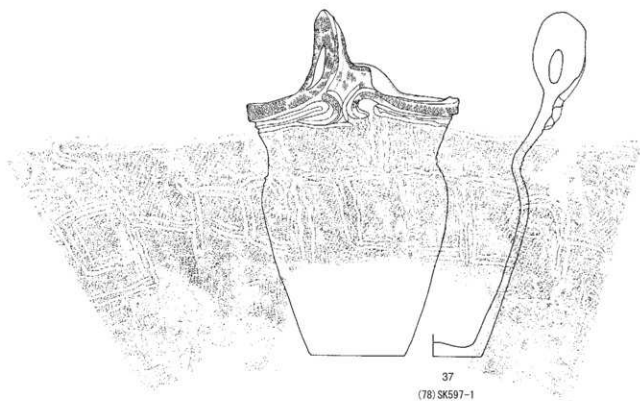
第83図 縄文時代土坑出土土器 (7)



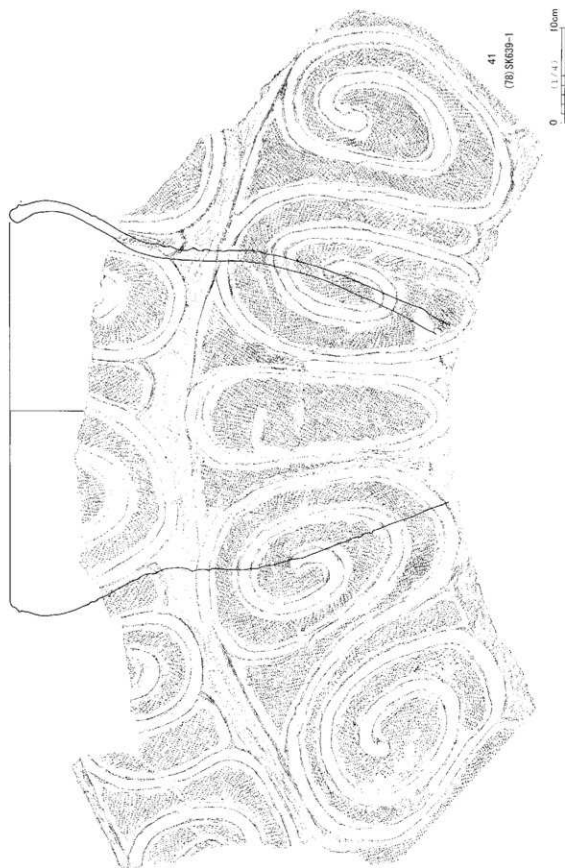
第84図 縄文時代土坑出土土器 (8)



第85図 縄文時代土坑出土土器 (9)

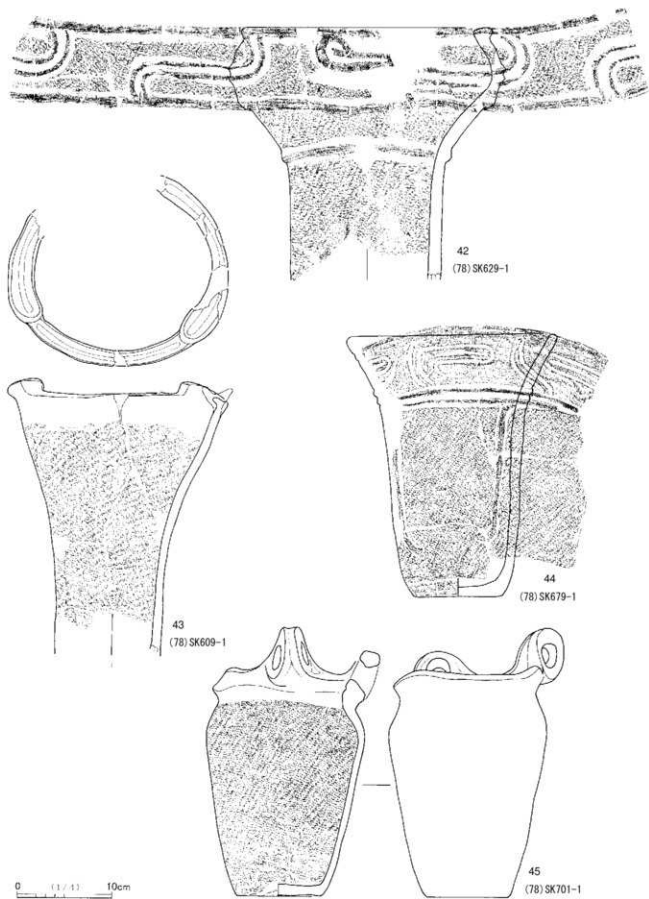


第86図 縄文時代土坑出土土器 (10)

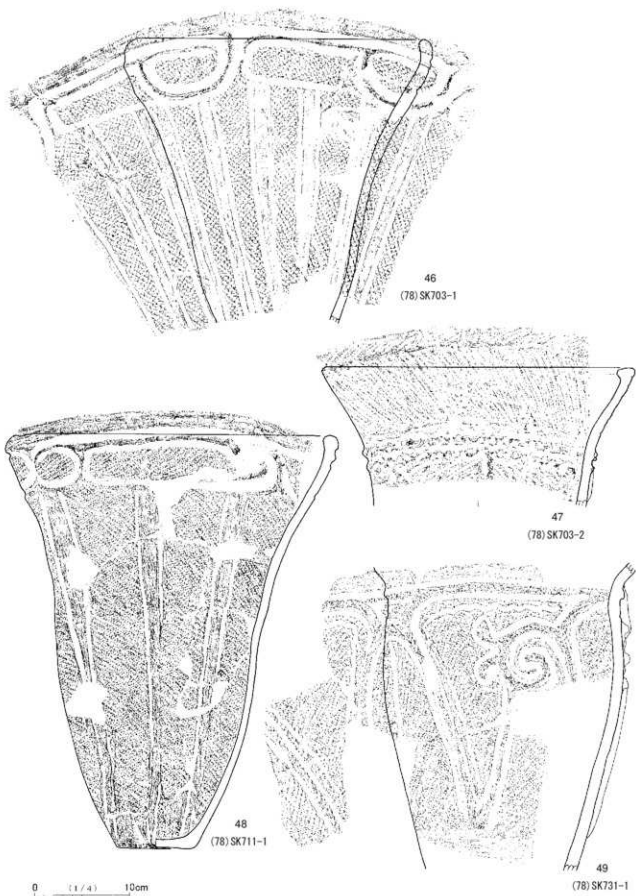


第87図 縄文時代土坑出土土器 (11)

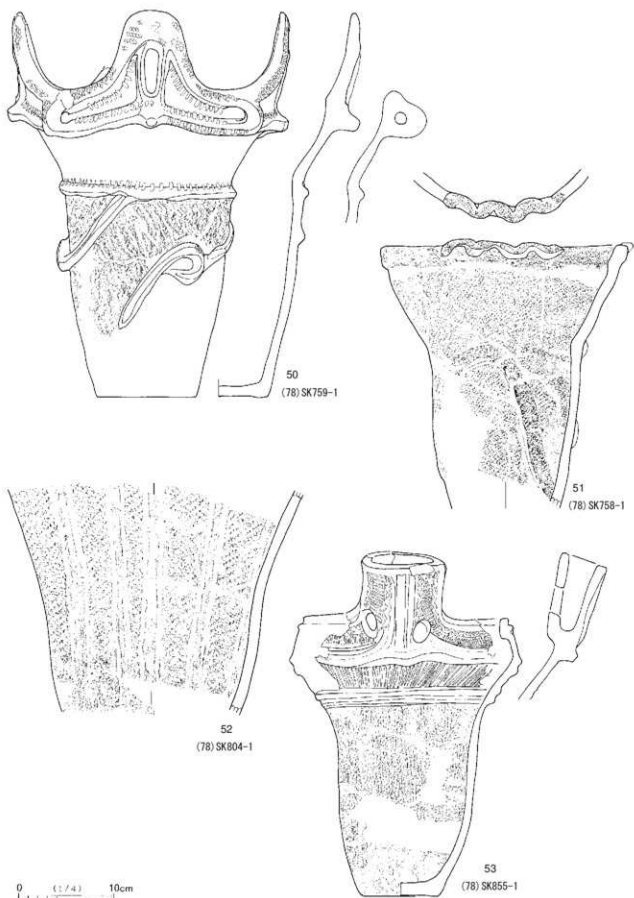




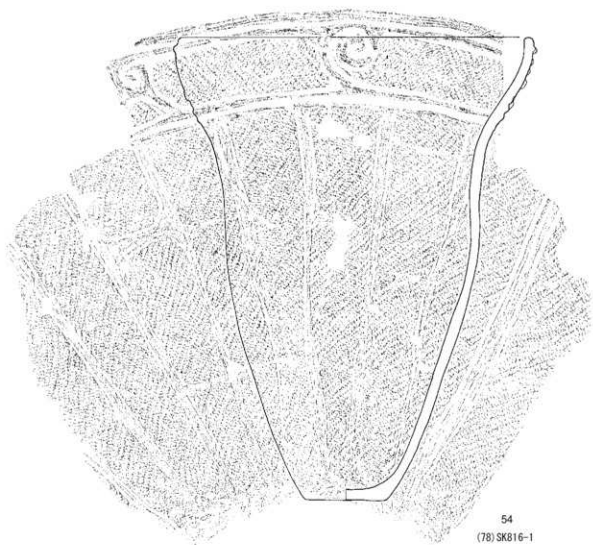
第88図 縄文時代土坑出土土器 (12)



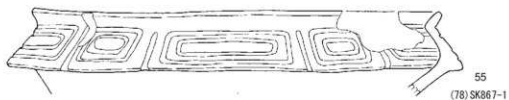
第89図 縄文時代土坑出土土器 (13)



第90図 縄文時代土坑出土土器 (14)



54  
(78) SK816-1



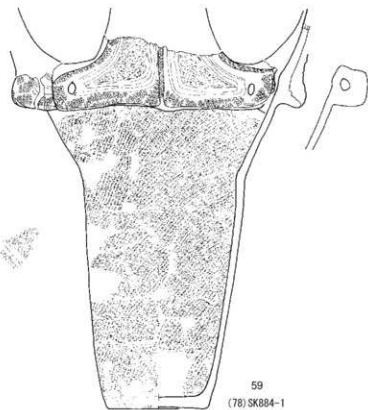
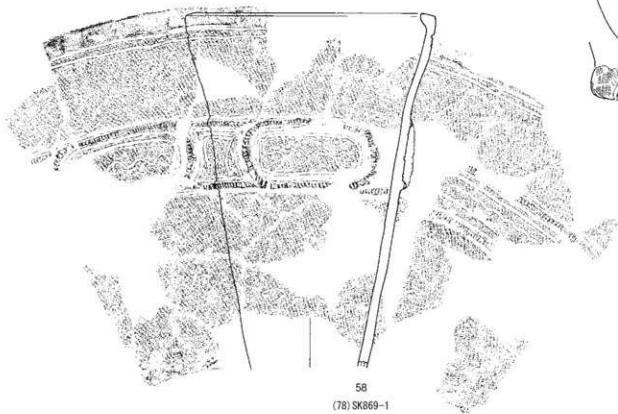
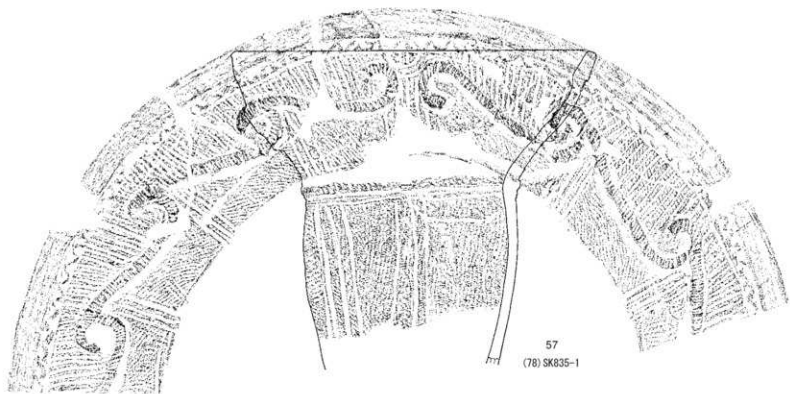
55  
(78) SK867-1



56  
(78) SK881-1

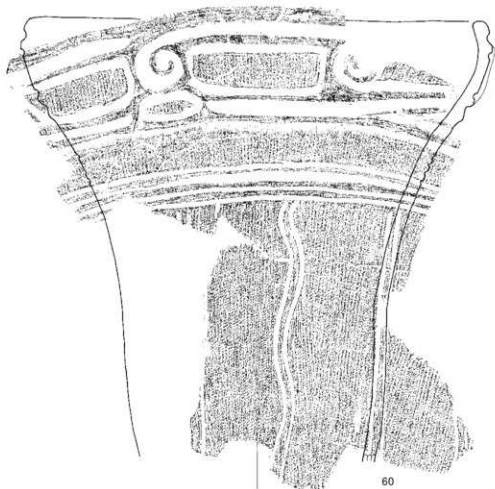
0 (1/4) 10cm

第91図 縄文時代土坑出土土器 (15)

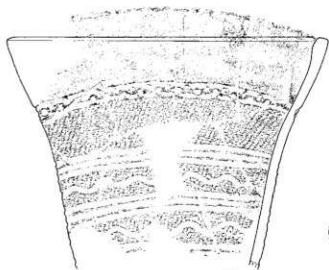


0 (1/4) 10cm

第92図 縄文時代土坑出土土器 (16)

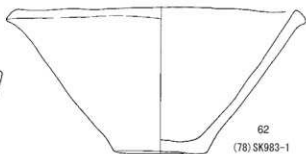


60  
(78) SK910-1

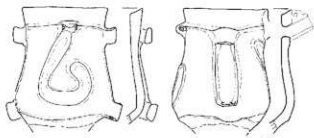


61  
(78) SK946-1

0 (1/4) 10cm

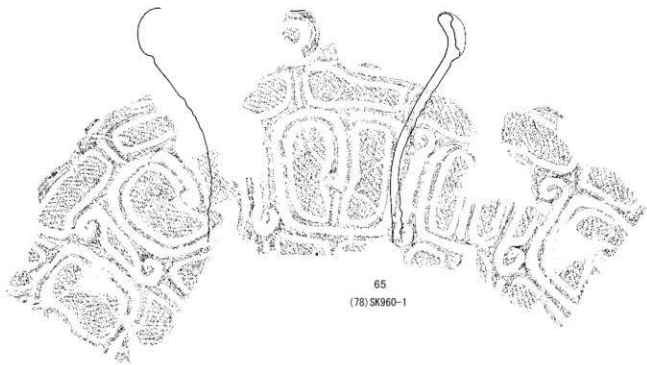
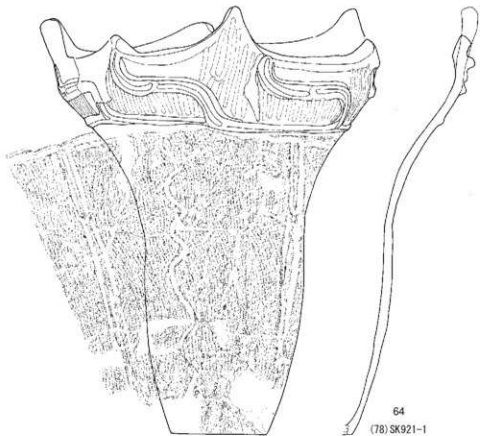


62  
(78) SK983-1



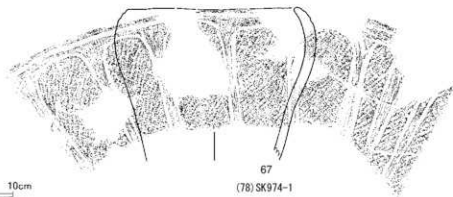
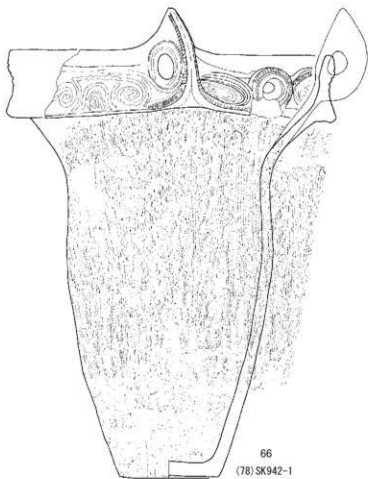
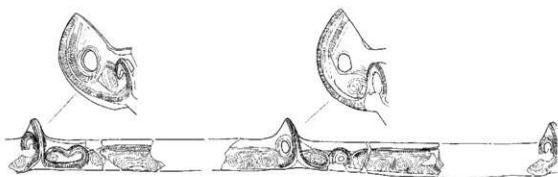
63  
(78) SK988-1

第93図 縄文時代土坑出土土器 (17)



0 (1/4) 10cm

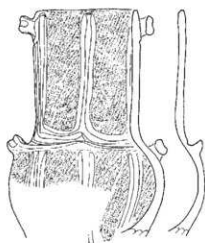
第94図 縄文時代土坑出土土器 (18)



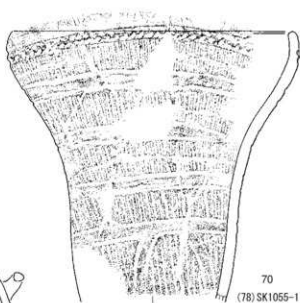
0 1/4 10cm

第95図 縄文時代土坑出土土器 (19)

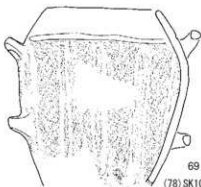




68  
(78) SK1062-1



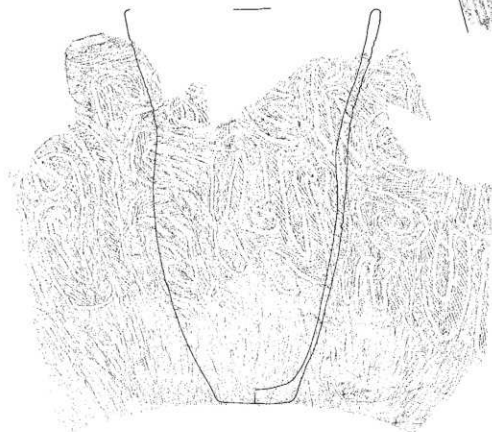
70  
(78) SK1055-1



69  
(78) SK1062-2



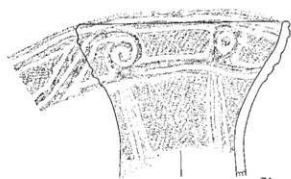
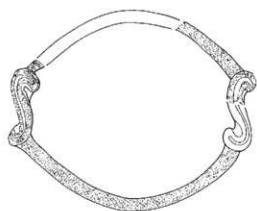
71  
(78) SK1055-2



72  
(78) SK1031-1

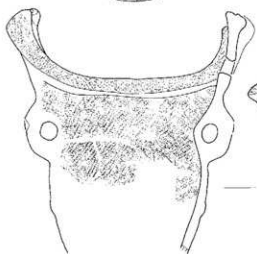
0 1/4 10cm

第96図 縄文時代土坑出土土器 (20)



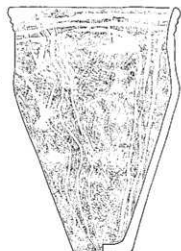
74

(78) SK1162-1



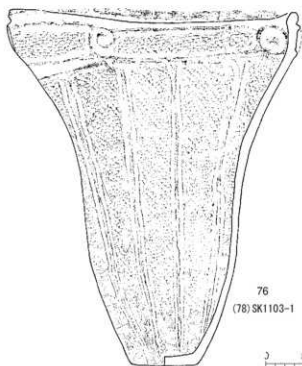
73

(78) SK1046-1



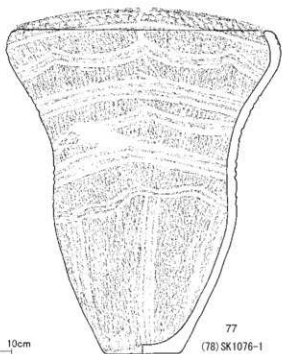
75

(78) SK1162-2



76

(78) SK1103-1

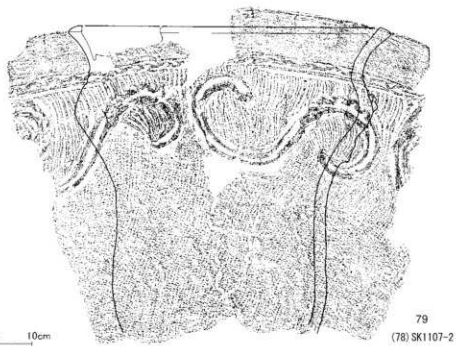
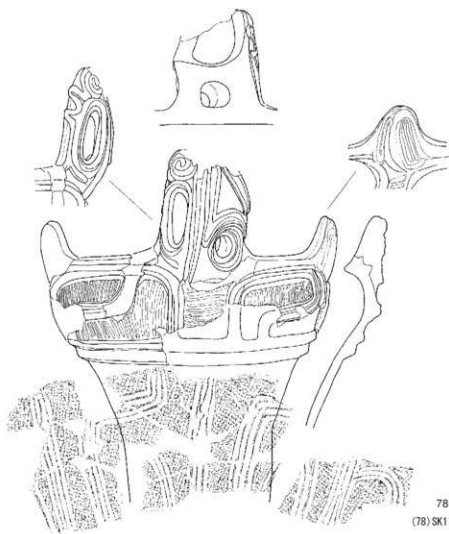


77

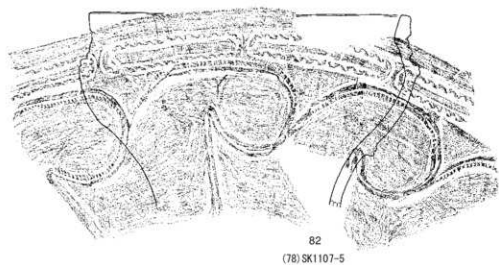
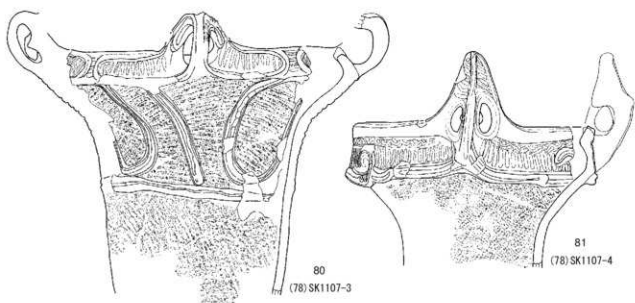
(78) SK1076-1

0 (1/4) 10cm

第97図 縄文時代土坑出土土器 (21)

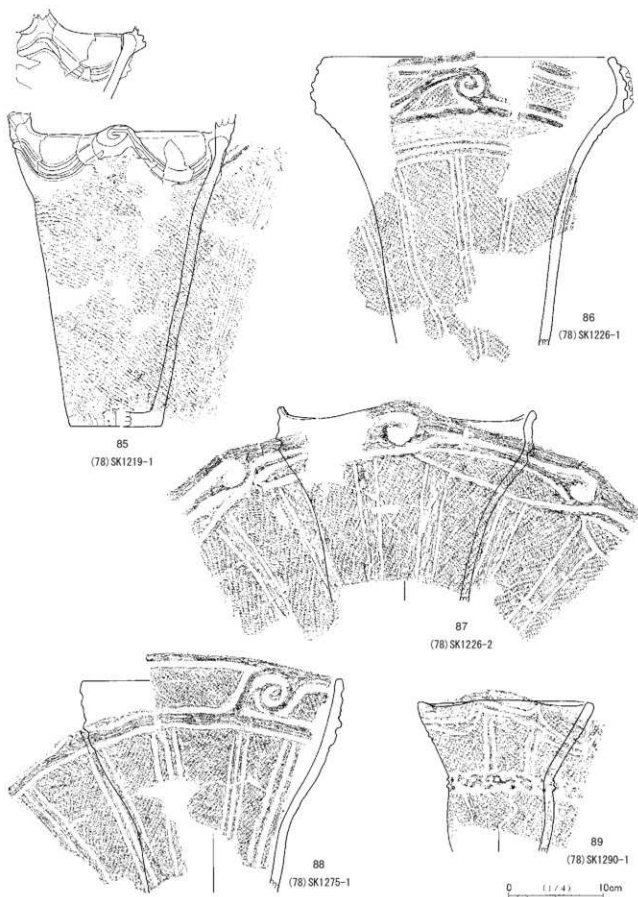


第98図 縄文時代土坑出土土器 (22)

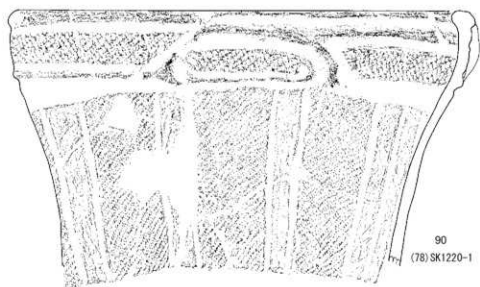


0 1/4 10cm

第99図 縄文時代土坑出土土器 (23)



第100圖 縄文時代土坑出土土器 (24)



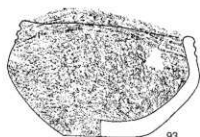
90  
(78)SK1220-1



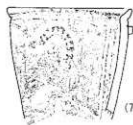
91  
(78)SK1254-1



92  
(78)SK1352-1



93  
(78)SK1352-2



94  
(78)SK1352-3

0 (1/4) 10cm

第101図 縄文時代土坑出土土器 (25)

## 5期

称名寺式の時期である。柳澤編年では1~4式に細分され、各細別は古・新段階に小細別されているがここでは、出土量が少ないことから個別に細別を示しておく。

いずれも土坑から出土しており、ほとんどが単独出土である。SK619-1(第85図35)はJ字文を3段重ねた典型的な称名寺1(古)式であるが、3描線がない。1段目と3段目のJ字文の起点に円形刺突文が付く。SK988-2(図版92)は上下で向きの異なるJ字文を施す。1描線を欠くことから、称名寺1(新)式と考えたい。同じ土坑から出土したSK988-1(第93図63)は小型の注口土器である。横向き橋状突起を上下2か所1対取り付け、その間の口縁直下には小孔の開いた小突起と注口を取り付けている。注口は欠損しているが、注口の上部には対面の小孔付き小突起とほぼ同様の小孔があったと思われる。口縁端部は厚みがあり、内傾しかつ窪んでいて蓋受けの機能が想定される。注口下にはI字状の微隆起線文、対面の小突起下にはJ字状の微隆起線文を配する。I字状文の下端は下段の横向き橋状突起に繋がりが、さらに上段の橋状突起から口縁下を巡る微隆起線文へと連絡している。J字状文下にも下段の橋状突起を結ぶ微隆起線が認められる。SK988-2と同時期であろう。

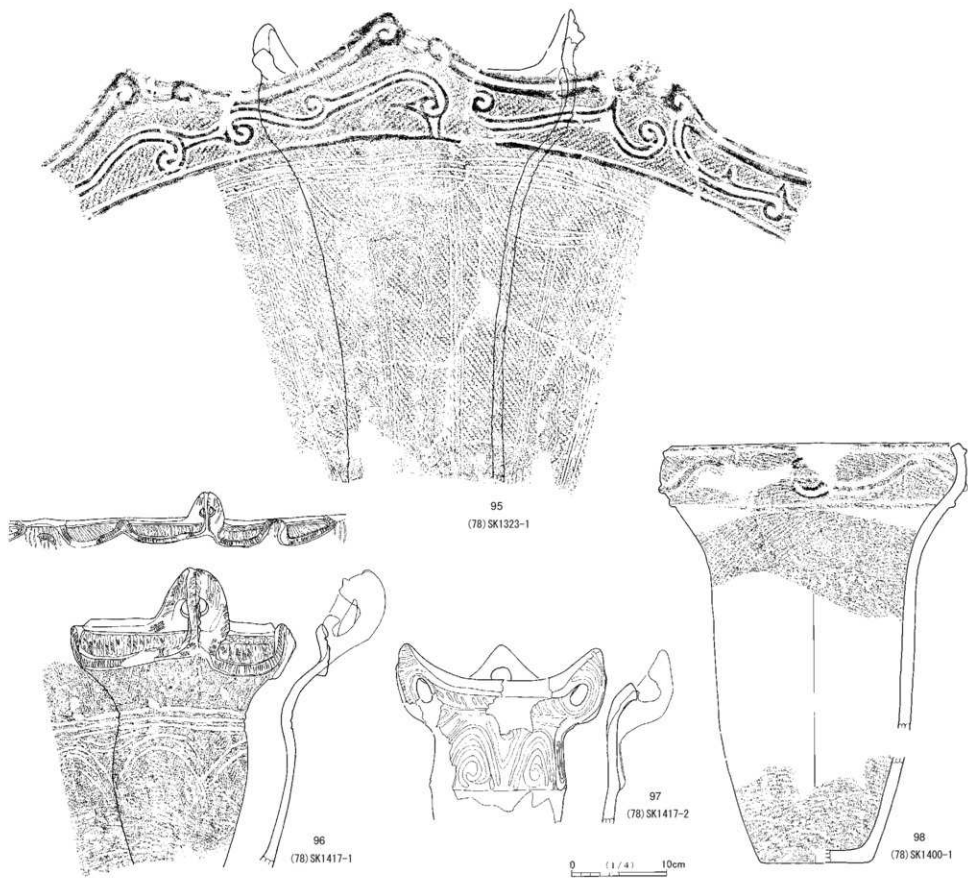
SK1073-1(図版94)はあまり見かけないが、向きの異なるネガポジ反転したJ字状文と思われる。下段に同様のJ字文が配されるらしいが、無文部の幅はかなり広くなるようである。1描線はない。称名寺1(新)式の在地の土器であろう。SK1482-1(第103図100)は縦連のJ字文をだるま形の区画充填文で囲み、空隙にはく字形に似た区画充填文を挿入する文様構造を持つ、称名寺1(新)式段階と思われる。J字文とだるま形区画文は連結してしまっていて、本場の武蔵野台地のものやや異なりやはり在地の土器であろう。区画内に円点文が入り一見新しく見えるが、文様構成からこの時期と考える。SK1031-1(第96図72)は相当に文様がくずれている。器形から新しくは見えず、口縁端部も内側に肥厚しない。また、1描線がある。やはり称名寺1(新)式段階と思われる。称名寺式の文様構造を理解していない明らかに在地の土器といえよう。SK200-1(図版74)はS字状の口縁突起を持つもので、統加曾利E4式であろう。SK1006(図版122)は屈折した口縁にC字系貼付文を橋状突起としており、貼付文からはさらに続けて短い隆線が垂下する。その左右の屈折した口縁下から巡る隆線もまた垂下している。これらの隆線上及び口縁部には棒状工具による刺突列が付く。胴中段は強くくびれ、上半の分割柱状線ともしき隆線区画内には太めの沈線による三角形の区画文様が入る。この特徴的な屈折した口縁は門前1式に近く、C字系貼付文とともに東北の影響を強く受けていると考えられる。やはり称名寺1(新)式段階と思われる。

SK839(図版122)はすべて同一個体である。波状突起頂部の小型円形貼付文から分割柱状線が垂下する。分割柱状線は称名寺式後半にはないとされているが、この分割柱状線には刻みがなく、鈎状文も素文であることから、ここでは称名寺3式としておきたい。SK962-1(図版92)はボジスベード文とネガ鉤J字文の組み合わせで、ボジ文内に列点を施す。これも称名寺3式であろう。

## 6期

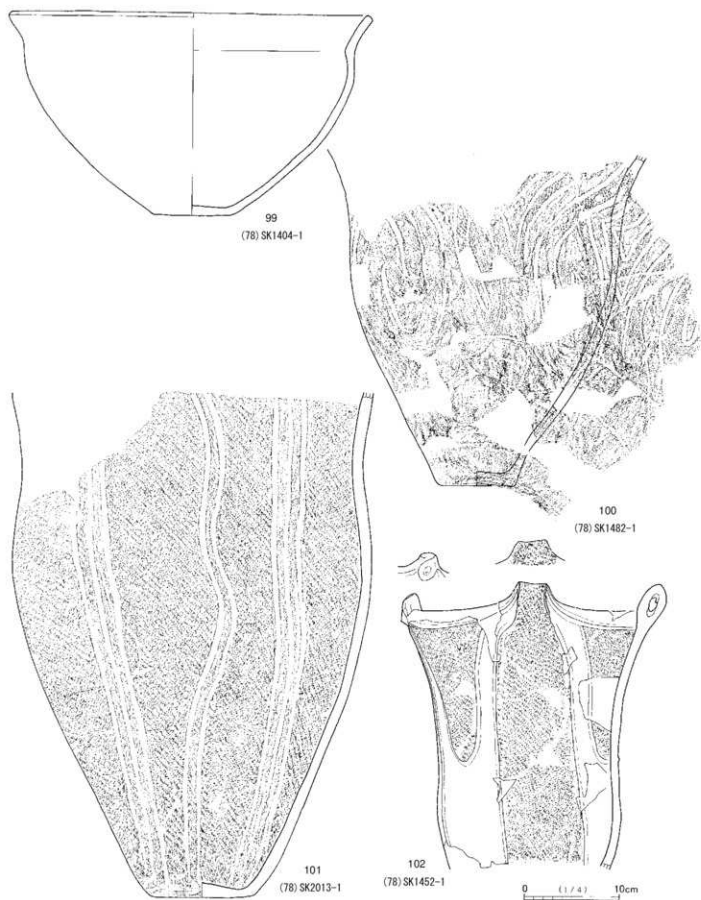
堀之内1式の時期である。この時期の編年も諸説あるが、おおよそ蕨手文や蛇行沈線などの独立した単位文様からこれらを連結させたり、沈線を多条化したりして複雑化し、密接集合沈線による文様へと変化する点でほぼ一致している。

こうした流れから、当該期の土器を見ると、古式のものとしてはSK1003-1~6(図版92~93)がまとまっ

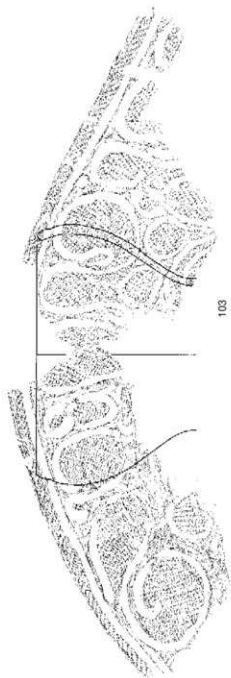


第102図 縄文時代土坑出土土器 (26)



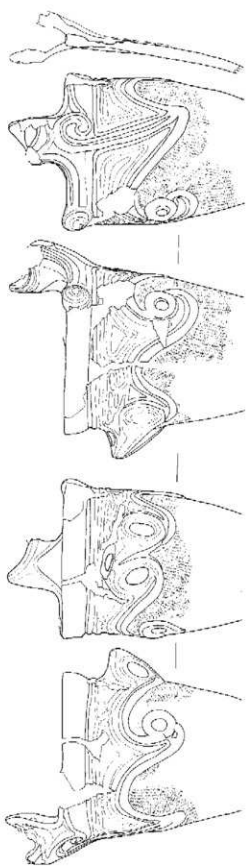


第103図 縄文時代土坑出土土器 (27)



103

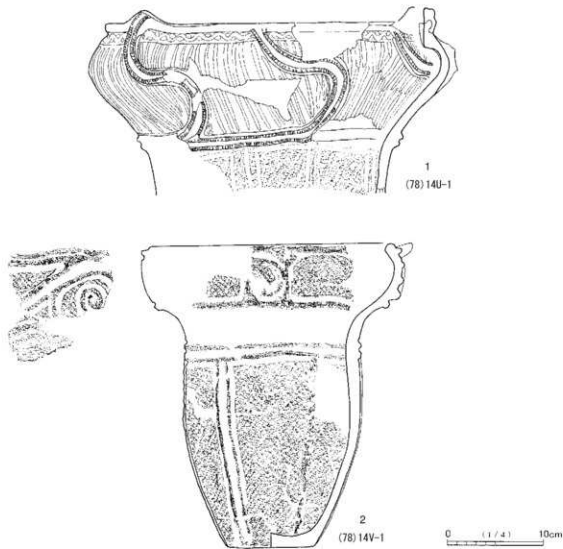
(78) SK1528-1



104

(78) SK1550-1

第104図 縄文時代土坑出土土器 (28)



第105図 遺構外出土縄文土器

ている。1に近い例には14U-1 (図版101) がある。SK815-1 (図版88) も古手であろう。次の、単位文が連結する段階ではSK338-1・2 (第81図21・22) の2個体があげられよう。SK334-1・2 (図版76)、SK336-1 (図版76)、SK994-1 (図版92)、14V-2 (図版100) もほぼこの段階であろう。SK716-1 (図版87) は沈線が細く多条化しており、より新しい段階であろう。しかし、終末段階の密接集合沈線のものは見られない。

なお、SK706-1・2 (図版86) は太い沈線による縦横の蛇行文様や矩形の区画文内に櫛歯条線文を施す特異な文様構成を持つ。おそらく古手であろうが、由来がよくわからない。

## 第6節 土製品

### 土偶 (第106図1～3、巻頭図版、図版124、第9表)

1は胴以下を欠損し、顔面の右側及び右側乳房から右腕にかけて斜めに削いだように欠損する。目及び口は浅く彫り込まれ、鼻梁から眉にかけて粘土を貼り付けて高くしている。鼻孔は小型の円形竹管を刺突して表現している。頭部は上面観が環状をなす。乳房は貼り付けによるもので、正中線が顎の直下から腹部にかけて浅い沈線で表されている。背面には中央に同様の沈線が垂下し、腰上部に至って刺突文を囲むように曲げられている。出土した土坑からは堀之内1式が多く出土しており、形態的にも後期前葉の所産と見てよいと考えられる。2は先端が丸みを帯びた板状の土製品で、片側が折損する。折損部はわずかに幅広になる。全面に細く鋭い沈線による文様を施す。出土した土坑は加曾利E3式古段階に比定されており、文様の特徴からも同時期の所産と思われる。3は薄い板状の土製品である。下端はやや湾曲し、側面は上方に向かって直線的に狭まっている。胎土、焼成ともに精良である。一応、ここに含めた。出土した土坑の時期は不明である。

### 耳栓 (第106図4～7、図版124、第10表)

4点出土した。4・5は有孔、6・7は無孔である。4は円筒状をなすが、全体に細かい凹凸があり、やや粗雑な作りである。二次的加熱を受け、表面が荒れている。出土した住居跡は加曾利E1式古段階に比定されている。5は糸巻き状の形態をなす。孔を除き、全面赤彩されている。胎土は比較的精良である。6はきわめて小型である。側面は中央が窪み、表裏面も軽く窪む。胎土、焼成とも不良である。5・6とも出土した土坑の時期は不明である。7は大型品で、表裏両面が深く窪む。表裏面の縁辺は薄くなっているため、細かい欠損が多数認められる。赤彩の痕跡が各所にあり、本来は全面に塗布されていたと考えられる。グリッド出土である。

### ミニチュア土器 (第108図、図版124、第11表)

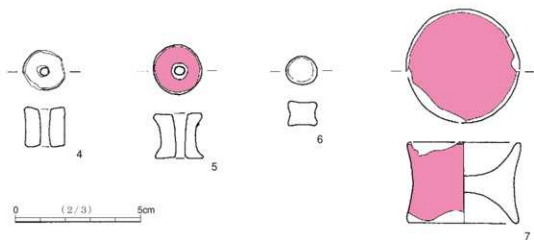
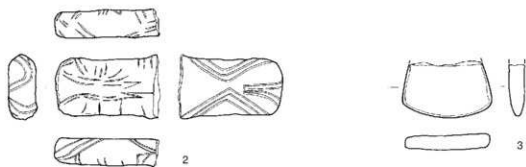
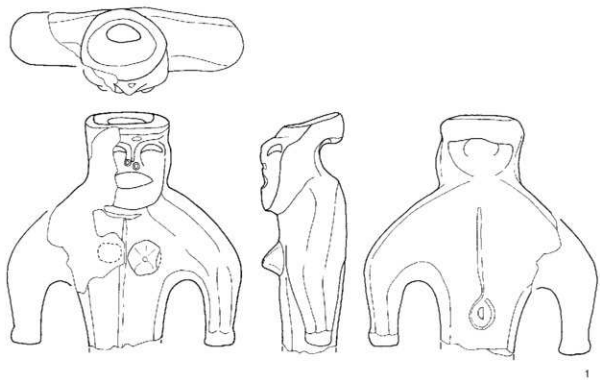
表に掲載した17点のほか、2点の破片がある。第108図1は口縁に山形突起が付き、その下に沈線が巡る。第107図2・3は手捏ねである。2は丸底だが、蓋かもしれない。同図4・5・7は内外面とも丁寧に成形されている。6は成形がやや粗い。口縁端部に沈線を施し、無文の体部には一部懸垂文が残る。なお、図示しなかったものの中に、底部内面に漆が厚く付着したのがある。

### 土製蓋 (第108図・図版124、第12表)

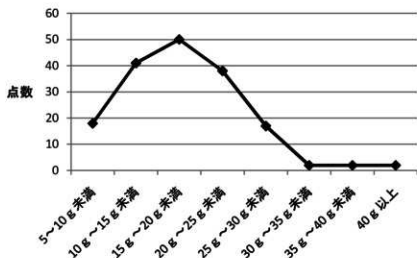
掲載した4点のほか、1点破片がある。第108図8は断面が弱い弧状をなし、橋状の紐は2個で片側は欠損している。9は表面側が平坦で、裏面側が凸レンズ状となる断面を持つ。孔が2個で、中央の紐を欠く。10は断面が弧状をなし、つまみ状の紐を2個持つと思われる。片側は完全に欠失し、もう一方は一部を欠く。11は上面に微隆起帯で環状ないしは渦巻状の文様が付くと思われる。中期末から後期初頭の瓢箪型土器の蓋であろう。

### 土器片鉢 (図版125、第107図、附表3)

附表に掲載した175点のほか、17点の破片がある。時期的には阿玉台式のものは少なく、加曾利E式前



第106圖 土偶・耳栓



第107図 土器片錘重量分布

半が主体となるが、加曾利E式後半のものもある。完形品は170点で、最軽量は5.01g、最重量は143.98g、平均重量は18.69gである。土器片錘の重量傾向を第107図に示した。最も多いのは15g～20g未満で、次いで10g～15g未満、20g～25g未満となる。なお、糸掛けのスリット的一方がほとんどないものが目立つこと、短軸に糸掛けを作出するものがあることを留意しておきたい。

#### 土器片円板 (図版126・127、附表4)

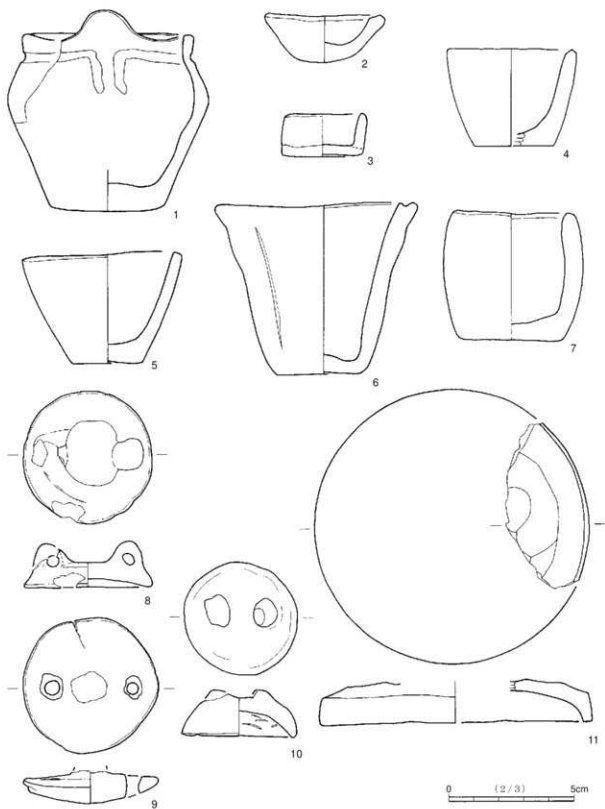
表に掲載した266点のほか、52点の破片がある。図版126-62は勝版式土器の渦巻部分の破片を利用したもので、周縁には磨りが認められ、明らかに加曾利E3式後半期に製作されたものと考えられるものである。また、図版127-199の孔は回転穿孔によるとは思われない穿孔を行っている。

#### その他の土製品 (図版124、附表5)

図版124-18は孔を持つ円板状土製品である。周縁の調整及び孔は焼成前のもので、土器片円板ではない。19も18と同様の円板状土製品の半欠品と思われる。断面は表面側が凸レンズ状、裏面側が平坦である。孔は両側から穿孔され、孔の上部に瘤状の貼り付けが認められる。20は厚みのある基石状の土製品である。21は匙状の形態をなすが、柄に当たる部分はわずかに欠損するだけである。22-26は粘土塊である。23はおそらく土器の輪積み製作時に余ったため、ちぎりとれた粘土紐であろう。24は細紐状の粘土の集合で、土器成形や文様施文の際に生じた余りをまとめたものであろう。他は単純な塊状をなす。

#### 第7節 石製装身具 (第109図・巻頭図版、第13表)

1はヒスイの大珠である。板状で孔より上部は厚く、孔より下部はやや薄くなる。側面は垂直に整形している。孔は中軸よりややずれており、管錐により穿孔されている。表面の大部分は茶褐色に変色し、他の部分は白濁している。上端側面には節理に沿って細かな亀裂が入っている。以上のことから二次的加熱



第108図 ミニチュア土器・土製蓋

第9表 土偶一覧

[ ]は現存値、( )は推定値

挿図番号	図版番号	遺構番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
第106図1	図版124-1	(78)SK338	[96.0]	[73.0]	33	[145.6]	堀之内1式期
第106図2	図版124-2	(78)SK1305	[42.0]	42	11	[17.3]	加曾利E3式古段階
第106図3	図版124-3	(78)SK1038	—	36	6	[6.6]	土偶?

第10表 耳栓一覧

[ ]は現存値、( )は推定値

挿図番号	図版番号	出土地点	直径(mm)	高さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	備考
第106図4	図版124-4	(78)SI030	17.0	16.0	3.5	4.8	有孔、加曾利E1式古段階
第106図5	図版124-5	(78)SK693	19.8	18.8	2.9	5.9	赤彩、有孔
第106図6	図版124-6	(78)SK876	11.7	9.2	—	1.5	
第106図7	図版124-7	14U-1T	45.5	32.2	—	43.5	赤彩

第11表 ミニチュア土器一覧

[ ]は現存値、( )は推定値

挿図番号	図版番号	出土地点	口径(mm)	高さ(mm)	底径(mm)	重量(g)	備考
		(78)SI030	(70)	54	33		
		(78)SI040		[27]	54		
第108図1	図版124-8	(78)SI050	(64)	81	46		
		(78)SK187		[14]	33		
		(78)SK466		[20]	49		漆付着
第108図2	図版124-9	(78)SK482	50	21	—		
		(78)SK591		[33]	48		
		(78)SK805		[40]	33		
第108図3		(78)SK839	32	17	34		
		(78)SK918		[21]	48		
第108図4	図版124-10	(78)SK918	(52)	39	33		
第108図5	図版124-11	(78)SK1152	62	47	30		
第108図6	図版124-12	(78)SK1163	(80)	69	40		
		(78)SK2001	(74)	[39]	—		
第108図7	図版124-13	13V	49	53	40		
		15U-8T		12	32		
		15V		34	38		

第12表 土製蓋一覧

[ ]は現存値、( )は推定値

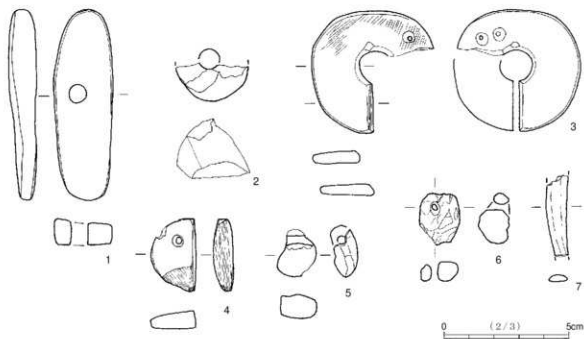
挿図番号	図版番号	出土地点	口径(mm)	高さ(mm)	底径(mm)	重量(g)	備考
第108図8	図版124-14	(78)SK909	53	17	—	[23.2]	鈕2
第108図9	図版124-15	(78)SK933	54	[13]	—	[24.0]	鈕欠損、孔2
第108図10	図版124-16	(78)SK1031	47	[19]	—	[20.2]	鈕2
第108図11	図版124-17	15V	(110)	16	—	[19.4]	

第13表 石製装身具等一覧

[ ]は現存値、( )は推定値

挿図番号	図版番号	名称	出土地点	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
第109図1	図版127-1	大珠	SI054	ヒスイ	76.5	24.0	10.5	37.4	完形
第109図2	図版127-2	大珠	SK321	ヒスイ		(29.0)		[9.5]	残欠
第109図3	図版127-3	珠状耳飾	SK211	滑石	49.0	(51.0)	5.0	[15.7]	1/3欠損
第109図4	図版127-4	垂飾	SK1477	滑石	28.0	18.0	7.8	5.9	完形
第109図5	図版127-5	玉	SI002	コハク	[19.0]	[16.0]	[9.5]	[1.3]	孔部分欠損
第109図6	図版127-6	玉	SI055	コハク	[21.0]	[16.0]	[13.0]	[2.0]	一部欠損
第109図7	図版127-7	垂飾?	SK179	コハク	[32.5]	[8.5]	[3.0]	[0.6]	両端欠損
		原石	SK1202	コハク	[1.3]	[0.7]	[0.5]	[0.3]	塊状
		原石	SK988	コハク	[1.0]	[0.7]	[0.7]	[0.2]	2片に割れ
					[0.9]	[0.7]	[0.4]	[0.1]	





第109図 石製装身具

をかなり強く受けていると考えられる。出土した住居跡は加曾利E2式期に比定されている。2はヒスイの大珠の残欠である。本来は長軸方向に穿孔した鯉節型の大珠であったと思われるが、たたき割ったような印象を受ける。軽く二次的加熱を受けているように思われる。出土した土坑は加曾利E3式古段階に比定されている。

3は滑石製の珠状耳飾である。約1/3を欠損する。薄手で、表面上部に成形時の細かな擦痕が認められるが、他の部分は滑沢をなす。平面形はほぼ真円であるが、わずかに頭部が平坦になる。中央孔は中心よりやや上部に位置し、規則的な回転穿孔ではなく、工具を手持ちして孔を穿っているため真円にはならないが、丁寧にあけられている。切れ目は表裏両面からの擦り切りであるが、表面側からの方が深い。欠損部はごく軽く磨りが入る程度で、その上部には表裏両面からあけられた貫通した補修孔と裏面にあけられた未貫通の孔がある。中央孔の上端には表裏とも幅4mm弱の紐擦れ痕がある。出土した土坑は加曾利E2式に比定されており、紐擦れ痕から当該期の再利用品であることがわかる。4は半円形の垂飾である。滑石製であるが、石質は3ほど精良ではない。直線部の側面、表面下端及び裏面下半に成形時の細かな擦痕が残る。貫通孔は径4mm弱で、表裏両面からの穿孔である。紐擦れ痕は認められない。出土した土坑からは加曾利E1～2式の土器が出土している。

5・6はコハク玉である。どちらも原石そのものに孔のみをあけている。孔はともに両面穿孔で、径は4mm弱である。いずれも出土した住居跡は加曾利E1式古段階に比定されている。7はコハクの垂飾と思われる。両端を欠損する。一端は尖り気味で、他端はやや幅広である。断面形は裏面が平坦で、表面側がやや膨らみを持つ。石質は半透明で精良である。出土した土坑の時期は不明である。他に図示していないが、コハクの原石が2点出土している。いずれも小型の塊状のものである。

## 第8節 石器 (図版57・128～138、第14表、附表6)

(78) 区では、縄文時代の石器は合計5,731点出土した。そのうち利器は大別23種で、1,604点(全体の約28%)を数える。

内訳は、石鏃(未成品236点を含む)522点、楔形石器106点、石錐23点、石匙1点、二次加工ある剥片77点、使用痕ある剥片5点、磨製石斧(未成品1点を含む)229点、局部磨製石斧5点、打製石斧149点、磨石類(磨耗痕・敲打痕・凹み痕の複合形)272点、敲石37点、砥石15点、石皿108点、台石8点、石錘1点、スタンブ形石器1点、礫器5点、側面調整礫1点、軽石製品5点、不明石製品1点、石棒8点、二次加工ある礫5点、浮子23点となっている。

以上の石器の出土数量と内訳については、石材と器種の対応関係を第14表に示したので、適宜、参照されたい。

### 石鏃 (図版128・129-1～143)

大きさは長さ1.1cm～4.1cmであるが、2cm前後のものが多く、有茎・平基・円基各1点のほかは、すべて基部に抉りのある凹基無茎鏃となっている。主体をなす凹基無茎鏃は抉りの深淺、長幅関係及び尖頭部周辺の形状により、さらに細分が可能である。また、特異な形態として先端が錐のように細長い、いわゆる「先端突出形」がある。チャートと黒曜石を二大石材としている。

### 楔形石器 (図版129-144～146)

主として扁平なチャートの小円礫を素材として、両極打法により製作されている。石鏃の素材生産に關わる石器であるが、剥離の途上で生じた両極剥片・削片はもとより、当該資料も石鏃の素材に有効利用されている。

### 石匙 (図版129-147)

1例にとどまる。東北南部の硬質頁岩製であり、再加工品の可能性がある。ちなみに、石匙は前期に盛行し中期以降は貧弱となる。このことは(78)区の土地利用の状況(中期後半)とよく整合する。

### 石錐 (図版129-148～160)

長い錐部と幅広い握み部をもつものが一般的である。石材の使用傾向は石鏃と同様である。

### 二次加工ある剥片・使用痕ある剥片

二次加工ある剥片とは加工が部分的であるため定形的な石器から除外されたもので、使用痕ある剥片は縁に連続的な刃こぼれが観察されるものをいう。この中には何らかの器種の未成品が含まれている可能性が高い。石材はチャートと黒曜石を主体とする。

### 磨製石斧・局部磨製石斧 (図版130-161～210)

一般に縄文時代の磨製石斧は、形態から定角式磨製石斧、乳棒状磨製石斧及びその他の石斧に区分される。定角式磨製石斧は二側縁及び頭部が研磨されたもので断面は隅丸長方形である。これに対して乳棒状

磨製石斧は、身が円筒状、頭部は細い棒状で断面が楕円形を呈する。刃部は分厚い両刃（蛤刃）である。

本遺跡では、定角式磨製石斧を主体とし、一部に礫石斧もみられる。乳棒状磨製石斧は皆無であった。

関東地方では、定角式石斧が中期終末、乳棒状磨製石斧は前期（黒浜期）から一般化するといわれているが、本遺跡でもこの趨勢によく合致する。基本的に製品として搬入されており、大半の資料に刃こぼれ、敲打痕、欠損などの損傷が認められ、徹底的に使いきられている。石材は緑色岩、砂岩、ホルンフェルス、粗粒玄武岩が多いが、中には糸魚川など日本海側からもたらされた透閃石岩も散見される。このほか関連資料として、局部磨製石斧が5点出土した。いずれも小型の扁平礫を素材としており、一端に研磨が施されている。いわゆる「礫石斧」といえよう。

### 打製石斧（図版131-211～240）

縄文時代の打製石斧の形態には、①短冊形（長方形）、②撥形（三味線の撥に似た形態のもの）、③分銅形（上下両端が張り出し、中央部両側縁に挟りがあるもの）の三つの形態があり、短冊形は中期を中心に前期後葉から中期末葉に、撥形は早期後葉から前期中葉に、分銅形は中期中葉から晩期にかけて盛行する。

本遺跡では、分銅形が大半占めることから、おおむね縄文時代中期中葉以降の一般的な特徴を備えているものといえる。石材は通例に違わずホルンフェルス（約41.6%）が多用されており、砂岩と安山岩がこれに次ぐ。なお、磨製石斧や磨石類からの転用例が若干みられる。

### 磨石類（図版132・133-244～282）

磨石とされるものの多くは磨耗痕の他に敲石あるいは凹石とも捉えられる縁辺の敲打痕や敲打による凹み痕が存在する。また、逆に敲打による凹み痕を目安にすると、本遺跡の凹石は全点磨耗痕を伴うため単一の器種と考えることはできない。したがって、ここでは磨石類に統合し、単に敲打痕のみ存在する器種を敲石として記述した。磨耗痕のみの狭義の磨石は少なく、敲打痕・凹み痕あるいはそのいずれかが共存する例が多い。石材は安山岩、砂岩、石英斑岩、及び流紋岩が多用されている。

### 敲石（図版134-283～288）

磨耗痕や凹み痕がなく、礫の一端ないしは両端に敲打痕が残存するものである。定角式石斧の転用例がまみられる。石材は砂岩が主体である。

### 砥石（図版134-289）

置き砥石を主体として、手持ち砥石が若干みられる。石材は砂岩が基本である。

### 石皿（図版134～137-290～299）

いずれも原形をとどめておらず、全体の形状は明確ではないが、楕円形又は隅丸方形に近い形態が想定される。表裏に磨面があり、裏面が平坦なものと膨らんだものの二種がある。また、蜂の巣状の小孔が共存する例もみられる。石材は安山岩類（多孔質安山岩35点を含む）を主とする。

### 台石 (図版137-300~302)

遺構内から1点出土した。302は平坦な二面にそれぞれ研磨痕と敲打痕が見られる。後者は楔形石器の製作時の損傷の可能性がある。これら二種の使用痕から砥石と台石の併用が想定される。

### 石錘

扁平礫の両端を打ち欠いた、いわゆる礫石錘が1点出土した。石材は流紋岩である。礫石錘は、縄文時代を通じて存在するが、用途は漁網錘と編み物を編む際の二通りが考えられており定かではない。

### 礫器 (図版132-241・242)

いずれも円礫を素材としており、一端に粗雑で部分的な加工が施されている。石斧の未成品の可能性を秘めている。

### スタンプ形石器 (図版132-243)

縄文早期の燃系土器末期に伴出する石器である。比較的扁平な楕円形礫の下半を打ち欠き、平坦な底面を作出している。両側縁を抉るかのような特有の加工痕はない。石材は安山岩である。

### 側面調整礫

扁平な小円礫の二側縁に連続的な敲打痕がみられる。砂岩製の資料が1点出土した。敲打痕は敲石のように対象物に打撃を加えたのではなくあくまでも器面の整形を目的とした調整であり、また磨耗痕も研磨というよりも擦痕に近い。表面が赤く変色（赤化）するまで焼成されている。

### 軽石石製品

いずれも破片であり、全体の形状は定かではない。ただし有孔の資料については、浮子の可能性がある。

### 不明石製品

軟質砂岩製で、平面形が三叉状の打製石器である。敲打痕が部分的にみられるが、風化が著しく器種同定には至らなかった。

### 石棒 (図版138-303・304)

数量が少なく、多くは断片的であるが、完形に近い資料がSK1076から1例出土している。当該資料は被熱によって石理に沿って板状に剥落していたが、接合の結果、全形を彷彿とさせる資料に復元できた。長さは36.9cm、幅4.3cm、厚さ2.6cmを測り、比較的小型で細身である。土坑の時期は加曾利E3式古段階である。石材は流紋岩である。

### 二次加工ある礫

礫石器のうち、二次加工が部分的な資料を取りまとめた。

### 浮子 (図版138-305~309)

紐掛け用の穴を有する資料であり、断面形は扁平な凸レンズ形又は円形で、平面形が楕円形や籠状を呈する資料である。用材の脆弱性により破損資料が多い。

### その他

#### 原石 (図版57-310・311)

チャートや流紋岩の扁平な小円礫を主体として、角礫状の黒曜石や緑色岩等の円礫がこれに加わる。チャート等は剥片石器、黒曜石等は剥片石器や磨製石斧等の用材に供されたものと推定される。なお、信州系黒曜石については希少性が高く特筆される。

### 石核

剥離面の状況から横長剥片が生産された模様である。石材はチャートと黒曜石を主としており、数量は互いに拮抗している。

### 剥片類

素材剥片(剥片・削片・両極剥片)と二次加工の際に生じる碎片(調整剥片)が都合3,827点(全体の約66.8%)出土した。チャートと黒曜石が二大石材である。剥片の大きさや形状に統一性がなく、横長剥片が大半である。横長剥片の背面の剥離面は複数の方向から打撃された痕跡をとどめ、先端は主要剥離面に向かって湾曲している。

### 軽石(類)

浮標(浮子)の一部、あるいは、何らかの素材の可能性もあるが、断片的なため検討に堪えない。



## 第4章 古墳時代

(78) 区から検出された古墳時代の遺構は中・後期の竪穴住居跡6軒で、舌状台地の東側を中心に分布する。他の地区では古墳時代の遺構は検出されていない。古墳時代中・後期の竪穴住居跡9軒、円墳2基が検出された飯積上台遺跡<sup>1)</sup>の遺構の空白時期を補完するものであり、2遺跡間で居住域が遷移したと考えられる。

注1 (公財)千葉県教育振興財団 2013『酒々井町飯積上台遺跡1-酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書1-』

### 第1節 竪穴住居跡 (第110～118図、図版53～54・139～141、附表7)

(78) S1003 (第110・116・117図、図版53・139・140・141)

位置 14V-02・03・04・12・13・14

平面形 方形

規模 東西6.67m×南北6.76m、深さ38cm

主軸 N-97°-E

主柱穴 P1～P4 深さ66cm～70cm

カマド 東壁南寄り

周溝 西側、北・東・南側の一部

貯蔵穴 P5 南北1.02m×東西92cm、深さ65.2cm

遺物 土師器坏・鉢・甕・甔、土製支脚

時期 後期 (6世紀前葉)

(78) S1023 (第111・117図、図版53)

位置 13V-44・45・46・54・55・56・65・66

平面形 四隅の丸味が強い方形

規模 南北7.49m、東西7.17m、深さ54cm

主軸 N-0°

主柱穴 P1～P4 深さ40cm～63cm

※ 存在したと思われるが検出できなかった。

カマド なし

周溝 なし

遺物 土師器坏

時期 中期 (5世紀後葉)

(78) S1033 (第112・117図、図版53・140)

位置 14V-33・34・35・43・44・45

平面形 方形

規模 東西6.33m×南北5.60m、深さ22cm

主軸 N-86°-E

主柱穴 P1～P4 深さ66cm～81cm

炉 中央付近

カマド 東壁やや南寄り

周溝 南側の一部

貯蔵穴 P5 南北98cm×東西83cm、深さ55cm

その他の施設 P1から南壁中央にかけてL字形に区画溝が掘り込まれる。

遺物 土師器坏・甕

時期 後期（6世紀前葉）

(78) S1041 (第113・117・118図、図版53・140・141)

位置 15V-25・26・27・35・36・37

平面形 方形

規模 南北6.32m×東西6.41m、深さ61cm

主軸 N-110°-E

主柱穴 P1・P2・P3・P4 深さ68cm～79cm

カマド 東壁やや南寄り

周溝 南・西・北・東側の一部

貯蔵穴 P7 東西1.11m×南北1.07m、深さ61cm

入口ピット P5 深さ38cm、P6 深さ70cm

遺物 土師器坏・甕・ミニチュア土器、土製紡錘車

時期 後期（6世紀前葉）

(78) S1045 (第114・118図、図版53・140・141)

位置 14U-71・72・81・82・91

平面形 方形

規模 南北6.00m、東西一、深さ18cm

主軸 N-40°-W

主柱穴 P1・P2・P3・P4 深さ33cm～64cm

カマド 北壁中央

周溝 なし

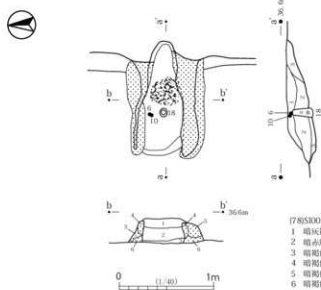
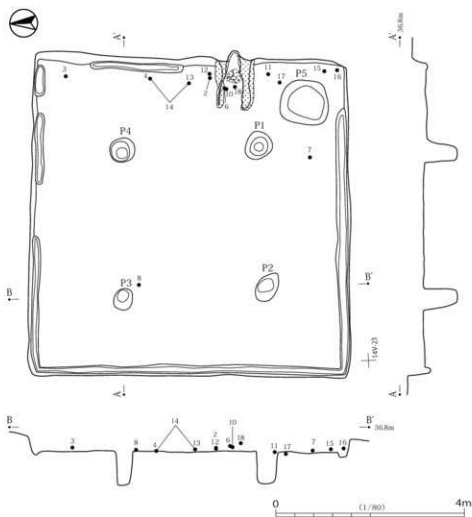
貯蔵穴 P5 東西1.32m、南北1.14m、深さ52cm

遺物 土師器坏・高坏・甕（6世紀中葉）

備考 多数の縄文時代の土坑・ピットと重複する。南壁の中央は張り出していたものと考えられる。



(78)SI003

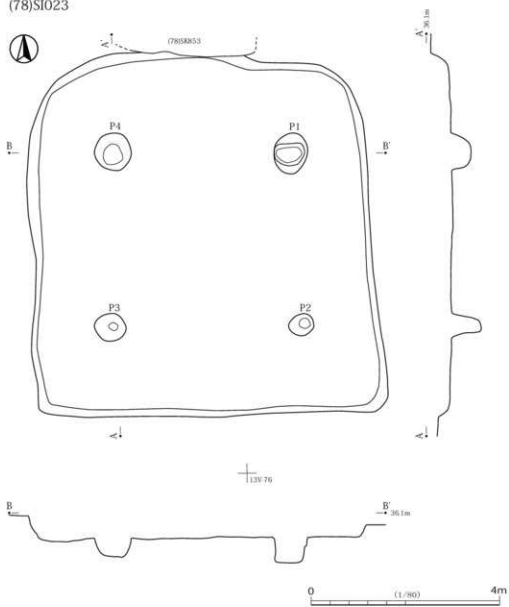


(78)SI003 カマド

- |          |                      |
|----------|----------------------|
| 1 暗灰褐色土  | 暗褐色土を主として少量の山砂、炭土を含む |
| 2 暗赤灰褐色土 | 暗褐色土を主として多量の山砂、炭土を含む |
| 3 暗褐色土   | 暗褐色土を主として少量の山砂、炭土を含む |
| 4 暗褐色土   | 炭土化した山砂              |
| 5 暗褐色土   | 山砂                   |
| 6 暗褐色土   | 山砂                   |

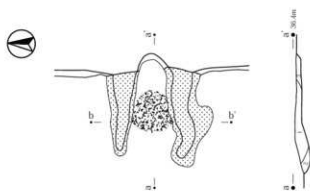
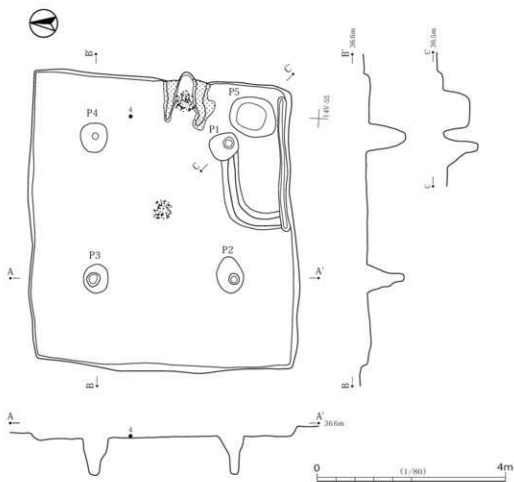
第110図 古墳時代住居跡 (1)

(78)SI023



第111圖 古墳時代住居跡(2)

(78)SI033

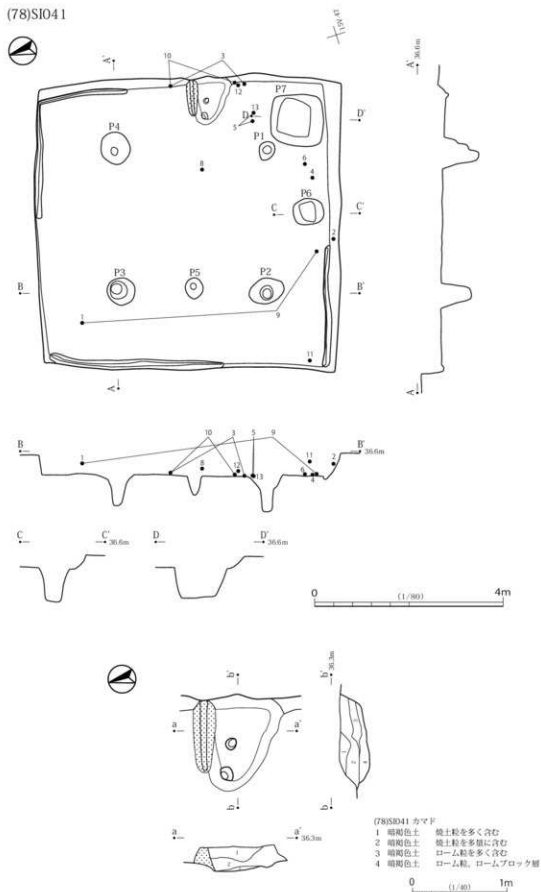


(78)SI033 カマド  
1 暗赤褐色土 コーム粒多 焼土粒・ブロック多  
2 暗灰褐色土 コーム粒多 焼土粒多  
3 暗灰褐色土 コーム粒多 焼土粒少

0 (1/80) 1m

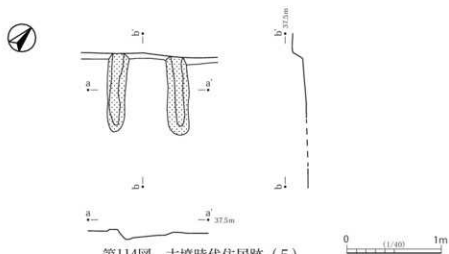
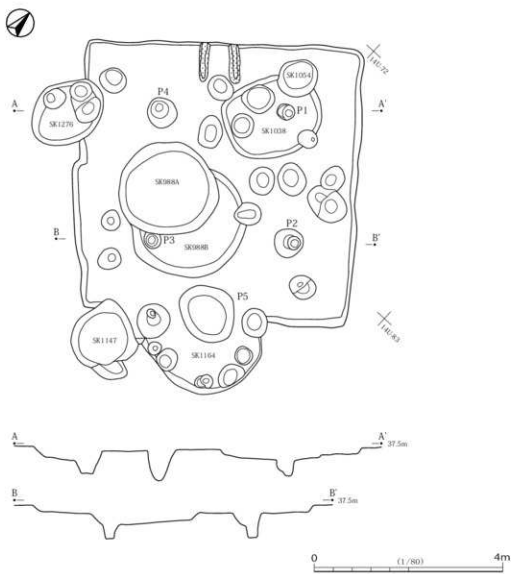
第112図 古墳時代住居跡(3)

(78)SI041



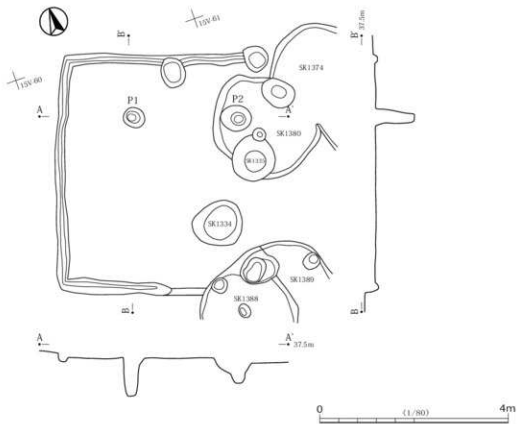
第113図 古墳時代住居跡(4)

(78)SI045

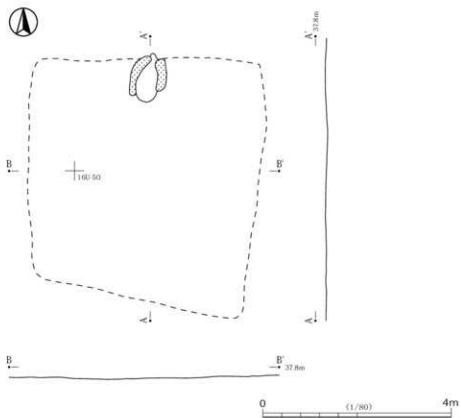


第114图 古墳時代住居跡 (5)

(78)SI049

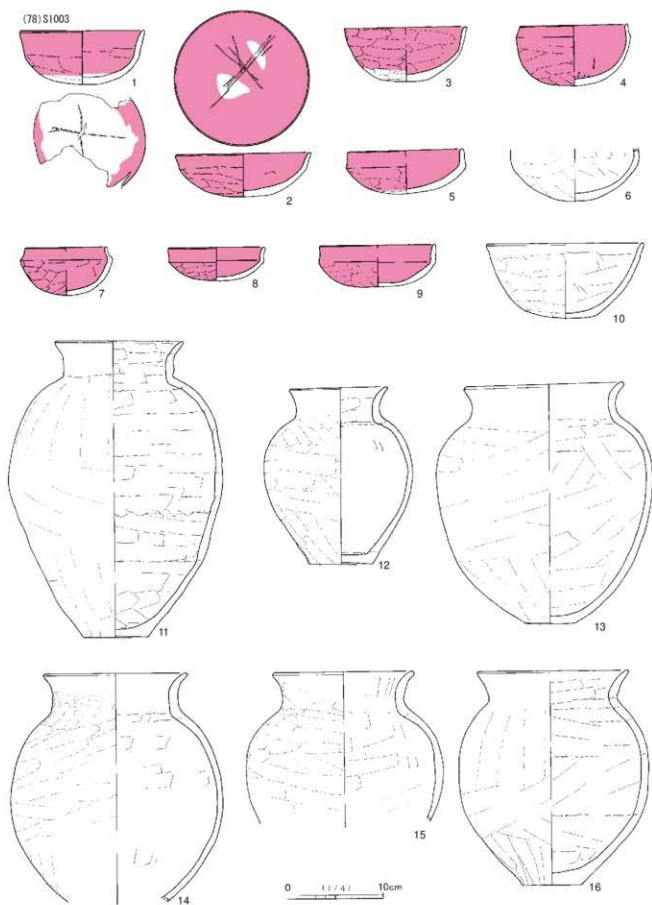


(78)SI052



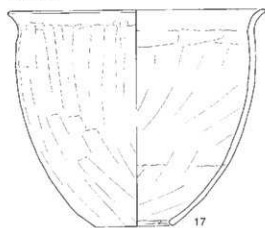
第115図 古墳時代住居跡(6)

(78) S1003

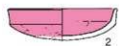


第116図 古墳時代住居跡出土土器(1)

(78)S1003



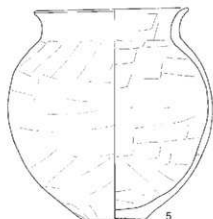
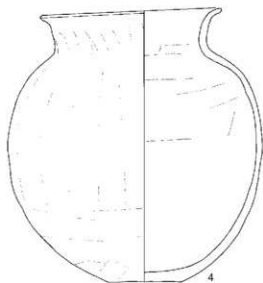
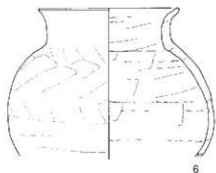
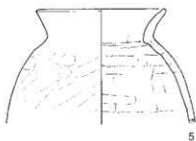
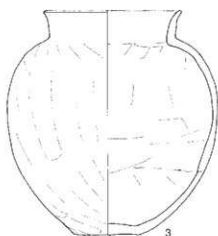
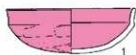
(78)S1033



(78)S1023



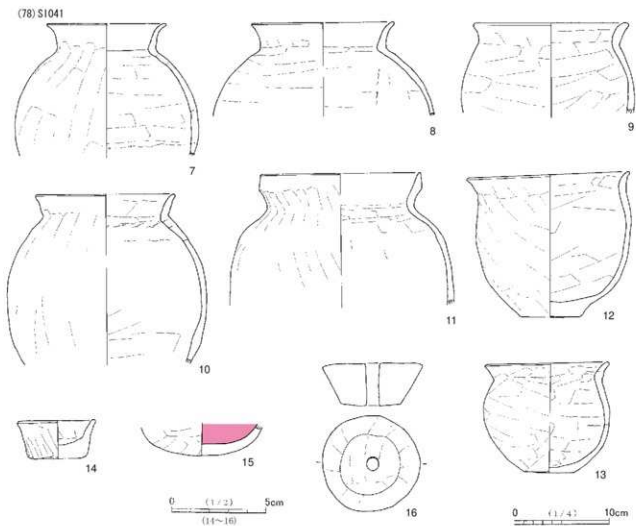
(78)S1041



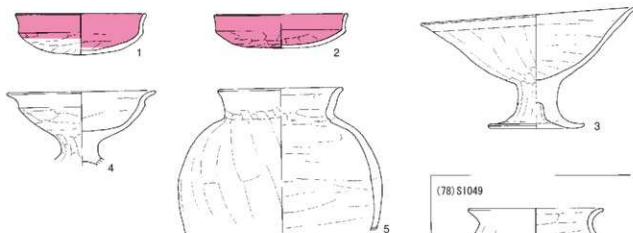
0 (1/4) 10cm

第117図 古墳時代住居跡出土土器(2)

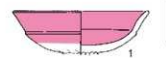




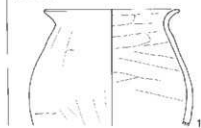
(78) S1045



(78) S1052



(78) S1049



第118図 古墳時代住居跡出土土器(3)・土製品

(78) S1049 (第115・118図、図版53・141)

位置 14V-69、15U-69・79、15V-60・61・70・79

平面形 方形

規模 南北5.05m、東西一、深さ20cm

主軸 N-110°-E

支柱穴 P1・P2 深さ50～80cm

カマド 東側に位置していたものと思われる。

周溝 西壁・北壁、南壁の一部

貯蔵穴 なし

遺物 土師器甕 (6世紀前葉)

備考 縄文時代の土坑・ピットと重複する。東側は遺存状態が悪い。

(78) S1052 (第115・118図、図版54・141)

位置 15T-49・59、16U-40・50・60

平面形 方形

規模 南北 (5.13) m、東西 (4.90) m、深さ一

主軸 N-7°-E

支柱穴 不明

カマド 北壁中央

貯蔵穴 なし

遺物 土師器高坏 (6世紀中葉)

備考 全体的に擾乱されており、カマドの袖部及び焼土のみが検出された。破線で示した平面プランは推定である。

## 第5章 奈良・平安時代以降

奈良・平安時代以降の遺構は、掘立柱建物跡8棟、竪穴住居跡1軒、土坑1基、溝状遺構3条である。竪穴住居跡は北側の舌状台地において単独で検出され、その他の遺構は(10)区、(13)区の東側に隣接する細長い区域から検出された。この区域の東側は緑地保存範囲で、平坦部がさらに5mほど続いている。

掘立柱建物跡8棟のうち、6棟は(10)区において部分的に検出されていたもので、いずれも全容が明らかとなった。2棟は新規に検出されたもので、いずれも南東側の調査区外に及んでいる。掘立柱建物跡の周辺では、柱穴と思われるピットが合計8基検出されたが、現時点では建物跡として捉えることができず、近接する掘立柱建物跡の遺構図に図示するのみに留めた。溝状遺構はいずれも西側の調査区から断続するものであり、東側の調査区外に延びている。

### 第1節 掘立柱建物跡 (第119～123図、附表8、図版54・55・141)

(10)・(78) SB419 (第119・123図、図版54・141)

位置 19R-48・49・58・59・68・69、15V-60・61・70・79

平面形式 側柱南北棟

規模 桁行4間(6.90m)、梁行3間(4.50m)

主軸方位 N-3°-E

柱間 桁行1.60m～1.80m、梁行1.20m～1.60m

掘り方 径90cm～1.18m、深さ20～56cm

柱痕 北側柱列・西側柱列の一部にみられた。

遺物 土師器環(墨書「三倉」・「□」)

備考 北側は(10)区で調査、南東隅柱穴は未検出。

(10)・(78) SB449 (第120図、図版55)

位置 190-89・99、19R-80・81・90・91

平面形式 側柱東西棟

規模 桁行5間(9.50m)、梁行3間(3.70m)

主軸方位 N-89°-E

柱間桁行 1.94m～2.18m、梁行 1.80m～2.00m

掘り方 径68cm～1.50m、深さ17.3cm～55.2cm

柱痕 北側及び南側柱列の一部にみられた。

遺物 土師器甕、羽口

備考 南東隅柱穴以外は(10)区で調査。(10) SB503との新旧関係は不明。

(10)・(78) SB503 (第120・123図、図版55)

位置 19Q-98・99、19R-90、20Q-08・09、20R-00

平面形式 側柱東西棟

規模 桁行5間(9.12m)、梁行(3.80m)

主軸方位 N-84°-E

柱間 桁行1.60m～2.30m、梁行1.40m～2.10m

掘り方 径84cm～182cm、深さ32cm～73.8cm

柱痕 北側柱列の一部にみられた。

遺物 土師器環・甕、須恵器甕

備考 北西側は(10)区で調査。(10)SB449との新旧関係は不明。

(10)・(78) SB504 (第119図、図版55)

位置 19R-65・66・67・75・76・77・85・86・87

平面形式 側柱東西棟

規模 桁行4間(7.00m)、梁行3間(4.40m)

主軸方位 N-0°

柱間 桁行1.63m～3.50m、梁行1.34m～2.80m

掘り方 径64cm～1.06m、深さ10cm～64cm

柱痕 なし

土坑 (78)SB133 径64cm～72cm、深さ34cm

遺物 土師器甕

備考 北側は(10)区で調査、西側・南側柱列の一部は未検出。床面は傾斜し、北側に約10cm下がる。  
北東隅の土坑(78)SB133は厩舎・馬小屋に付設される尿溜めに類似する。

(10)・(78) SB508 (第121図、図版55)

位置 19Q-96・97、20Q-06・07・16・17

平面形式 側柱東西棟

規模 桁行3間(4.80m)、梁行2間(4.00m)

主軸方位 N-1°-W

柱間 桁行1.40m～1.94m、梁行1.80m～2.08m

掘り方 径54cm～1.14m、深さ24cm～56cm

柱痕 北側、西側柱列の一部にみられた。

遺物 土師器甕、須恵器甕

備考 (10)SB509と重複(新旧不明)。

(10)・(78) SB509 (第121・123図、図版55)

位置 19Q-96・97、20Q-06・07・16・17

**平面形式** 側柱東西棟

**規模** 桁行3間(4.80m)、梁行2間(3.90m)

**主軸方位** N-5°-E

**柱間** 桁行1.40m～1.72m、梁行1.80m～2.00m

**掘り方** 径50cm～84cm、深さ18cm～38cm

**柱痕** 北側柱列にみられた。

**遺物** 土師器坏、須恵器甕

**備考** (10) SB508と重複(新旧不明)。

(78) SB200 (第122・123図、図版54)

**位置** 19R-73・74・75・83・84・85

**平面形式** 側柱東西棟

**規模** 桁行4間(7.00m)、梁行3間

**主軸方位** N-5°-W

**柱間** 桁行1.60m～3.40m

**掘り方** 径70cm～90cm、深さ20cm～30cm

**柱痕** なし

**遺物** 須恵器甕

**備考** 梁行柱穴は未検出。

(78) SB201 (第122・123図、図版54)

**位置** 19R-68・69、19R-78・79・88

**平面形式** 側柱南北棟

**規模** 桁行3間(6.74m)、梁行2間(4.00m)

**主軸方位** N-7°-E

**柱間** 桁行6.76m、梁行4.00m

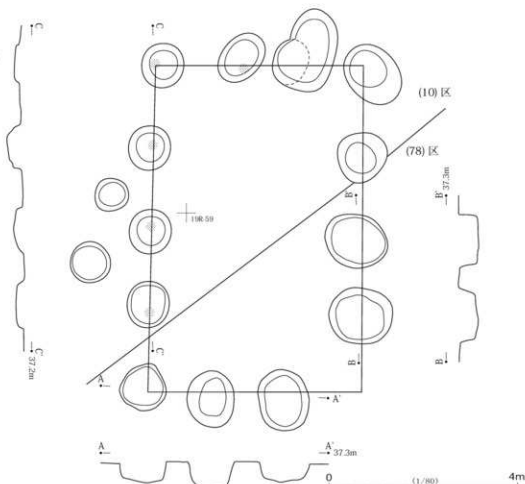
**掘り方** 径74cm～116cm、深さ38cm～54cm

**柱痕** 西側柱穴などにみられた。

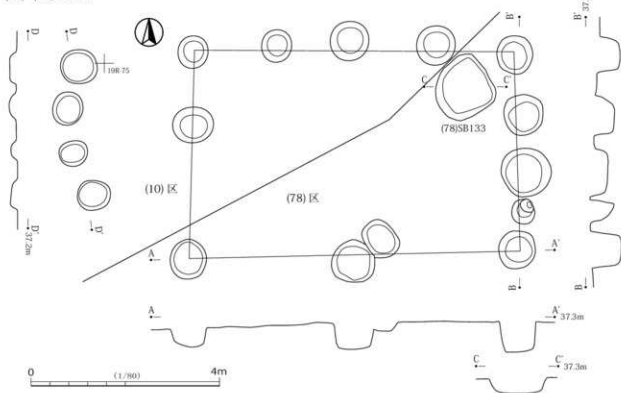
**遺物** 土師器坏・甕、須恵器甕

**備考** 南側は床束、または別の建物が重複する。

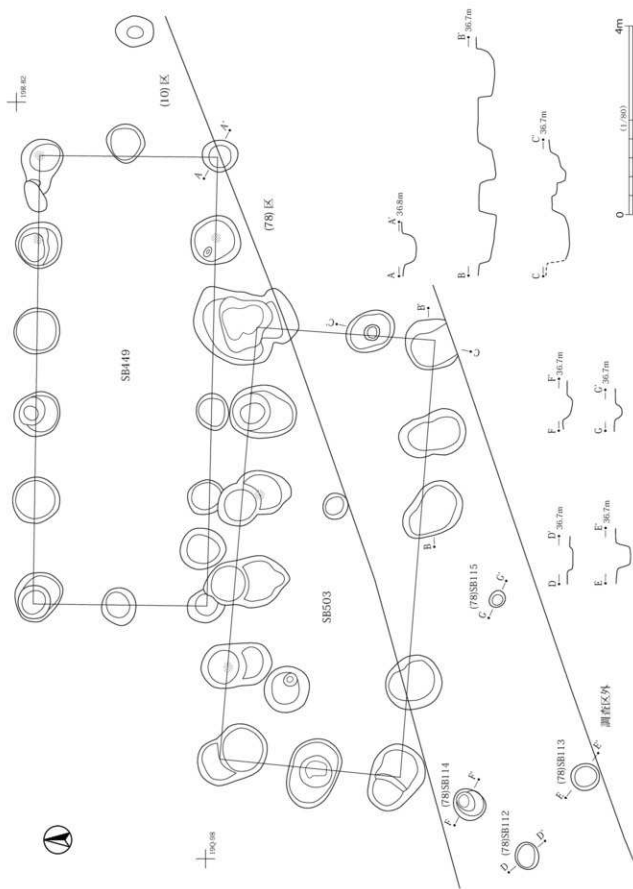
(10)・(78)SB419



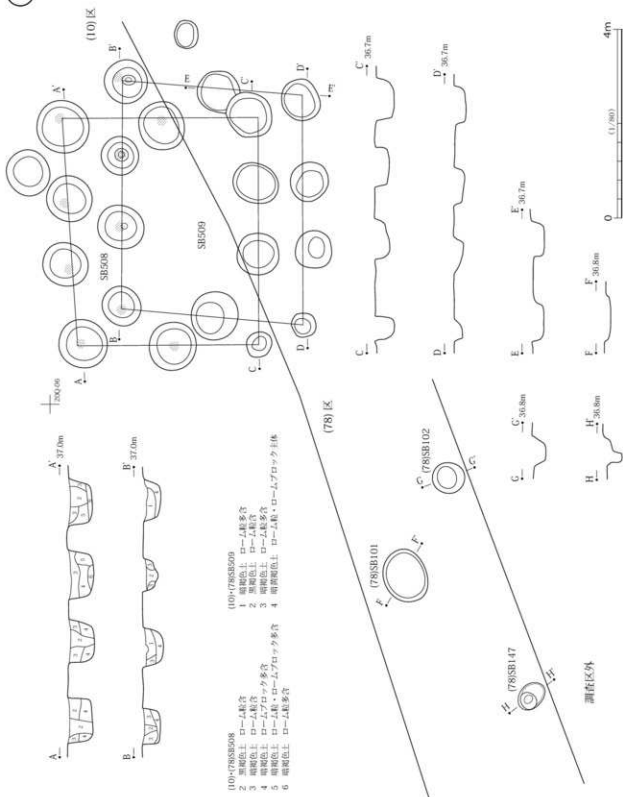
(10)・(78)SB504



第119図 奈良・平安時代掘立柱建物跡(1)



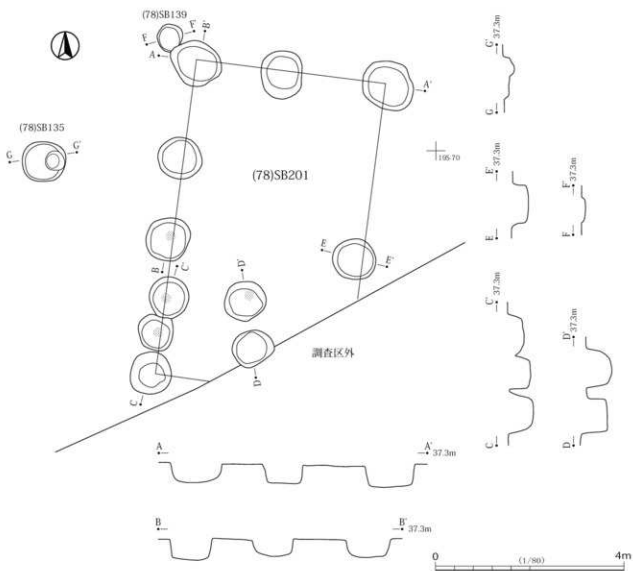
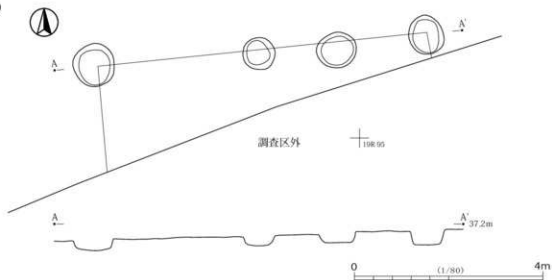
第120図 奈良・平安時代掘立柱建物跡 (2)



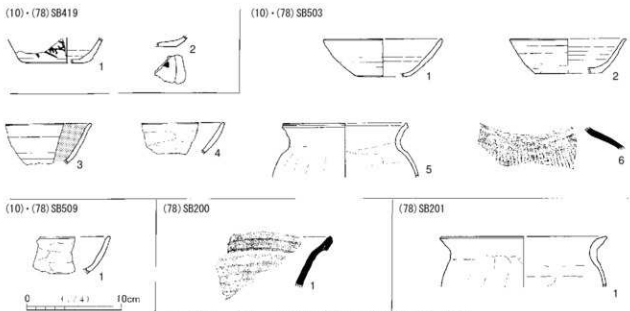
第121図 奈良・平安時代掘立柱建物跡 (3)



(78)SB200



第122図 奈良・平安時代掘立柱建物跡（4）



第123図 奈良・平安時代掘立柱建物跡出土土器

## 第2節 竪穴住居跡・土坑 (第124・125図、附表8、図版54・55・141)

(78) S1047 (第123図、図版54)

位置 16U-65・66・75・76

平面形 方形

規模 東西3.43m×南北3.36m、深さ34cm

主軸方位 N-45°-W

主柱穴 なし

カマド 北壁中央

周溝 なし

貯蔵穴 なし

遺物 なし

時期 不明

備考 規模が小さいこと、主柱穴をもたないことなどから奈良・平安時代と判断した。

(78) SK1469 (第124・125図、附表8、図版55・141)

位置 20P-55・56

平面形 楕円形?

規模 東西3.30m、

方位 N-88°-E

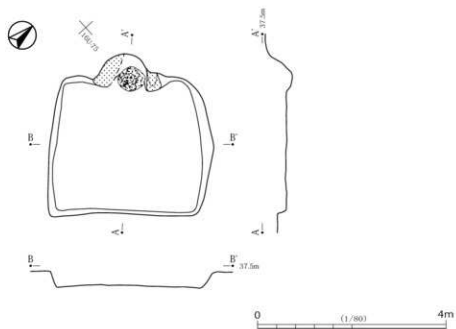
ピット 2か所 深さP1 41.2cm、P2 58.0cm

遺物 土師器坏(墨書「三倉」3点)・甕、須恵器甕

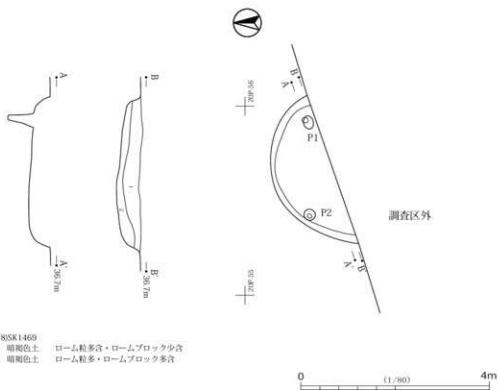
時期 3期(9世紀第2四半期)

備考 竪穴住居跡の可能性はある。

(78)SI047

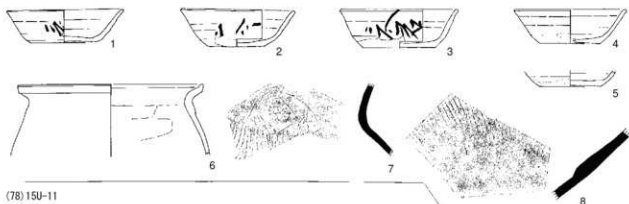


(78)SK1469



第124図 奈良・平安時代住居跡・土坑

(78) SK1469



(78) 15U-11



第125図 奈良・平安時代土坑・遺構外出土土器

### 第3節 溝状遺構 (第126図、図版55)

(10)・(78) SD512 (第126図、図版55)

位置 19S-04・14・15

規模 検出した長さ6.5m、幅71cm～1.00m

方位 N-81°-W

断面形 逆台形

遺物 なし

備考 奈良・平安時代の条里・方格区画溝の一部、約530m西方の(10) SD430に断続する。

(10)・(78) SD554 (第126図、図版55)

位置 18T-12・22・23

規模 検出した長さ5.00m、幅1.45m～1.70m、深さ50cm

方位 N-74°-W

断面形 逆台形

遺物 なし

備考 奈良・平安時代の条里・方格区画溝の一部、約450m西方の(63) SD001に断続する。

(13)・(78) SD672 (第126図、図版55)

位置 20P-45・46・47・48

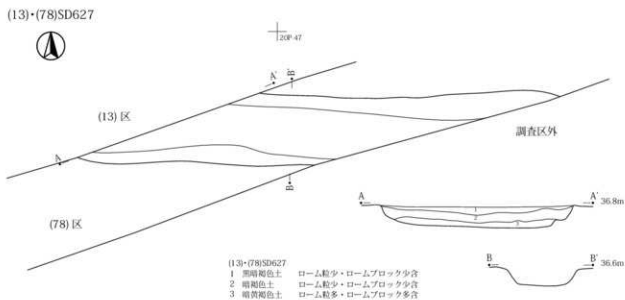
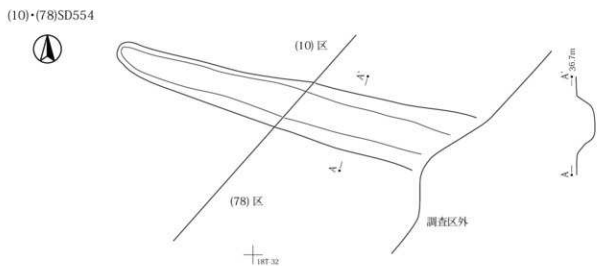
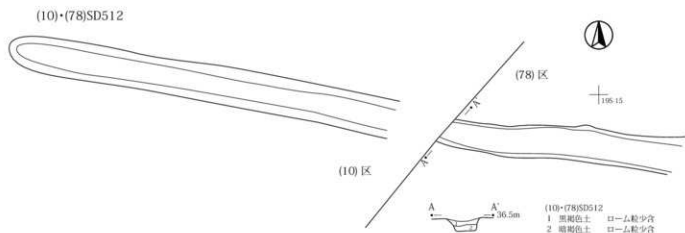
規模 検出された長さ12.4m、幅1.85cm～1.95cm、深さ50cm

方位 N-90°-W

断面形 逆台形

遺物 なし

備考 中・近世の道路状遺構の一部、約13m西方の(13) SD672に断続する。



第126図 溝状遺構

## 第6章 まとめ

### 第1節 旧石器時代 (第15表)

計80点の遺物が出土した。内訳はナイフ形石器6点、角錐状石器3点、槍先形尖頭器3点、搔器2点、楔形石器2点、二次加工ある剥片2点、石核3点、剥片33点、砕片15点のほか礫片が11点となっている。これらの石器群の帰属時期は、槍先形尖頭器は立川ロームIV層上部、そのほかは立川ロームIV層下部・V層段階に対比される可能性が高い

検出された遺物集中地点は1か所（第29ブロック）にとどまる。第29ブロックの基本的な性格は礫群である。礫群は立川ロームIV層下部・V層段階の遺跡に偏る傾向にあるが、本ブロックはそのことを良くあらわしている。

下総台地では径約5mの小規模なブロックが一般的であり、他地域に比べ遺物量も零細である。このことは石材消費地の特徴を良く表しており、第29ブロックはその典型例と言えよう。

第15表 旧石器時代石器組成表

器種・石材	ナイフ形石器	角錐状石器	槍先形尖頭器	搔器	楔形石器	二次加工ある剥片	石核	剥片	砕片	礫片	計
ガラス質黒色安山岩	5	1	2	1	1	2	3	23	1		39
黒曜石	1	1	1								3
メノウ				1					5		6
硬質頁岩		1						7	9		17
トロトロ石								2			2
流紋岩質凝灰岩					1			1			2
石英斑岩										11	11
合計	6	3	3	2	2	2	3	33	15	11	80

### 第2節 縄文時代

#### 1 土器

諸事情により出土土器についての細部の説明ができなかったが、完形土器、半完形土器は縄文のみまたは無文のものを除いてほとんど図化、掲載した。また、住居跡出土土器は細片を除いて写真図版に載せているし、土坑出土の主要な破片もやはり写真図版で示している。

これらのうち、1a期、いわゆる中峠式及び加曾利E1式古段階は好資料が得られた。県内当該期の土器研究は下総考古学研究会によって主導的になされている。数多くの類型を設定し、その分布や系統の細かい検討作業が行われているが、新資料が出るごとに各類型の中間的な土器や類型に当てはまらない土器が発見される、というのが率直な感想である。阿玉台IV式、勝飯式末期を含めた編年の確立を今後の課題としたい。

2c期、加曾利E2-3中間式と3a期、同E3式古1段階は識別が難しかった。個体ごとに見ると懸垂文の磨消が微妙で、懸垂文間の縄文が半分消えかかったものや、同時期と思われる一括出土の土器でも個体ごとに磨消されているものとされていないものが認められた。磨消手法の有無は加曾利E式前半と後半を分

ける重要な指標であるが、必ずしも一様に磨消手法が始まったのではないのが実態なのであろう。縄文人にとってはことさら磨消にこだわった訳ではなく、磨消手法は徐々に定着、一般化してゆくのであって、当初は同時期であっても磨消手法に個体差が生じるのであろう。こうした不明な時期が加曽利E2-3中間式の時期なのではあるまいか。

3b期以降については、既報告分で良好な資料が出土しており、時期的な検討がなされているので、こちらを参照願いたい。

## 2 土製品

土偶は不確実なものを含めて、3点出土した。腰以下を欠損する土偶は後期堀之内1式期の所産と考えられ、好例である。腕部とした破片は安孫子氏によって連弧文土器に伴う背面人体文土偶と呼ばれた類と考えられるが、一般に当該例の腕部は簡略な例が多く、文様を施す例はないらしい<sup>1)</sup>。土偶の腕部とすれば、本体は相当大型であったと思われる。ミニチュア土器では漆が厚く付着した例が1点出土している。漆を溜めた容器であったと思われる。土器片鏝は192点中170点が完形品であった。平均重量は18.7gで、最も多いのは15g～20g未満で、次いで10g～15g未満、20g～25g未満となる。既報告の本遺跡(1)～(77)区では10g～15g未満が最も多く、次いで15g～20g未満、20g～25g未満の順となり、やや分布傾向が異なるが、平均重量は18.6gでほとんどかわらない。古鬼怒湾岸の他の遺跡でも同様の傾向を示すことがすでに指摘されている<sup>2)</sup>。土器片円板については、前回(1)～(77)区の253点より多い266点が出土した。前回報告では時期的には加曽利E3式中2段階から同3-4式段階であることや周縁加工、穿孔状態などについて検討した<sup>3)</sup>。今回も大きな違いはないと思われるが、比較検討が可能なよう同様の観察を行った。

注1 安孫子昭二 1998『背面人体文土偶』『土偶研究の地平「土偶とその情報」研究論集(2)』勉誠社

2 (公財)千葉県教育振興財団 2016『酒々井町飯積上台遺跡2・飯積原山遺跡3・柳沢牧墨木戸境野馬土手一酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書4-1』

## 3 石器と生産活動(第14・16表)

### 石器組成

本地区では、縄文時代の石器は総計5,731点出土した。剥片類や石核が大半を占め、総数は計4,127点(原石112点、石核114点、剥片2,243点、砕片1,570点、削片5点、両極剥片9点、軽石類74点)に及ぶ。これに対して利器は大別23種、計1,604点(約28%)を数える。

以上の石器個々の諸特徴と石器組成は第14表と第16表にそれぞれ示したので、適宜、参照されたい。

利器のうち石鏃、石錐、及び楔形石器等については、遺跡内で製作された痕跡をとどめるが、他の石器群、特に礫石器は搬入品である。これは一般的な傾向であり、製作地は、おそらく採取地もしくは近傍の河原であろう。礫石器のうち磨製石斧は破損後、しばしば再加工され、他の器種に転用されている。

### 技術的特徴

剥片生産技術のうち両極打法は、主として小型で扁平なチャート礫を素材としている。この技術は石核が剥離の進行に伴い小型化した場合や、原材料が小型で、通常の方法では剥片の剥離が困難な場合によく用いられたようである。そして、剥離の途上で生じた両極剥片・削片と最終的に残された扁平な石核(楔形石器)の双方が石鏃等の剥片石器の素材として使われている。

第16表 石器の機能・用途別組成 (小林1983を改変)

使用目的等	生産用具			工具	非実用的石器
	狩猟具	植物採集・加工具	漁撈具		
	直接生産用具	石鏃	打製石斧	浮標 (浮子)	石鏃 砥石 磨石類の一部 敲石の一部 台石の一部 磨製石斧
間接生産用具	剥片石器の一部	石皿 磨石類の一部 敲石の一部 台石の一部	剥片石器の一部	剥片石器の一部	珠状耳飾り 硬玉製大珠 琥珀玉

※太字は比較的数量が多いもの。

このような小型扁平な在地産のチャート礫から素材剥片を生産する技術は、後期旧石器時代前半期（「遠山技法」）からみられ、良好な石材に乏しい下総の伝統的な技術といえる。

#### 石器石材

遺跡内で製作された石器は石鏃をはじめとした剥片石器であり、未成品もみとめられる。これに対して礫石器は、いずれも搬入品であり、破損後はしばしば再加工され、他の器種に転用されている。特に磨製石斧や石皿については徹底的に使い尽くされており、石材消費地の特性がよくあらわれている。

石鏃等の剥片石器にはチャートと黒曜石、打製石斧にはホルンフェルス、磨製石斧には砂岩・粗粒玄武岩・緑色岩、磨石類・石皿には多孔質安山岩ないしは安山岩、石棒には緑泥片岩が多用されている。このことはそれぞれの機能に応じた石材の使い分けがあったことを如実に物語っている。

これらの石器石材の産地は緑色岩・粗粒玄武岩・黒色頁岩が埼玉・群馬方面、チャート、黒雲母片岩・斑岩・花崗岩・メノウ・トロトロ石・石英斑岩・流紋岩は栃木・茨城方面、黒曜石の一部は東京都神津島、チャートを主体とした小型扁平礫は近傍の礫層から採取されたものと推定される。産地は基本的に北関東方面を中心とした関東一円であるが、磨製石斧に使われている透閃石岩は糸魚川方面、硬質頁岩は東北地方、黒曜石の一部に信州系がみられる。

磨製石斧・打製石斧・石皿・石棒などの礫石器は、完成品として遺跡内に搬入されているが、おそらく、各地の専業集団により集中的に生産され、当地へ生活財として供給されたのであろう。

#### 生産活動

本遺跡の石器組成は、第16表に示したとおり、主体は、狩猟具の石鏃と植物の伐採・加工具の磨製石斧・石皿・磨石類である。これに対して打製石斧は少量で、漁具は非常に貧弱である。このことから本遺跡における生業は狩猟・採集を中心としていたことが窺われる。

ちなみに関東・中部の縄文石器の様相を検討した小林康男によれば、縄文時代の中期には、その前半（五領ヶ台、勝坂期）に「植物採集、加工具主体の石器組成が確立」し、打製石斧の急増と石皿、磨石類中心の石器組成が現象化するのに対して、中期後半（加曾利E期）には、石皿、磨石類には顕著な増減は認め



られないが、房総など関東の一部で打製石斧の減少と石鏃の増加が認められるという<sup>1)</sup>。

以上の小林の見解に照らし合わせると、本遺跡の石器組成は房総における中期後半の典型例といえる。

注1 小林康男 1983「組成論」『縄文文化の研究7 道具と技術』雄山閣, pp.16-27

#### 参考文献

- (公財)千葉県教育振興財団 2014『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書6 柏市富士見遺跡 縄文時代以降編1』
- 小倉和重 2009『宮内井戸作遺跡(旧石器時代編)(縄文時代本文・分析編)』財団法人 印旛郡市文化財センター。
- 柴田徹 2004「石器に使われている石材について」『下水遺跡第1地点発掘調査報告書』松戸市遺跡調査会, pp.267-276
- 柴田徹 2008「剥片石器に利用可能な石材の比重値について—関東地方を中心として—」『石器に学ぶ 第10号』石器に学ぶ会, pp.149-162
- 鈴木次郎ほか 1977『尾崎遺跡 酒匂川総合開発計画に伴う調査』神奈川県教育委員会
- 鈴木道之助 1991『図録・石器入門事典(縄文)』柏書房株式会社。
- 大工原豊 2004「(6)生活用の石器」『千葉県の歴史 資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』千葉県, pp.398-411

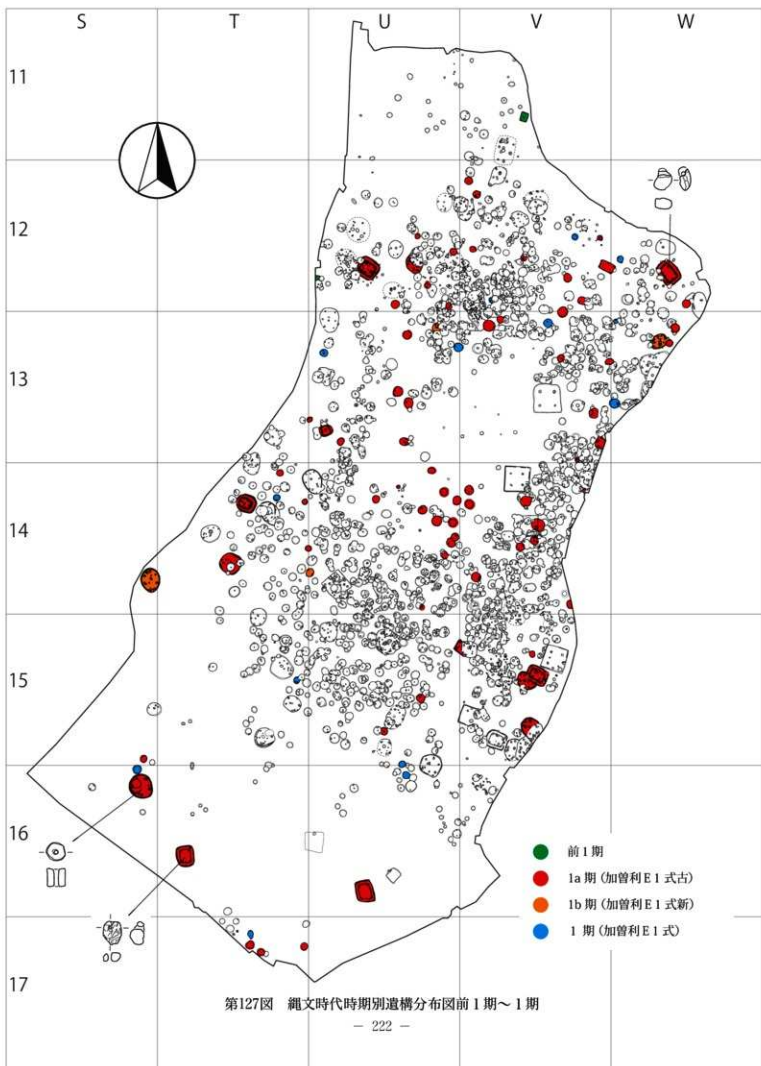
## 4 集落

飯積原山遺跡(78)区から検出された縄文時代遺構は、竪穴住居跡68軒、本来住居跡であつて遺構の度重なる重複などによって炉だけが確認できたものが76基、土坑1500基以上であった。このうち、時期のある程度確定できたのは第17表に示すとおりである。これらの遺構群は環状をなして発見されたが、その構造や時間的変遷などを今少し検討しておきたい。

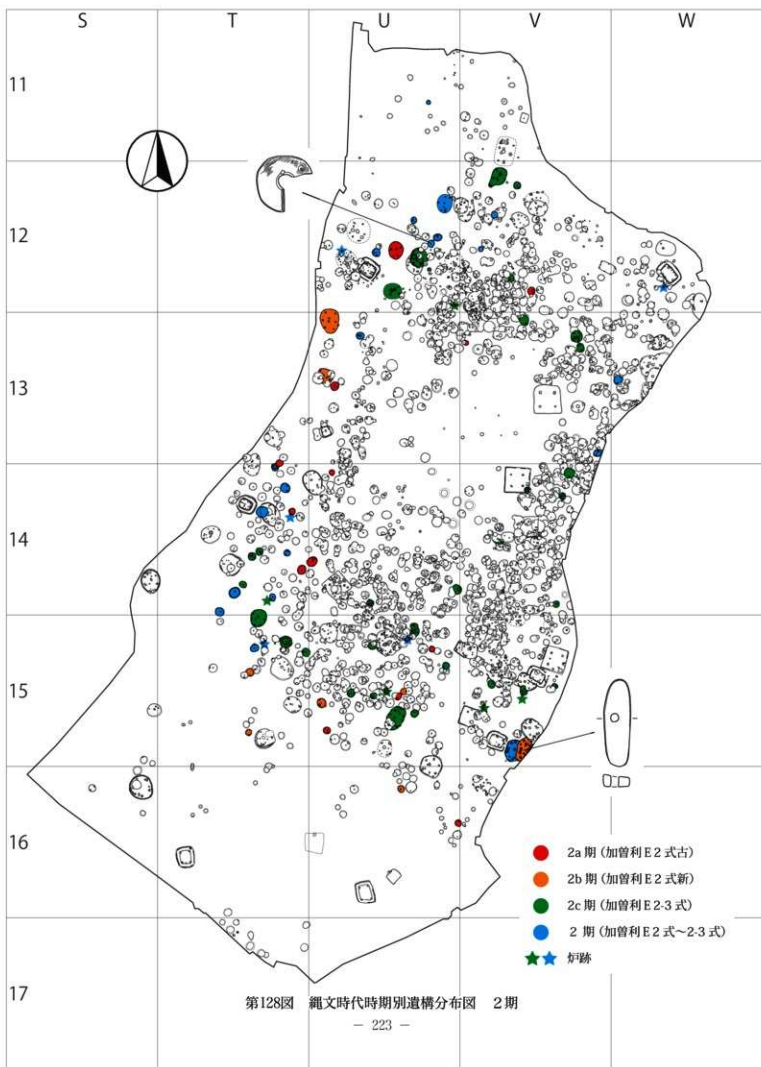
まず、環状集落の範囲であるが、第126～130図の時期別遺構分布を見ると、1期では16グリッド列の3軒の住居跡と15グリッド列以北の遺構集中との間には空隙があり、1期以降で16列グリッドに遺構が現れるのは4期の土坑2基のみとなっている。したがって、16グリッド列の3軒の住居跡は既報告の集落Ⅰに、4期の土坑2基は集落Ⅳにそれぞれ属するとみるのが妥当と考えられる。そうすると、環状集落の範囲はほぼ15グリッド列以北の遺構集中範囲となる。その規模は長軸方向で最大200m、短軸方向で最大110mを測る。

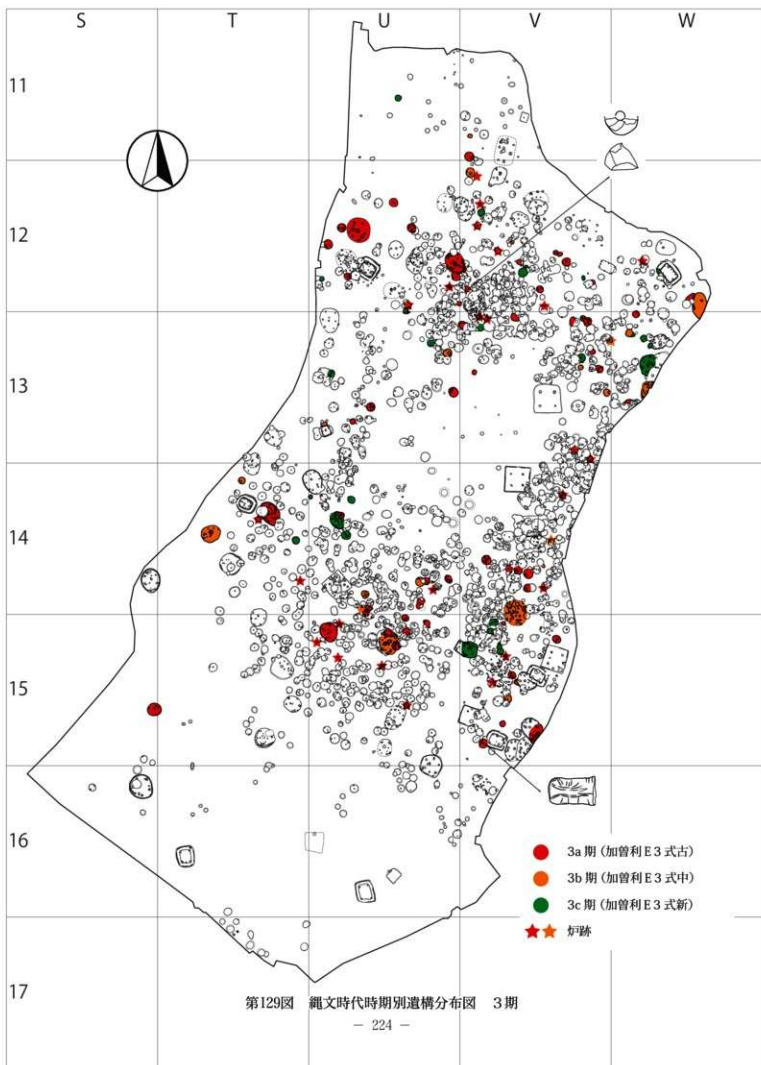
第17表 遺構の時期別集計

時期区分	石器型式	住居跡	炉跡	土坑
前1期		1		1
1a期	阿玉台Ⅲ式～加曾利E1式古	15		62
1b期	加曾利E1式新	2		2
1期				11
1b～2a期			1	
2a期	加曾利E2式古	2		12
2b期	加曾利E2式新	3		6
2b～2c期			1	6
2c期	加曾利E2-3式	6	5	31
2期		2	5	19
2c～3a期		1	3	3
3a期	加曾利E3式古	7	24	56
3a～3b期		1	3	3
3b期	加曾利E3式中	5	3	14
3b～3c期				2
3c期	加曾利E3式新	3		23
3期		1	2	1
3c～4a期				1
4a期	加曾利E3-4式			3
4b期	加曾利E4式古	1		1
4c期	加曾利E4式中		1	1
4d期	加曾利E4式新			1
4期				10
5期	称名寺式			9
6期	堀之内1式	1		30
計		51	48	308

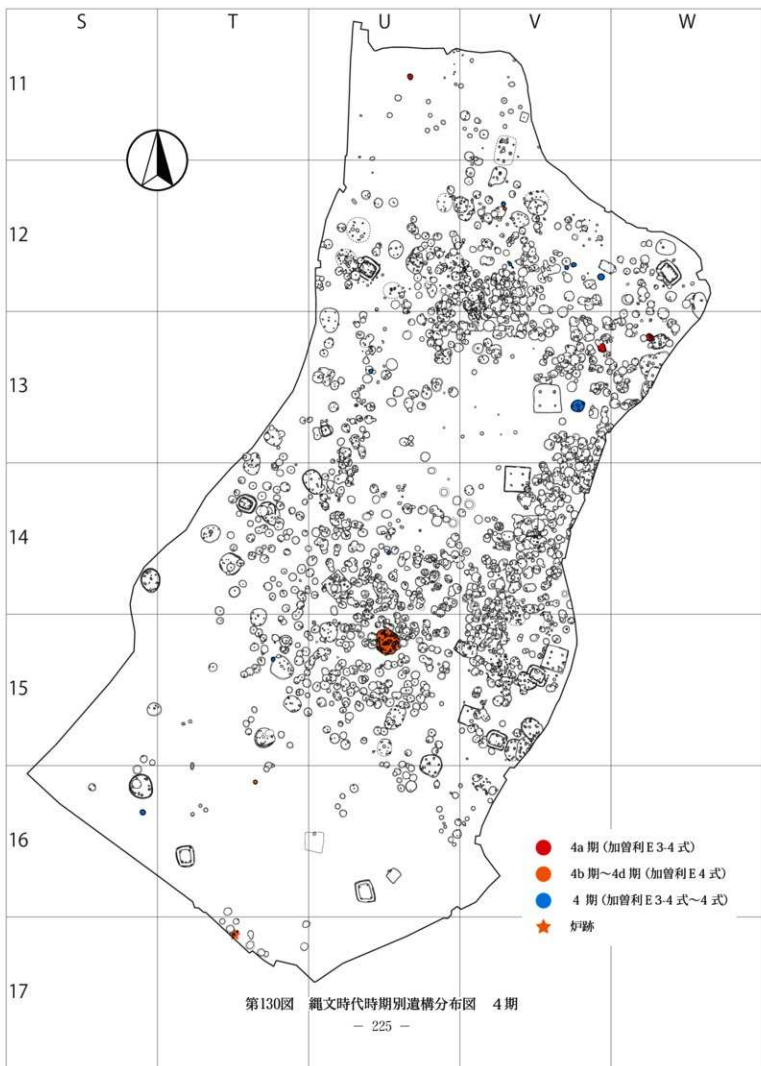


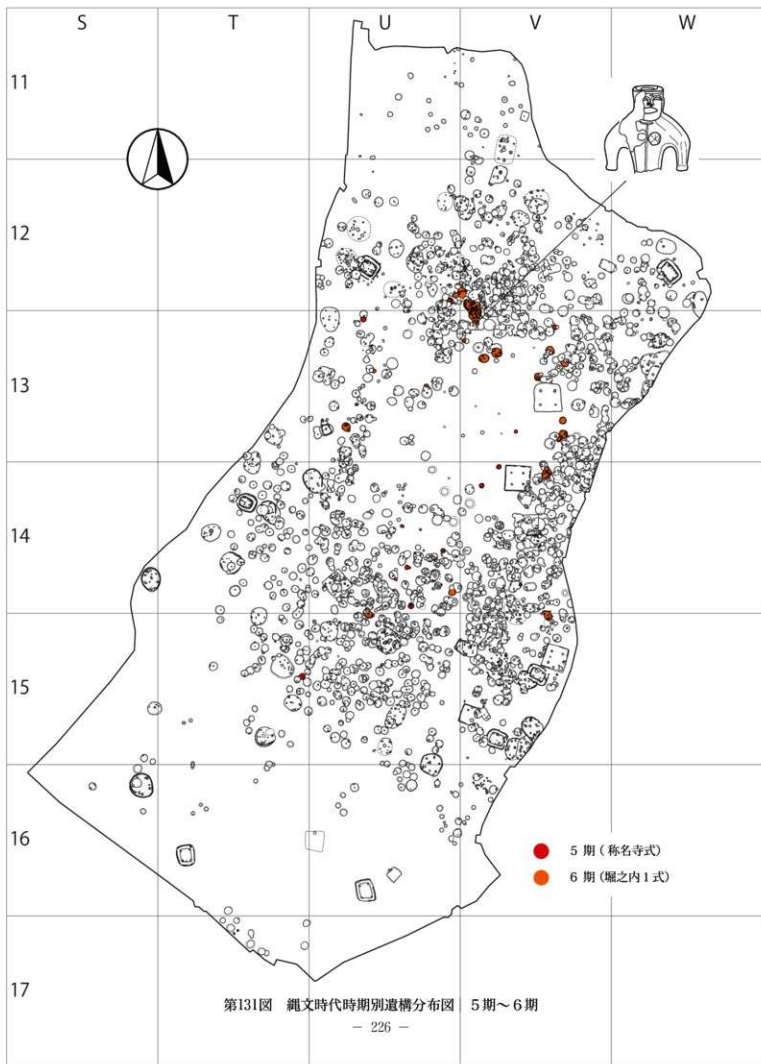
第127図 縄文時代時期別遺構分布図前1期～1期





第129図 縄文時代時期別遺構分布図 3期





第131図 縄文時代時期別遺構分布図 5期～6期

しかし、東側の調査区域では土坑、住居跡とも区域外にまだ続いていることは明らかである。この区域は緑地帯として調査対象から外された区域で、谷への傾斜面までは14Vグリッドで10m程度ある。おそらく、この環状集落は住居跡が150軒～160軒、土坑1600基程度の規模であったと推定されよう。環状集落としては大きい規模といえよう。この環状集落を既報告の集落Ⅰ～Ⅴに続けて飯積原山遺跡の集落Ⅵと呼ぶことにする。

次に地形と環状集落の関係であるが、第5図で見ると遺構検出面の等高線と遺構分布を比較すると、環状集落の中心の遺構希薄部＝広場が、舌状台地の中央を分断する浅い谷部の中心に相当していることが分かる。また、1期の遺構分布を見ると、14W-00付近の浅い谷の開口部付近には1a期の土坑が存在しており、この浅い谷は環状集落の形成当初から存在していたことも分かる。すなわち、この浅い谷は環状集落の居住者が広場を維持するために人為的に窪ませたのではなく、もともとが自然的な地形であったと考えられる。したがって、この環状集落は占地に当たってこうした自然の微地形を意識的に利用したと見ることができよう。

次に時期別の集落の変遷と構造変化に触れておきたい。1期では13V-63付近を中心とする直径40mほどの広場を取り囲むように遺構が分布するが、広場寄りには土坑のみが、周縁側すなわちより標高が高い位置には住居跡と土坑が分布している。時期の判明している1a期の遺構は住居跡15軒、土坑62基を数え、集落形成初期にすでに環状を呈している。1b期は住居跡1軒、土坑7基で明らかに遺構数が減少している。2期になると広場寄りが土坑のみ、周縁側に住居跡と土坑という構造に変化はないが、大きく異なるのは広場が拡大していることである。この時期の広場は14V-00付近と中心とし、長軸約70m、短軸約40mの広がりを持つと考えられる。遺構数は2a・2b期とも1b期と大きな変化はないが、2c期になって急に増加する。

3a期も前代と構造は変わらない。遺構数は2c期よりさらに増加し、ピークを迎える。3b期は本遺跡集落Ⅳ・Ⅴといった周辺に分散型集落が出現する時期である。しかし、本集落Ⅵは遺構数が減少してはいるが、環状形態の維持、集落の規模は変化がないように見える。3c期も3b期と比べ環状形態の維持、遺構数に変化がないようであるが、集落規模は狭くなっているように見える。4期、5期は遺構数がきわめて少なくなり、環状集落はもはや完全に崩壊している。6期になると住居跡1軒、土坑32基と遺構数が復活し、遺構分布も一見環状を呈するように見える。ただ、第61図3のグリッド別の後期土器出土量の分布を見ると、中期のそれとは明らかに異なっている。したがって、後期福之内1式期の集落がたとえ環状であったとしても、中期の環状集落とはその内実は相当違っていたと想像されよう。

なお、広場には特別な施設は見つかっていない。広場内に散見される小型の土坑は後期に属するもので、中期環状集落とは関係がない。なお、第12図に見るとおり小規模な焼土が数か所認められるが、時期、性格とも不明であった。

最後に既報告の飯積原山遺跡のⅠ～Ⅴの集落及びさらにその周辺の遺跡との関係について記しておきたい(第132図)。飯積原山遺跡の集落Ⅵに匹敵する拠点集落は墨古沢遺跡である。全体の集落景観はわからないが、阿玉台1b式期から加曾利E3式新段階まで継続して居住が認められ、加曾利E4式段階がなく、福之内1式期で復活し、その後も継続している。最も長期に営まれた集落である。

飯積原山遺跡集落Ⅰ～Ⅲ、墨木戸遺跡は加曾利E1式期を主体とする短期の集落で、飯積原山遺跡集落Ⅰを除き小規模な集落で、拠点集落の周辺に展開する衛星的な小集落と考えられる。しかし、飯積原山遺

遺跡名\時期	河土台 I~III	中峠・E1	E2	E2-3	E3古1	E3古2	E3中	E3新	E3-4	E4古	E4中	E4新	称名寺	堀之内I
墨古沢														
墨古沢南 I														
墨木戸														
墨新山														
飯積原山 I														
飯積原山 II														
飯積原山 III														
飯積原山 IV														
飯積原山 V														
飯積原山 VI														

第132図 飯積原山遺跡及び周辺集落の消長

跡集落 I は環状を呈さないものの、1 期に限れば範囲、遺構数とも集落 VI と遜色のない規模を持つ。ほぼ同規模の環状をなす集落と環状をなさない集落が隣接して生まれ、環状をなす集落はその後も継続して営まれるのに対して、環状をなさない集落が短命で終わるのは、いかなる理由によるのであろうか。今後の課題としたい。

2 期から 3a 期にかけては、飯積原山の集落 VI と墨古沢遺跡の拠点集落以外に集落はない。小型の集落さえまったくない。この時期は環状集落の最盛期でもあり、拠点集落に人口が集中するのかもしれない。3b 期になると分散型集落が出現する。本遺跡周辺は墨古沢南 I 遺跡、墨木戸遺跡、墨新山遺跡といった千粟集域でも特に当該期の分散型集落が数多く報告されているが、飯積原山集落 IV・V を含め、いずれもこの段階からほぼ一斉に出現しているのである<sup>1)</sup>。一方、墨古沢、飯積原山集落 VI の拠点集落では、規模はやや小さくなるものの継続して営まれている。こうした、拠点集落と分散型集落とどのような関係にあったのか、これも大きな課題である。

4 期になると環状集落を含む拠点集落は完全に崩壊し、分散型集落の一つにすぎなくなる。さらにこの時期で廃絶する集落と継続する集落があり、廃絶する集落では廃絶期に差が見られる。墨古沢、墨木戸はほぼ 3c 期までで廃絶し、墨新山、飯積原山集落 IV は 4a 期までで終わっている。一方、墨古沢南 I、飯積原山集落 V は 5 期称名寺式期まで確実に居住が認められ、そこで廃絶している。また、飯積原山集落 VI は 3 期以降、4 期・5 期を通じてかろうじて継続している。こうした遺跡ごとの廃絶時期の違いも問題である。

6 期では墨古沢、飯積原山集落 VI が復活する。どちらもかつて拠点集落であった遺跡である。このような回帰行動は果たして偶然なのであろうか。興味深い点である。

以上、飯積原山遺跡の調査成果は、縄文時代中期の環状集落及び分散型集落の動態を示す好資料を提供しただけでなく、両者の関係をより細かなタイムスケールで検討することが可能な好材料を提供したといえよう。

注 1 墨木戸遺跡はやや早く加曾利 E3 式古 2 段階から始まっている。飯積原山集落 IV でもその兆候が認められる。周辺遺跡の報告文献は、既報告の「酒々井町飯積原山遺跡 2」を参照したい。



### 第3節 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、8世紀第4四半期から9世紀第3四半期にかけての竪穴住居跡77軒、掘立柱建物跡46棟、土坑20基、溝状遺構15条が高崎川に近い台地北側に分布する。前回の報告のまとめで述べたように半町（6段）を基本とした条里区画に、庄所、村落寺院、在地首長・有力者層の居宅、竪穴住居跡群が計画的に配置された初期（古代）荘園に比定される集落である<sup>1)</sup>。

庄所と捉えた（10）区東側の第1建物群については、9世紀前葉から9世紀第3四半期の3時期の変遷が示されている<sup>2)</sup>。（78）区から検出された掘立柱建物跡8棟のうち、6棟は（10）区において一部調査されていたものであるが、新たに2棟加わったことに伴い、建物の時期区分、用途、内部構造などについて再検討を行った。時期の名称については、前回の報告で行った時期区分<sup>3)</sup>を踏襲し、1期を2期（9世紀第1四半期）、2期を3期（9世紀第2四半期）、3期を4期（9世紀第3四半期）にそれぞれ読み替え、以下記述する。

注1（公財）千葉県教育振興財団 2015『酒々井町飯積上山遺跡2・飯積原山遺跡3・柳沢牧木戸境野馬土手一酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書4-』, pp. 238-248

2（公財）千葉県教育振興財団 2014『酒々井町飯積原山遺跡1一酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書2-』, pp. 401-406

3（公財）千葉県教育振興財団 2015、前掲書, pp. 232-238

#### 1 第1建物群について（第8・133図、第18表）

##### 概要

第1建物群は、台地の北東側縁辺に位置し、高崎川の谷津に接する。付近の標高は38.1m～38.3mで、調査区の東側に平坦面が約5m続いている。低地部の幅は20m～25m、標高は23.2m～24.7mである。台地部と低地部の間は約35°のゆるやかな斜面となっている。低地部の現況は荒地であるが、南西側の谷奥は湧水し、近世柳沢牧の水呑場と思われる小さな池が形成されていた。

遺構は、掘立柱建物跡29棟、竪穴住居跡3軒が東西80m、南北43mの長方形に概ね柱筋を揃えて配置される。庄所域はさらに広く、北側・西側の区画溝、東側・南側は平坦部までの約半町（東西109m×南北54m）である。

個々の建物について、最初に既報告からの補訂を述べておく。桁行4間×梁行3間（以下この順序で記述）の側柱建物と推定した（10）・（78）SB508、（10）・（78）SB509は、3間×2間の東西棟と判明した。（10）SB420は、掘り方の土層断面の検討により、西側の内部の柱は東柱ではなく、3間×2間の南北棟と4間×3間の東西棟が重複したものと判断した。前者を（10）SB420A、（10）SB420Bと呼称することとする。3間×2間の総柱建物とした（10）SB515は、西側柱列の掘り方が中間・東側柱列の掘り方より小規模で浅いことから西側は身舎と一体となった廂が付された建物の可能性が高く、高床式倉庫ではないと思われる。この建物の用途については後述する。（10）・（78）SB503は、建て替えが示唆されたが、重複しているとみられた柱穴の掘り方は、柱の抜き取り穴と判断し、単独の建物とした。

上記を踏まえた掘立柱建物跡の平面形態と規模を第18表に示した。2間×2間は2棟、3間×2間は11棟、3間×3間は3棟、4間×2間は3棟、4間×3間は9棟、5間×2間2棟である。（10）SB515が総

第18表 第1建物群の規模

遺構番号	構造	桁行数	梁行数	柱振り方径 (m)	柱振り方深さ (m)	面積 (㎡)	方位型	時期・備考
(10)SB413	側柱建物	2	2	0.80~1.20	24.3~43.2	13.2	C後	4期
(10)SB517	側柱建物	2	2	0.87~1.34	29.8~56.1	16.1	B	2期
(10)SB411	側柱建物	3	2	0.56~1.01	6.2~25.3	18.3	C後	4期
(10)SB418	側柱建物	3	2	0.95~1.40	21.7~44.4	18.1	C前	3期
(10)SB420A	側柱建物	3	2	0.70~1.30	8.6~40.0	19.3	C前	3期
(10)・(78)SB508	側柱建物	3	2	0.54~1.14	24.0~56.0	19.2	B	2期
(10)・(78)SB509	側柱建物	3	2	0.50~0.84	18.0~38.0	18.7	C前	3期
(10)SB518	側柱建物	3	2	0.76~1.12	9.0~36.7	21.9	C前	4期頭屋?
(10)SB432	側柱建物	3	2	0.90~1.26	29.3~51.3	23.5	A	2期頭屋?
(10)SB434	側柱建物	3	2	0.93~1.06	26.2~53.4	28.2	A	2期頭屋?
(10)SB437	側柱建物	3	2	0.95~1.30	35.6~48.5	26.2	C後	4期頭屋?
(10)SB513	側柱建物	3	2	0.84~1.13	31.6~59.3	28.7	B	2期脇屋
(78)SB201	側柱建物	3	2	0.74~1.16	38.0~43.0	23.6	A	2期頭屋?、 南側2棟以上 重複?
(10)SB420B	側柱建物	3	3	0.70~1.30	8.6~55.7	27.1	C後	4期
(10)SB436	側柱建物	3	3	0.86~1.30	24.8~40.4	29.3	C前	3期頭屋?
(10)SB515	総柱建物	3	3	0.56~1.17	17.0~56.6	31.1	C前	4期既舎、西 側柱列は廂、 西側に柵付設
(10)・(78)SB504	側柱建物	4	3	0.64~1.06	10.0~64.0	30.8	C前	3期既舎?、 土坑(尿溜 め)、柵付設
(78)SB200	側柱建物	4	3	0.70~0.90	20.0~30.0	(31.0)	B	2期頭屋?
(10)・(78)SB419	側柱建物	4	3	0.90~1.18	20.0~56.0	31.1	C後	4期頭屋?
(10)SB421	側柱建物	4	3	0.82~0.98	19.8~40.4	32.7	C後	3期頭屋?
(10)SB422	側柱建物	4	3	0.86~1.22	20.3~48.5	30.9	C前	4期頭屋?
(10)SB440	側柱建物	4	3	0.72~1.52	22.8~69.8	31.9	C前	3期
(10)SB441	床束建物	4	3	0.98~1.45	33.8~51.6	36.3	C後	4期主屋
(10)SB445	側柱建物	4	3	1.00~1.75	32.4~62.5	34.2	C後	4期脇屋
(10)SB446	側柱建物	4	3	0.87~1.40	23.5~54.6	34.1	C前	3期脇屋
(10)・(78)SB449	側柱建物	5	2	0.68~1.50	17.3~55.2	35.2	C前	2期脇屋
(10)・(78)SB503	側柱建物	5	2	0.84~1.82	32.0~73.8	34.7	A	3期脇屋
(10)SB514	側柱建物	4	2	0.75~1.47	20.5~44.5	43.2	B	3期主屋
(10)SB516	側柱建物	4	2	0.85~1.32	34.5~45.5	39.6	B	2期主屋
(10)SI358	竪穴住居					45.2	A	2期竪屋
(10)SI412	竪穴住居					43.6	C前	3期竪屋
(10)SI448	竪穴住居					21.1	C後	4期竪屋

柱建物、(10) SB441が4間×3間の床東建物である他は欄柱建物である。

掘立柱建物跡の面積は、2間×2間は20㎡未満の2棟である。3間×2間は30㎡未満で、20㎡未満5棟、20㎡以上は6棟である。3間×3間は30㎡前後が3棟、4間×2間は40㎡前後が2棟である。4間×3間はいずれも30㎡以上で、33㎡未満6棟、34㎡以上が3棟である。5間×2間は35㎡前後の2棟である。形態と規模の相関関係は比較的明瞭である。

最も規模が大きい建物は4間×2間の2棟であり、次いで4間×3間の床東建物の(10) SB441である。5間×2間の建物はそれに次ぐ。柱間数が必ずしも規模の大・小に連関していないことが注意される。同様な傾向は佐倉市高岡大山遺跡などでもみられる<sup>1)</sup>。

棟数が多い形態・規模の建物は、3間×2間の平均18.7㎡の5棟、同平均25.4㎡の6棟、4間×3間の平均31.4㎡の6棟である。

竪穴住居跡は3軒検出されており、前回の報告で電屋的な機能をもつものと考えた。2～4期に1軒ずつ配置される。いずれも集落内における各期の最大規模の竪穴住居跡である。

#### 掘立柱建物跡・竪穴住居跡の時期区分について(第133図)

第1建物群の各遺構の帰属時期は、同方向の建物を同時期とみる既報告の時期区分<sup>2)</sup>に従ったが、新たな知見が加わったことなどにより一部変更を加えた。以下概要を記す。

第1建物群の掘立柱建物跡・竪穴住居跡の棟筋のうち、東に振れるものをA型、西に振れるものをB型、正方位のものをC型とした。

A型は、北東端に位置する竪穴住居跡(10) S1358とおおむね同方向の掘立柱建物である。(10) SB432、(10) SB434、(10)・(78) SB503、(78) SB201の4棟が該当する。(10) S1358は2期に比定される。北側及び西側の区画溝もA型と同方向であり、2期以前に掘削されたものとみられる。

B型は、西側を中心として、(10)・(78) SB508、(10) SB513、(10) SB514、(10) SB516、(10) SB517、(78) SB200の6棟が該当する。帰属時期の手がかりは少ないが、(10) SB516から2期以前の所産と考えられる底部に「三」と墨書された非クロコ土器器坪が出土しており、A型と同じ2期に属するものとした。重複する(10) SB514は新しいものと捉え、3期に降るものとした。

C型は、重複が著しいため、前後の2時期に区分した。掘立柱建物跡については、建物の向き、調査時の新旧関係の所見から区分した。竪穴住居跡(10) S1412は3期、(10) S1448は4期に比定されることから、2期(A型・B型)と同様に掘立柱建物群に竪穴住居跡1軒が併設され、C型前期は3期、C型後期は4期とした。C型前期は(10) SB421、(10) SB418、(10) SB420A、(10) SB436、(10) SB446、(10)・(78) SB449、(10)・(78) SB504、(10)・(78) SB509、(10) SB514、C型後期は(10) SB411、(10) SB413、(10)・(78) SB419、(10) SB420B、(10) SB421、(10) SB437、(10) SB441、(10) SB445、(10) SB515である。

既報告からの帰属時期の変更点は、(10) SB420は前述したとおり2棟重複しており、(10) SB420AをC型後期から前期、(10) SB420BをC型後期に、(10) SB421をC型後期から前期、(10) SB422をC型前期から後期に、(10)・(78) SB449は北辺が(10) S1412、(10)・(78) SB504の南辺と同一線上であることからC型後期から前期に区分したことである。

各時期の遺構数は、2期(9世紀第1四半期)は掘立柱建物跡7棟、竪穴住居跡1軒、3期は掘立柱建物跡9棟、竪穴住居跡1軒、4期は掘立柱建物跡10棟、竪穴住居跡1軒で、時期が降るに従って増加し、掘立柱建物跡数は集落全体の竪穴住居跡数の傾向と同一歩調であると言える。

### 掘立柱建物跡の用途について（第133図）

庄所は、荘園経営の中核施設であり、開発の促進と維持管理、生産物の取収・京進などを主な機能とする<sup>3)</sup>。そこには政務を担当する中核的な建物である主屋、付属する脇屋・副屋などと、取獲物を貯蔵・管理する穀倉・額屋、各種農具・生活用具等の雑物を保存する納屋などの施設によって構成される。ここでは、構造・規模・位置関係などから各掘立柱建物跡の用途を推定してみたい。

2・3期の最大規模の掘立柱建物跡は、西側の同一の場所に位置する。2期は(10)SB516、3期は(10)SB514で、いずれも4間×2間であるが、東側は建物が存在せず、前庭が形成されており、東側を正面とする主屋とみられる。同様に4期も中央付近の4間×3間で唯一の床東建物(10)SB441が最大規模で、格式の高い構造であることから主屋と判断される。正面は空閑地が広くとられた南側である。

5間×2間の長舎建物は、2期の(10)・(78)SB503、3期の(10)・(78)SB449は南側の同じ場所に、主屋の南東側にL字状に位置する。桁行5間以上の側柱建物が見出されている遺跡は、印旛沼周辺では本遺跡の他に7遺跡あり、印旛沼南岸域に集中する傾向がみられるが、大集落でもすべてに存在するものではない<sup>4)</sup>。主屋建物に次いで規模が大きく、長舎であることから格式の高い建物と言える。郡庁における脇殿に相当する建物と考えられ、脇屋と称することとする。(10)・(78)SB503からは、「三倉」墨書土器を含む遺物が比較的多く出土し、前庭に接する中央付近に位置することから、祭儀や饗宴の場であった可能性がある。

3期の4間×3間の側柱建物(10)・(78)SB504(第119図)は、北東隅の土坑が位置し、馬小屋・厩舎遺構に付設される尿溜めに類似する。床面は北に向かって下っており、尿溜めに尿を導き、横になった馬が起きやすくなるための傾斜とみられる<sup>5)</sup>。南西側・南側柱列の柱間は2間分あり、馬の出入り口が想定される。西側の堅穴住居跡(10)S1412との間にあるピット列は、遮蔽のための塼ではなく、馬を繋ぐための柵と見做される。

4期の総柱建物(10)SB515は、高床式倉庫ではなく、西側に身舎と一体となった廂が付された建物と考えた。内部は柱によって仕切られ、東西2間×南北1間(奥行約2.6m、幅約2m)の個室を3か所もつ。西側の外周を巡るピット列を含めると、時期は降るが、14世紀から15世紀前半頃の栃木県東田遺跡12掘立柱などの厩舎遺構及び付設される馬繋ぎ柵に類似している<sup>6)</sup>。(10)・(78)SB504のような土坑・溝状の尿溜めは見出されていない。平城宮馬寮において検出された厩舎には尿溜めは見出されておらず、糞尿は長期間留め置かれず短期間のうちに搬出されたと考えられている。馬寮官衙域の厩舎は「優れた馬を見せる」ことも重要な役割があり、常に馬ともども清潔にしておく必要があったためという<sup>7)</sup>。同様に考えると、(10)SB515は集落に近い建物群の西端に位置し、馬繋ぎ柵も西側の集落側にあることから、「格式の高い厩舎に飼養される馬を見せる」ことを意識して建てられたものと考えられる。

稲をはじめとする生産物を収納した建物は、総柱式の高床式倉庫が存在しないことから、側柱式建物であったと考えざるを得ない。土間ないし低床の側柱建物倉庫は「屋」と呼ばれ、正倉院文書の正税帳では「屋」に収納された穀物のほとんどは、穂首で刈り取って稲穂が付いた状態の額稲である。平安前期までの稲の調整の工程は、脱穀の技術的制約・労力の大きさから、乾燥した未脱穀の稲を堅白に入れ杵で搗いて脱穀し、直ちに精白する方法がとられた。集落においては特別な脱穀作業は不要であり、取獲稲は穂首を束ねた額のまま貯蔵されたとみられる。額は種材として公出挙に充てられ、運用される目的もあった。穀化すると早稲・晩稲の弁別が困難になることから額で蓄積されたのである。

額稲は高床式倉庫である「倉」にも納められることがあったが、専ら「倉」に納められた穀は律令国家

の備蓄政策から要請された形状であり、集落社会では無縁のものであったとされる<sup>8)</sup>。

また、前回のまとめで述べたように、本遺跡において堅穴住居跡などから出土する収穫具は、鎌が少なく穂摘具が主体であることから、稲は穂首刈りによって収穫し、乾燥後に結束され、側柱建物の額屋に収納されたものと判断される。

第1建物群中のどの側柱建物が「額屋」に該当するのかが炭化米などの収納物が検出されていないため、判断が難しい。まず荘園図に描かれた平面形態は、「屋」は矩形、「倉」は正方形に区別して描かれていることから<sup>9)</sup>、側柱建物でも桁行・梁行が同柱間数で、正方形に近いものは除外することとする。また倉庫建物は、荘園遺跡・郡衙の調査事例を見ると、同一形態・規模の建物が棟筋を揃えて配列されることが多いことから、先に抽出した棟数が多い3間×2間の平均18.6㎡の3棟、同じく平均25.6㎡の5棟、東西方向に長い3間×3間の(10)SB436、4間×3間の平均31.5㎡の5棟が候補と考えられる。

史料に記された額屋と比較すると、天平9年(737)の「和泉監正税帳」などに記された額を収納したことが判明する屋のうち、5間×3間は83.5㎡、5間×2間の3棟は61.2㎡～70.6㎡、4間×2間は30.9㎡、3間×2間は27.5㎡である。また、天平勝宝7～9年(755～757)・天平宝字元年(757)の「東大寺領越前国桑原庄庄券」には、額屋とみられる内土間の建物は、4間×2間の48.2㎡、3間×2間の23.4㎡の2棟が記載されている<sup>10)</sup>。これらの記載と上記の候補を比較すると、20㎡以下の建物はなく、3間×2間の5棟が形態・規模が最も合致し、規模のみを見れば3間×3間の(10)SB436、4間×3間の5棟も近いと言える。

#### 掘立柱建物跡・堅穴住居跡の配置の変遷について(第133図)

##### 2期

4間×2間の主屋(10)SB516と、その南側に3間×2間の主屋付属の脇屋が南北方向に並び、北東側に2間×2間、南東側に3間×2間の左右対称を意識した正方形に近い形態の建物が、前庭を囲むようにコ字状に配置される。南側には、続いて5間×2間の脇屋(10)・(78)SB503、4間×2間の(78)SB200、主屋と離れた北側には、3間×2間のほぼ同規模の東西棟の(10)SB432・(10)SB434が棟筋を揃えて配置される。形態・規模・位置からみて稲を貯蔵した額屋の可能性が高い。東側には竪穴住居跡(10)S1358、3間×2間の南北棟(78)SB201が配置される。北東側は建物が存在しないが、全体としては東西67m、南北42mのロ字状の建物配置をなす。

主屋と付属する建物群の配置は、郡庁の構造に似ており、西側の奥まった位置に存在することから、(78)庄所の正面入り口は前庭を挟んだ東側と考えられる。さらに東の方向に進むと谷となるが、谷津を流れる小河川を下れば約1.2km高崎川に合流する。

生産物の輸送は庄所の重要な機能の一つであり、東大寺領横江東庄に比定される金沢市上荒谷遺跡など北陸地方の初期庄園では、庄所が港湾施設と一体となるような構造もみられる<sup>11)</sup>。第1建物群の立地、建物群の正面の位置から考えて東側の谷を流れる高崎川の支流は、物資輸送のための水上交通に利用されていたと想定される。

##### 3期

最大規模の4間×2間の(10)SB514が主屋である。正面は東側で、2期の主屋と南側の付属棟とまたぐような位置に桁行方向が西側に振れて建てられる。その他の遺構は全て正方位である。前庭を取り囲むようにロ字状に配置される。南東側の3間×2間の小型の建物(10)・(78)SB509は、2期と同じ場所に



建て替えられる。2期にあった前庭を挟んだ北側の対する2間×2間の建物は存在しない。北東側には5間×2間の脇屋(10)・(78)SB449が位置する。

北側の建物は、2列に配列される南側の前方の列は4間×3間の東西棟(10)SB446、(10)SB440が並列する。後方の列には3間×3間の(10)SB436、間をおいて4間×3間の(10)SB421、3間×2間の南北棟(10)SB420A、(10)SB418が連なる。前方の2棟は前庭を囲んで位置することから、主屋に付属する脇屋で、物資の運搬の便などを考慮すると後方の建物群などに顕屋が配置されていたとみられる。

東側には、前庭に接して電屋(10)S1412、馬小屋・厩舎とみられる4間×3間の(10)・(78)SB504と馬繋ぎ柵が配置される。

全体としては、東西58m、南北38mのロ字状の建物配置で、2期に比べて範囲が狭く密集している。

#### 4期

ほぼすべての遺構が正方位に配列される。主屋は4間×3間の床東建物(10)SB440で、これまでの西側から中央付近に移動する。正面は谷に正対する南側である。主屋の西側は、棟筋を揃えた4間×3間の脇屋(10)SB445が位置し、後方には東から電屋(10)S1448、3間×2間の南北棟(10)SB518、その東側からは3期の建物と同じ場所に建て替えられており、3間×2間の(10)SB437、間を置いて4間×3間の(10)SB422、3間×3間の(10)SB420B、2間×2間の(10)SB418、3間×2間の(10)SB411が北側の軒を揃えて並び、庄所外の北側と区別することを意図したように見受けられる。特定はできないが、この中のいずれかが顕屋に該当すると思われる。

南西側には、2・3期までなかった身舎と一体となった西廂をもつ3間×3間の厩舎(10)SB514及び馬繋ぎ柵、主屋の28m東側には、4間×3間の南北棟(10)・(78)SB419が位置する。

2・3期にあった5間×2間の長舎建物は存在せず、電屋(10)S1448は2・3期より小規模であることは、饗宴などへの参加者の減少と関わる可能性がある。

全体の配置は、2・3期までと大きく異なり、東西78m、南北30mの南面した横長のコ字状に分布する。前庭の南側は台地の縁まで遺構が存在せず、主屋正面は開放的で、より谷側を意識した配置であると言える。

注1 (財)印旛郡市文化財センター 1993『高岡遺跡群』

2 (公財)千葉県教育振興財団 2014『酒々井町飯積原山遺跡1-酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書2-』, pp.401-406

3 藤井一二 1986『初期荘園史の研究』塙書房, pp.358-359

4 (公財)印旛郡市文化財センター 2014『尾上木見津遺跡(第2・3地点) 駒詰遺跡(第2~7・9地点)』, pp.412-416

5 篠崎誠治 2010『馬小屋の考古学』高志書院

6 篠崎、前掲書, pp.161-165

7 篠崎、前掲書, pp.119

8 松村恵司 1983「古代稲倉をめぐる諸問題」『奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 文化財論叢』同朋社, pp.566-568

9 松村、前掲論文, p.557

10 松村、前掲論文, pp.560-561

11 井上高明 2014「多彩な地方官衙と庄家・居宅」『古代官衙』ニューサイエンス社, pp.322-324

## 2 その他の遺構について

堅穴住居跡は舌状台地部において(78)SI047(第124図)が検出された。遺物が出土しなかったため時期は不明であるが、南西側に分布する2・3期の堅穴住居跡(10)SI396、(10)SI456などと同グループを形成するものと思われる。

(78)SK1469(第124図)は、第1建物群の南西側、台地縁辺から検出されたもので、部分的な調査で、検出部分からは楕円形の土坑が想定されるが、ピットを有すること、ほかに類似の遺構が検出されていないことから堅穴住居跡の可能性がある。体部外面に「三倉」の墨書が施される坏などが出土した。3期に属する。

そのほかは、第1建物群の北側に東西方向に走る2条の区画溝(10)・(78)SD512、(10)・(78)SD554の東側の連続部分が検出された(第126図)。いずれも調査区外の東側に続いている。

## 3 おわりに

飯積原山遺跡は平成12年度に整然と並ぶ掘立柱建物跡群が調査されて以来、官衙的な機能を有する集落と考えられてきた。その後15年を経て全体の調査・整理作業が完了し、遺構・遺物の検討を行った結果、集落全体が初期荘園の性格を有することが明確となった。

今回の報告では、荘園の経営拠点である庄所(第1建物群)の構造と変遷について再検討した。郡衙的な建物配置・構成が採られていることを改めて認識することができたが、それは初期荘園が律令制、とくに郡司層を中心とした地方行政組織に依存して経営されていたことを表象するものである。

ここで改めて集落全体の様相を整理し、周辺遺跡との関係について考えてみたい。

### 集落の概要について(第134図)

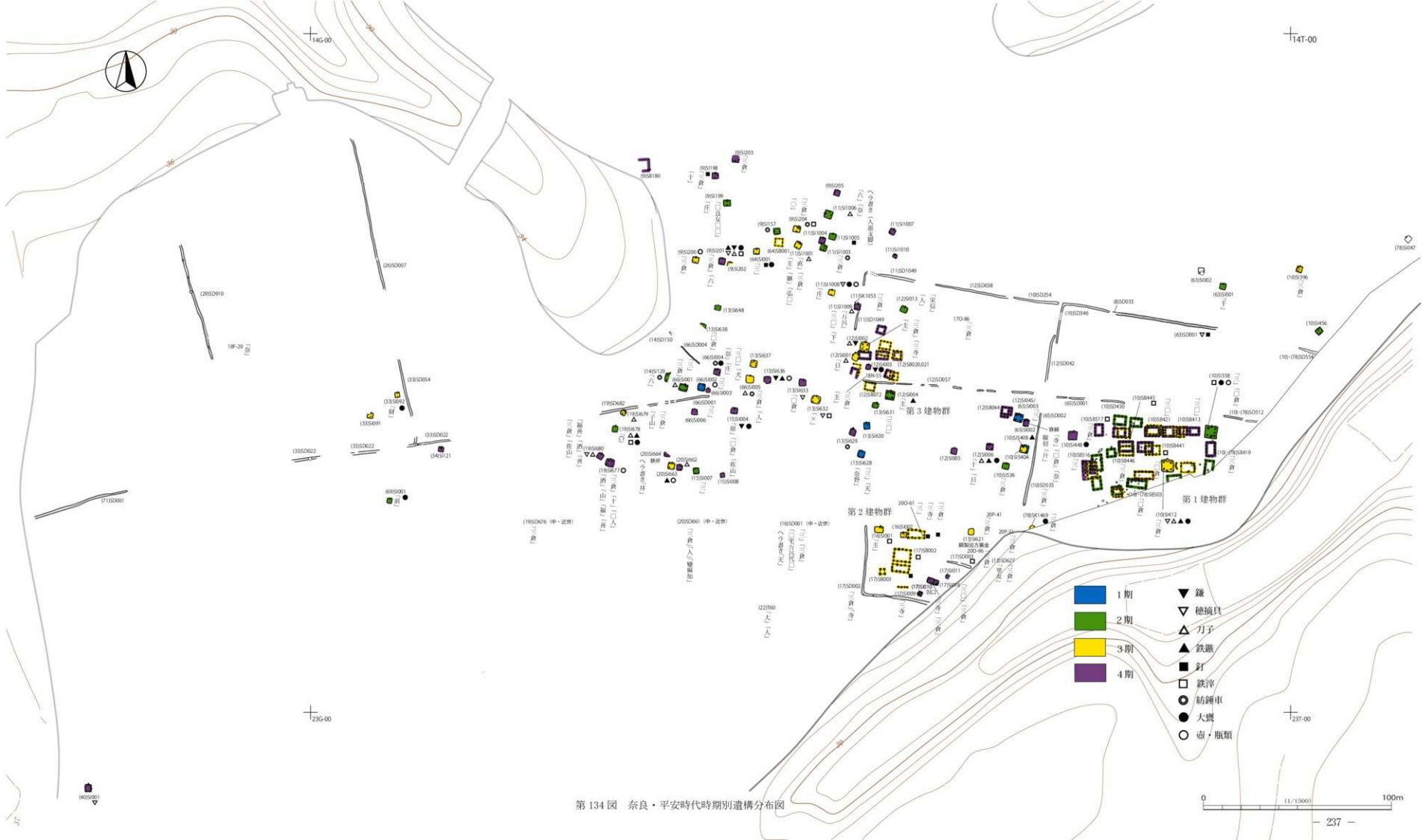
8世紀第4前半期(1期)に高崎川に近い台地北側に、条里地割に基づき半町の区画を基本とした園宅地が開拓・整備され、それに関わったとみられる堅穴住居跡5軒からなる小規模な集落が形成される。以後、堅穴住居跡は1～3軒で1グループをなし、1区画に1～2グループが分布する。堅穴住居跡は区画の縁付近に位置することが多く、耕地主体の土地利用が想定される。

9世紀第1前半期(2期)以降、荘園を示す「庄」の墨書土器が出土し、遺構も荘園遺跡の様相を帯びる。北東から入る谷津に近い区画内に主屋を中心に、左右に脇屋などの付属棟、顕屋、厩舎などの7～10棟の掘立柱建物跡と電屋とみられる堅穴住居跡1軒を口、コ字状に配し、前庭部が構成される郡庁跡の建物配置に似た庄所が創設され、9世紀第3前半期まで同じ場所で建て替えが繰り返される。区画の内外から庄所・庄家を示す「三宅」と同意と考えられる「三倉」の墨書土器が出土する。掘立柱建物跡は9世紀第2後半期(3期)までは東側を正面、9世紀第3後半期(4期)は南側に建物が配置される。いずれも谷側に面しており、主に高崎川支流を利用した水運により収穫物の輸送を行ったとみられる。

庄所の創設を契機に、庄所と墾田が営まれたと思われる高崎川本流の低地に続く谷津の東側を中心に荘園村落が形成される。9世紀第1～第3後半期は、堅穴住居跡が18～30軒に増加し、広場を取り囲むように分布する。開墾や耕作のための農民が移動・入植してきたことによるものと思われる。

東端には掘立柱建物跡・堅穴住居跡からなる第3建物群が営まれる。主政・主帳を示す「主」「直」の墨書土器の出土から、下位の郡司層とみられる在地首長・有力者の居宅で、開墾した田畠を周辺の堅穴住居に住む農民を統制しながら、直接経営していたものと推測される。9世紀第2後半期には、堅穴住居跡の





分布明確な馬蹄形を形成し、労働力の結果と集団の紐帯の強さを表す。居宅は掘立柱建物跡が主体となる。

南側の区画（第2建物群）からは、「三寺」「寺」の墨書土器が出土し、村落寺院、鍛冶工房などが営まれる。9世紀第3四半期になると堅穴住居跡は増加し、最盛期を迎えたように見えるが、集落の中心部は馬蹄形の分布が崩れ分散し、庄所・荘園村落ともこの時期で断絶する。

遺物は、銅製の帯金具が1点出土しているほかは、威信財と呼べるようなものは少なく、下位の郡司層が直接管理・経営に当たっていたことを物語る。(13) SI006から出土した人面の刻書が施された土製支脚は希少である。

土器類は、猿投窯産の長頸壺、大甕が出土するほかは、在地産、茨城県南部産が主体である。墨書・線刻が施された土器は約260点出土した。そのうち「三」「三倉」「三寺」は約100点を占める。

鉄製品は、刀子・鉄鎌・釘が集落全域から出土する。9世紀第2・3四半期には、鎌・穂摘具が馬蹄形に分布する堅穴住居跡群を中心に出土し、稲作を担った集団と判断される。鎌は居宅及びその周辺の堅穴住居跡に集中していることから、在地首長・有力者及びその一族に保有が限定されていたものと捉えられる。穂摘具も6軒～10軒あたり1点と出土が限られており、共同で農作業を行う集団の統率者が保有していたと推測される。いずれも9世紀第3四半期に出土数が増加し、経営単位及び集団が分割された状況が窺える。馬蹄形の分布が崩れるのは、労働力の分割とその変遷をたどることができると希少な遺跡である。

飯積原山遺跡は、上記のように初期荘園の全体像とその変遷をたどることができると希少な遺跡である。中でも従来不明瞭であった耕作を担った農民の集落が、在地首長、有力者の居宅を中心に庄所に近接して営まれ、荘園に付属することが明確な事例が見つかったことは特筆すべき成果と考えられる。今後さらに詳細な分析が行われ、初期荘園の実態解明に寄与することを期待したい。

#### 周辺遺跡との関係について（第4図）

近隣の同時期の遺跡は、南側の南部川北岸に墨木戸遺跡（32）、墨新山遺跡（33）、高崎川を挟んだ北岸に尾上木見津・駒詰遺跡（11）などが所在する。とくに尾上木見津・駒詰遺跡は、飯積原山遺跡にやや先行して営まれ、終末は同時期である。廂をもつ5間×3間ほか18棟からなる掘立柱建物跡群、堅穴住居跡38軒、台地の南端付近に位置する古墳の墳丘を利用した祭祀跡、奈良三彩の陶枕、同二彩椀、多数の緑釉陶器、「奈野」「奈」をはじめとする約330点の墨書・刻書土器、帯金具、鋤先、鎌、神功開寶など、通常の集落遺跡ではみられないような特殊な遺構・遺物が多く検出されており、飯積原山遺跡とは際立った差が認められる。報告者は、仏教儀礼や神祇祭祀を行える立場にあった地域の最有力者の集落と考えている<sup>1)</sup>。

注目されるのは祭祀跡と高級陶器である。祭祀跡は、古墳の周溝内から複数の焼土跡が検出され、大量の土師器の坏などの土器、鎌、鋤先、銅製の帯金具、鉄滓、砥石などが出土した。8世紀末から9世紀中葉の所産で、集落の存続期間に繰り返し祭祀が執行されたとみられる。墨書土器は「奈野」のほかに、この祭祀跡からのみ「奈野 神奉」と2か所記された坏が出土した。神酒をはじめとする神饌が供えられ、火を焚く神事が執り行われたと推測される。京都地方において、神社をはじめ宮中・民家で往時は盛んに行われていた新嘗祭が起源とされる「御火焼」「御火焚」を想起させる<sup>2)</sup>。類例は少ないが、千葉県内では市原市稲荷台遺跡において、同様な墳丘を利用した火焚きを伴う祭祀跡が検出されている。祭祀の性格についてはいくつかの見解が出されているが、国衙・王臣家を主体に行われたものと考えられている<sup>3)</sup>。

陶器類は、二彩椀は三彩の小壺や托などの小型品に比べて出土例が少なく、椀は平城京城の大寺院、地

方の古代寺院から仏具としての出土が主体で、ほぼ完形に復元された出土品は初例である。ほかに完品は正倉院御物にしか認められない<sup>4)</sup>。三彩の陶枕の出土は、千葉県内で2例目である。緑釉陶器は9世紀前半代の京都産が23点出土しているが、こちらも東国では例の少ない出土量である。いずれも都城において直接入手されたと思われる。

火焚きを伴う祭祀、高級陶器の所有はいずれも、地方の有力者、豪族が独自になしえたものではなく、貴族層の存在を示唆するものと思われる。同時期の王臣家領荘園として著名な上総國藻原荘・田代荘の所有主藤原春繼のように、国司任期終了後も京へ戻らず地方に留住し、荘園経営に当たった貴族が少なからずいる<sup>5)</sup>。尾上木見津・駒詰遺跡は、そのような土着化した貴族の居宅であったと想像するのである。

「奈野」「奈」の墨書土器は、飯積原山遺跡において2期(9世紀第1四半期)を除いた各期から少数ながら出土する。ほかでは、尾上木見津・駒詰遺跡に近接する新橋高松遺跡<sup>6)</sup>(10)、寺沢遺跡<sup>7)</sup>(9)、約3.5km北西側の高崎川北岸の台地上に位置する本佐倉上宿遺跡<sup>8)</sup>(20)から出土している。「奈」「奈野」は高崎川一帯における繋がりのある集団を表象する文字と捉えられる。先に想像したことが正しければ、近接した位置関係、遺構・出土遺物の格差などからみて、飯積原山遺跡の初期荘園の開拓を主導し、所有したの尾上木見津・駒詰遺跡に居住する貴族と考えるのが自然であろう。因みに、飯積原山遺跡の奈良・平安時代の集落が検出された周辺の小字名は「宮田台」、東側の低地は「宮田」である。いずれも王臣家を想起させるような地名であり、興味深い。

本佐倉外宿遺跡は、飯積原山遺跡と存続期間が同時期に形成された堅穴住居跡が主体の集落であるが、同一台地上の100m東側に位置する北押出し遺跡<sup>9)</sup>(21)は、台地の縁辺に5間×3間、4間×3間、3間×3間、3間×2間などの掘立柱建物跡が19棟以上、大型の堅穴住居跡とともに柱筋を揃えて東西約70m、南北約42mに口字状に配置されており、飯積原山遺跡において庄所と捉えた第1建物群に類似している。本佐倉上宿遺跡は部分的な調査であるが、短期間に営まれたことや堅穴住居跡の配置状況などから「計画村落」と考えられており、飯積原山遺跡における荘園村落部分に対応するとみられる。

以上から、本佐倉上宿遺跡・北押出し遺跡を含む一帯は初期荘園である可能性が高く、「奈」「奈野」墨書土器の出土地は、尾上木見津・駒詰遺跡に居住する貴族が所有する荘園を示すという解釈が成り立つであろう。

注1 (公財) 印旛都市文化財センター 2014『尾上木見津遺跡(第2・3地点) 駒詰遺跡(第2～7・9地点)』

2 平凡社編 1937『神道大辭典』, p.284

3 市原市文化財センター 2003『市原市稲荷台遺跡』

西野雅人 2010『市原市稲荷台遺跡の円丘祭祀(1) - 北斗降臨地から宗教施設へ -』『房総の考古学』史館同人

4 阿部寿彦 2010『尾上木見津遺跡(第2地点)・駒詰遺跡(第2地点) - 「奈野」って何なの? -』第14回遺跡発表会発表要旨(財) 印旛都市文化財センター

5 荘園史研究会 2013『荘園史研究ハンドブック』東京堂出版, pp.17-18

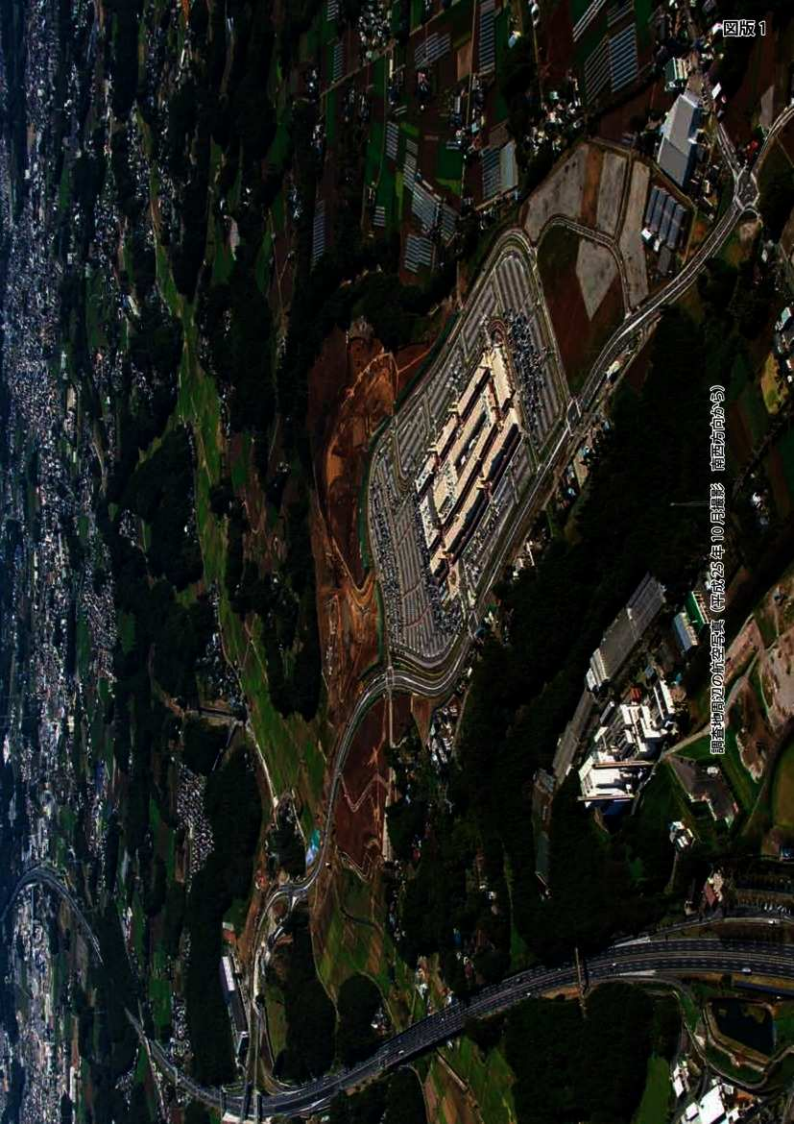
6 (財) 印旛都市文化財センター 1997『新橋高松遺跡』

7 日本文化財研究所 1977『寺沢遺跡』

8 (財) 印旛都市文化財センター 1996『本佐倉外宿遺跡』

9 酒々井町北押出し遺跡調査会 1978『北押出し遺跡』

# 写 真 图 版



皇太子明仁の航空写真（平成25年10月撮影 南西方向から）



(78) 区遠景 (調査前) (14U-00 付近から北東方向)



(78) 区遠景 (14T-37 付近から北方向)



(78) 遺構調査状況  
12V-92 付近 (東から)

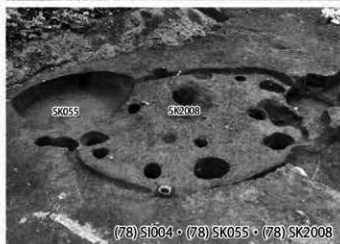
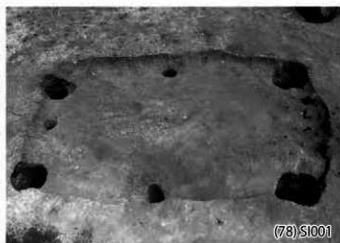
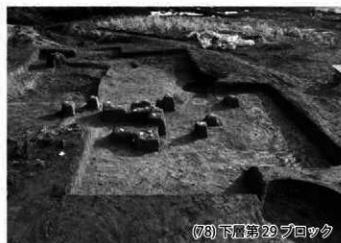


(78) 遺構調査状況  
13V-00 付近 (南から)



(78) 遺構調査状況  
14U-11・12 付近 (南から)

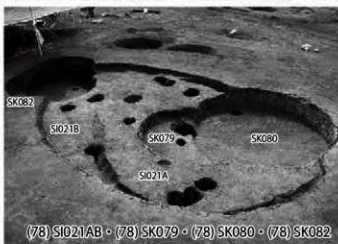
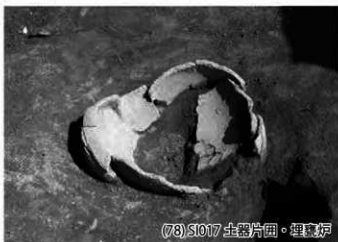


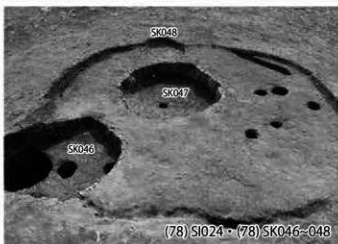
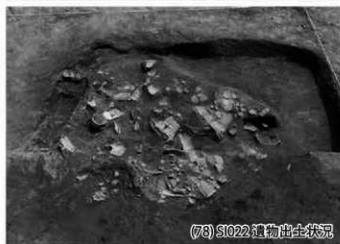
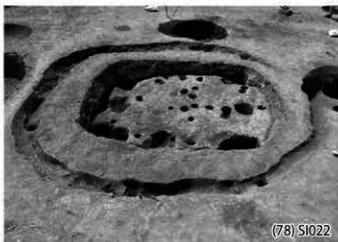


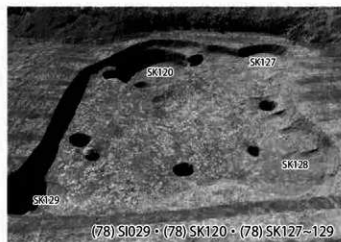
下層第29ブロック、縄文時代住居跡(1)







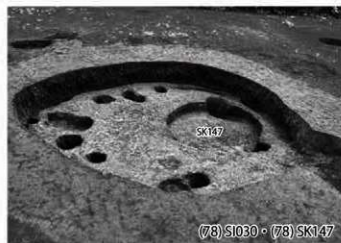




(78) S1029・(78) SK120・(78) SK127-129



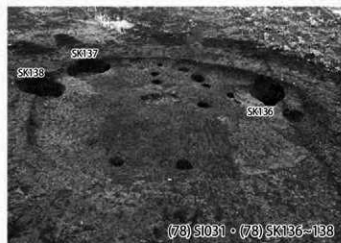
(78) S1029 遺物出土状況



(78) S1030・(78) SK147



(78) S1030 遺物出土状況



(78) S1031・(78) SK136-138



(78) S1032・(78) SK045・(78) SK061・(78) SK075



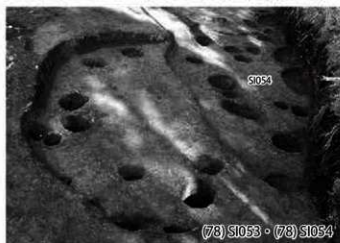
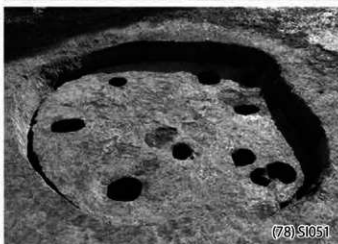
(78) S1034

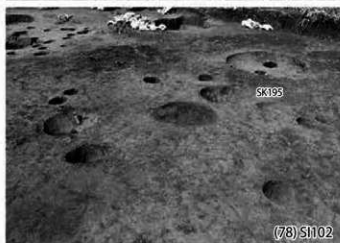
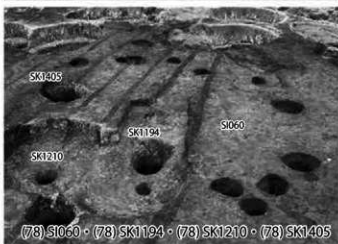
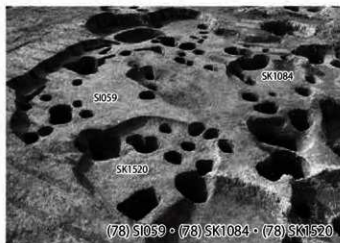


(78) S1035AB・(78) SK13

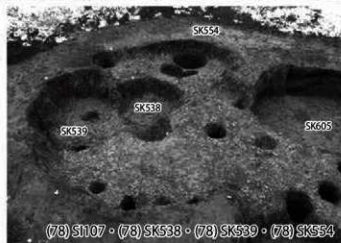
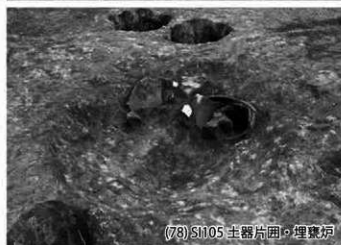
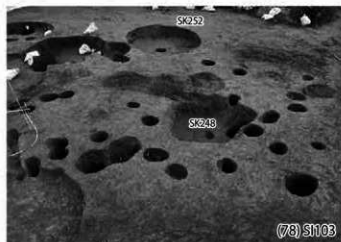




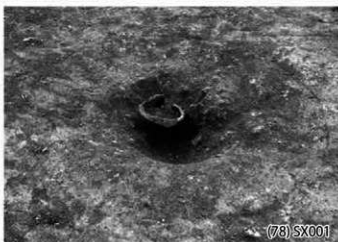




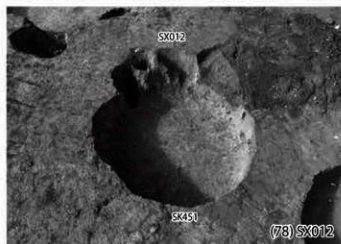
縄文時代住居跡 (8)

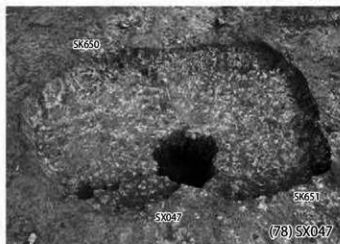
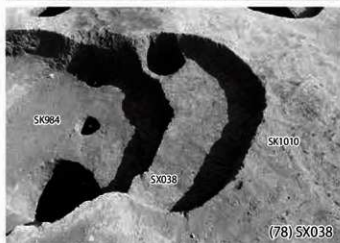




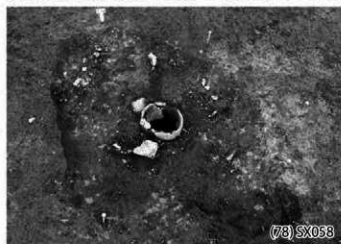
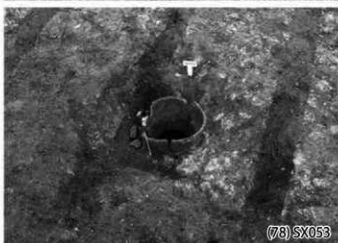
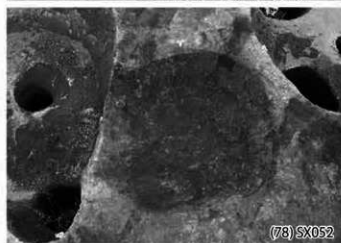
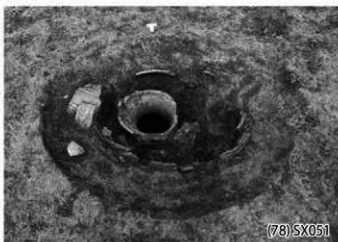


縄文時代住居跡 (10)・炉跡 (1)

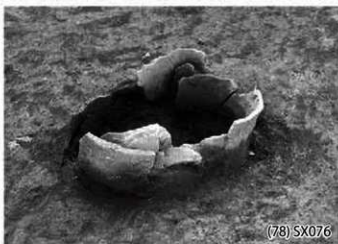
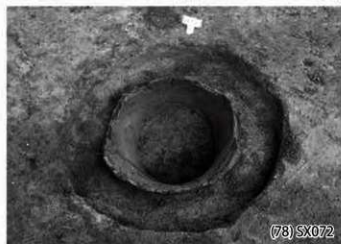




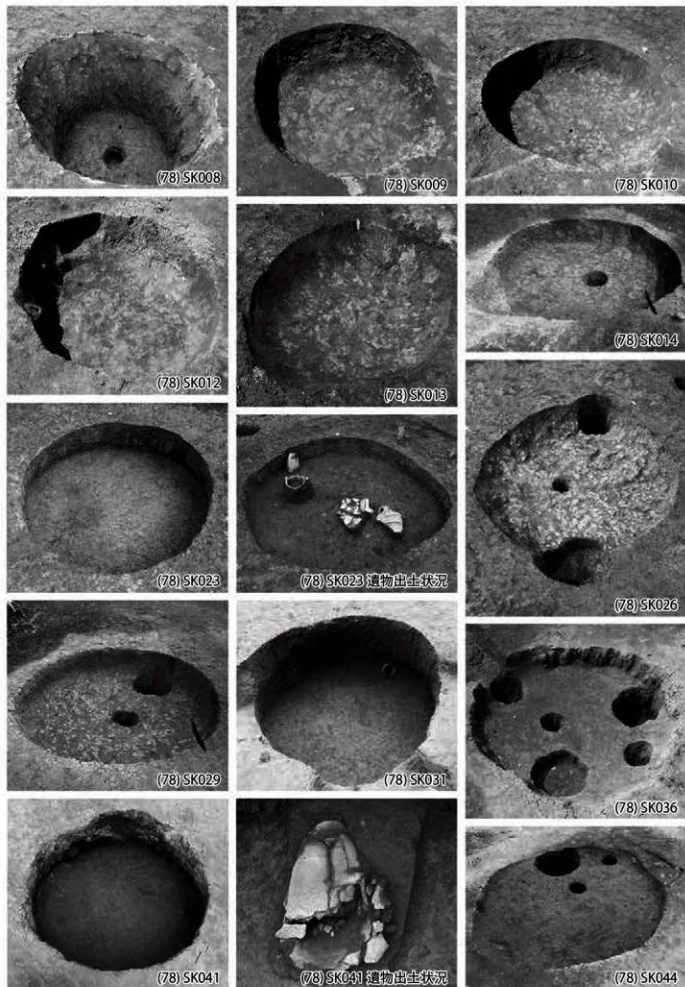
縄文時代炉跡 (3)



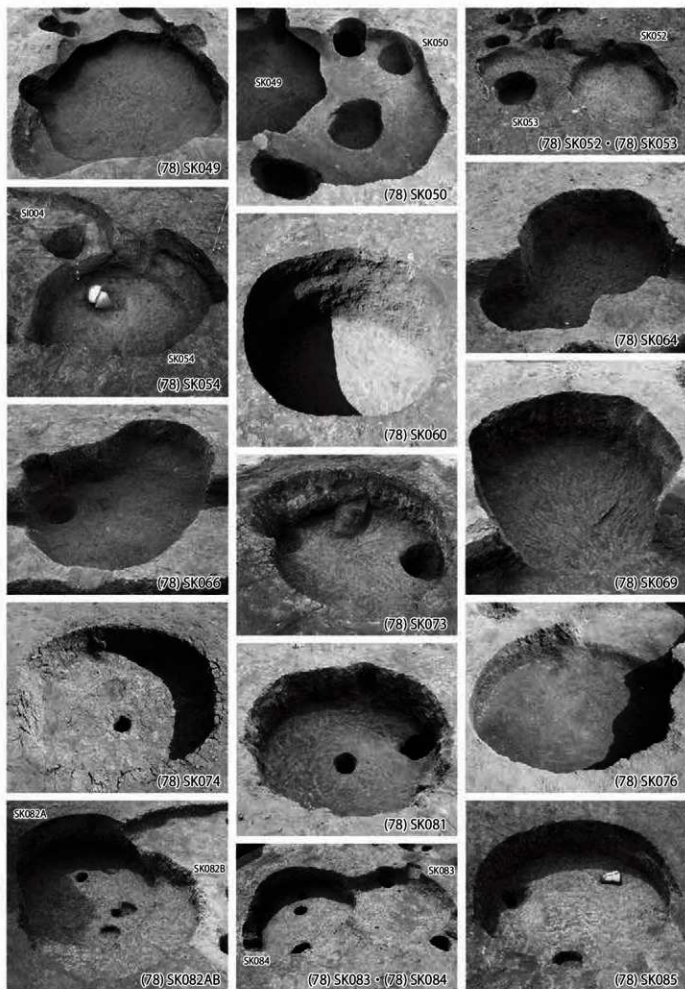




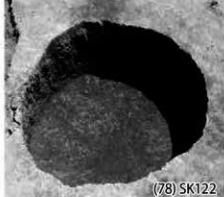
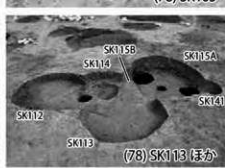
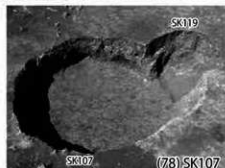
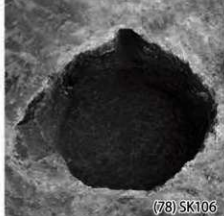
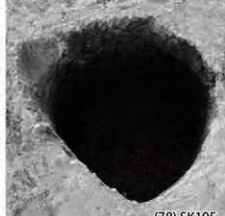
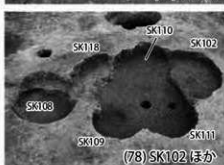
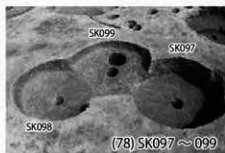
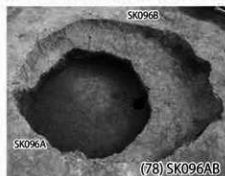
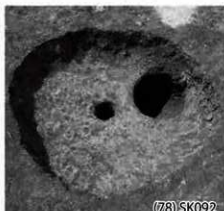
縄文時代炉跡 (5)



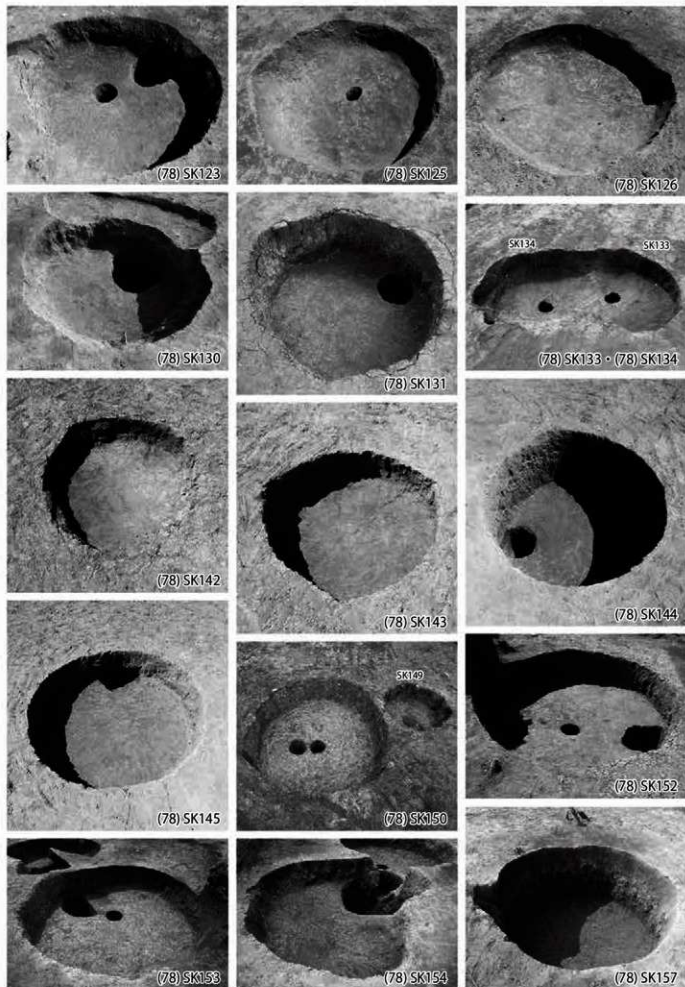
縄文時代土坑等 (1)



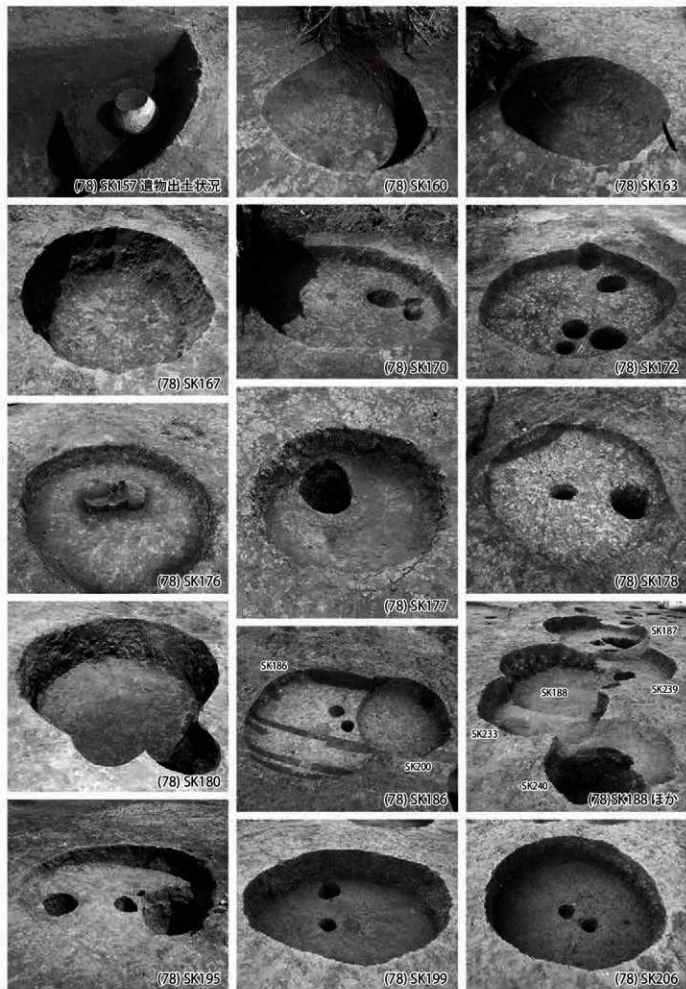
縄文時代土坑等 (2)



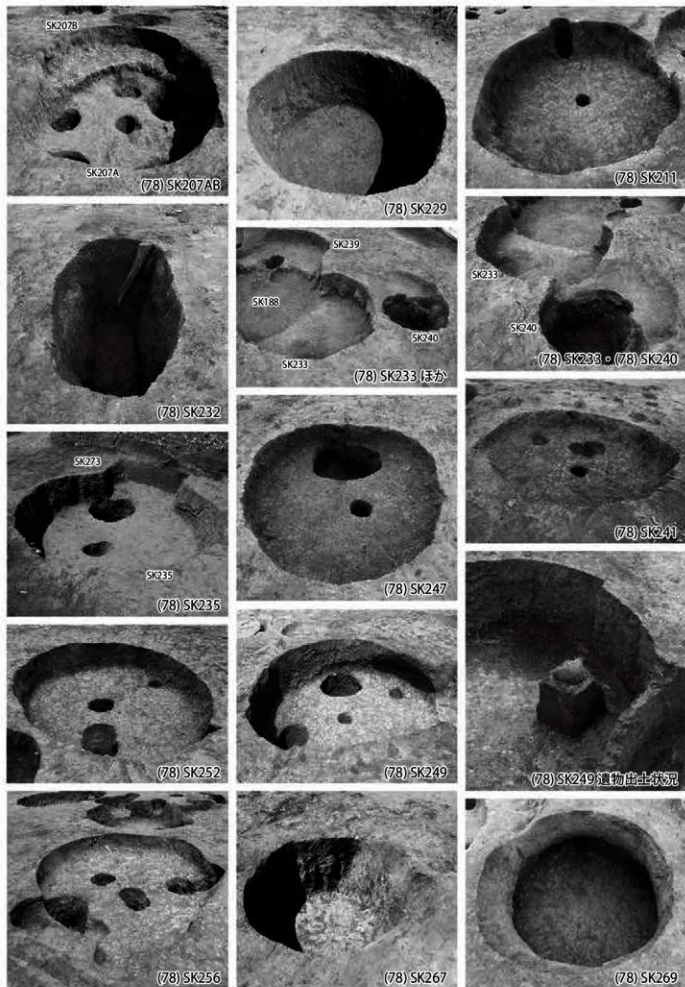




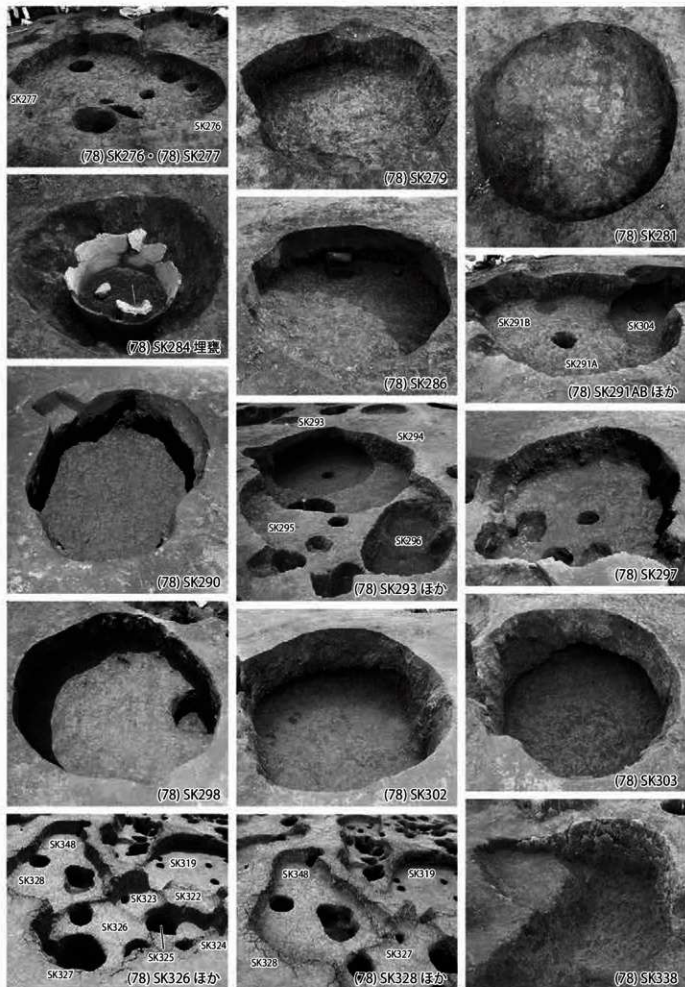
縄文時代土坑等 (4)



縄文時代土坑等 (5)

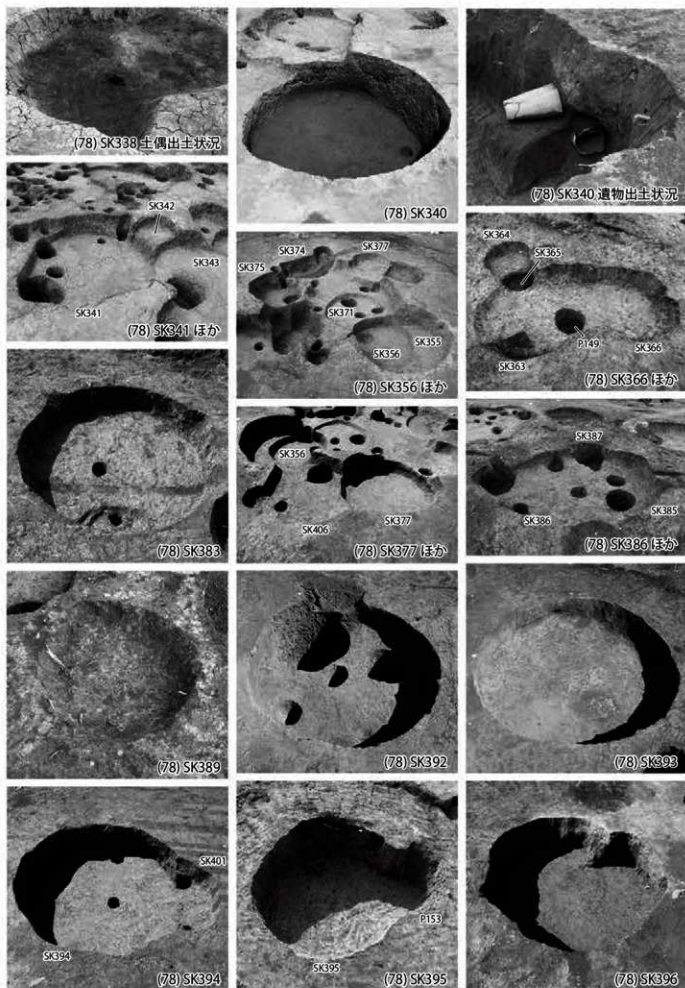


縄文時代土坑等 (6)

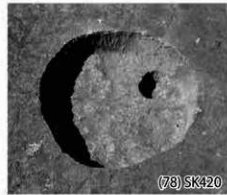
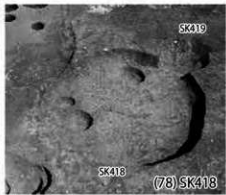
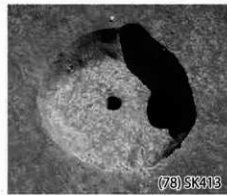
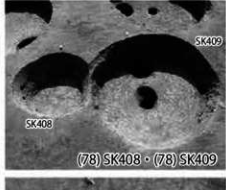
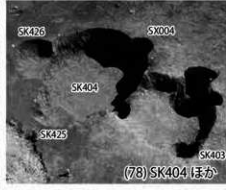
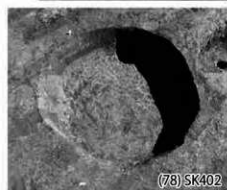
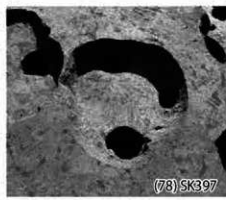


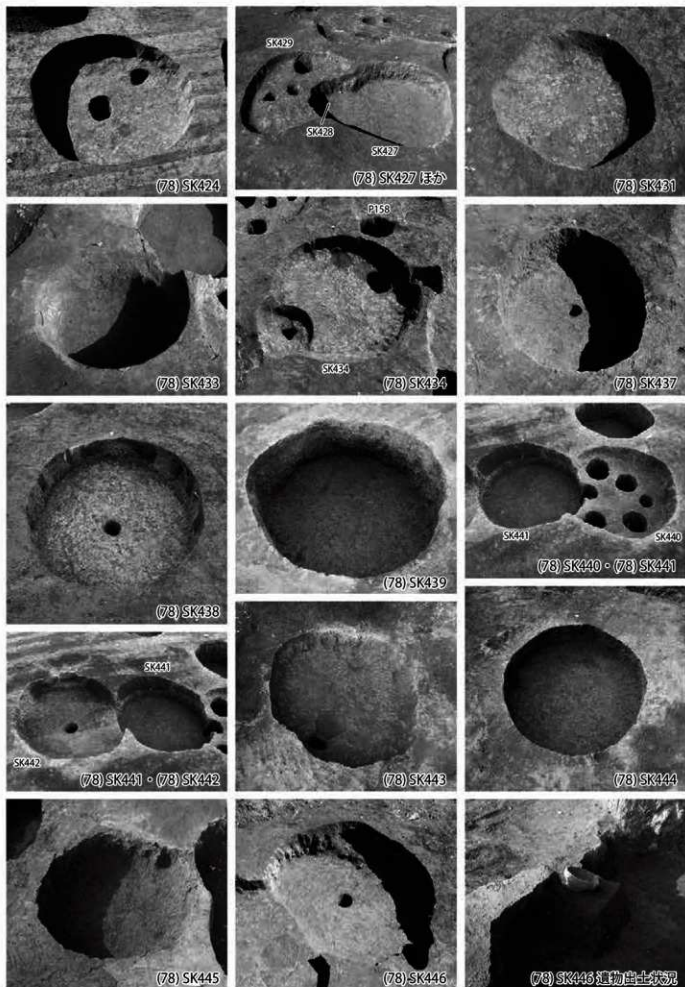
縄文時代土坑等 (7)



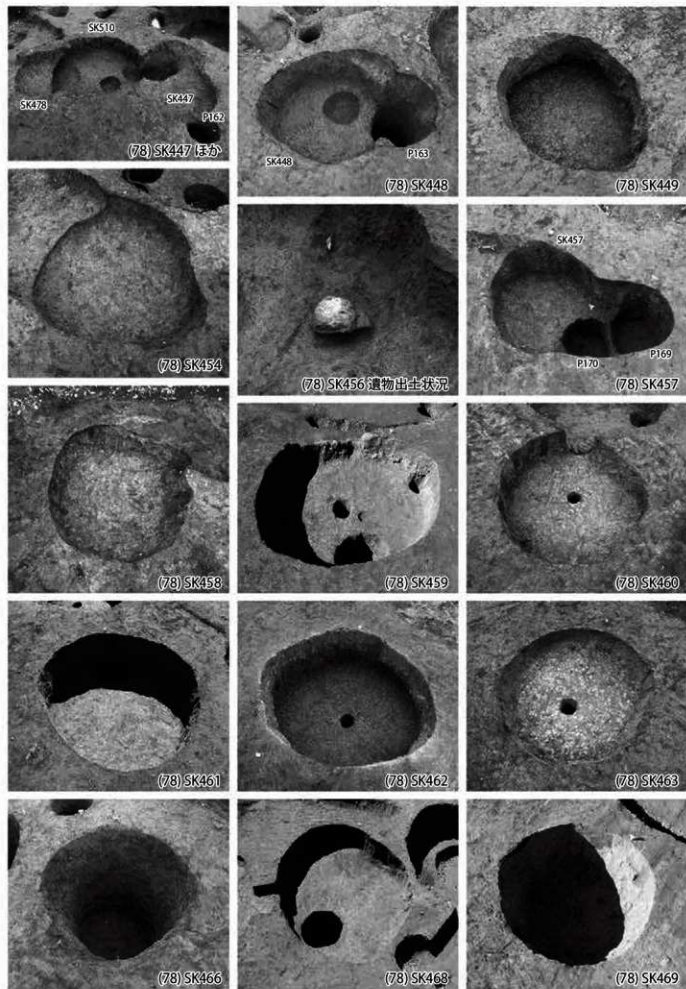


縄文時代土坑等 (8)



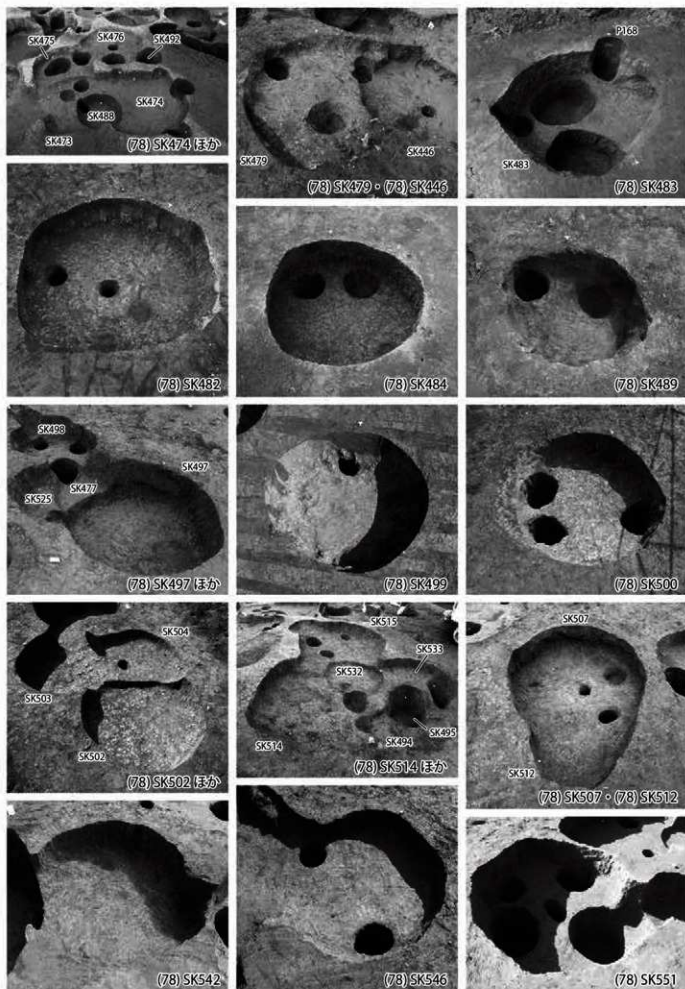


縄文時代土坑等 (10)

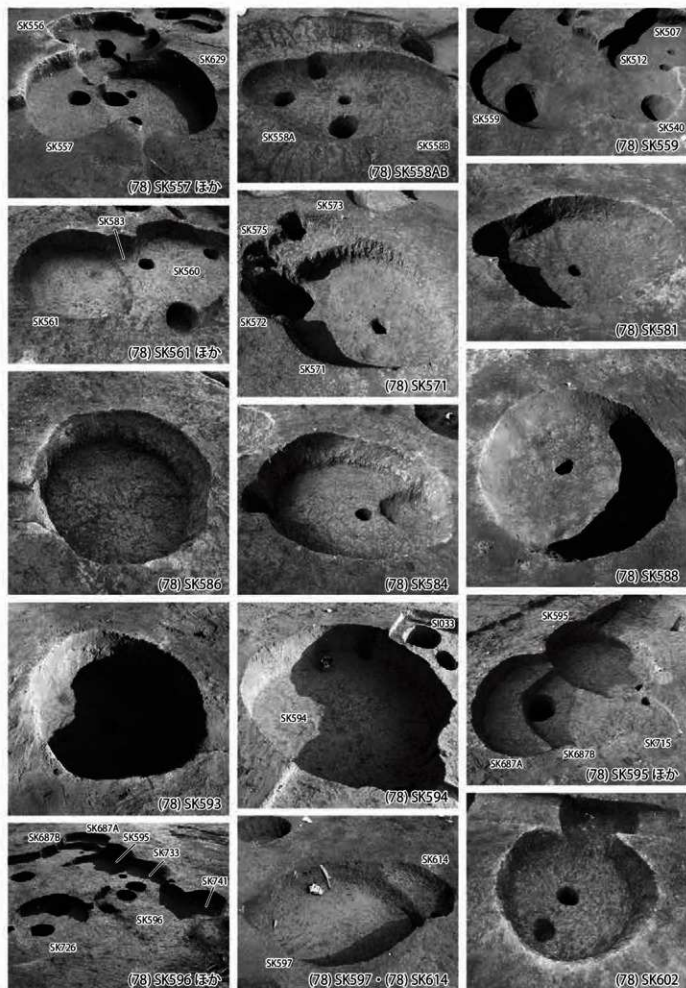


縄文時代土坑等 (11)

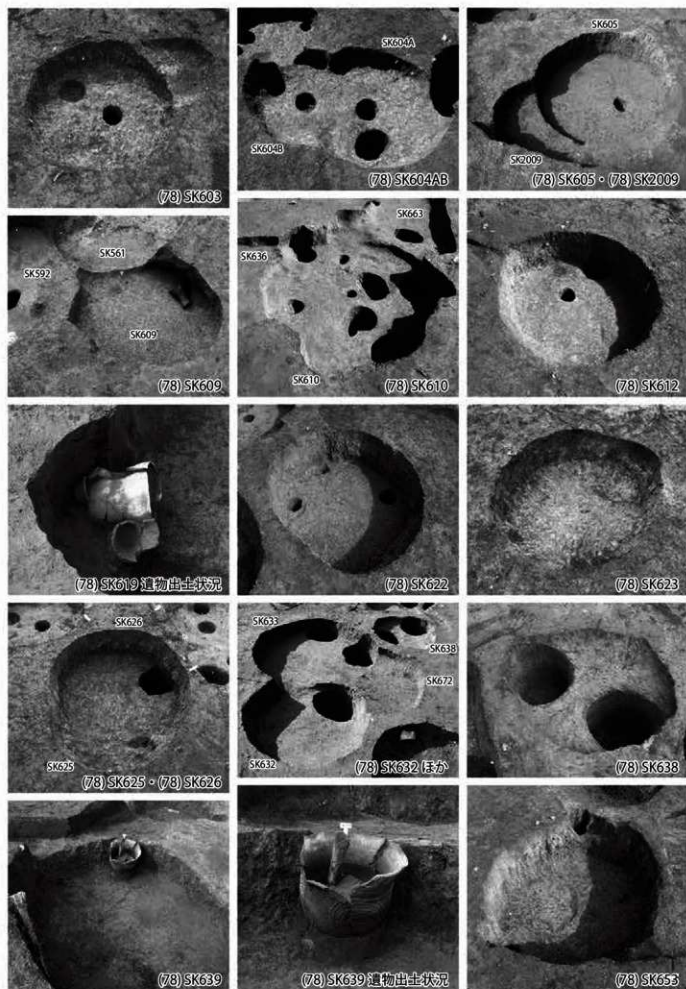




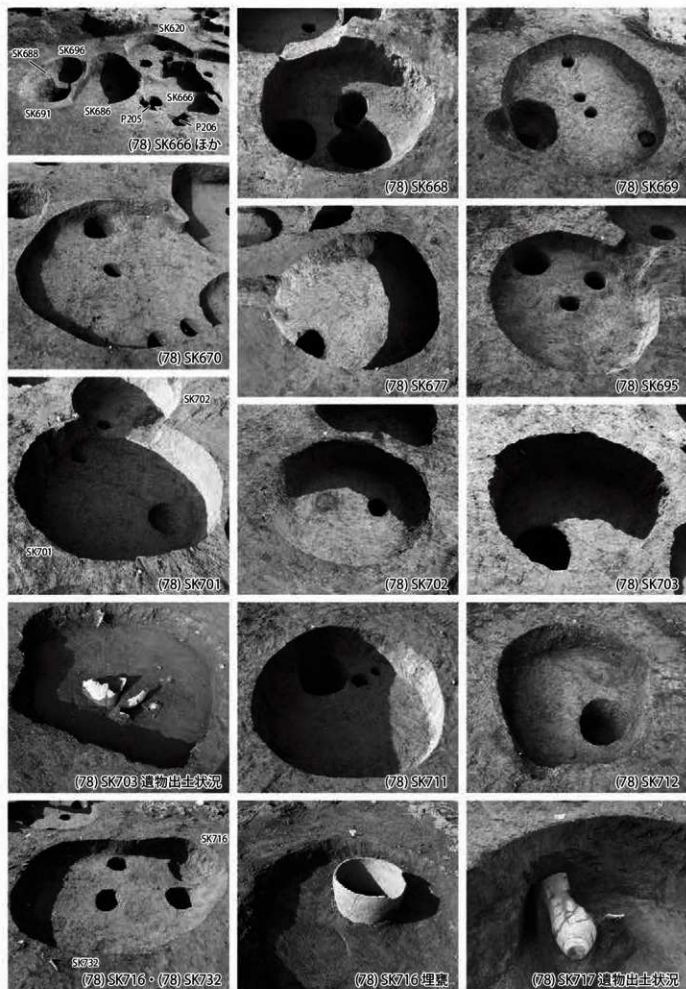
縄文時代土坑等 (12)



縄文時代土坑等 (13)

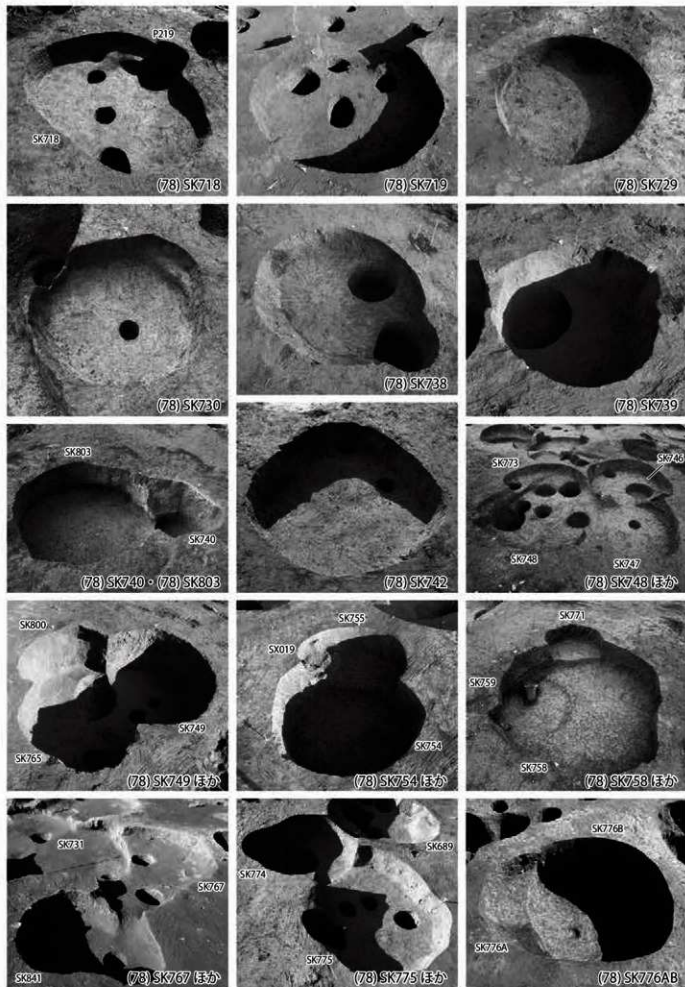


縄文時代土坑等 (14)

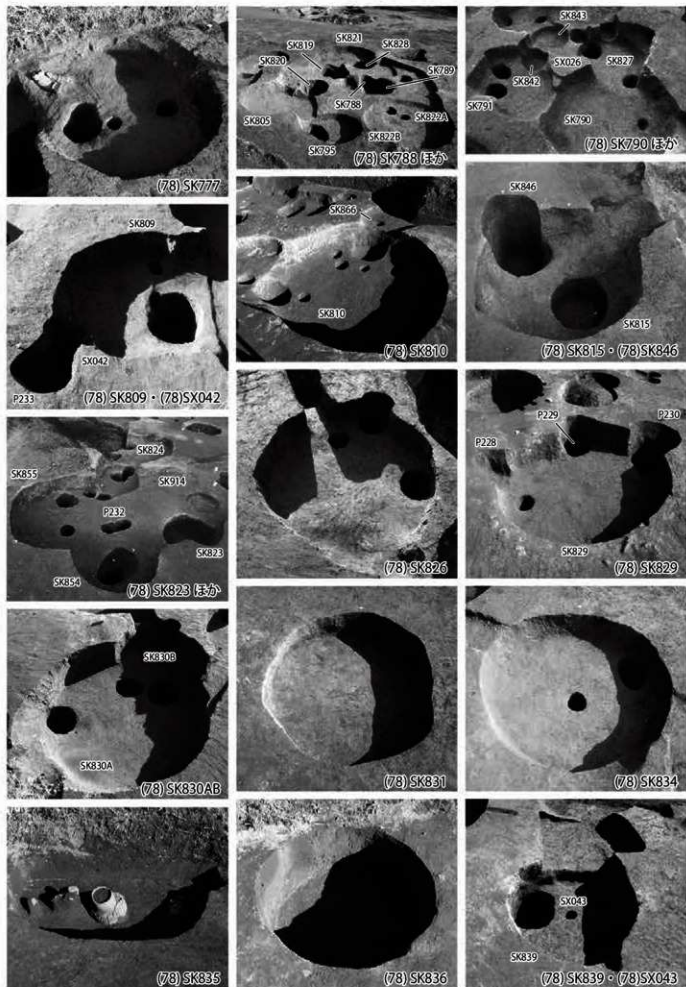


縄文時代土坑等 (15)

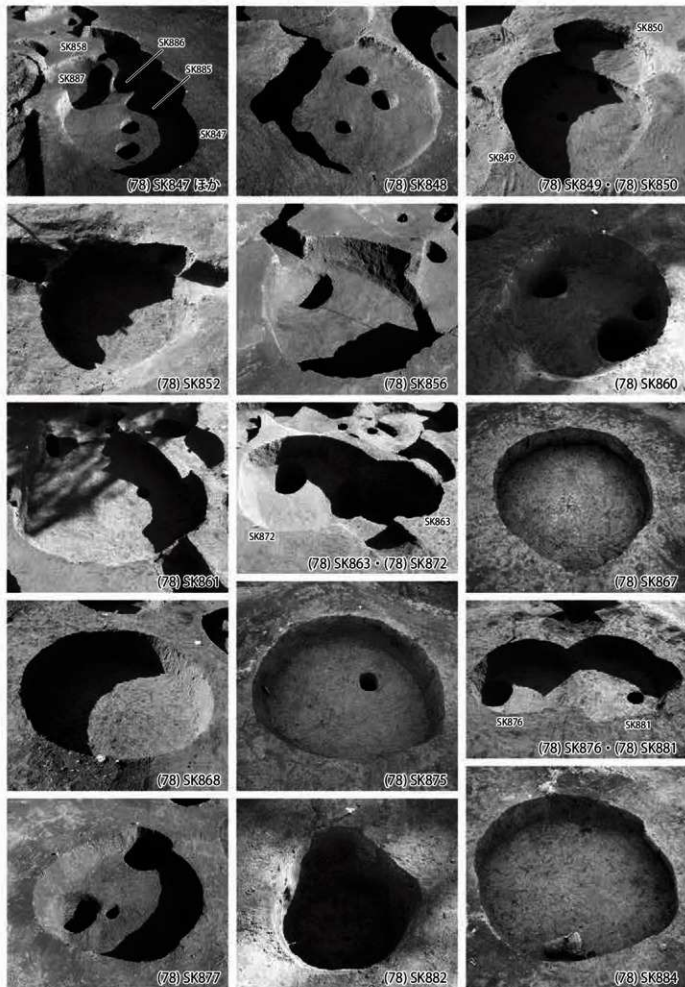




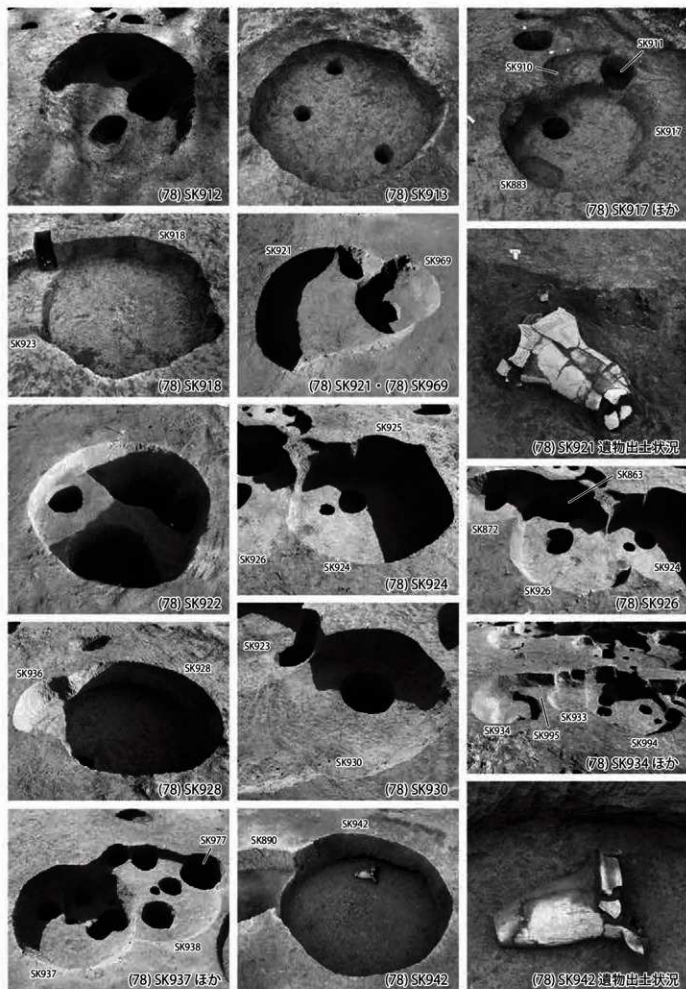
縄文時代土坑等 (16)



縄文時代土坑等 (17)

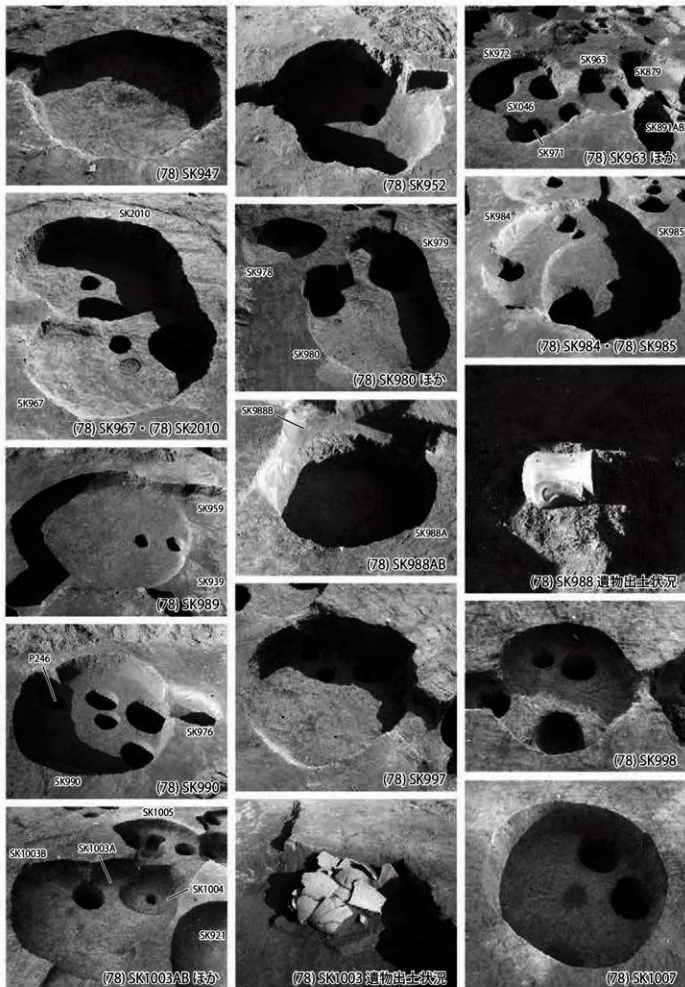


縄文時代土坑等 (18)

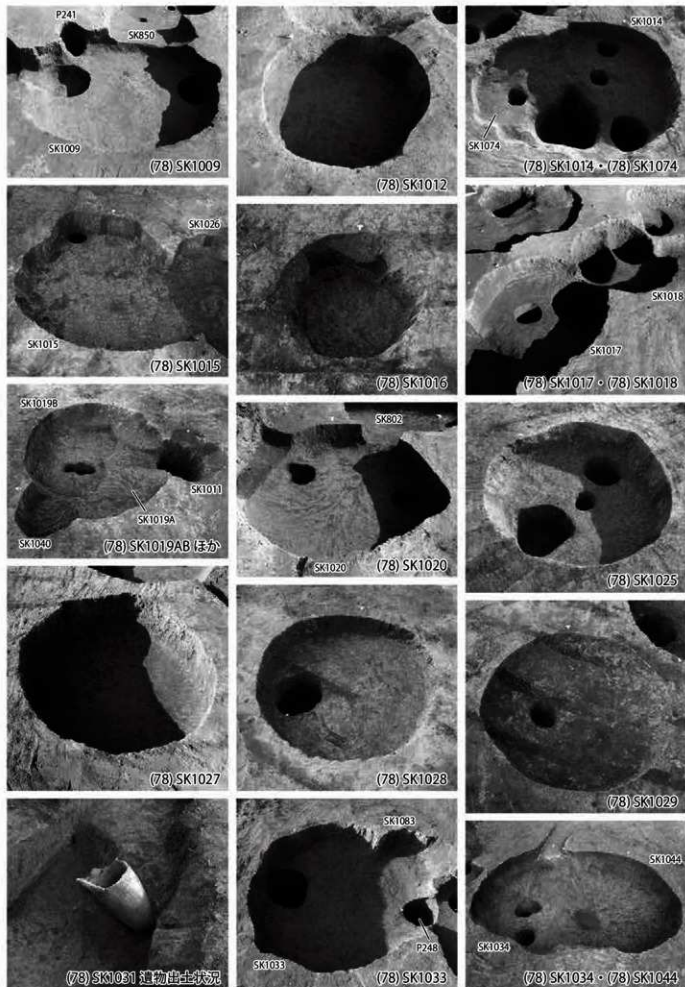


縄文時代土坑等 (19)

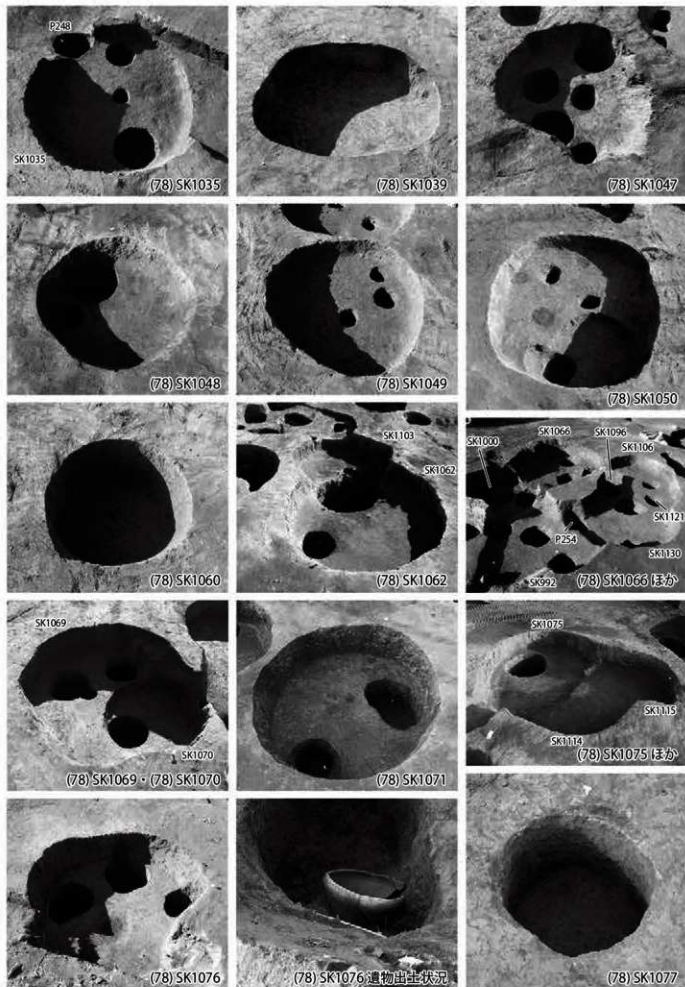




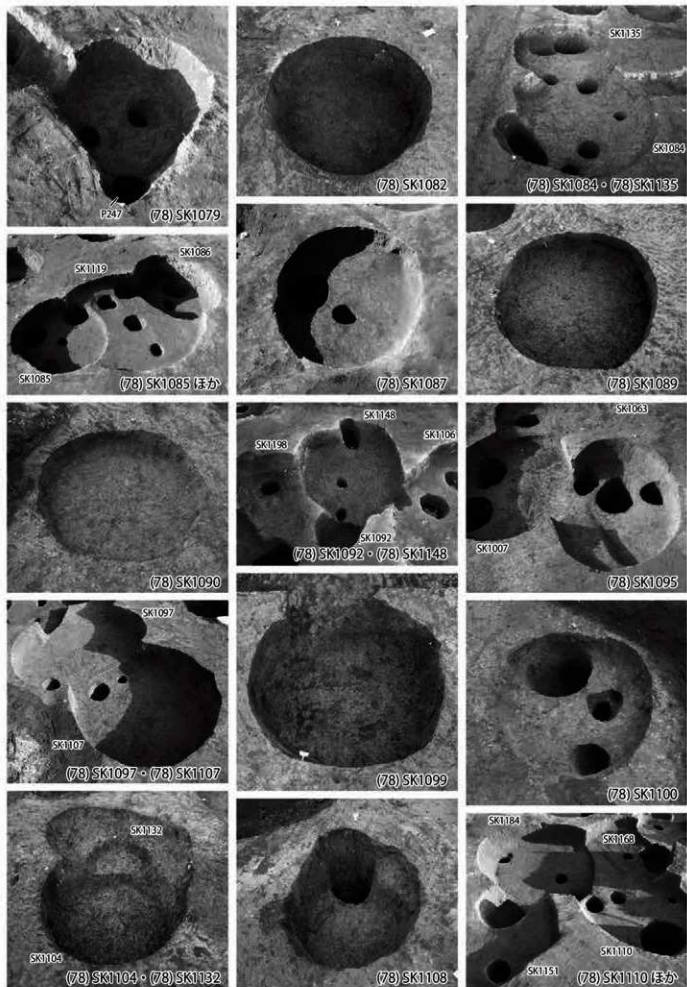
縄文時代土坑等 (20)



縄文時代土坑等 (21)

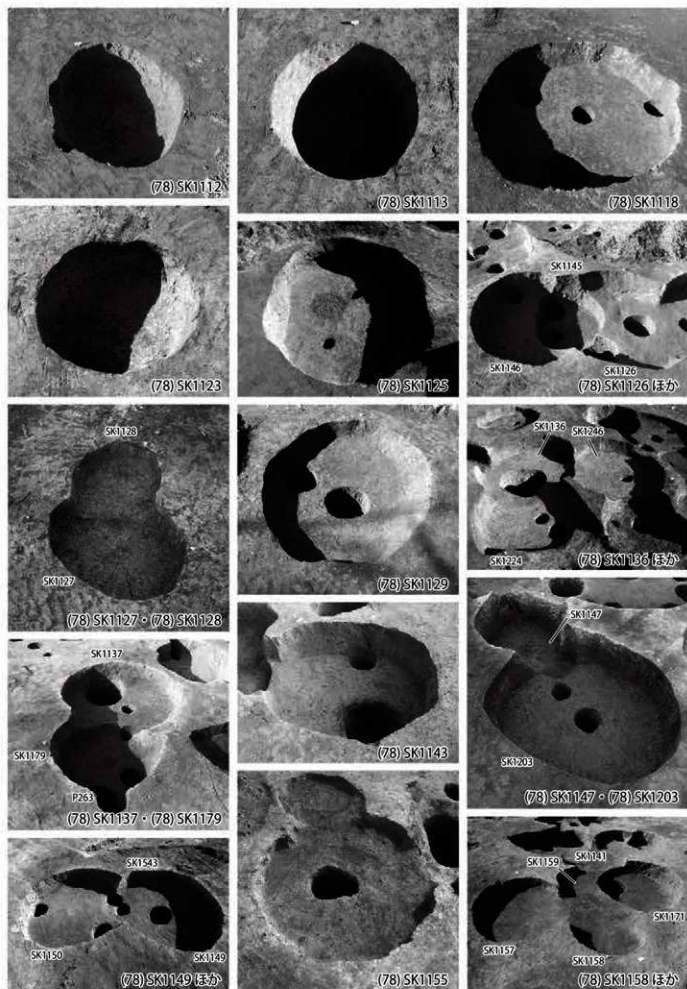


縄文時代土坑等 (22)

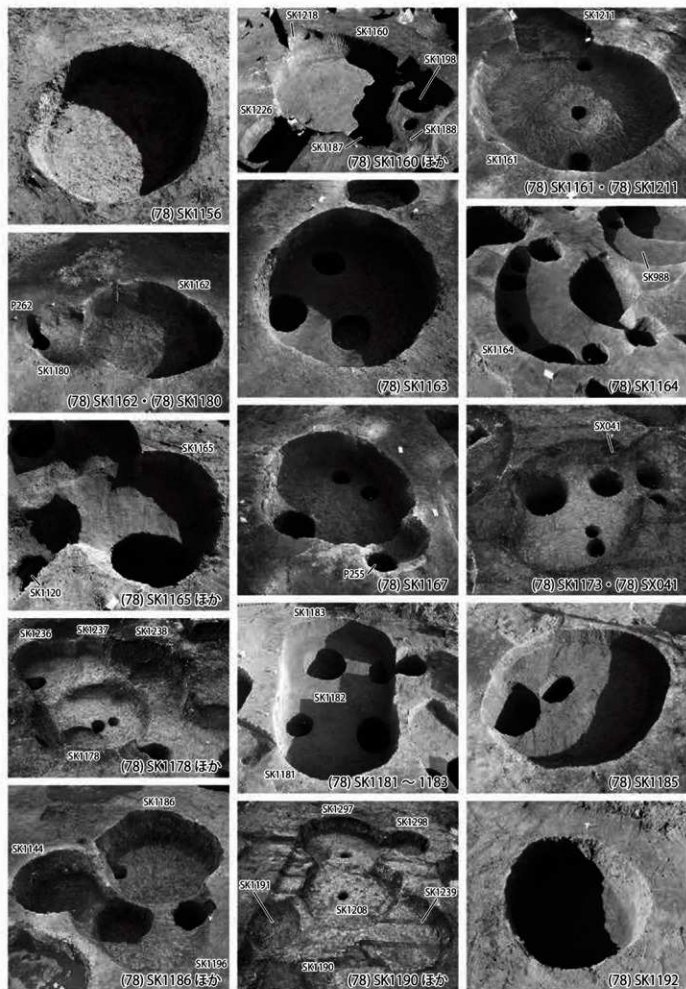


縄文時代土坑等 (23)

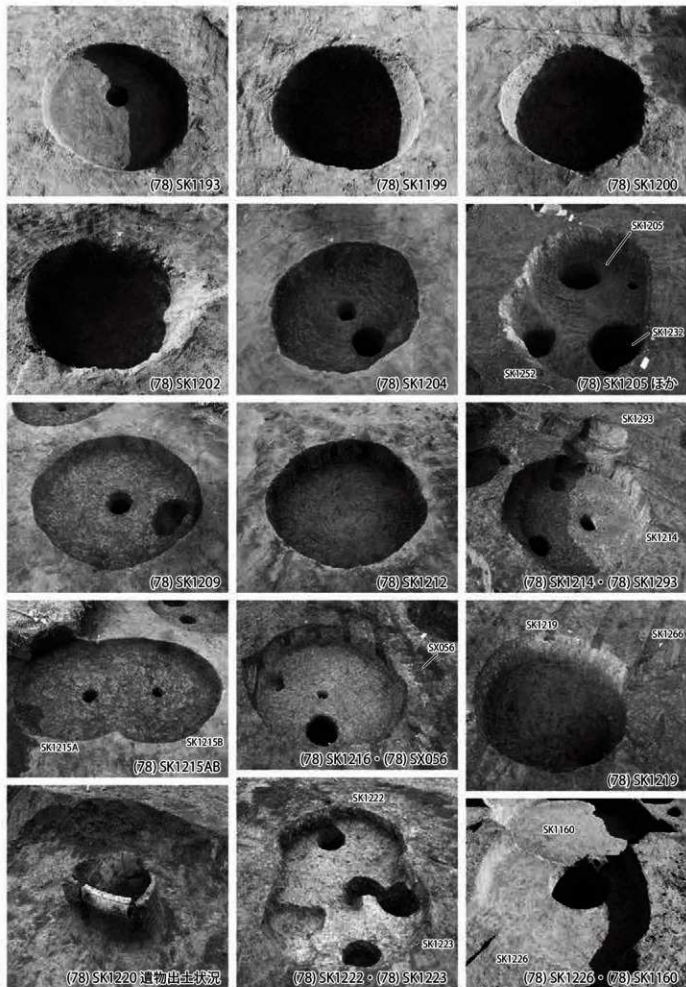




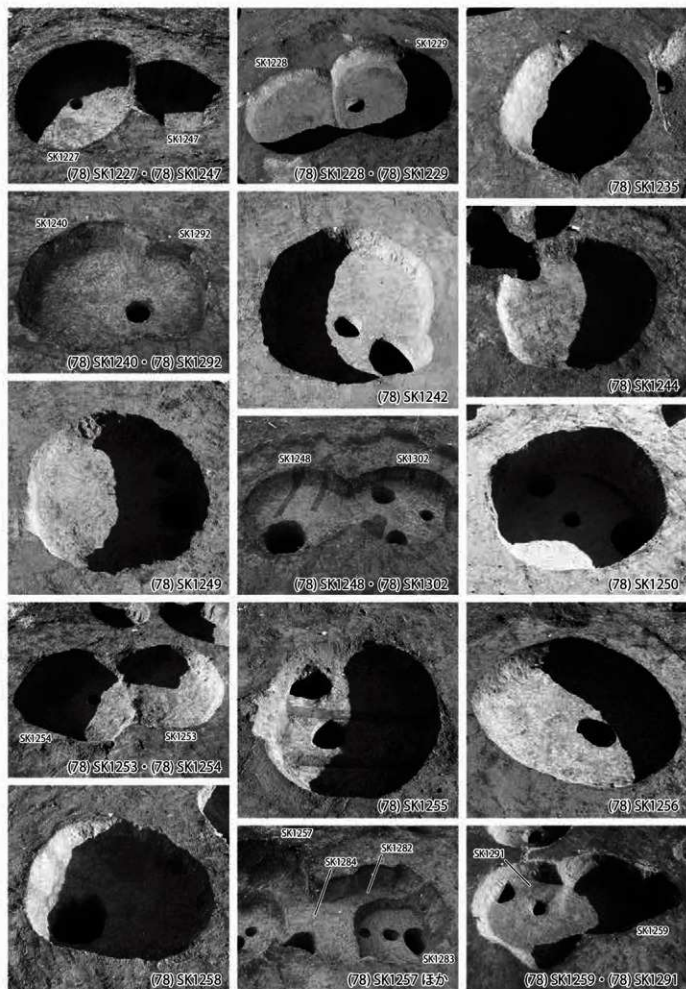
縄文時代土坑等 (24)



縄文時代土坑等 (25)

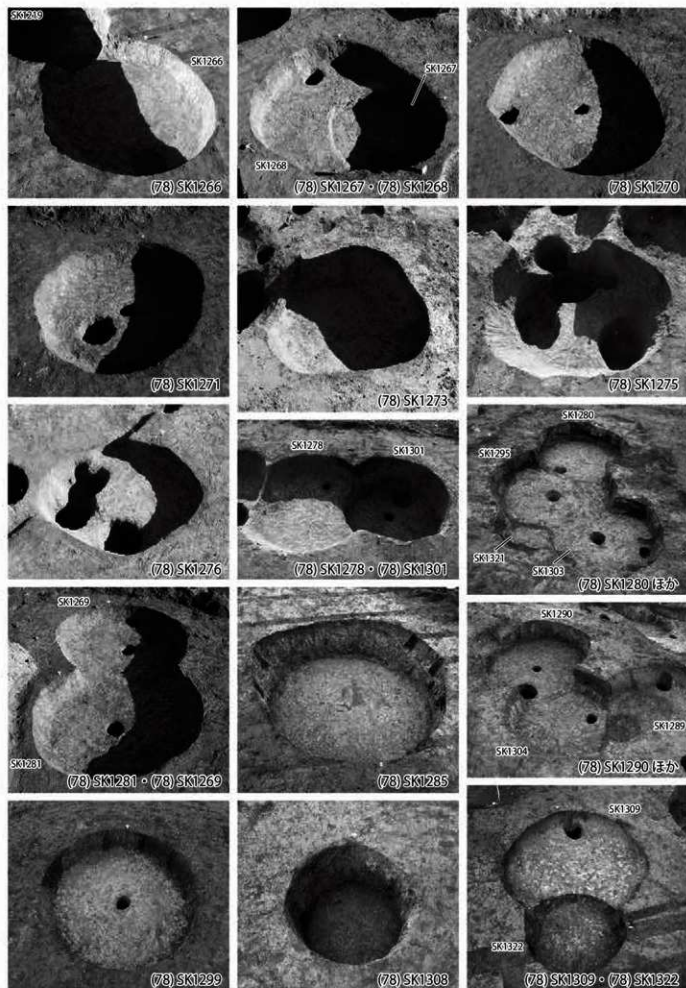


縄文時代土坑等 (26)

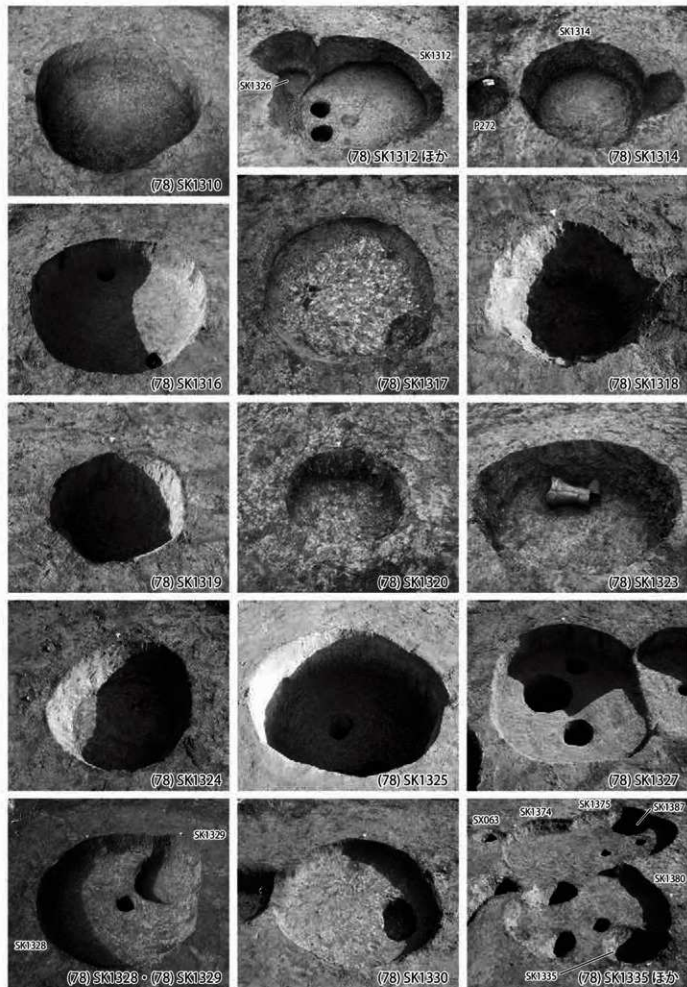


縄文時代土坑等 (27)

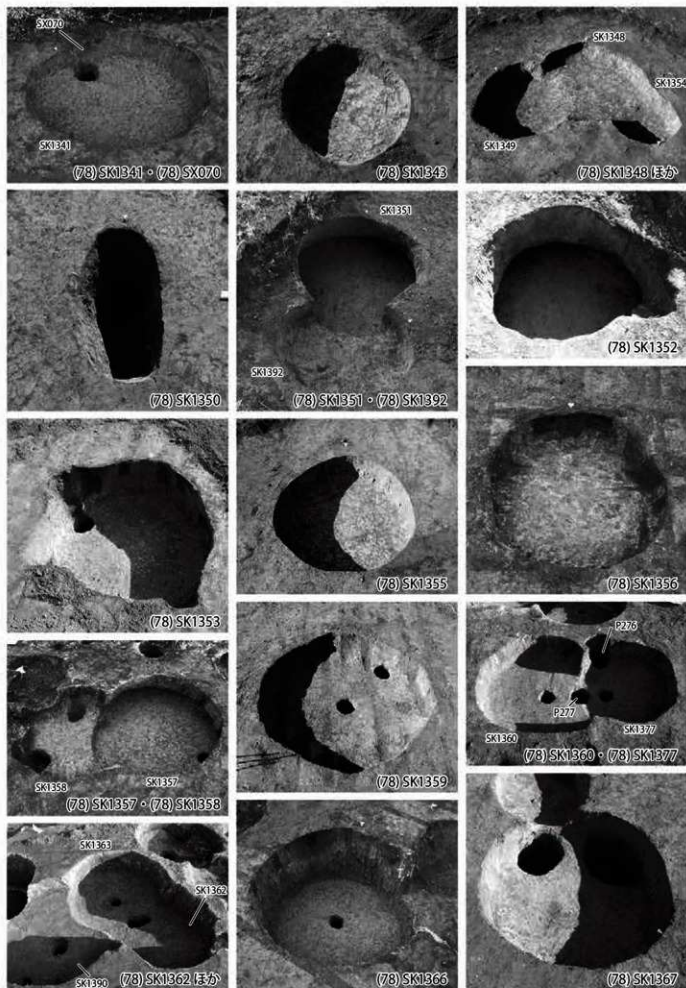




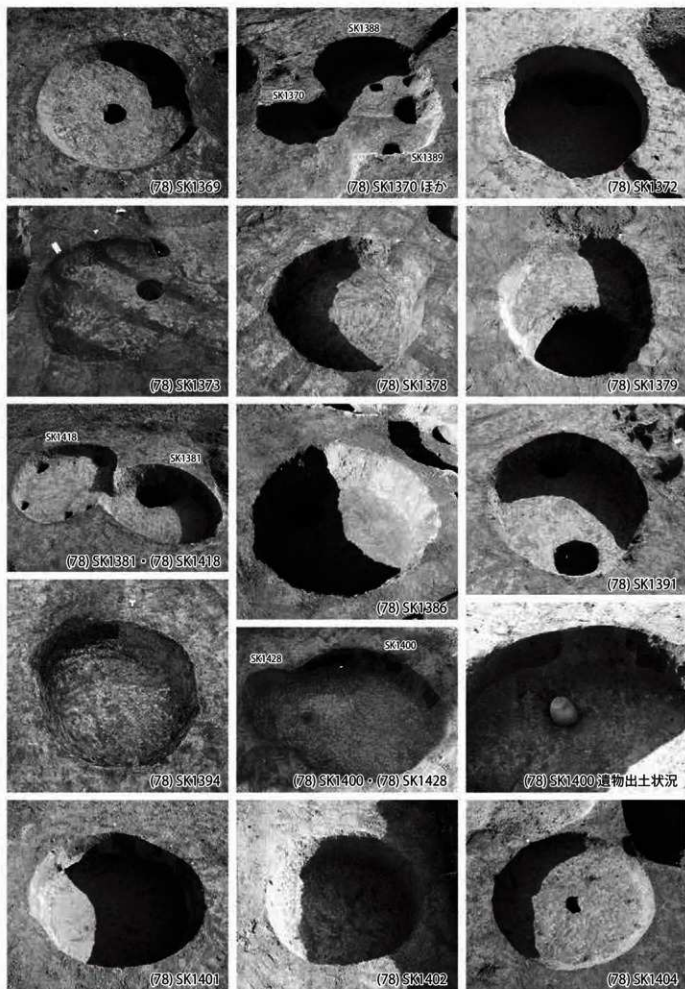
縄文時代土坑等 (28)



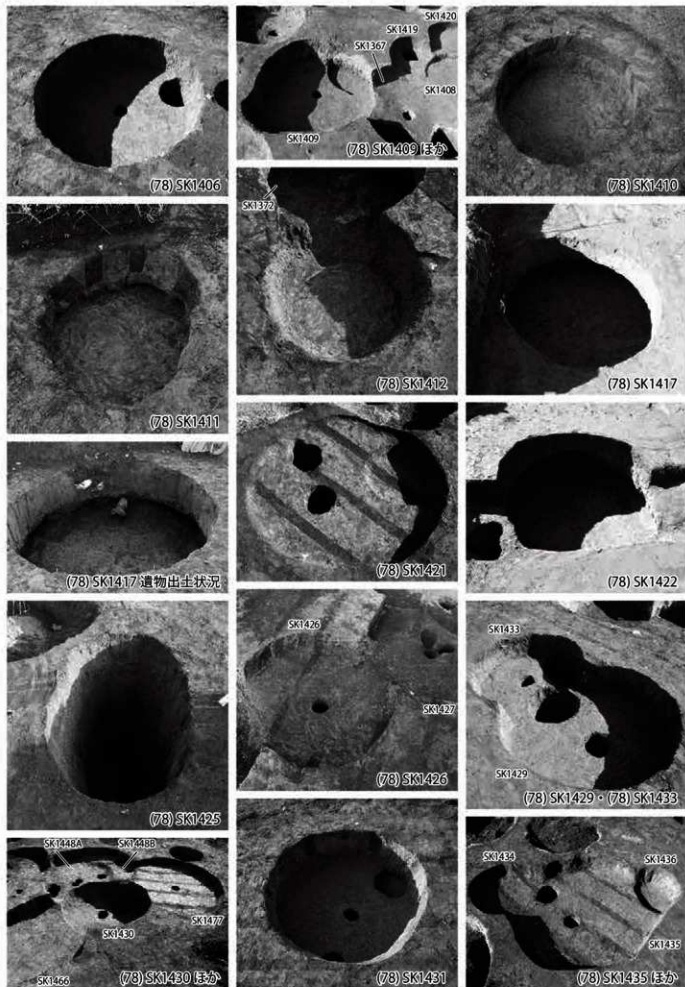
縄文時代土坑等 (29)



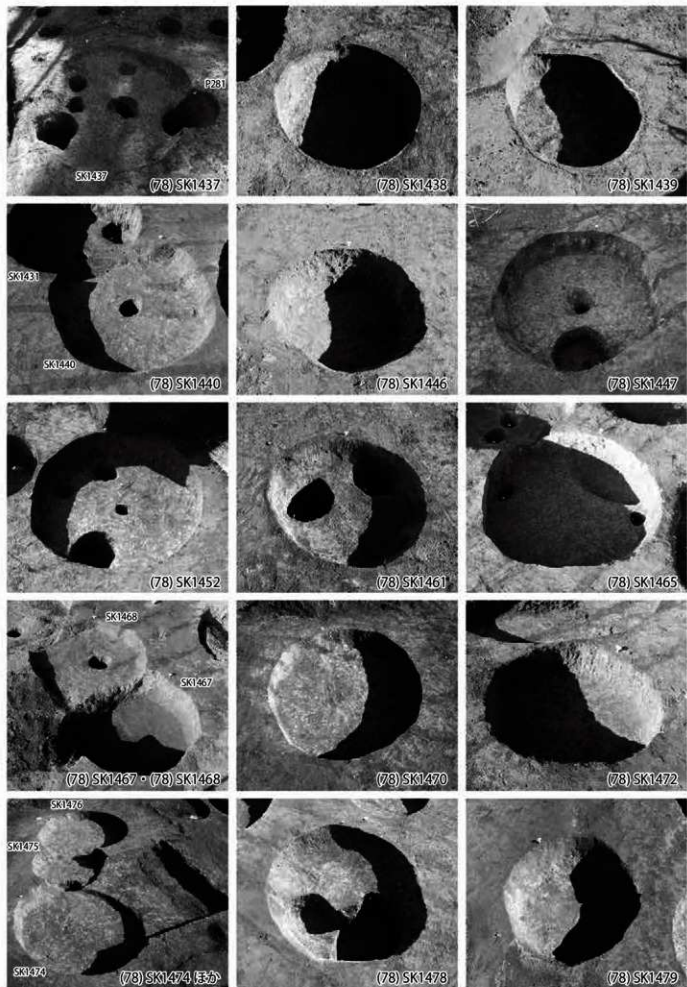
縄文時代土坑等 (30)



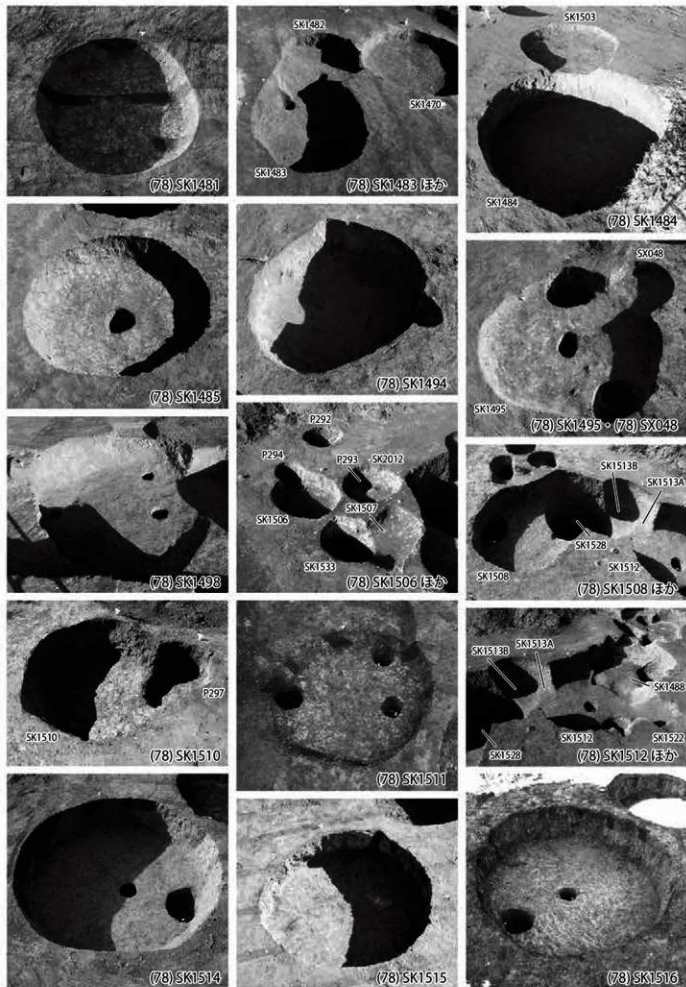




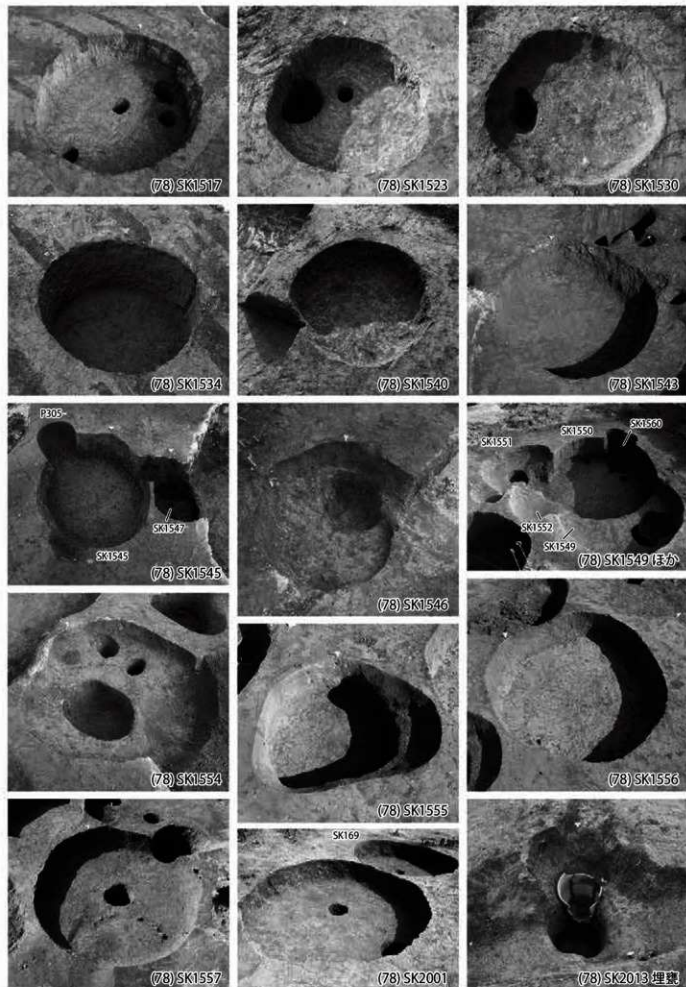
縄文時代土坑等 (32)



縄文時代土坑等 (33)



縄文時代土坑等 (34)

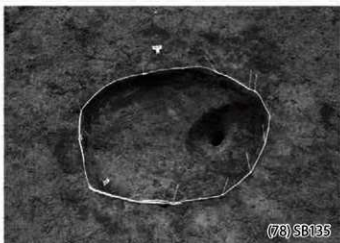


縄文時代土坑等 (35)





古墳時代住居跡 (1)

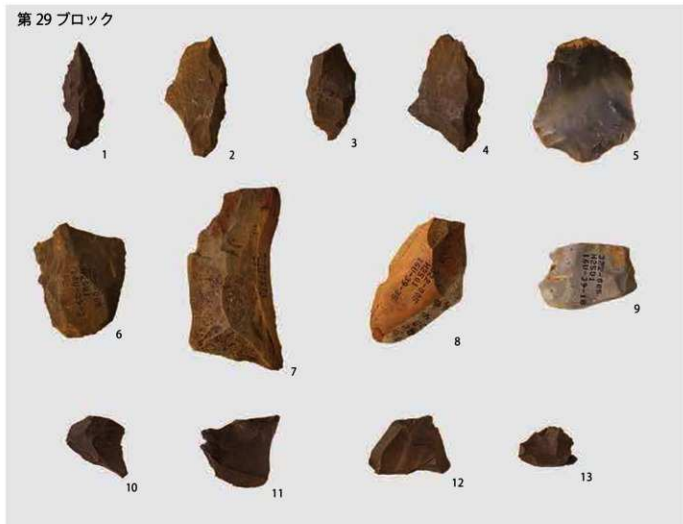


古墳時代住居跡(2)、奈良・平安時代住居跡・掘立柱建物跡(1)

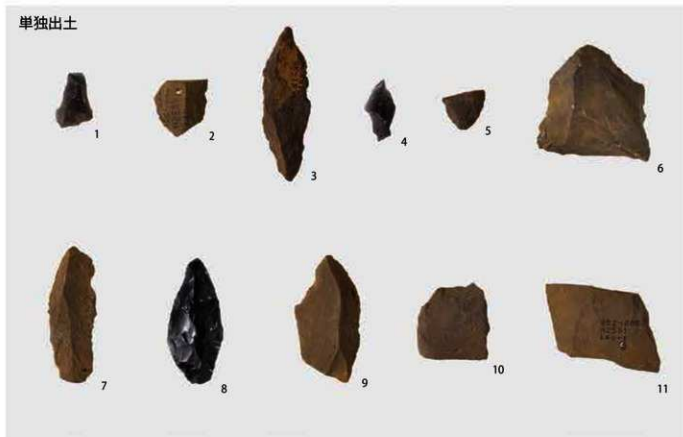


奈良・平安時代掘立柱建物跡(2)・土坑、溝状遺構

第29ブロック



単独出土



単独出土（その他）



旧石器時代石器(2)



縄文時代石器(1)



縄文時代住居跡出土土器(1)





(78)SI017-1



(78)SI021-1



(78)SI022-1



(78)SI017-2



(78)SI021-2



(78)SI019-1



(78)SI021-3



(78)SI022-2



(78)SI020-1



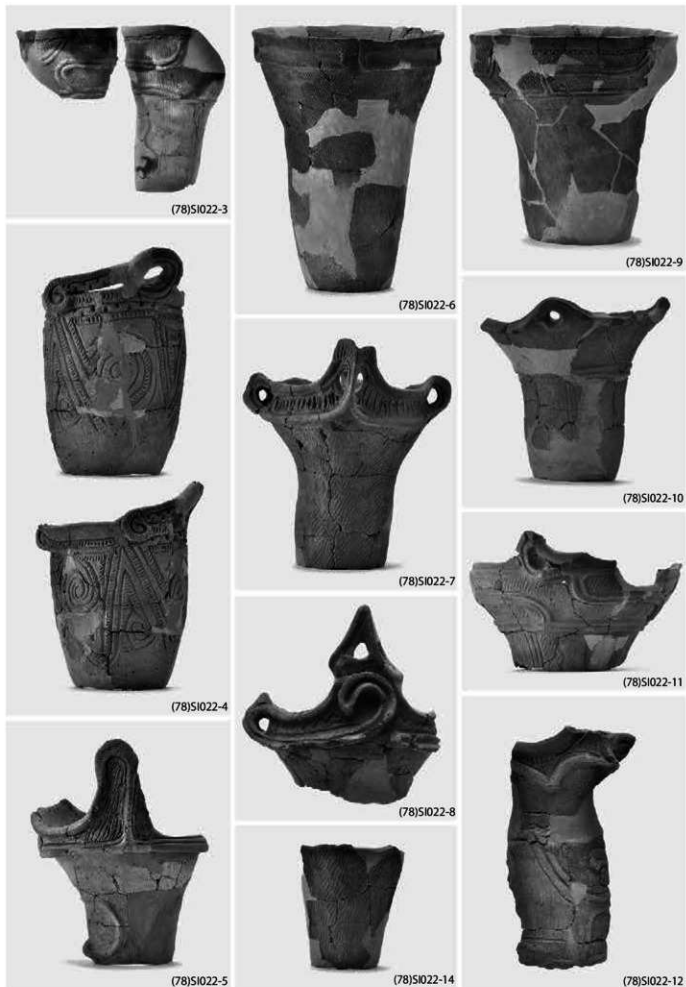
(78)SI020-2



(78)SI021-4



(78)SI022-13



縄文時代住居跡出土土器(3)





(78)SI025-1



(78)SI030-3



(78)SI030-7



(78)SI026-1



(78)SI030-8



(78)SI029-1



(78)SI030-5



(78)SI030-9



(78)SI029-2



(78)SI030-6



(78)SI030-11



(78)SI030-1



縄文時代住居跡出土土器(5)



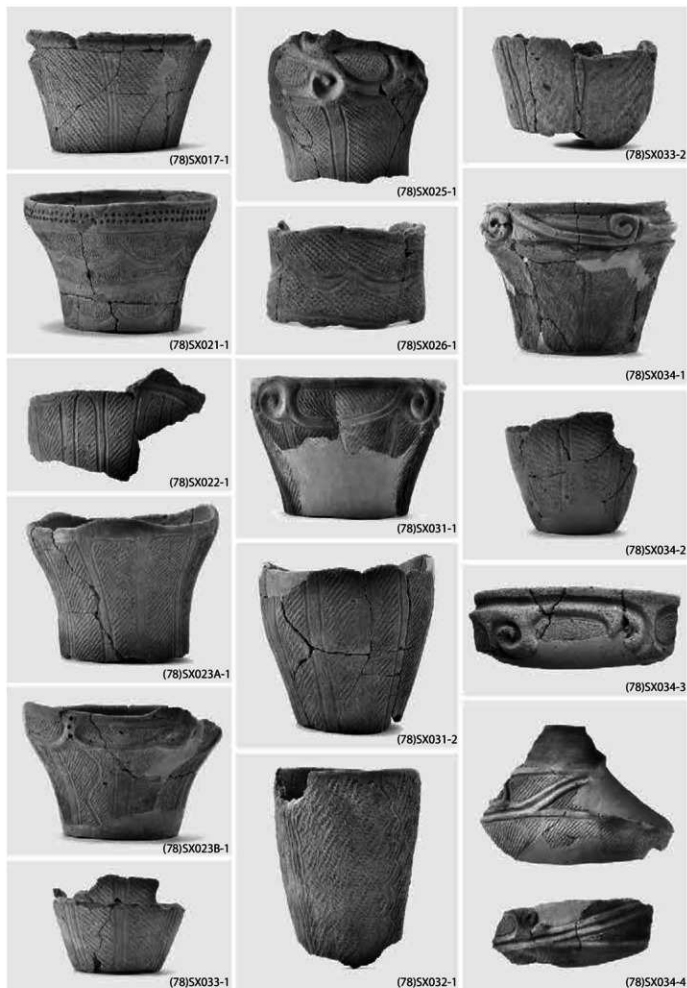
縄文時代住居跡出土土器(6)



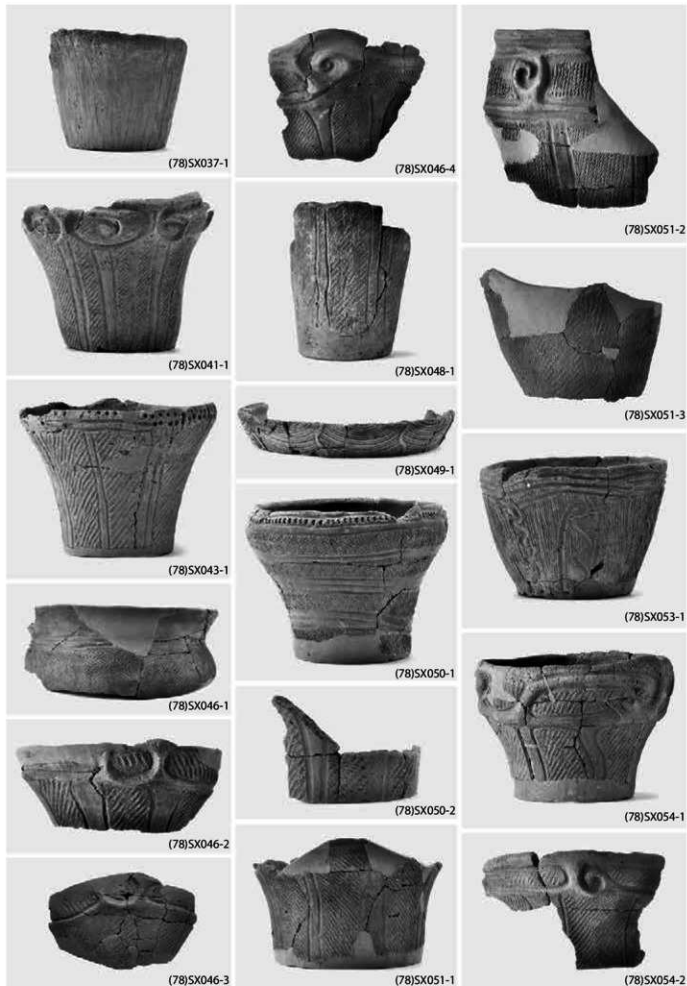
縄文時代住居跡出土土器(7)



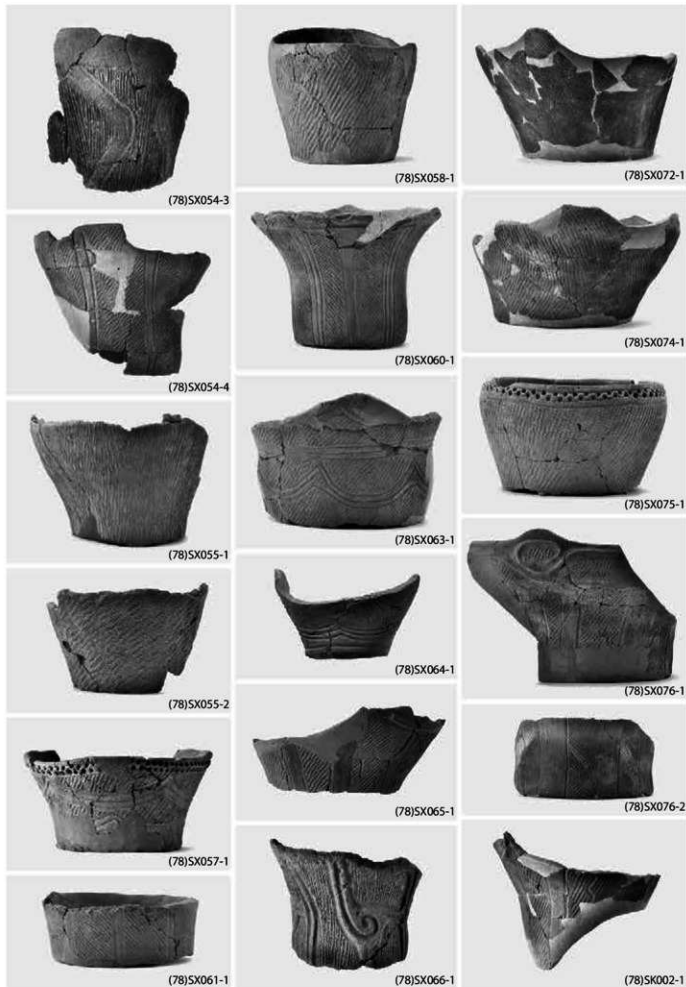
縄文時代住居跡出土土器(8)・炉跡出土土器(1)



縄文時代炉跡出土土器(2)



縄文時代炉跡出土土器(3)

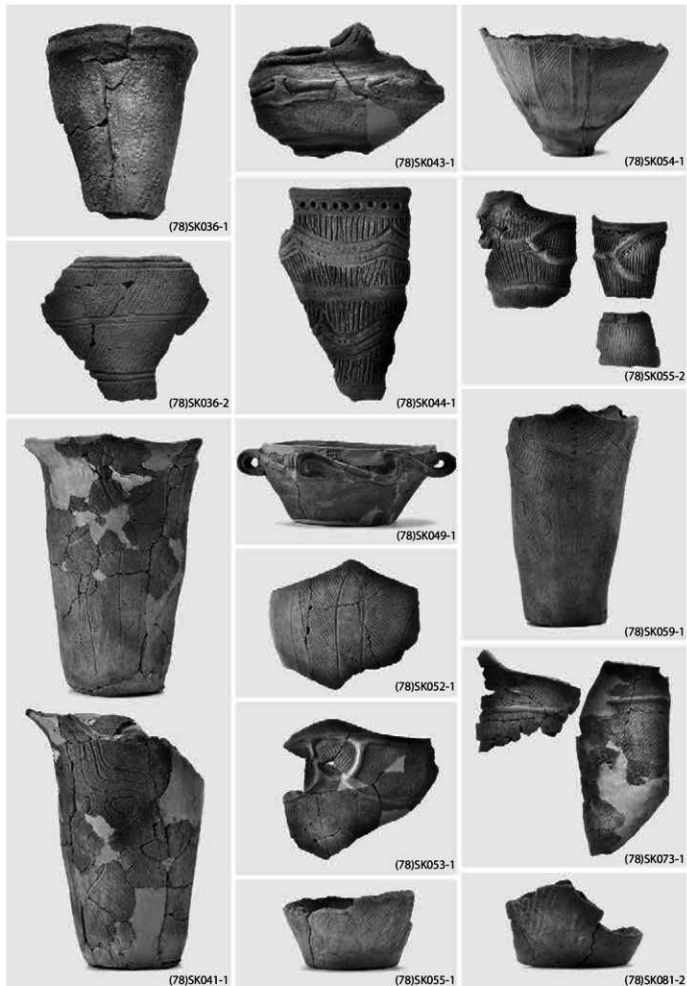


縄文時代炉跡出土土器(4)・土坑等出土土器(1)

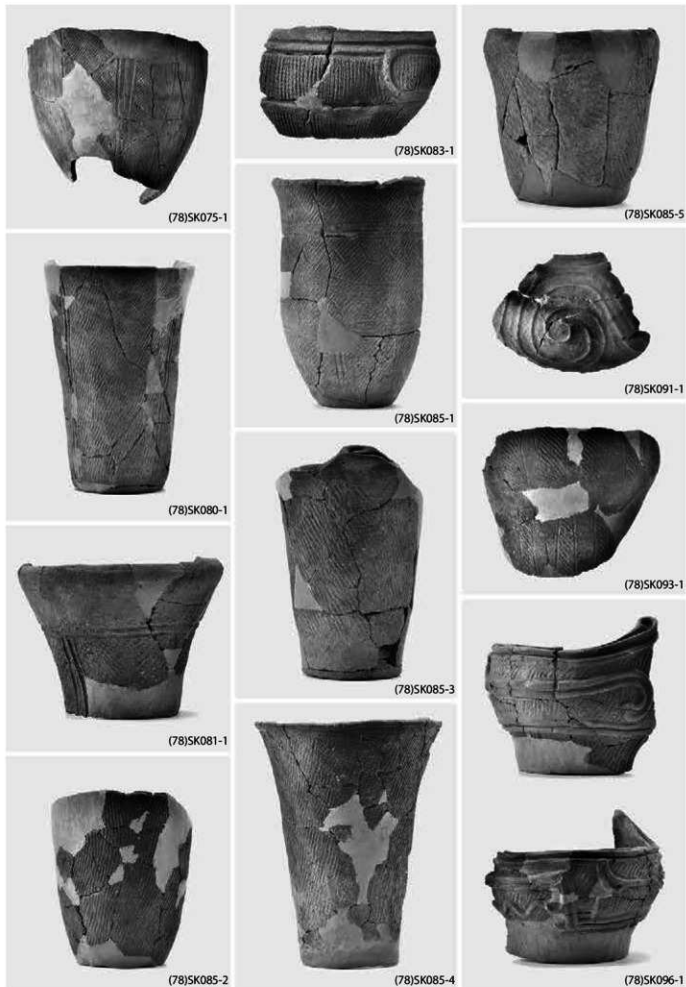




縄文時代土坑等出土土器(2)



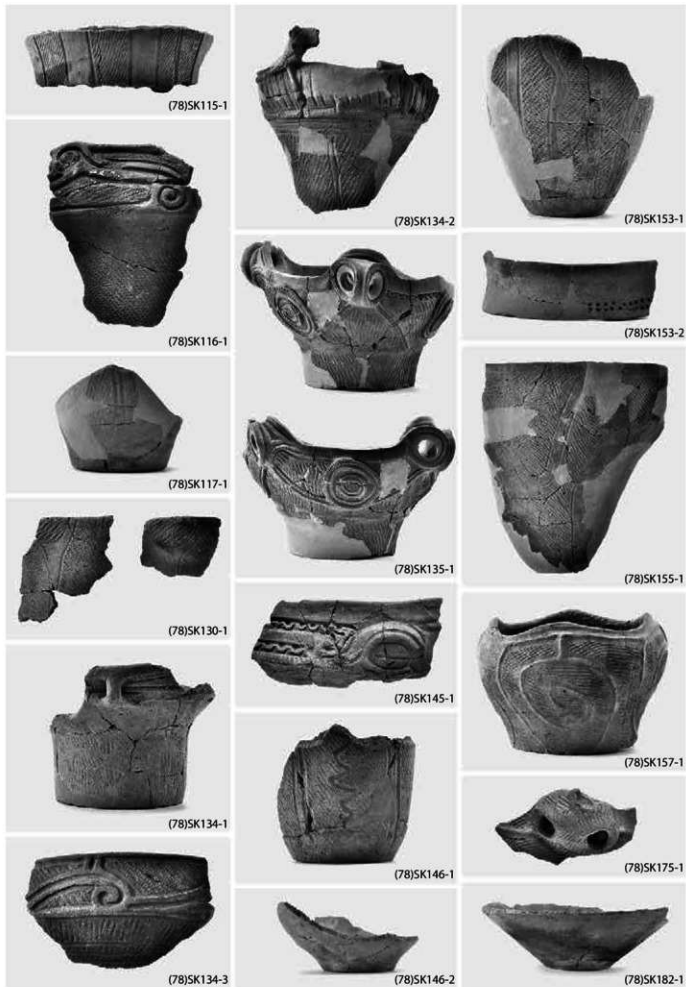
縄文時代土坑等出土土器(3)



縄文時代土坑等出土土器(4)



縄文時代土坑等出土土器(5)



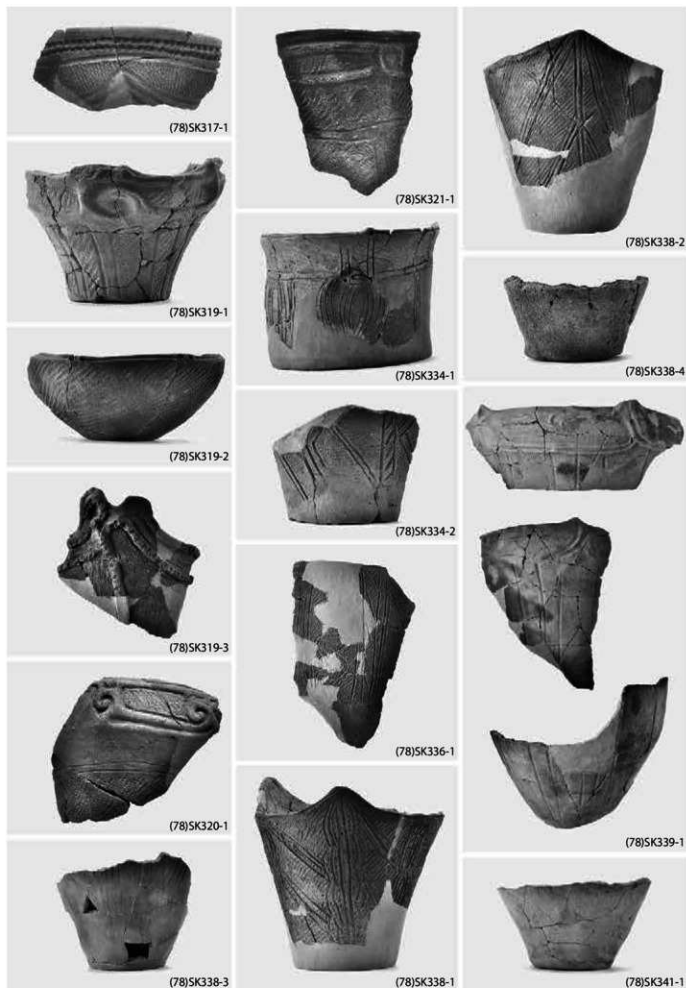
縄文時代土坑等出土土器(6)



縄文時代土坑等出土土器(7)



縄文時代土坑等出土土器(8)



縄文時代土坑等出土土器(9)





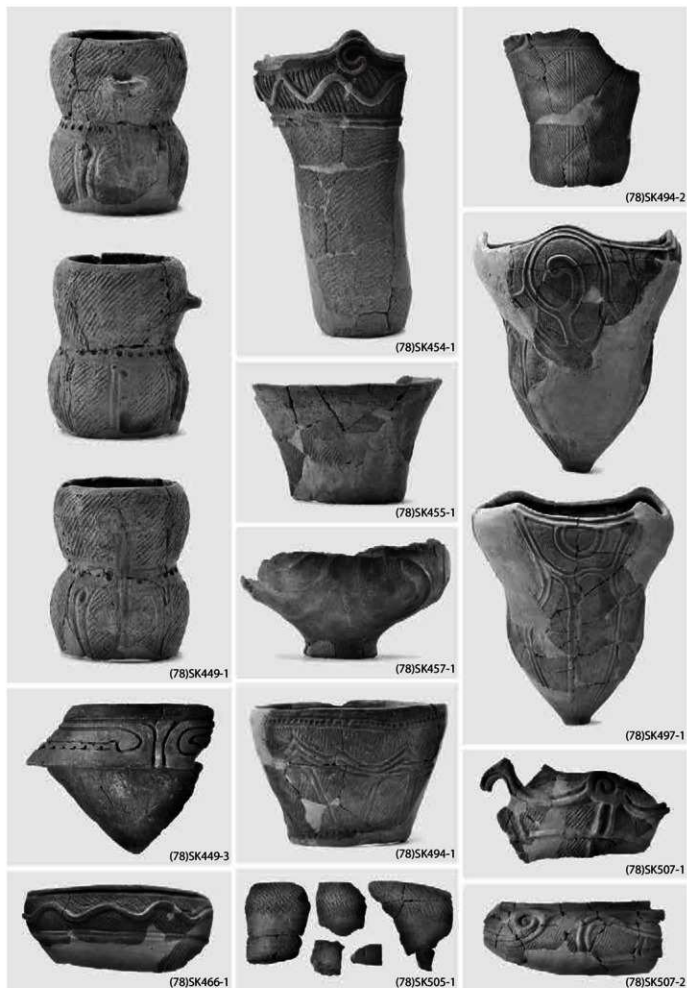
縄文時代土坑等出土土器(10)



縄文時代土坑等出土土器(11)



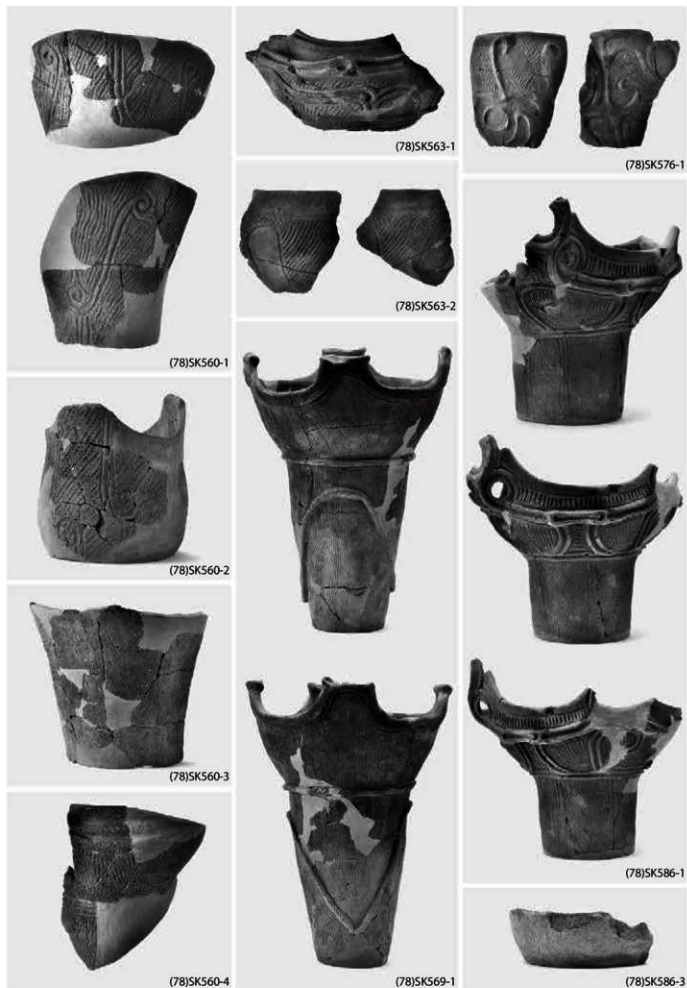
縄文時代土坑等出土土器 (12)



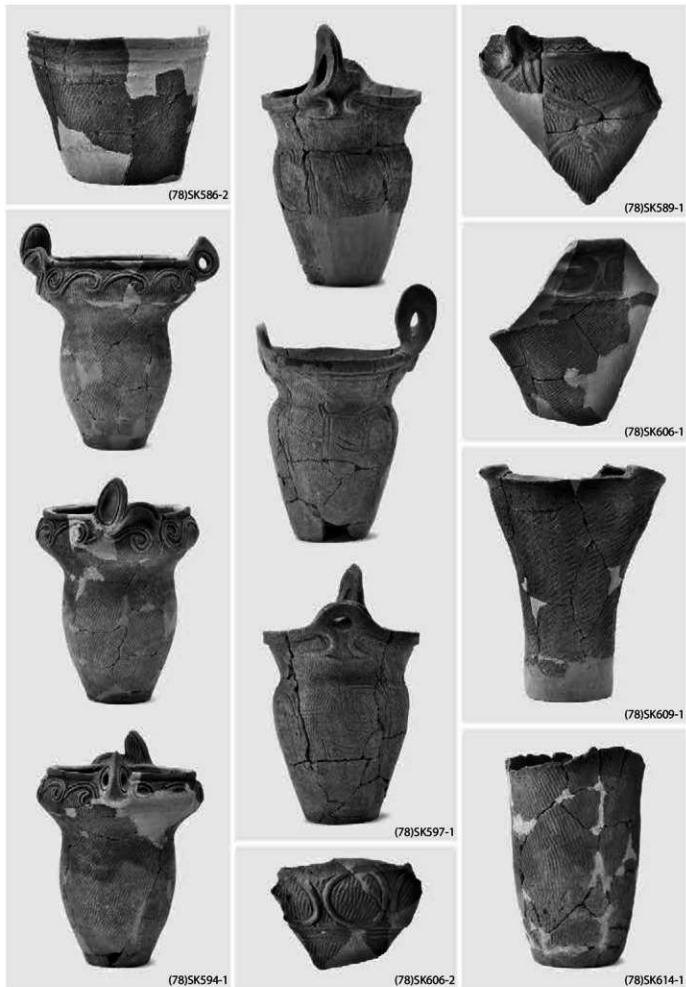
縄文時代土坑等出土土器(13)



縄文時代土坑等出土土器 (14)



縄文時代土坑等出土土器 (15)

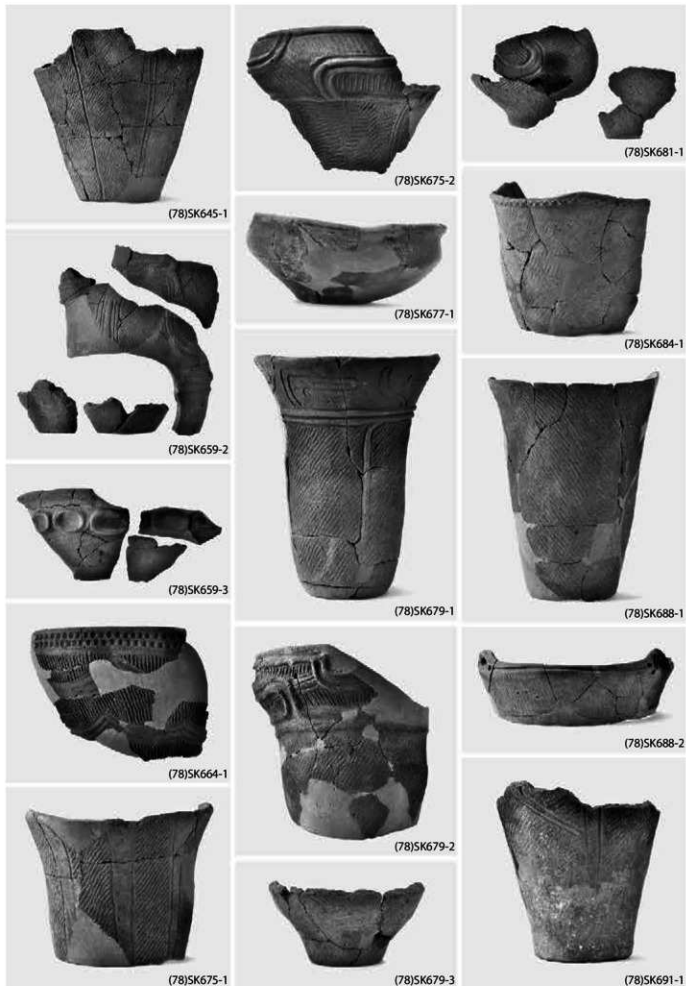


縄文時代土坑等出土土器 (16)



縄文時代土坑等出土土器 (17)





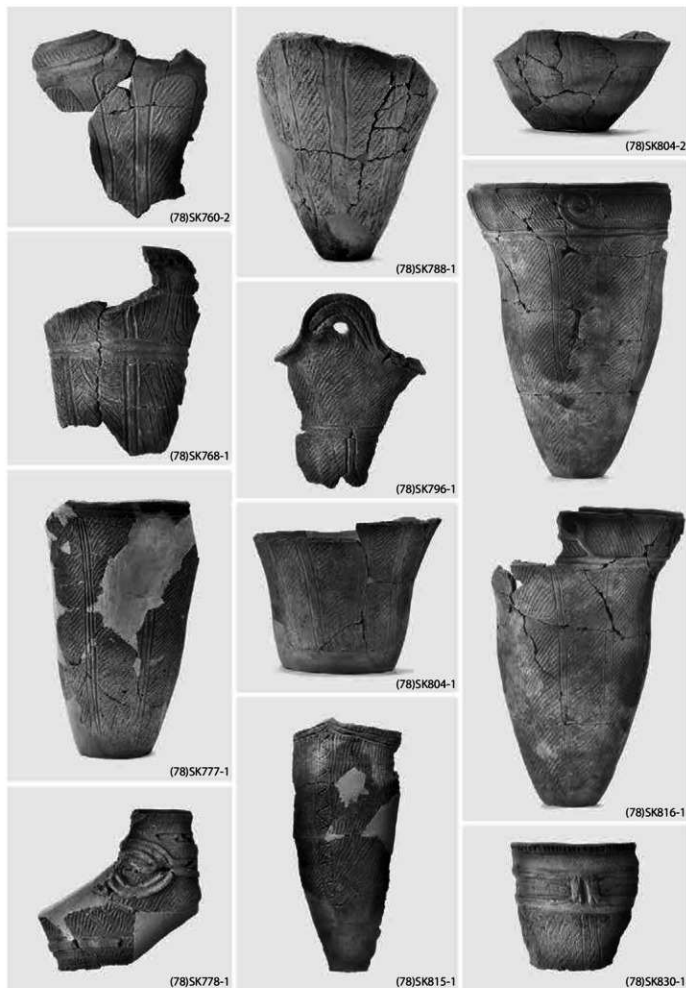
縄文時代土坑等出土土器 (18)



縄文時代土坑等出土土器 (19)



縄文時代土坑等出土土器 (20)



縄文時代土坑等出土土器(21)



縄文時代土坑等出土土器(22)



縄文時代土坑等出土土器 (23)

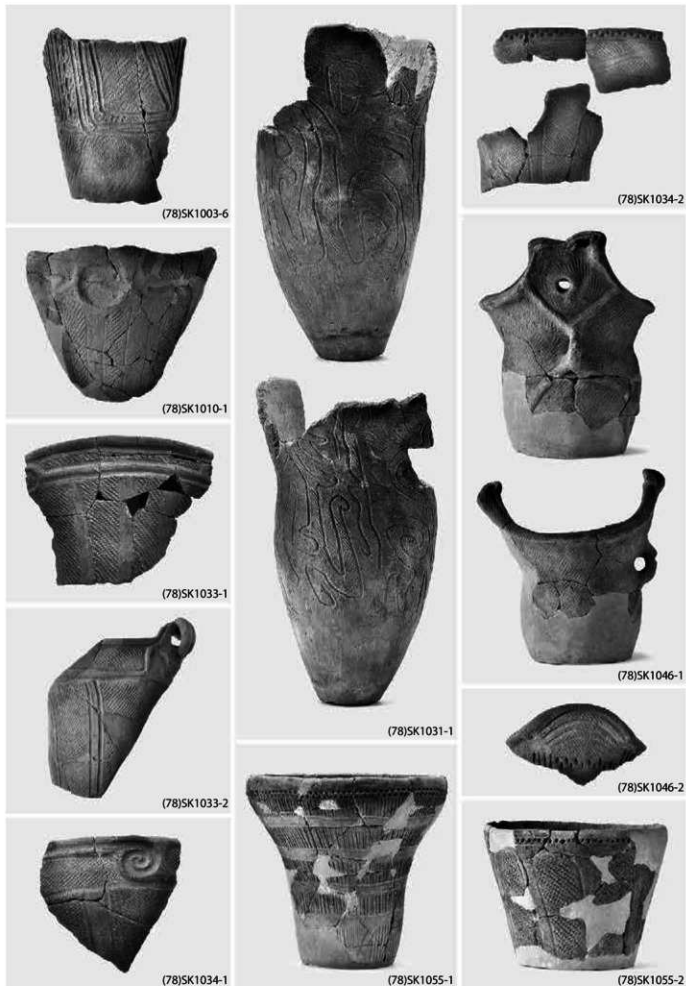


縄文時代土坑等出土土器 (24)



縄文時代土坑等出土土器(25)





縄文時代土坑等出土土器 (26)





(78)SK1107-2



(78)SK1107-7



(78)SK1129-1



(78)SK1107-3



(78)SK1107-8



(78)SK1149-1



(78)SK1107-4



(78)SK1119-1



(78)SK1162-1



(78)SK1107-6



(78)SK1119-2



(78)SK1162-2



(78)SK1173-1



縄文時代土坑等出土土器 (29)



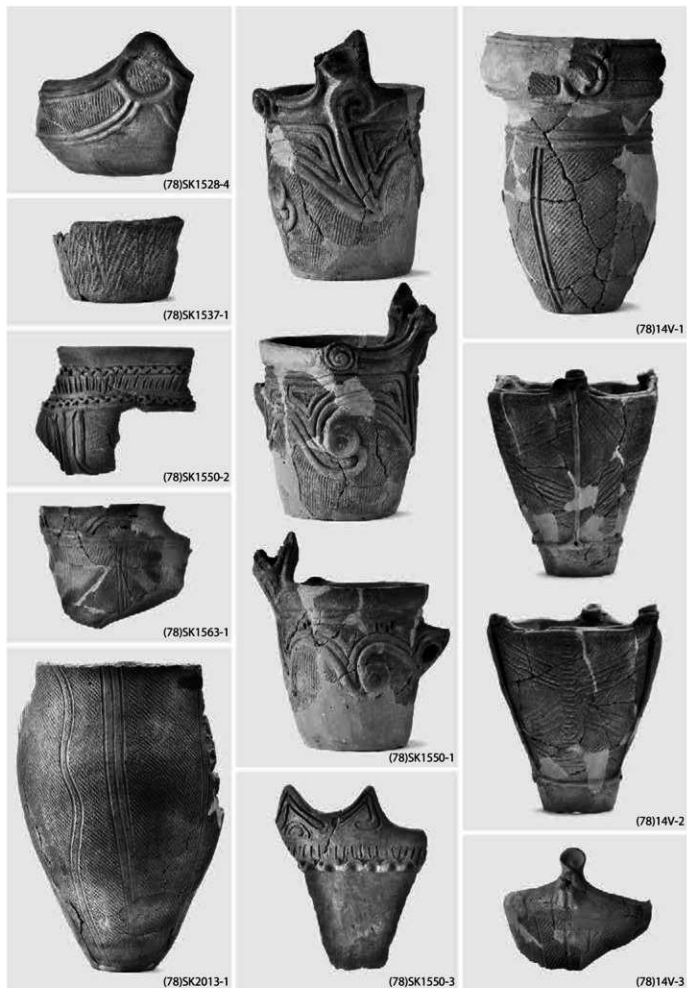
縄文時代土坑等出土土器 (30)



縄文時代土坑等出土土器 (31)

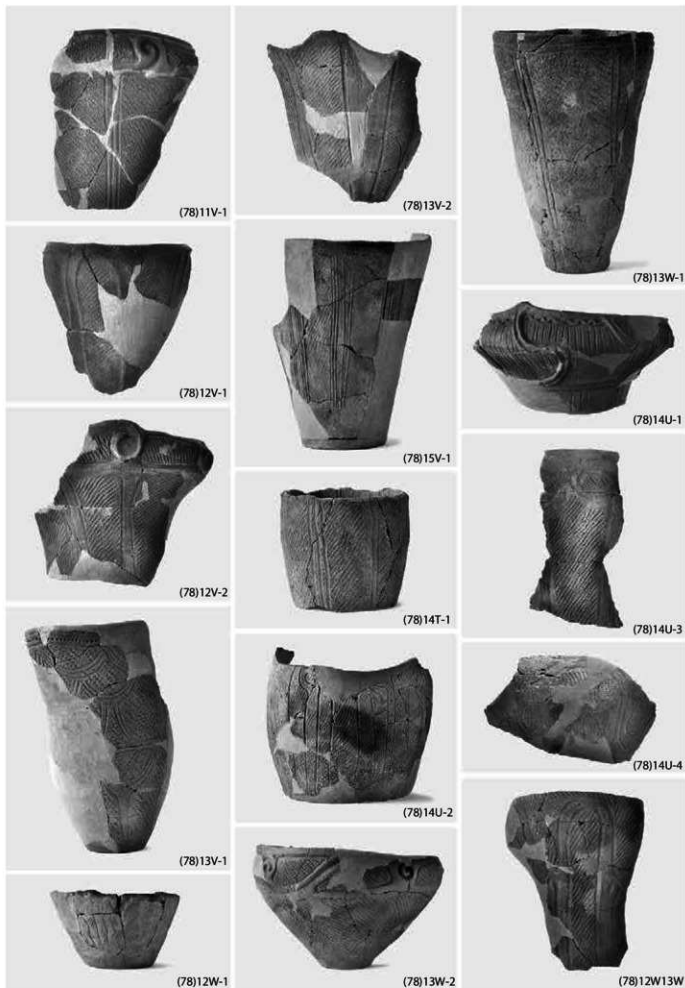


縄文時代土坑等出土土器(32)



縄文時代土坑等出土土器(33)・遺構外出土土器(1)





縄文時代遺構外出土土器(2)

(78)SI001-(1)



(78)SI002-(1)



(78)SI007-(1)



(78)SI002-(2)



(78)SI002-(3)



(78)SI002-(4)



(78)SI005-(1)



(78)SI005-(2)



(78)SI008-(1)



(78)SI008-(2)



(78)SI009-(1)



(78)SI010-(1)



(78)SI011-(1)



(78)SI012-(1)



(78)SI013-(1)



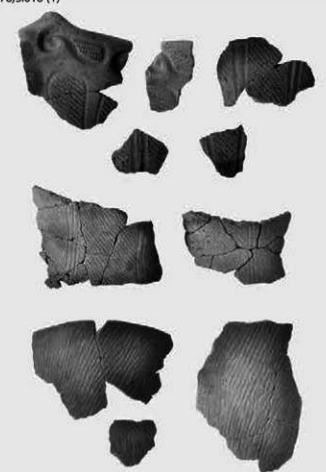
(78)SI014-(1)



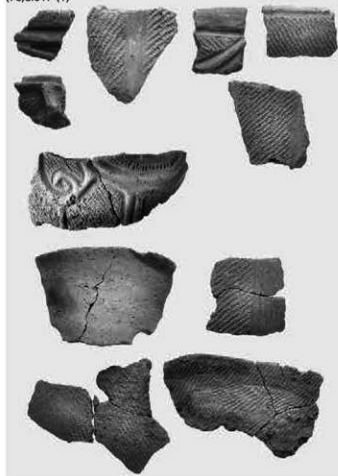
(78)SI015-(1)



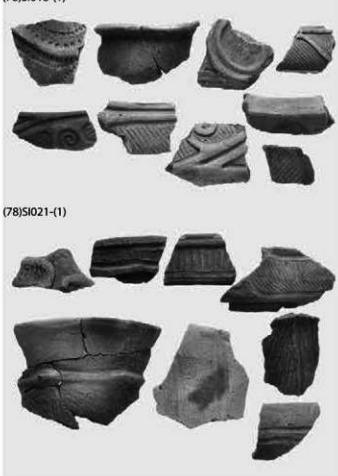
(78)SI016-(1)



(78)SI017-(1)



(78)SI018-(1)



(78)SI021-(1)



(78)SI019-(1)



(78)SI020-(1)



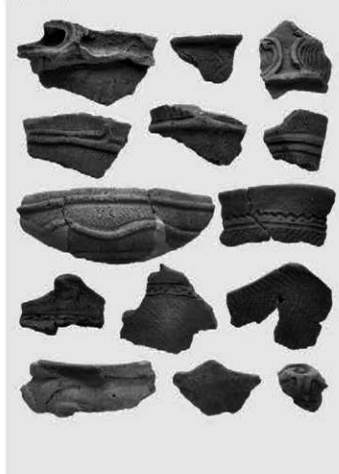
(78)SI022-(1)



(78)SI022-(2)



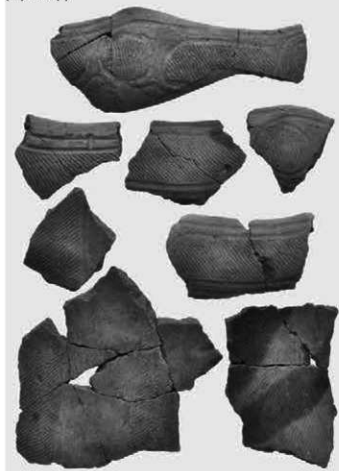
(78)SI022-(3)



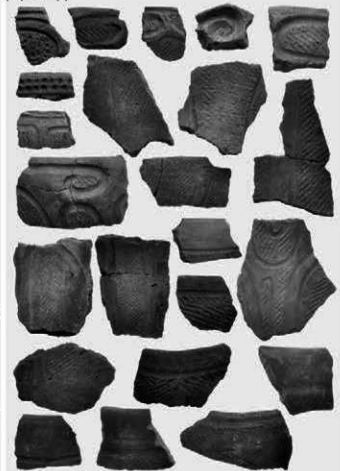
(78)SI024-(1)



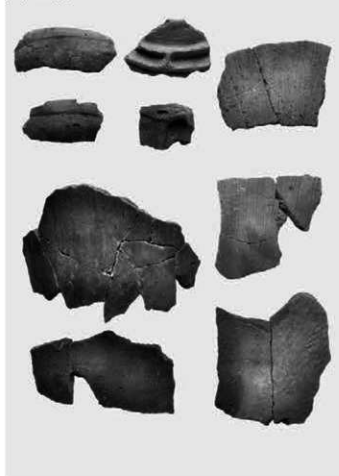
(78)SI025-(1)



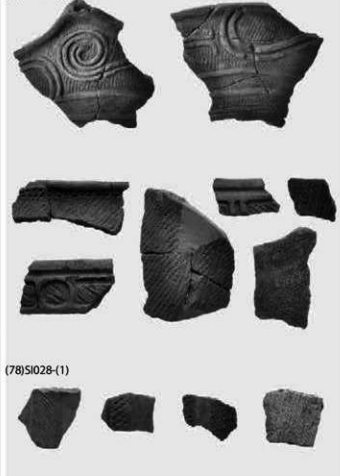
(78)SI025-(2)



(78)SI025-(3)



(78)SI026-(1)



(78)SI028-(1)



(78)SI027-(1)



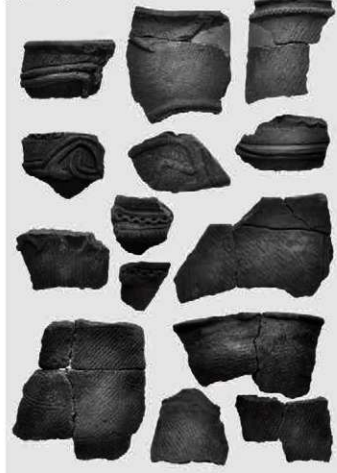
(78)SI029-(1)



(78)SI030-(1)



(78)SI030-(2)

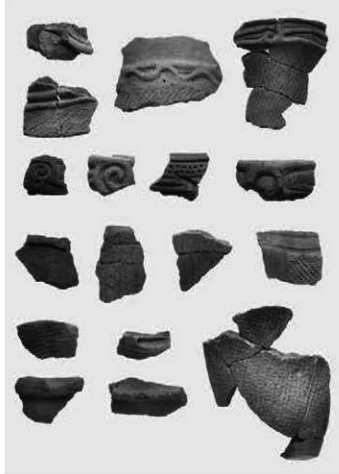


(78)SI030-(3)





(78)SI031-(1)



(78)SI032-(1)



(78)SI032-(2)



(78)SI034-(1)



(78)SI035-(1)

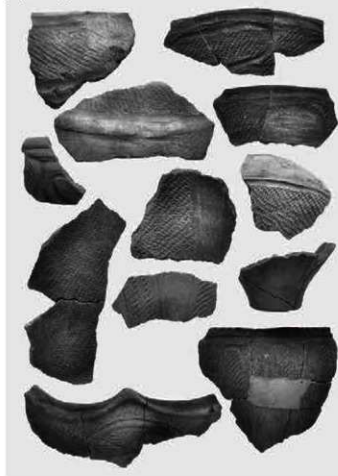
(78)SI036-(1)



(78)SI036-(2)



(78)SI036-(3)



(78)SI036-(4)



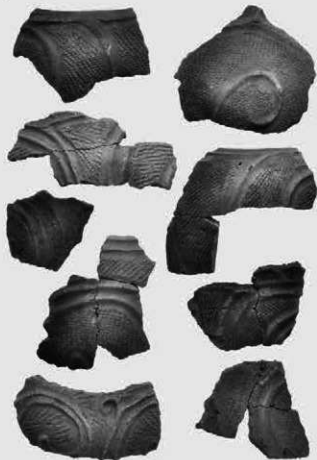
(78)SI036-(5)



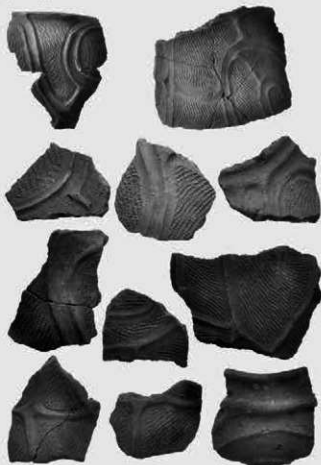
(78)SI036-(6)



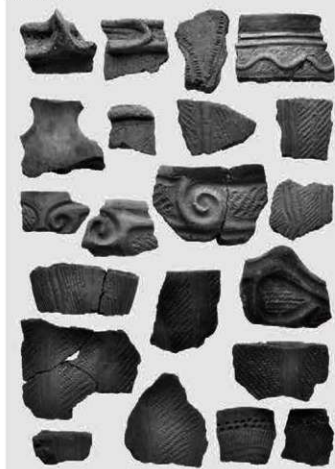
(78)SI036-(7)



(78)SI036-(8)



(78)SI037-(1)



(78)SI038-(1)



(78)SI039-(1)

(78)SI040-(1)



(78)SI040-(2)



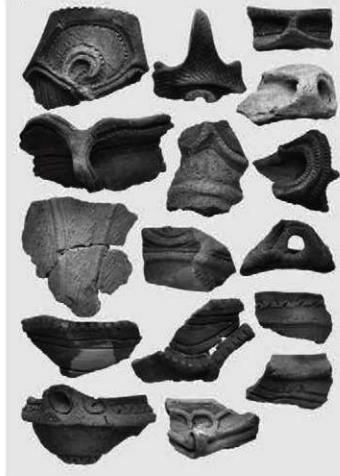
(78)SI042-(1)



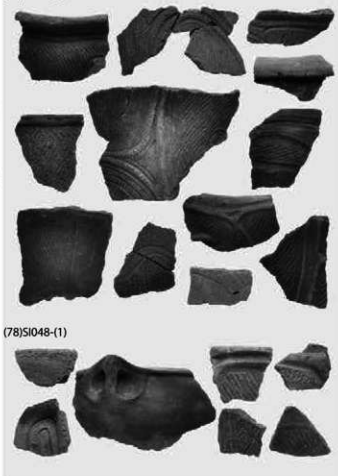
(78)SI042-(2)



(78)SI044-(1)



(78)SI044-(2)



(78)SI048-(1)



(78)SI046-(1)



(78)SI050-(2)



(78)SI050-(1)



(78)SI050-(3)



(78)SI050-(4)



(78)SI051-(1)



(78)SI051-(2)



(78)SI053-(1)



(78)SI054-(1)



(78)SI055-(1)



(78)SI055-(2)



(78)SI055-(3)





(78)SI055-(4)



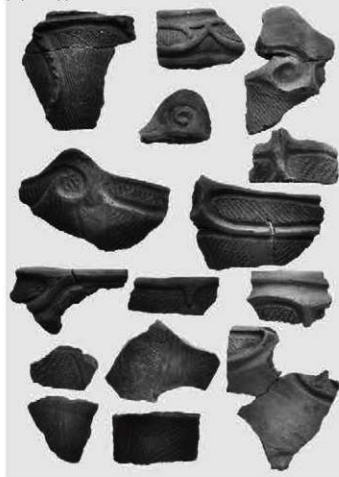
(78)SI056-(1)



(78)SI057-(1)



(78)SI059-(1)



(78)SI058-(1)



(78)SI059-(2)

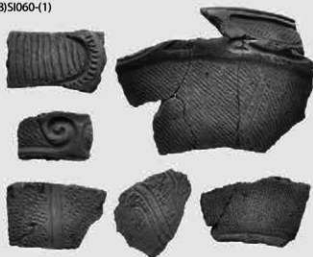




(78)SI059-(3)



(78)SI060-(1)



(78)SI061-(1)



(78)SI100-(2)



(78)SI102-(1)



(78)SI100-(1)



(78)SI101-(1)



(78)SI103-(1)



(78)SI103-(2)



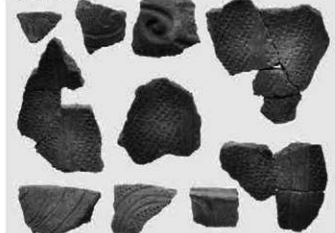
(78)SI104-(1)



(78)SI105-(1)



(78)SI106-(1)



(78)SI107-(1)



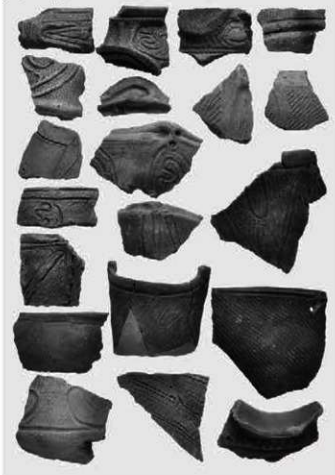
(78)SI109-(1)



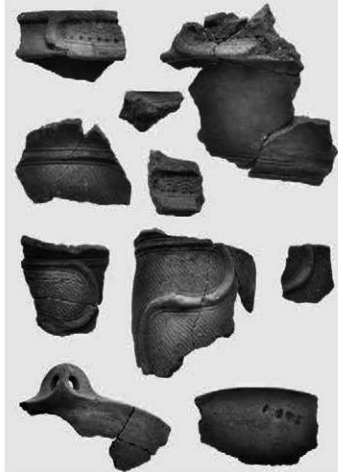
(78)SI107-(2)



(78)SI108-(1)



(78)SI110-(1)



(78)SI110-(2)



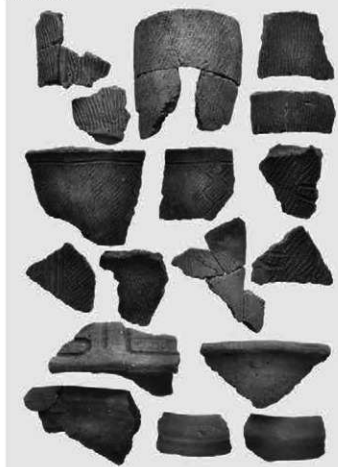
(78)SI110-(3)



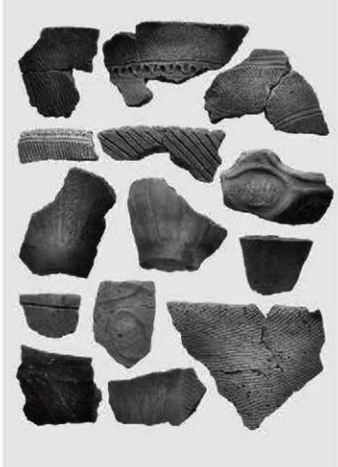
(78)SI110-(4)



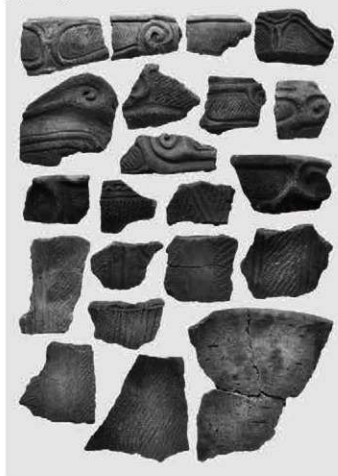
(78)SI110-(5)



(78)SI110-(6)



(78)SI111-(1)



(78)SX001

(78)SX004

(78)SX005



(78)SX021



(78)SX025

(78)SX031



(78)SX050



(78)SX051



(78)SX071



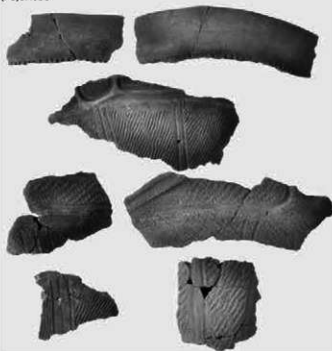
(78)SX076



(78)SX053



(78)SX055



(78)SK030



(78)SK081



(78)SK093



(78)SK106



(78)SK281



(78)SK499



(78)SK767



(78)SK839



(78)SK867



(78)SK1006



(78)SK1045



(78)SK1062



(78)SK1068



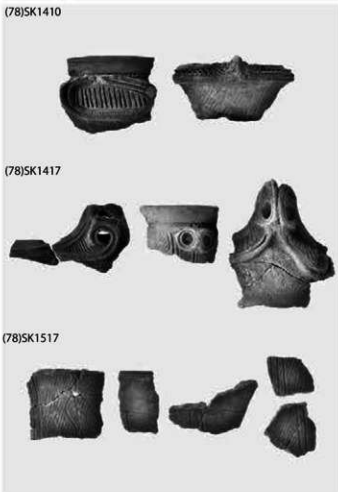
(78)SK1173



(78)SK1119



(78)SK1410



(78)SK1417



(78)SK1312



(78)SK1517



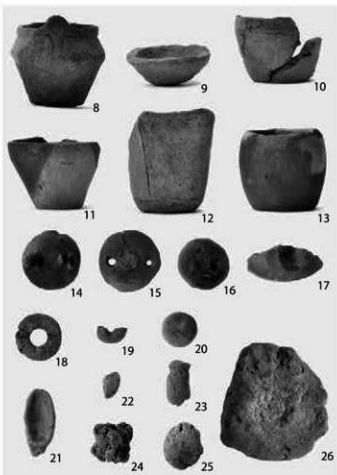
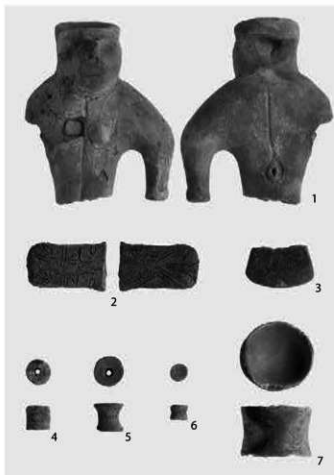
(78)P171



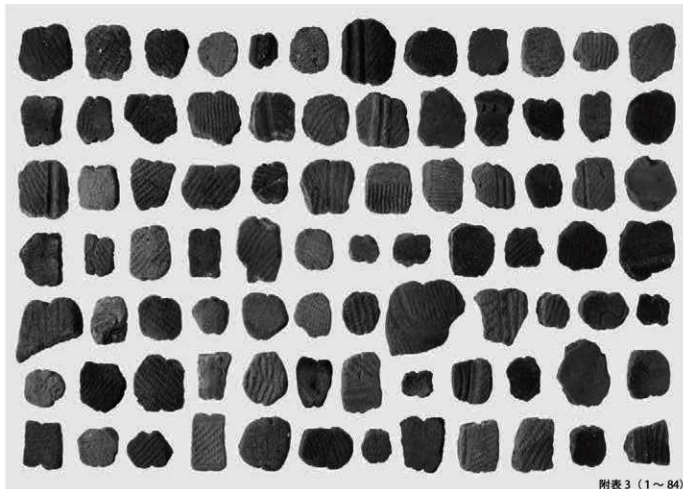
(78) 遺構外 (捩糸文土器)



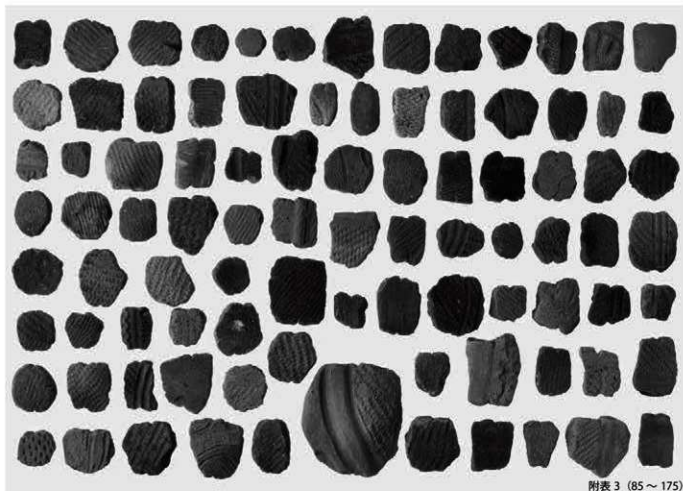
(78) 遺構外 (細之内 2 式・加曾利 8 式土器)



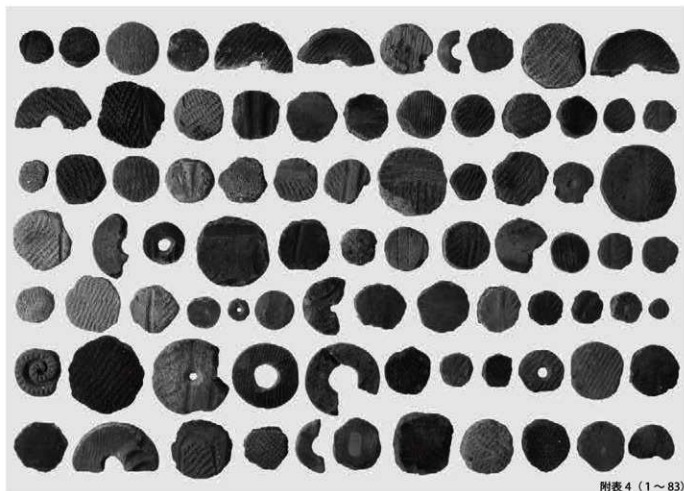




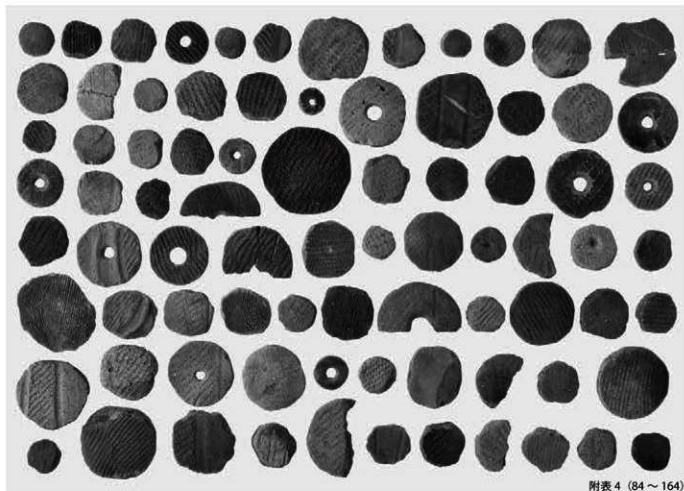
附表 3 (1 ~ 84)



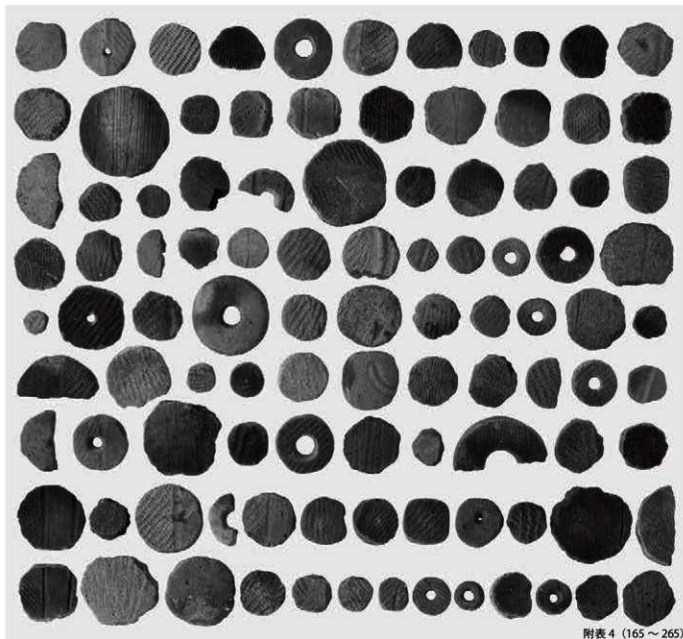
附表 3 (85 ~ 175)



附表 4 (1 ~ 83)

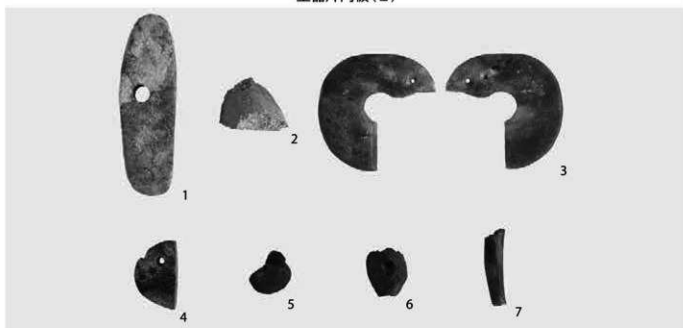


附表 4 (84 ~ 164)



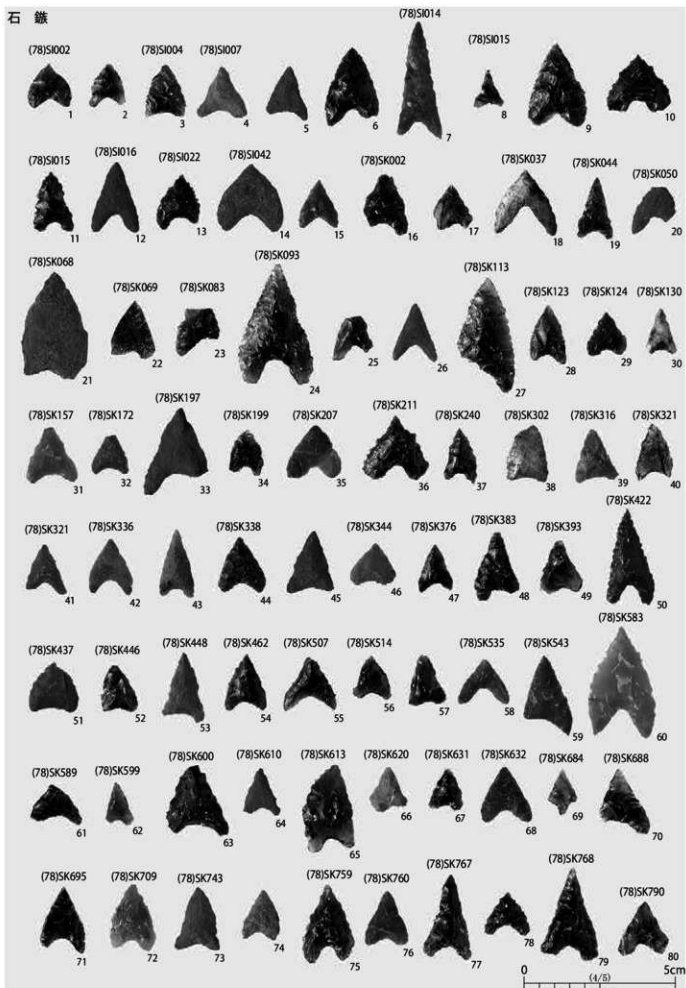
附表 4 (165 ~ 265)

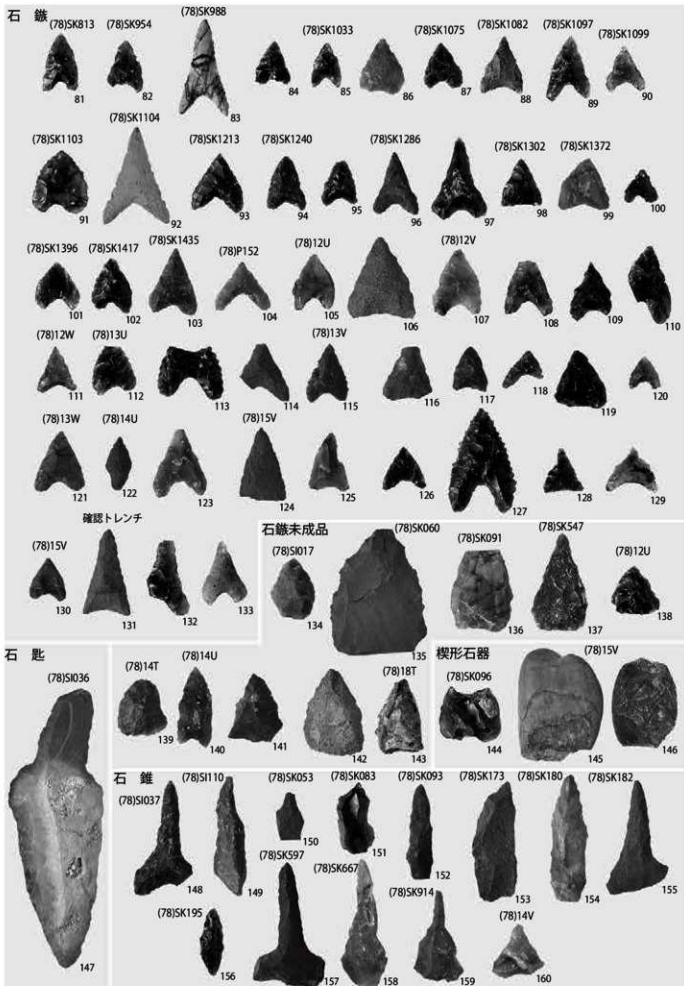
土器片円板 (2)



縄文時代石製装身具

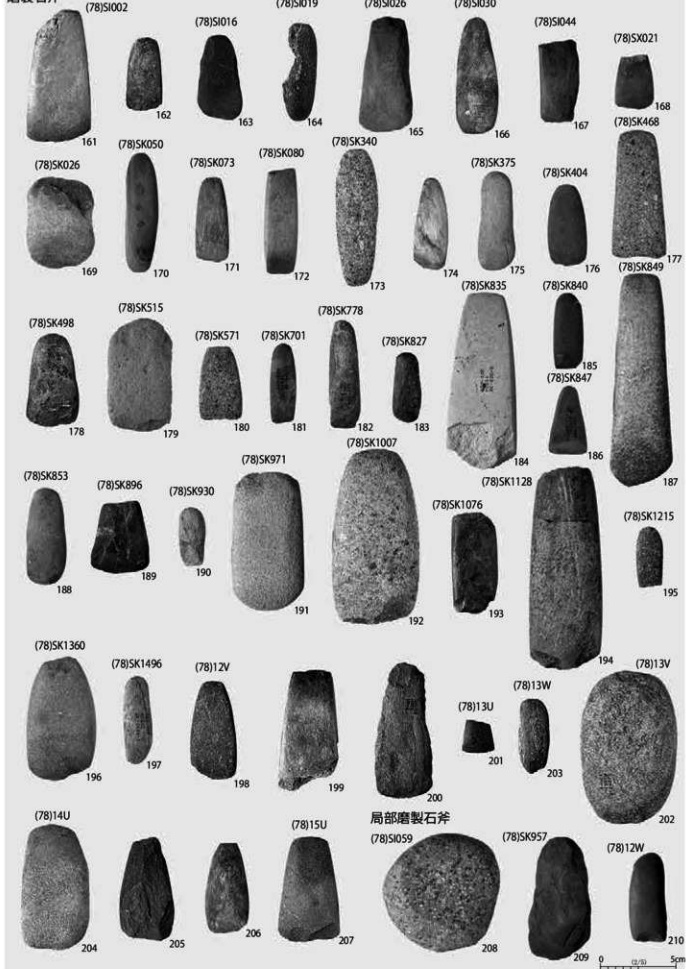
石 鏃



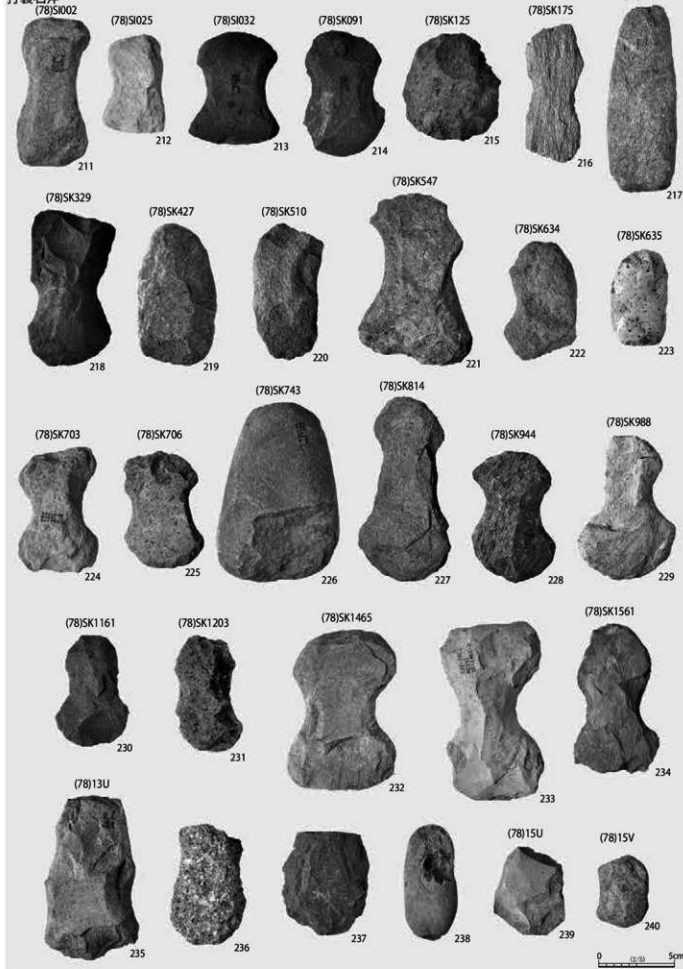


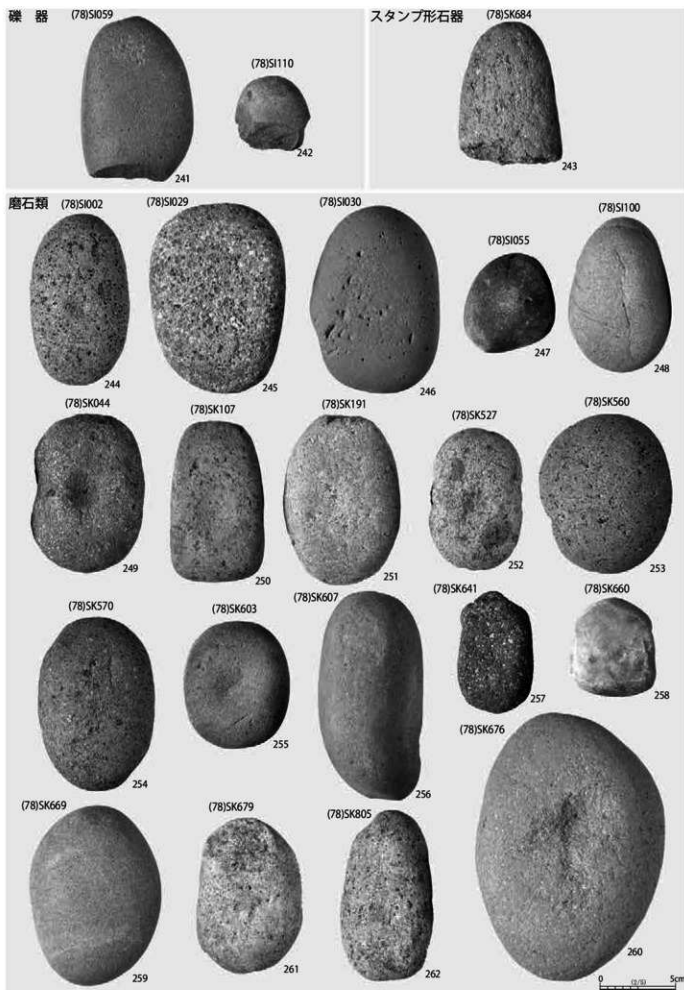
縄文時代石器 (3)

磨製石斧



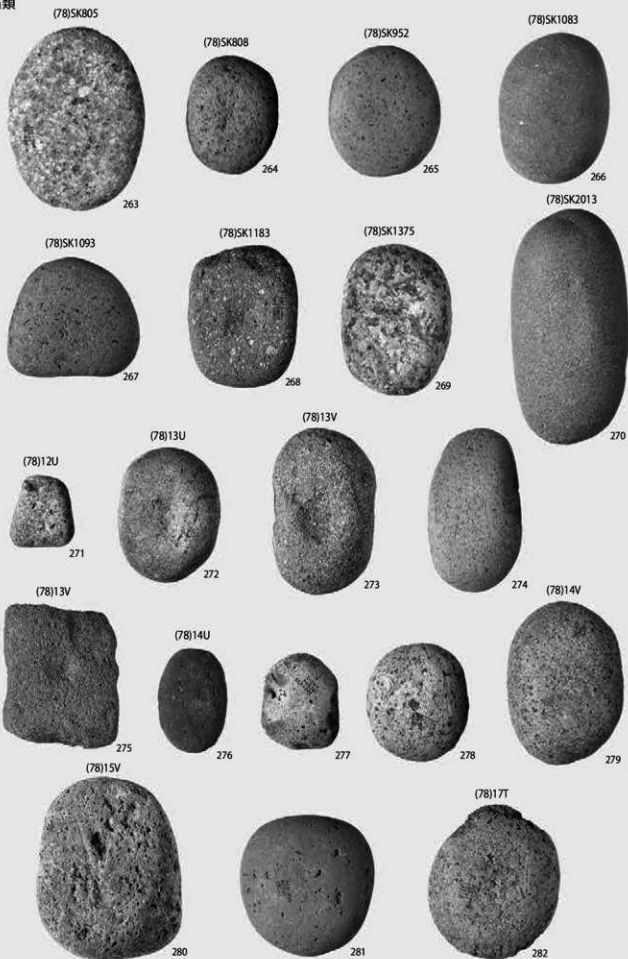
打製石斧







磨石類



敲石



0 1 2 3 4 5cm

砥石



0 1 2 3 4 5cm

石皿

(78)SI002



(78)SI005



0 1 2 3 4 5cm

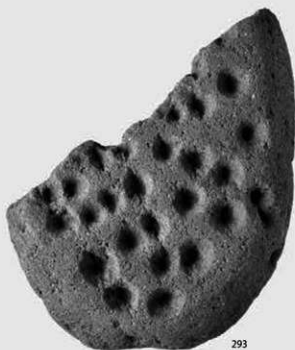
石 皿

(78)SK050



292

(78)SK180



293

(78)SK223



294

0 1(3) 5cm

石 皿

(78)SK334



295



(78)SK334



296



(78)13W



297



0 1(1/2) 5cm

石 皿

(78)15T



298

(78)15V



299

0 1 2 3 4 5cm

台 石

(78)SK709



300

(78)12V



301

(78)14T



302

0 1 2 3 4 5cm

石 棒

(78)SK091



303

(78)SK1076



304

0 1/2 5cm

石 子

(78)SK332



305

(78)SK507



306

(78)SK817



307

(78)SK1211



308

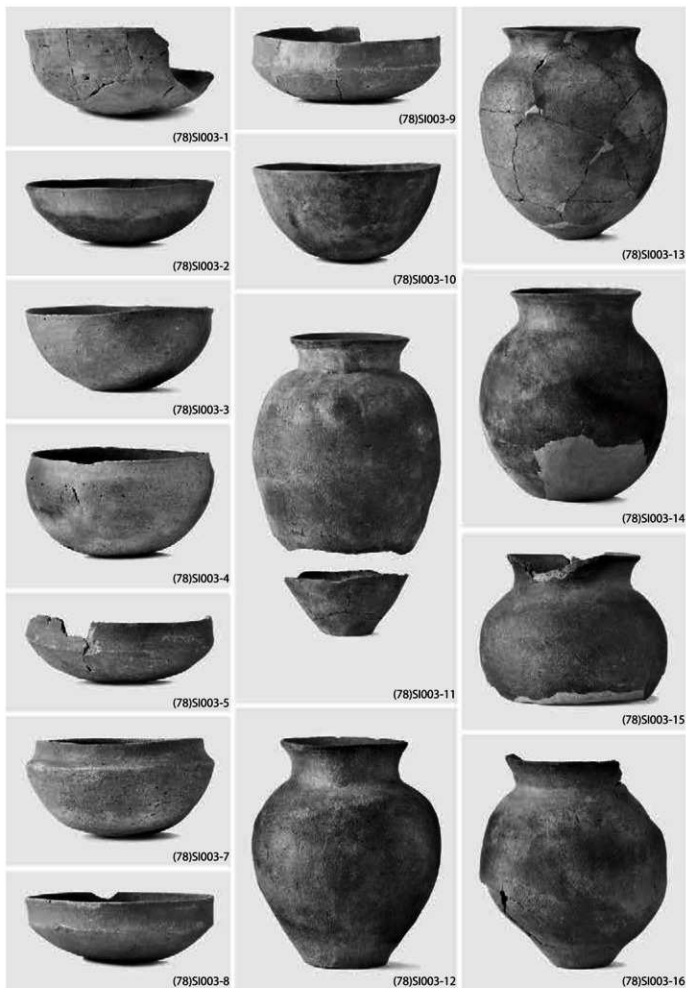
(78)13T



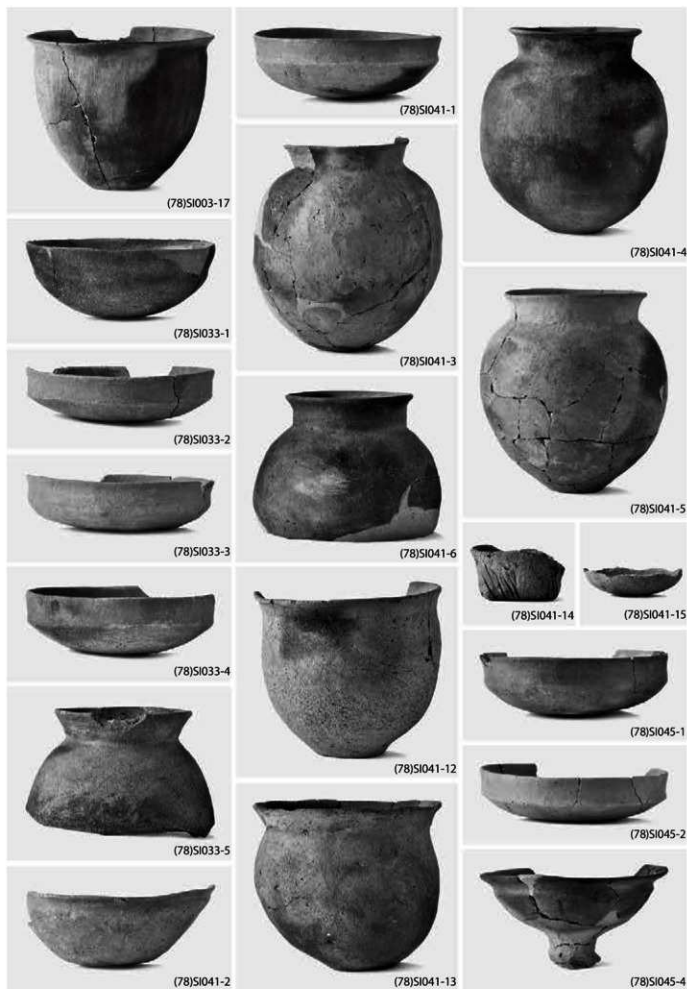
309

0 1/2 5cm

縄文時代石器(12)



古墳時代土器(1)

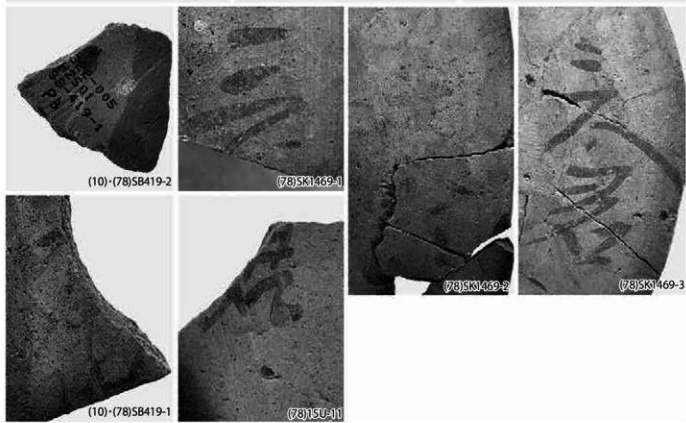


古墳時代土器(2)





古墳時代土器(3)・土製品



奈良・平安時代土器・墨書土器

## 報告書抄録

ふりがな	しすいまいちいづみはらやまいせき4							
書名	酒々井町飯積原山道跡4							
副書名	酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書							
巻次	5							
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第742集							
編著者名	木原高弘 西川博孝 橋本勲雄 小林昭博							
編集機関	公益財団法人 千葉県教育振興財団							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL. 043 (424) 4850							
発行年月日	西暦 2015年11月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	道跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
飯積原山道跡	酒々井町飯積原山道跡 藤原52ほか	12322	005	35度 42分 58秒	140度 17分 59秒	19971201～ 19980327 20130408～ 20140227	24,663	土地区画整理 事業に伴う埋 蔵文化財調査
				(日本測地系)				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
飯積原山道跡	集落跡	旧石器時代	遺物集中地点	1か所	旧石器時代石器			
		縄文時代	竪穴住居跡 伊路 土坑・陥穴 ピット	68軒 76基 1,505基 233基	縄文土器、土偶、耳栓、 土器片円板、土器片鏝、 石鏝、楔形石器、打製 石斧、磨製石斧、石皿、 凹石、敲石、磨石類、 石棒、原石			
	奈良・平安時代	古墳時代	竪穴住居跡	6軒	土師器、紡錘車			
		奈良・平安時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝状遺構	1軒 8棟 1基 2条	土師器、須恵器			
	中・近世	道路状遺構	1条					
要約	<p>飯積原山道跡は、印旛沼に近い高崎川に北面する台地上に立地する。このうち、本書には平成25年度に発掘調査を実施した道跡北東側の香状台地部を中心とした地区の成果を所収した。</p> <p>旧石器時代は、立川ロームIV下・V層段階の礫群を主体とする遺物集中地点が1か所検出された。</p> <p>縄文時代は、中期中葉から後期前葉を中心とした時期で、袋状土坑、円形土坑を伴う竪穴住居跡群が長軸約200m、短軸約100mの環状に分布し、きわめて密度の濃い状況で検出された。中央広場は自然地形の凹地を利用して、住居跡及び土坑はこれを取り巻く高所に占地していた。</p> <p>古墳時代は、中期末から後期前葉の小規模な集落が検出された。飯積原山道跡と時期的に補完するもので、2道跡間で集落が遷移したと推測される。</p> <p>奈良・平安時代は、8世紀第4四半期から9世紀第3四半期にかけての竪穴住居跡群、掘立柱建物群が検出された。庄所、村落寺院、居宅、荘園村落が計画的に配置された初期荘園と捉えられる集落である。今回報告の(78)区においては、竪穴住居跡は北側の香状台地部において単独で検出された。掘立柱建物跡群は、(10)区、(13)区において検出された庄所と捉えた第1建物群に連続するもので、その構成・変遷が明らかとなった。</p>							

千葉県教育振興財団調査報告第742集

## 酒々井町飯積原山遺跡4

—酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書5—

---

平成27年11月27日発行

編 集	公益財団法人	千葉県教育振興財団
発 行	独立行政法人	都市再生機構 首都圏ニュータウン本部 東京都新宿区西新宿6-5-1
	公益財団法人	千葉県教育振興財団 千葉県四街道市鹿渡809番地の2
印 刷	株 式 会 社	東 プ リ 千葉県船橋市咲が丘1-11-9

---